

全学共通科目:教養科目

科目	掲載ページ
総合講座【発】	2
人生と哲学	3
日本国憲法	4
心理学	5
人権教育	6
総合科目	7
芸術文化	8
うどん学	9
香川学【発】	10
香川学演習	11
歴史	12
地理	13
くらしと経済	14
人間と環境	15
ボランティア	16

科目名： 人生と哲学

担当教員： 土屋 盛茂(TSUCHIYA Morishige)

【授業の紹介】

まず「哲学とは何か」という問題を取りあげるが、そのことを説明するのは意外と難しい。そのためには、いずれかの哲学者たちをとりあげ、その議論を見ていくのが一番よいと思う。そこで今年度は、古代ギリシャの哲学黎明期の、タレスからプラトンに至る哲学者の世界、存在、認識に関する思索と議論の跡をたどってみることにする。最初にギリシャの神話に見られる世界観を紹介し、それとタレスたちの世界の見方がどう違うかを見てみよう。それから哲学者たちの議論をできるだけ丁寧に見ていくことにする。それは同時に、先行する主張を継承しつつも批判し、新たな考えを打ち出していく過程を見ることになるであろう。それを20世紀の哲学者、カール・ポパーの知識発展の論理（弁証法）に照らしてみ、いかに見事に議論が発展し深まっていったかをみていきたい。

【到達目標】

この授業で得られる知識は、すぐさま実生活で活用できる類のものではないが、昔の哲学者とともにいるような問題を考えることによって、学生は、次のようなことができるようになる。

1. 今自分たちが依拠している世界観、人間観、そして科学がいかに長い伝統の上に築かれたかということの一端を知り、知的な営みがいかなるものであるかの一端をすることができる。
2. そのことによって、現在の問題を自ら考えることができる。

【授業計画】

- 第1回 授業導入（「哲学とは何か」などの問いを含む）
 - 第2回 カール・ポパーの知識発展の論理
 - 第3回 古代ギリシャの歴史と神話
 - 第4回 ミレトスの自然哲学者 タレスとアナクシマンドロス
 - 第5回 ミレトスの自然哲学者 アナクシマンドロスとアナクシメネス
 - 第6回 クセノパネス
 - 第7回 ヘラクレイトス
 - 第8回 ピュタゴラス派 その歴史と魂説
 - 第9回 ピュタゴラス派 数論的存在論と宇宙論
 - 第10回 パルメニデス
 - 第11回 エンペドクレスとアナクサゴラス
 - 第12回 原子論者（レウキッポスとデモクリトス）
 - 第13回 プラトン
 - 第14回 プラトンとアリストテレス
 - 第15回 総括 古代ギリシャ哲学の発展の構図
- 定期試験

【授業時間外の学習】

配布する講義要項と自分のノートによって復習して、授業に臨んでもらいたい。

また、強制的に課するものではないが、この授業をきっかけにいずれかの哲学書あるいは科学の本ををひもどいてもらえればありがたい。

【成績の評価】

平素の授業態度を観察した小テストをし(20%)、期末の試験の結果(80%)と合わせて成績評価をする。

また、小テストについては次の時間の冒頭に簡単に説明する。

【使用テキスト】

市販の教科書は用いず、講師が作成した「講義概要」を配布し、それを教科書とする。

【参考文献】

- バーネット著（西川享訳）『初期ギリシア哲学』（以文社）
- 山本光雄編『初期ギリシア哲学者断片集』（岩波書店）
- 『世界の名著 プラトン 1』『同 2』などのプラトンの著作
- 『アリストテレス全集』（岩波書店）などのアリストテレスの著作

科目名： 日本国憲法

担当教員： 井口 秀作(IGUCHI Shusaku)

【授業の紹介】

憲法という特殊な法の存在意義を確認したうえで、具体的な事例と関連づけながら、日本国憲法の基本的な構造について解説を行う。個人の尊厳を中核とする立憲主義がいかなるものであり、それが日本国憲法上でどのように具体化され、現実の社会でいかなる機能を果たしているかを確認していく。

また、上記の述べた講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養うという学位授与の方針に関する知識、技法を修得する。

【到達目標】

この授業によって

1. 「憲法」「立憲主義」という概念について理解し説明することができるようになる。
2. 国会、内閣、裁判所の権限や相互関係を憲法の条文に則して説明することができるようになる。
3. 人権にかかわる事例について、判例や学説を踏まえて、自分の見解を述べることができるようになる。

【授業計画】

第1回	憲法の存在意義	
第2回	憲法と法律の区別	
第3回	国民主権と政治制度	
第4回	法律の執行と行政権	
第5回	裁判所と司法権	
第6回	憲法改正と法律の改正	
第7回	基本的人権の意味	
第8回	精神的自由権(1)	内心の自由
第9回	精神的自由権(2)	表現の自由
第10回	経済的自由権	
第11回	人身の自由	
第12回	社会権	
第13回	法の下での平等と幸福追求権	
第14回	平和主義	
第15回	個人の尊厳と立憲主義	
定期試験は実施しない		

【授業時間外の学習】

新聞等で憲法にかかわる諸問題が扱われるときがある。日頃から、新聞などに目を通して、興味があることには主体的に調べてみるとよい。

【成績の評価】

授業中に行う、小テストの合計(100%)で成績判定を行う。小テスト終了後、その都度解説資料を配付する。

【使用テキスト】

必要な資料は適宜配布する。

【参考文献】

なし。

科目名： 総合講座【発】

担当教員： 佃 昌道(TSUKUDA Masamichi), 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae), 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

本学には4つの柱の「建学の精神」があります。「対話にみちみちたゆたかな人間教育」「自分で考え、自分で行える人間づくり」「個性をのばし、ルールが守れる人間づくり」「理論と実践との接点の開拓」の4つがそれです。教師と学生との語り合いの中からこそ、4つの柱は成長するものです。本講義では、「建学の精神」を中心に幅広い教養に裏付けられた知識や能力を身に付け、加えて、地域社会の中での自身の役割や係わりについてフィールドワークを交え学習します。

【到達目標】

高松大学の教育理念を理解し、大学での学びの目的を明確にすることができるようになる。
学生諸君の大学生活や人生において多様な考え方ができるようになる。
地域との係わりを学ぶことにより、豊かな人間性を養うと共に地域の特徴や地域活動の大切さを知ることができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 本学園の建学の精神と学生に望むもの
 - 第2回 本学のことについて知る
 - 第3回 対話について考えてみる。
 - 第4回 色々な表現活動を考える（言葉、音楽、身体）
 - 第5回 社会に対する役割について考える（くらしと選挙）
 - 第6回 社会に対する役割について考える（社会活動と防災）
 - 第7回 倫理感を持った人とは
 - 第8回 情報社会の光と影を知る
 - 第9回 個人と社会
 - 第10回 創造性と行動力
 - 第11回 地域社会を探る（調べる）
 - 第12回 地域社会を探る（グループで話し合う）
 - 第13回 地域社会を探る（グループで活動する）
 - 第14回 地域社会を探る（報告会をおこなう）
 - 第15回 地域で暮らす楽しみ
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業の終りに、課題を出しますので、次回授業に必ず提出してください。

【成績の評価】

提出物50%、小テスト50%により評価を行う。
提出物は、評価して返却する。小テストは、模範解答を小テストの次の授業で解説する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

学生便覧、図書一般

科目名： 心理学

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

私たちは自分の心の働きについて、ある程度までは自分で知ることができます。このような経験に基づいた心理学的知識を「素朴心理学」の知識といいます。問題なのは、この「素朴心理学」の知識と「学問としての心理学」の知識にしばしば大きな隔たりがあることです。本講義では、「学問としての心理学」の全般的な内容について講義を行います。学生の皆様からも日常生活で体験する「心についての素朴な疑問」を受け付けます。それら疑問は「学問としての心理学」ではどのように考えられているかを講義内容に沿って紹介します。物事の捉え方には多様な立場がありますが、その中でも「学問としての心理学」の立場に関心をもち、その立場から教育や社会における課題に気づいて課題を解決する力や教育や社会に貢献できる力の基礎の育成をめざします。

【到達目標】

学生が、心理学に対してこれまで抱いていた誤解を解き、学問としての心理学を教育、社会、および生活の中で役に立つような知識として身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 心理学とは
 - 第2回 心理学の歴史
 - 第3回 知覚 外界を認識する心の仕組み
 - 第4回 記憶 覚えることと忘れることの仕組み
 - 第5回 思考 考えることの仕組み
 - 第6回 言語 言語に関わる心理学
 - 第7回 社会的認知 他者を知ることの仕組み
 - 第8回 感情・動機づけ 喜怒哀楽と意欲に関する心の仕組み
 - 第9回 パーソナリティ 性格の違いと環境への適応
 - 第10回 発達 心の働きの成長と変化
 - 第11回 教育 心理学による教育方法の充実
 - 第12回 臨床 健康な心と異常な心
 - 第13回 心理学における測定の問題
 - 第14回 いろいろな心理尺度
 - 第15回 まとめ 心理学的な疑問を考える
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業については、授業で使用したパワーポイントのスライドを担当教員の個人ウェブページで公開していますので、各自のノートとあわせて、復習に利用してください。また、各授業の終わりに、次回の授業内容に関するテキストの範囲を指示しますので、そのページを必ず読んでくるようにしてください。

【成績の評価】

授業時のレポート（30%）、心理学実験・調査への参加（10%）、および、期末テスト（60%）の総合判断により行います。期末テストの結果については、全体的な回答傾向や解説を授業担当教員の研究室前に掲示してフィードバックを行います。

【使用テキスト】

北尾倫彦・中島実・井上毅・石王敦子 共著（1997）「グラフィック心理学」（サイエンス社）

【参考文献】

- 中島義明 他編（2006）「マルチラテラル心理学 CD-ROM版」（有斐閣）
- ベンジャミン Jr, L.T. 著（2010）「心理学教育のための傑作工夫集」（北大路書房）
- 中島義明 他編（2005）「新・心理学の基礎知識」（有斐閣）
- ノーレン・ホークセマ, S. 他（2012）「ヒルガードの心理学（第15版）」（金剛出版）
- 海保博之 他（1995）「クイズと体験でわかる心理学」（福村出版）
- 今田 寛著（2015）「ことわざと心理学 人の行動と心を科学する」（有斐閣）

科目名： 人権教育

担当教員： 金子 匡良(KANEKO Masayoshi)

【授業の紹介】

私たちは「人権」という言葉をよく耳にしますが、では「人権」とはいったい何なのかと問われると、うまく説明できない人が多いのではないのでしょうか。そこでこの授業では、まず人権とは何かについて説明していきます。次に、女性の人権や外国人の人権といった具体的なテーマを取り上げ、日本や世界にどのような人権問題があるのかを考えていきます。また、古くから存在する同和問題（部落差別）についても取り上げます。

高松大学経営学部の「学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）では、「現代社会の様々な問題に関心を持ち、多様な立場の人々との確かなコミュニケーションを図る」ための能力の養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上を目指します。

【到達目標】

人権の意味や役割を正しく理解し、他人の権利や人格を尊重する態度を養う。

様々な人権問題の内容や沿革を正しく理解する。

現代社会を人権という観点から分析し、問題点を発見し、自分の頭でその解決策を模索できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方と授業内容の俯瞰）
 - 第2回 人権とはなにか（人権の定義）
 - 第3回 人権とはなにか（人権の内容）
 - 第4回 人権の歴史と種類
 - 第5回 平等と差別（平等の種類）
 - 第6回 平等と差別（差別の種類）
 - 第7回 人権侵害の内容と対象（人権侵害の内容）
 - 第8回 人権侵害の内容と対象（人権侵害の対象）
 - 第9回 人権侵害の要因（人権侵害の発生メカニズム）
 - 第10回 人権侵害の要因（ステレオタイプと偏見）
 - 第11回 女性の人権
 - 第12回 外国人の人権
 - 第13回 障害者の人権
 - 第14回 部落差別（同和問題）
 - 第15回 人権をめぐる今後の課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業中に配布したプリントや資料をよく読み直して復習をし、要点を整理するとともに、疑問点や問題点を明らかにしてください。また、ニュースなどを通して、人権に関わる現実の社会問題について知るとともに、その原因や解決策を自分なりに考えるようにして下さい。

【成績の評価】

授業中に行う小テスト（3回・30%）、および定期試験（70%）の点数を合計して、成績評価を行います。小テスト等については、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

特定のテキストは指定しません。毎回プリントを配布します。

【参考文献】

阿久澤麻理子・金子匡良『人権ってなに？Q & A』（解放出版社・2006年）

科目名： 総合科目

担当教員： 佃 昌道(TSUKUDA Masamichi), 松田 有加里(MATSUDA Yukari)

【授業の紹介】

現代の企業経営を、地域、産業、社会の立場で、深くかつ広い視野から探求するため、学外の権威ある指導者から企業経営観、企業文化論あるいは専門分野の先端情報等のテーマを中心に講義を願い、近代経営のあり方を考えます。講師陣の豊富な人生経験に降れることにより幅広い教養に裏付けられた知識や能力を身に付け、地域社会の中での自身の役割や係わりについて学習し、豊かな人間性や主体的に生きる力を培います。

【到達目標】

実社会でも、また講演会でもなかなかお目にかかれない、各界トップの講師陣が直接皆さんに語りかけるこの講座は、この上なく貴重で、本学特有のスペシャルメニューです。

講師陣のお話を聞き、社会人としての豊かな人間性を高めることができるようになる。

講師陣の経営観や人生観などを吸収し、多様な考え方を自身の取入れることができるようになる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 地域の食と農に生きる

香川県農林年金受給者連盟会長・香川県農業協同組合元理事長 遠山 建治 氏

第3回 向こう100年を見据えて

高松丸亀町商店街振興組合理事長 古川 康造 氏

第4回 長寿社会と医療

高松医療センター名誉院長・四国電力(株)総合健康開発センター所長 水重 克文 氏

第5回 経済の見方と先行きの課題

日本銀行高松支店支店長 菱川 功 氏

第6回 本学の沿革

高松大学・高松短期大学副学長 藤原 フサエ 氏

第7回 地域経済の発展と金融機関の役割

高松信用金庫理事長 蓮井 明博 氏

第8回 香川から世界へ、世界から香川へ

JICA青年海外協力隊OB・ゲストハウス若葉屋宿主 若宮 武 氏

第9回 海外から学んだ大切なこと

高松市文化芸術財団理事長 佐伯 勉 氏

第10回 独占禁止法の役割 - 公正かつ自由な競争の促進 -

内閣府公正取引委員会四国支所長 小倉 武彦 氏

第11回 誰もがイキイキと働くために - 働くときに必要な基礎知識 -

厚生労働省香川労働局雇用均等室長 小田 江理子 氏

第12回 地元の話題を地域へ全国へ

日本放送協会高松放送局放送部長 岸 慎治 氏

第13回 四国に新幹線を

四国旅客鉄道株式会社取締役会長 泉 雅文 氏

第14回 地方創生時代における将来設計

株式会社香川銀行取締役頭取 本田 典孝 氏

第15回 金融の基礎知識と地方銀行の役割

株式会社百十四銀行取締役頭取 綾田 裕次郎 氏

以上は、昨年度実施のもので、本年度も同様に予定していますが、都合により、講師およびテーマに変更がある場合があります。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

新聞等を読み、国内経済・世界経済の動向について関心をもってください。

【成績の評価】

随時課するレポートにより100%評価します。提出物は、評価して返却します。

【使用テキスト】

ありません。

【参考文献】

必要の都度、指示します。

科目名： 芸術文化

担当教員： 岡谷 崇史(OKATANI Takafumi)

【授業の紹介】

この授業は、高松大学の経営学部及び発達科学部の「学位授与の方針」（ディプロマポリシー）にある「社会人として活躍できる力」や「豊かな心と創造力」を習得することをめざす。

芸術文化と一口に言っても、音楽、美術、演劇、舞踊、映画、アニメーション、漫画等余りにもジャンルが広い。これら芸術文化は、人々に感動や生きる喜びをもたらして人生を豊かにすると同時に、社会を活性化する上で大きな力となるものであり、その果たす役割は極めて重要である。

授業では、美術史を基軸に主な芸術作品を図版や映像から読み取り鑑賞する。しかし、単に鑑賞するだけでなく、時代背景を学びながらその作品に対して感じたことや、自分の考えを発表したり、想像したりしたことをワークシートに制作する。いわば、絵具等の道具を用いない美術の時間である。

【到達目標】

- 1 大まかな美術史の流れと、表現や技術の変遷を理解することができる。
- 2 作品に対して、複合的かつ重層的な見方や感じ方ができる。
- 3 作品を鑑賞して、自分の考えをまとめ発表することができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション、授業の内容と進め方、人類の出現と日本文化のあけぼの
第2回	日本美術（縄文～奈良時代） 鞍作鳥「釈迦三尊像」、興福寺「阿修羅像」他
第3回	日本美術（平安時代1） 鳥羽僧正 伝「鳥獣人物戯画」、常盤光長「伴大納言絵巻」他
第4回	日本美術（平安時代2） 定朝「平等院阿弥陀如来坐像」、両界曼荼羅図他
第5回	日本美術（鎌倉～室町時代） 藤原隆信 伝「源頼朝像」、長谷川等伯「松林図屏風」他
第6回	日本美術（安土桃山時代） 屏風と襖絵 狩野山雪「草花図」他
第7回	日本美術（江戸時代） 葛飾北斎「富嶽三十六景 凱風快晴」、俵谷宗達「風神雷神図屏風」他
第8回	日本美術（明治～現代） 八木一夫「ザムザ氏の散歩」、吉原治良「白い円」他
第9回	学外授業（香川県立ミュージアム視察と鑑賞）
第10回	西洋美術（ギリシャ～ローマ） ルーブル美術館「ミロのヴィーナス」他
第11回	西洋美術（ゴシック～ルネサンス） ダ・ヴィンチ「モナ・リザ」他
第12回	西洋美術（バロック） ベラスケス「ラス・メニーナス」他
第13回	西洋美術（ロココ～ロマン主義） ジェリコー「メデューズ号の筏」他
第14回	西洋美術（印象派～現代美術1） マネ「草上の昼食」他 デュシャン「泉」他
第15回	西洋美術（現代美術2） ゴームリー「反映/思索」他
定期試験	

【授業時間外の学習】

時に応じて小テストを実施するので、予習・復習を十分に行うこと。

【成績の評価】

期末試験 60%、小テスト 15%、ワークシート 15%、授業時の意欲・態度 10%

「古代」・「中世」・「近世」など單元ごとに振り返りを行い、確認のための小テストやワークシートを制作する。

なお、小テストやワークシートは添削の上、返却する。

【使用テキスト】

辻惟雄『日本美術の歴史』（東京大学出版会、2012年） 3,024円

また資料を適宜配布する。

【参考文献】

- ・守屋正彦・田中義恭・伊藤嘉章・加藤寛 監修『日本美術図解事典』（株式会社 東京美術、2014年）4,104円
- ・高階秀爾『増補新装[カラー版]西洋美術史』（美術出版社、2002年）2,052円

科目名： うどん学

担当教員： 佃 昌道(TSUKUDA Masamichi)

【授業の紹介】

香川県では、半夏の日にうどんを食べる習慣があるそうです。お祝にもうどんはつきものです。サラリーマンは昼食の多くをうどん屋で食べ、一人あたりのうどんの消費量も日本一です。近年香川県をうどん県と名うち全国に情報発信するようになり、香川県におけるうどんの認知度は益々上がる一方です。うどん県ならではの授業として、うどん学を開講し、うどんの歴史、製法、材料、販売など様々な角度からうどんを学習していきます。そして、うどんを通して、課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を学び、生涯にわたって学習活動が続け、たくましく生きる力を培います。

また、調理実習時では、白衣またはエプロン・三角巾の用意、材料費を徴収します。なお、材料費は受講している全員から徴収します。

【到達目標】

うどんの文化、地理、歴史、経営商学に至る様々な角度からうどんについて考えることができるようになる。

うどんの特徴が説明でき、うどん打ちをすることができるようになる。

うどんを統計的に分析することにより、うどんを定量的に見ることができるようになる。このような経験を基に、地域の課題に気づいて解決することができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 うどんとは
 - 第2回 うどんの歴史
 - 第3回 うどんを広めた人々
 - 第4回 全国のうどん地図
 - 第5回 うどん店を調査する
 - 第6回 うどんと祭事、行事
 - 第7回 さぬきにうどん屋が多いわけ
 - 第8回 小麦とうどん
 - 第9回 うどんとだし、薬味
 - 第10回 うどんの消費と動向
 - 第11回 うどんを打つ
 - 第12回 うどんを食べる
 - 第13回 うどんと文学、うどんと経済学
 - 第14回 うどんと音楽、映画
 - 第15回 うどんと香川
- 定期試験

【授業時間外の学習】

レポートの提出がある。レポート提出に備えて十分な復習を行うこと。

【成績の評価】

授業内レポート（20％）、課題レポート（50％）、試験（30％）の評価を行う。
授業内レポート、課題レポート等は添削して返却します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

必要に応じて、その都度指定する。

科目名： 香川学【発】

担当教員： 藤井 雄三(FUJII Yuzo), 林 守孝(HAYASHI Moritaka)

【授業の紹介】

これからの教育に携わる者にとって、自己の立ち位置を知り、意識しておくことは、極めて重要です。今、住んでいるまた、これから住む可能性が高い香川県や高松市は私達にとって、そこがどのような場所であるのかを知ることが、避けて通ることができません。本授業では香川・高松の特色のある行事、地形、文化、歴史等を学び、その地域を知り、かつ元気にするための能力を養います。

本授業では、1回の現地見学を予定しており、現地の息吹をじかに触れてください。その他は、基本的には講義形式ですが、授業全体では報告書、レポートの提出を求めます。

なお、現地学習等に要する経費は、各自の負担となります。

【到達目標】

- 1．香川県という地域を学び、地域に生きる意味を考えることができる
- 2．香川県という地域を愛することができる
- 3．香川県という地域を、発達段階に応じて子ども達に伝えることができる
- 3．多様化した社会において生き抜く自己のバックボーンとすることができる

【授業計画】

- 第1回 香川県を学ぶ
- 第2回 香川と地質
- 第3回 地名と香川
- 第4回 香川の歩み
- 第5回 香川の歩み
- 第6回 水と香川
- 第7回 水と香川
- 第8回 香川と環境
- 第9回 香川と交通
- 第10回 香川の祭礼
- 第11回 香川と巡拝
- 第12回 香川の偉人
- 第13回 伝説と香川
- 第14回 現地見学
- 第15回 現地見学
- 定期試験

【授業時間外の学習】

どのような事でもいいですから、日頃から自分の住んでいる地域のことから、場所だけではなく、そこに住んでいる人々等も含めて、普段から複眼的な視野で学び、そして香川を見てください。

【成績の評価】

- 1．授業態度・レポート 30%
- 2．試験等 70%

試験の結果はオフィスアワーの際に説明します。

【使用テキスト】

毎回、配布するプリントもしくは資料を用います。

【参考文献】

特別なものではありませんが、必要な場合は講義中に随時紹介します。

科目名： 香川学演習

担当教員： 藤井 雄三(FUJII Yuzo), 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro)

【授業の紹介】

故郷香川の自然や文物、創成の取り組みへの理解を深め、実習を通して、参画の態度を育てることを目的とします。教職をめざす学生は教材開発の視点、経営を学ぶ学生は地域活性化の視点を重視します。

日常的な活動としては、高松市創造都市推進局や地域コミュニティー等、近隣の自治体やその関係機関が行う行事・活動に参加し、多様な立場の人々との確にコミュニケーションを図れるようにするとともに、その意義や実際に学び、地域社会に役立てる志を養います。

さらに、休日等を利用して学内外の行事にボランティアとして運営補助等の立場でも参加し、香川の明日を創る、特色ある取り組みについて、学びます。

受講者は、参加したい活動や行事を選択し、各自で授業計画を作成します。参加する活動の受け入れ先と交渉を行い、日時の決定も自ら行います。

学外で実施される主な行事と活動（例）

博物館・美術館実習

子ども大学の運営補助

地元プロスポーツチーム（カマタマーレ讃岐、香川オリーブガイナース等）の応援

関係機関が行う各種事業

なお、活動に要する経費は自己負担となります。

【到達目標】

1. 香川県および高松市等の自身が生活している各地域を実地で知ることができる。
2. 行事に協働して活動することにより、自身が地域社会に参画したという実績づくりができる。
3. 地域社会の一員であることを認識することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション 授業計画の作成

第2回 実施について（計画の報告会等）

第3回 実施について（計画の報告会等）

第4回～第11回 ボランティア活動実習・第1期

第12回 活動の確認

第13回～第19回 ボランティア活動実習・第2期

第20回 活動の確認

第21回～第28回 ボランティア活動実習・後半

第29回 報告書作成・確認

第30回 報告書作成・確認

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

学校外での活動が多くなります。周囲の関係者とコミュニケーションを十分取れるような環境を、自分自身でつくることによって、実習がスムーズにいきます。そのためには、書籍、マスメディアなどを通じて、テーマに関係した基礎知識を貪欲に吸収してください。

【成績の評価】

1. 実習、受講態度と意欲、姿勢 50%
 2. 報告書・レポート等の内容 50%
- 報告書等については、授業時に教員と協議し、必要な指導をします。

【使用テキスト】

実習先においては配布される資料等を参考にしてください。

【参考文献】

特別なものではありませんが、実習先の要請等、必要に応じてサポートします。

科目名： 歴史

担当教員： 溝渕 利博(MIZOBUCHI Toshihiro)

【授業の紹介】

グローバル化が進展する中、今、「日本とは何か」が問われている。日本人一人ひとりへの問いかけである。「過去を知らなければ、未来を語ることはできない」とよく言われる。未来は、過去を振り返ることによってのみ明らかになってくる。日本には先人が生み育ててきた長い文化の歴史があり、本授業では、文化史の視点に立って改めて日本の歴史を振り返り、日本文化の特質とその歴史的な性格について学び理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養うという学位授与の方針に関する知識、技法、態度を修得する。

【到達目標】

1. 日本の身近な文化財や伝統文化を通して、それらが生まれてきた風土や歴史的背景を理解できる。
2. 日本や日本文化に対する関心を高め、歴史的なものの見方や考え方を習得できる。
3. 新たな時代に相応しい日本文化を創造していく力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・文化史とは何か
- 第2回 日本文化の源流 (P.1～P.14)
- 第3回 古代国家の形成と日本神話 (P.15～P.39)
- 第4回 仏教の受容とその発展 (P.41～P.54)
- 第5回 漢風文化から国風文化へ (P.55～P.72)
- 第6回 平安時代の仏教文化 (P.73～P.83)
- 第7回 鎌倉仏教文化の成立 (P.85～P.110)
- 第8回 内乱期の文化 (P.111～P.124)
- 第9回 国民的宗教の成立 (P.125～P.136)
- 第10回 近世国家の成立と歴史思想 (P.137～P.156)
- 第11回 元禄文化 (P.157～P.173)
- 第12回 儒学の日本的展開 (P.175～P.185)
- 第13回 国学と洋学・明治維新における公論尊重の理念 (P.187～P.212)
- 第14回 近代日本における西洋化と伝統文化 (P.213～P.229)
- 第15回 これまでの授業のまとめと質疑応答～日本文化史から日本文化論へ～
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎時間中に質問をするので、テキスト『日本文化の歴史』の該当ページを予習し、自分なりの意見や感想をまとめておくこと。また、ユニットの区切り（原則として5回終了後）ごとには小テストを行うので、ノートを取り授業の復習も怠らないようにしておくこと。本学図書館には、日本文化史関係の参考図書が数多く所蔵されているので、積極的に利用すること。

【成績の評価】

授業への参加意欲や受講態度を重視するとともに、質問事項への応答内容・主体的な学習状況の度合い等（10％）に加え、毎授業後に提出のリフレクションペーパー（10％）、ユニットごとの小テスト（20％）及び学修ノート（20％）・レポート（40％）の成績を総合して評価する。小テストについては、その都度、模範解答を示して講評し、授業時に返却してフィードバックする。遅刻2回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

尾藤正英著『日本文化の歴史』（岩波新書、2000年、864円）

【参考文献】

家永三郎『日本文化史（第二版）』（岩波新書、1982年、886円）佐々木高明著『日本文化の多重構造』（小学館、1997年、2,937円）阿部猛・西垣晴次編『日本文化史ハンドブック』（東京堂出版、2002年、4,104円）村井康彦著『日本の文化』（岩波ジュニア新書、2002年、449円）大久保喬樹著『日本文化論の系譜』（中央新書、2003年、799円）遠山淳他編『日本文化論キーワード』（有斐閣、2009年、1,944円）ほか、必要に応じて授業の中で適宜紹介する。

科目名： 地理
担当教員： 溝渕 利博(MIZOBUCHI Toshihiro)

【授業の紹介】

地理学 (geography) は空間的な視点から地表上の諸事象についてその実態や要因を研究する学問で、geo (土地) を graphia (記述する) という語源に発している。世界遺産は地球の生成や人類の歴史によって生み出された貴重な財産で、地理学の絶好な教科書でもある。現在では地球環境保護への関心が高まり、自然や景観の価値が見直されている。本授業では、人類共通の至宝である世界遺産 (World Heritage) 等の学習を通して、世界の自然や民族・文化等の多様性について学ぶとともに、世界平和や地球環境保護に関する認識を深め、豊かな人間を培い幅広い教養を養うという学位授与の方針に関する知識、技法、態度を修得する。

【到達目標】

1. 世界遺産等の学習を通して、世界の自然や民族・文化等の多様性を理解できる。
2. 世界平和や持続可能な地球環境保護に関する意識を高め、地理学に関する幅広い知見を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、はじめに、地理学と世界遺産 (P.1~P.9)
- 第2回 ユネスコとは (P.11~P.21)
- 第3回 世界遺産とは、世界遺産条約、世界遺産委員会 (P.23~P.35)
- 第4回 世界遺産の種類、登録要件、登録基準、登録手順、世界遺産暫定リスト、危機遺産、世界遺産基金 (P.36~P.44)
- 第5回 日本の世界遺産、世界遺産の今後の課題、世界遺産条約の将来 (P.44~P.58)
- 第6回 世界遺産登録フローチャート、危機遺産 (P.59~P.67)
- 第7回 世界遺産 (文化遺産・自然遺産・複合遺産) の例 (P.68~P.75)
- 第8回 無形文化遺産とは、無形文化遺産保護条約、無形文化遺産委員会 (P.77~P.89)
- 第9回 補助機関と諮問機関、緊急保護リスト、代表リスト、国際援助 (P.90~P.98)
- 第10回 日本の無形文化遺産、無形文化遺産の今後の課題、無形文化遺産分布図 (P.99~P.109)
- 第11回 無形文化遺産保護条約と登録のフローチャート、無形文化遺産の例 (P.110~P.123)
- 第12回 世界記憶遺産の種類、選定基準、国際諮問委員会、世界記憶遺産基金 (P.125~P.134)
- 第13回 日本の世界記憶遺産、世界記憶遺産の今後の課題、世界記憶遺産の例 (P.134~P.149)
- 第14回 世界遺産・無形文化遺産・世界記憶遺産の比較 (P.151~P.157)
- 第15回 これまでの授業のまとめと質疑応答~世界遺産を通して世界の自然や文化の多様性を学ぶことの意義について~
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎回授業中に質問をするので、テキスト『世界遺産入門』の該当ページを予習し、自分なりの意見や感想をまとめておくこと。また、ユニットの区切り (原則として5回終了後) ごとには小テストを行うので、ノートを取り授業の復習も怠らないようにしておくこと。本学図書館には地理学・世界遺産学関係の参考図書が数多く所蔵されているので、積極的に利用すること。

【成績の評価】

授業への参加意欲や受講態度を重視するとともに、質問事項への応答内容・主体的な学習状況の度合い等 (10%) に加え、毎授業後に提出のリフレクションペーパー (10%)、ユニットごとの小テスト (20%) 及び学修ノート (20%)・レポート (40%) の成績を総合して評価する。小テストについては、その都度、模範解答を示して講評し、授業時に返却してフィードバックする。遅刻2回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

古田陽久・古田真美著『世界遺産ガイド ユネスコ遺産の基礎知識』(シンクタンクせとうち総合研究機構、2014年、2,700円)。世界の気候や風土を確認するため、手持ちの地図帳を持参すること。

【参考文献】

奈良大学文学部世界遺産を考える会編『世界遺産学を学ぶ人のために』(世界思想社、2000年、2,052円)
) 愛川フオール紀子監修・古田陽久・古田真美著『世界遺産入門ーユネスコから世界を学ぶー』(シンクタンクせとうち総合研究機構、2007年、2,100円) 松浦晃一郎著『世界遺産：ユネスコ事務局長は訴える』(講談社、2008年、1,890円) 安江則子編『世界遺産学への招待』(法律文化社、2011年、2,372円) ほか、必要に応じて授業の中で適宜紹介する。

科目名： 暮らしと経済

担当教員： 正岡 利朗(MASAOKA Toshirou)

【授業の紹介】

日常営まれているさまざまな経済行為につき、受講生自らが調べたことについて、教員が解説を行うかたちで、講義を進めます。経済知識は難しく、とっつきにくいものとは思いますが、このような知識は、みなさんが社会生活を送るに当たり、身につけておいて決して損はないものです。少し我慢していると、身の回りのいろいろな出来事の持つ意味がだんだんわかってきますので、興味のある方はこの機会にぜひ受講してみてください。これにより、学位授与の方針のうち、発達科学部学生については、「教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる」能力の修得を、経営学部学生については、「経営・情報・会計などに関する基礎的知識から専門的知識まで体系的に修得し、組織においてその知識を適切に活用することができる」能力の修得をめざします。

なお、本授業は、小グループ毎に情報収集・討議と発表を行うアクティブ・ラーニング形式を採用しています。

【到達目標】

1. わたしたちが生活をうまく送っていくのに必要な経済知識を、具体的事例に則して身につけて、受講生が将来実際にそのような場面に直面した際に、的確な判断を下すことができるようになることをめざす。

【授業計画】

第1回 インTRODクシヨン（検索の仕方、文書の作成）
第2回 「どこに住むか」（情報の収集、整理）
第3回 同 上（収集、整理した情報に基づくレポートの作成）
第4回 「どのくらい貯蓄できるか」（情報の収集、整理）
第5回 同 上（収集、整理した情報に基づくレポートの作成）
第6回 「保険に入るべきか」（情報の収集、整理）
第7回 同 上（収集、整理した情報に基づくレポートの作成）
第8回 「クルマを持ったら」（情報の収集、整理）
第9回 同 上（収集、整理した情報に基づくレポートの作成）
第10回 「旅行に行きたい」（情報の収集、整理）
第11回 同 上（収集、整理した情報に基づくレポートの作成）
第12回 「投資をしてみたい」（情報の収集、整理）
第13回 同 上（収集、整理した情報に基づくレポートの作成）
第14回 「イエを持ちたい」（情報の収集、整理）
第15回 同 上（収集、整理した情報に基づくレポートの作成）
定期試験

【授業時間外の学習】

よいレポート内容をまとめるには、相当な時間外の学習が必須となります。さまざまな意見を総合して、自分の意見をまとめるための参考にするという態度を、時間をかけてぜひ身につけてください。

【成績の評価】

レポート提出（50％）、定期試験（50％）の結果により総合的に判断します。ただし、授業態度が不適切な場合はそれに応じた減点をしますので留意してください。なお、各受講生（グループ）のレポートの結果については講評し、フィードバックを行います。定期試験の結果は研究室のドアに掲示します。

【使用テキスト】

とくにありません（インターネットを使用する場合もある）。

【参考文献】

横山光昭『年収200万円からの貯金生活宣言 正しいお金の使い方編』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2010年。（¥1,404）

科目名： 人間と環境

担当教員： 水口 裕之(MIZUGUCHI Hiroyuki)

【授業の紹介】

人間と環境との関わり合いを理解し、地球環境問題を考え、地球環境を考慮した生活を実践できる力を身に付けるための授業です。

地球上における人類を含めた生物の生存・活動の場としての環境の重要性は、広く認められています。現在の地球環境問題は、多くの要因が複雑に絡み合っています。そのような中、「人類の生存の存続を可能とする持続可能な社会の構築」が必要であることが世界の共通認識となっています。

この授業は、地球環境問題の現状とその発生要因やメカニズムを理解し、今後の各個人の生活の在り方を考え、実践できる力を養成するものです。このため、受講者を4～6名のグループに分け、各グループがそれぞれのテーマについて調査・考察し、それをまとめてパワーポイント等を用いて発表してもらい、全員で意見交換を行います(第7～14回(11回を除く))。また、質問欄に記載された質問等には次の授業時に回答します。

【到達目標】

- (1) 人間と環境との関わり合いについて理解し、それを他の人に説明できる。
- (2) 持続可能な社会を実現するために、今、私たちが考えなければならないこと、しなければならないことについて、自分なりの見解を持ち、それを他の人に説明できるとともに実践できる素養を身に付ける。
- (3) 授業は正しい解が教えられるものではなく、考える習慣や感性を身に付けるものであることを理解し、実践する。

【授業計画】

- 第1回 授業のガイダンス(授業の目的・進め方)、環境とは何か?
- 第2回 社会と環境との関わり、持続可能な社会と環境学、発表テーマと発表方法の説明
- 第3回 環境問題の変遷、産業型公害の概要、グループ構成員・発表テーマの希望調査
- 第4回 大気汚染・水質汚濁問題、グループ構成員・発表担当テーマの調整
- 第5回 土壌汚染・廃棄物問題、グループ構成員・発表テーマの決定
- 第6回 化学物質・放射性物質汚染、その他の地域環境問題、
- 第7回 地球温暖化・気候変動と私たちの生活(グループ発表)
- 第8回 オゾン層の破壊・酸性雨とその影響(グループ発表)
- 第9回 生物多様性の意義とその保全、水資源問題(グループ発表)
- 第10回 再生可能エネルギー、砂漠化問題、その他の地球環境問題(グループ発表)
- 第11回 環境基本法と環境関連法の概要、およびこれらの法に込められた環境保全思想
- 第12回 人口増加と貧困・食糧問題、生活スタイル・社会経済システムと環境との関わり(グループ発表)
- 第13回 持続可能な社会・低炭素社会に向けた環境施策、ゴミの収集とその処分法(グループ発表)
- 第14回 レッドデータブック、森林の保全、地域の環境保全問題(グループ発表)
- 第15回 環境アセスメントの概要、環境倫理・環境教育の必要性

【授業時間外の学習】

7回目から14回目(11回目を除く)の授業においては、各グループで調査・考察したことを発表してもらいますので、その調査・考察、発表準備、発表、ならびに、これらの過程に関するレポート(個人別レポート)の作成が必要です。

【成績の評価】

成績の評価は、発表(個人別レポートを含む)40%、授業への参加状況(出席ではなく意見発表、質問など)20%、試験40%で行います。また、レポート、試験答案等を希望する者には、返却します。

【使用テキスト】

田中修三・西浦定継著『基礎から学べる環境学』(共立出版、2013年)、その他必要に応じて資料を配付することがあります。

【参考文献】

- 日本化学会編『環境科学 - 人間と地球の調和をめざして - 』(東京化学同人、2004年)
- 左巻健男・平山明彦・九里徳泰著『地球環境の教科書10講』(東京書籍、2005年)
- 石 弘之著『地球・環境・人間 』(岩波科学ライブラリー141、2008年)
- 渡辺信久・岸本直之・石垣智基著『図説わかる環境工学』(学芸出版社、2008年)
- 増田啓子・北川秀樹著『はじめての環境学』(法律文化社、2009年)
- 太田和子・臼井宗一・山中冬彦著『イラスト私たちと環境』(東京教学社、2015年)、その他

科目名： ボランティア

担当教員： 蓮井 孝夫(HASUI Takao)

【授業の紹介】

この授業では、まずボランティア活動実施に当たり、活動の意義や社会的な役割などの基礎的知識を学びます。活動実施の準備として、教室では、様々な活動への情報提供を各種団体から受けます。あわせて、各種団体から活動スキルを学びます（折り紙、手遊び、読み聞かせ、幼児との交流の仕方、保育園訪問など）。また学外活動を体験（必須）することによって、多くの異世代（子どもから高齢者）の人たちと出会うことが、優れた社会人となるための機会とすることを目的とし、積極的な活動参加を期待しています。

また、上記の述べた講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養うという学位授与の方針に関する知識、技法を修得する。

【到達目標】

ボランティア活動の実体験から、自らの新しい価値観が生み出され、身につけることができる。
社会性をもったボランティア活動は、社会の構成員としての自覚を認識させてくれ、社会的課題解決に取り組めることができる。
自ら学び、自ら考え、自ら気づき、自ら表現し、自ら行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を身につけることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション（講義の進め方と講義課題の説明）
第2回	ボランティア活動基礎編（オリエンテーション&講義）
第3回	ボランティア活動基礎編（NPO活動情報）
第4回	ボランティア活動基礎編（NGO活動情報）
第5回	ボランティア活動基礎編（講義&ワーク）
第6回	ボランティア活動基礎編（講義&ワーク）
第7回	ボランティア活動基礎編（講義&ワーク）
第8回	ボランティア活動基礎編（講義&ワーク）
第9回	ボランティア活動基礎編（講義&ワーク）
第10回	ボランティア活動の現場編（施設訪問）
第11回	ボランティア活動の現場編（ワーク）
第12回	ボランティア活動の現場編（ワーク）
第13回	ボランティア活動の現場編（ワーク）
第14回	ボランティア活動の現場編（ワーク）
第15回	ボランティア活動のまとめ

定期試験

【授業時間外の学習】

授業の形式は「2E」ですが、週1コマの講義と、それ以外に4月から8月中旬までに、自ら、ボランティア活動先を探し（教師からも情報提供あり）、学外活動を30時間程度実施する必要があり、地域での活動に積極的に参加しよう。そして多くの人々とつながっていこう。

【成績の評価】

学外ボランティア活動・受講態度（約30%）、授業ふりかえり・レポート（約30%）、テスト（約40%）などで総合的に評価（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行う）。

【使用テキスト】

使用テキストなし、随時授業資料を配付（保存のこと・資料持ち込みテスト）

【参考文献】

随時提示

全学共通科目:基礎科目

科目	掲載ページ
日本語表現法Ⅰ【発】	18
日本語表現法Ⅱ【発】	19
数学基礎	20
アンケート調査法	21

科目名： 日本語表現法 【発】
担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

1. 学生が日本語の言語的特質や性格について、理解を深め、社会生活の各種の場や文書作成の際に必要な日本語による実用的表現能力を身に付けることをねらいとした授業です。そのため、予習課題として短文を作成したり、毎授業時に保育・教育学関連の語句や漢字のトレーニングを実施します。
2. また、学生が子育て支援社会を支える豊かな人間性や課題に気づいて解決する力、社会に貢献できる力を身に付けるため、様々な教材を観賞したり、主体的な読解を発表したりします。

【到達目標】

1. 学生が主体的に取り組み、日本語の言語学的な特質について理解を深め、実用的な表現能力を身に付けます。
2. 学生が様々な演習を通じ、豊かな人間性や主体的に鯛的に生きる力を身に付けます。
3. さまざまな社会生活の場で課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身に付けます。

【授業計画】

- 第1回 日本語について
 - 第2回 日本語の文字と表記
 - 第3回 仮名及び仮名遣い
 - 第4回 現代仮名遣い
 - 第5回 現代仮名遣いトレーニング
 - 第6回 日本語の音韻
 - 第7回 日本語の種類
 - 第8回 日本語の文法
 - 第9回 日本語の文法トレーニング
 - 第10回 敬語表現：尊敬語
 - 第11回 敬語表現：尊敬語トレーニング
 - 第12回 敬語表現：謙譲語
 - 第13回 敬語表現：謙譲語トレーニング
 - 第14回 敬語表現：丁寧語
 - 第15回 敬語表現：丁寧語トレーニング
- 定期試験を実施します。

【授業時間外の学習】

○授業の内容に応じた予習プリントを事前に配布します。学生は予習をし、毎授業の冒頭に提出しなければなりません。

【成績の評価】

1. 予習課題の提出状況进行评估します。
 2. 授業に対する取組み姿勢进行评估します。
 3. 期末考査の結果（70％）と1 + 2（30％）を合わせて総合的に評価します。
- なお、期末試験の結果については、考査終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】

○教材として、資料プリントを準備し、予習ができるよう、事前に配布します。
なお、毎時、国語辞書を持参すること。

【参考文献】

- 保育所保育指針（平成29年3月厚生労働省告示）
- 幼稚園教育要領（平成29年3月文部科学省告示）
- 小学校学習指導要領（平成29年3月文部科学省告示）
- 関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

科目名： 日本語表現法 【発】
担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

1. 学生が日本語の言語的特質や性格について、理解を深め、社会生活の各種の場や文書作成の際に必要な日本語による実用的表現能力を身に付けることをねらいとした授業です。そのため、予習課題として短文を作成したり、毎授業時に保育・教育学関連の語句や漢字のトレーニングを実施します。
2. また、学生が子育て支援社会を支える豊かな人間性や課題に気づいて解決する力、社会に貢献できる力を身に付けるため、様々な教材を観賞したり、主体的な読解を発表したりします

【到達目標】

1. 学生が主体的に取り組み、日本語の言語学的な特質について理解を深め、実用的な表現能力を身に付けます。
2. 学生が様々な演習を通じ、豊かな人間性や主体的に鯛的に生きる力を身に付けます。
3. さまざまな社会生活の場で課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身に付けます。

【授業計画】

- 第1回 漢字の特殊な読み・熟字訓・当て字
 - 第2回 漢字の特殊な読み・文脈による読み
 - 第3回 間違いやすい語句
 - 第4回 間違いやすい重言
 - 第5回 間違いやすい慣用句
 - 第6回 間違いやすい類似語
 - 第7回 間違いやすい外来語
 - 第8回 アカデミックワード
 - 第9回 アカデミックワードトレーニング
 - 第10回 諺の世界
 - 第11回 助数詞の使い方
 - 第12回 簡潔な表現
 - 第13回 故事成語の世界
 - 第14回 形容詞の多義性
 - 第15回 文章表現トレーニング
- 定期試験を実施します。

【授業時間外の学習】

○授業の内容に応じた予習プリントを事前に配布します。学生は予習をし、毎授業の冒頭に提出しなければなりません。

【成績の評価】

1. 予習課題の提出状況进行评估します。
 2. 授業に対する取組み姿勢进行评估します。
 3. 期末考査の結果（70％）と1 + 2（30％）を合わせて総合的に評価します。
- なお、期末試験の結果については、考査終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】

○教材として資料プリントを準備し、予習ができるよう事前に配布します。
なお、毎時、国語辞書を持参すること。

【参考文献】

- 保育所保育指針（平成29年3月厚生労働省告示）
- 幼稚園教育要領（平成29年3月文部科学省告示）
- 小学校学習指導要領（平成29年3月文部科学省告示）
- 関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

科目名： 数学基礎

担当教員： 深石 博夫(FUKAISHI Hiroo)

【授業の紹介】

全学共通科目の一つとして数学の普遍的な知識と文化を学ぶために、あなたが考え、あなたが解決する時間です。古くから、数と式と図形は数学の主役です。問題を解決していく中で、古典的課題から現代数学までのさまざまな発想や方法を学びます。じっくりと考えることのおもしろさを、みなさんとともに体験しましょう。とくに、図形と数に関連するとき、興味深い豊かな数理の世界が広がります。毎回三角定規とコンパスを持参して下さい。

この授業に積極的に参加することにより、豊かな人間性を培い、幅広い教養を養うとともに基礎学力を強化するという学位授与の方針にふさわしい知識や技能を修得します。

【到達目標】

基本的な問題を解決することによって、考える過程の楽しさと理由がわかったときの爽快な充実感を味わいたい。
この授業では、次のことがらができるようになることをめざします。
与えられた課題を理解し、解決の方法を探る。
各自の考えた解決策を相互に検討し、解答を導く。
自分の解答をみんなにわかるように説明（証明）する。

急がず、休まず、あきらめず。

【授業計画】

第1回	はじめの問題
第2回	小数と分数
第3回	文字式
第4回	自然数の話題
第5回	整数の話題
第6回	実数の話題
第7回	無限に加えていくと
第8回	図形の等積分割
第9回	最短経路
第10回	等積変形
第11回	立体図形
第12回	作図
第13回	幾何と論理
第14回	直線とは
第15回	無限の大きさ
定期試験	

【授業時間外の学習】

積み重ねのために毎回の復習が必要です。次の点に留意しましょう。
主題は何か。
解決の決め手は何か。基本的一般的な方法か、あるいは特殊な技法か。
記述や表現に注意すべきことがあるか。

疑問が生じたら、授業の際に遠慮なく質問をして下さい。

【成績の評価】

授業中の活動（10%）、演習（10%）、レポート（10%）、定期試験（70%）により評価します。演習等は授業で解説し、期末試験は教務課窓口で解答例を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】

必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

なし。

科目名： アンケート調査法

担当教員： 正岡 利朗(MASAOKA Toshiro)

【授業の紹介】

企業及び公共組織等が商品の販売やサービスなどを促進させるために行うアンケート調査につき、教員が解説を行うかたちで、講義を進めます。アンケート調査は回答したことがあっても、自ら作る側に回った方は少ないと思われます。ですが、このような知識は、みなさんがさまざまな組織で仕事をするに当たり、身につけておいて決して損はしないものです。慣れてくると、考え方が整理され、アンケート調査の重要性、有用性がだんだんわかってきますので、興味のある方はこの機会にぜひ受講してみてください。これにより、学位授与の方針のうち、発達科学部学生については、「教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる」能力の修得を、経営学部学生については、「経営・情報・会計などに関する基礎的知識から専門的知識まで体系的に修得し、組織においてその知識を適切に活用することができる」能力の修得をめざします。

【到達目標】

1. 企業及び公共組織等が商品の販売やサービスなどを促進させるために行うアンケート調査について、理解を深めることができるようになる。
2. 受講生が講義を通じて、リサーチの技法を確実に身につけることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 アンケート調査とは
 - 第3回 企画・設計の手順（調査課題の設定）
 - 第4回 企画・設計の手順（調査方法の選定）
 - 第5回 企画・設計の手順（調査期間等の見通し）
 - 第6回 アンケート票の作成（言葉遣いについて）
 - 第7回 アンケート票の作成（調査ボリューム）
 - 第8回 アンケート票の作成（レイアウトの検討）
 - 第9回 集計・分析の手順（集計の手順）
 - 第10回 集計・分析の手順（集計方法）
 - 第11回 集計・分析の手順（集計上の留意点）
 - 第12回 報告書の作成（文章、分析内容の検討）
 - 第13回 報告書の作成（レイアウトの検討）
 - 第14回 とくにweb調査について
 - 第15回 これまでの授業のまとめと質疑応答
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

よいレポート内容をまとめるには、相当な時間外の学習が必須となります。さまざまな意見を総合して、自分の意見をまとめるための参考にするという態度を、時間をかけてぜひ身につけてください。

【成績の評価】

レポート提出（100％）の結果により判断します。ただし、授業態度が不適切な場合はそれに応じた減点をしますので留意してください。なお、各受講生のレポートの結果については講評し、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

酒井隆『アンケート調査の進め方＜第2版＞』日本経済新聞出版社、2012年。（¥860）

【参考文献】

内田治・醍醐朝美『実践 アンケート調査入門』日本経済新聞社、2001年。（¥1,728）

全学共通科目:コミュニケーション科目

科目	掲載ページ
コミュニケーション表現	23
コミュニケーション演習Ⅰ【発】	24
コミュニケーション演習Ⅱ【発】	25
情報基礎	26
情報基礎演習	27
情報応用演習	28
英語Ⅰ【発】	29
英語Ⅰ【発】	30
英語Ⅱ【発】	31
英語Ⅱ【発】	32
英語Ⅲ【発】	33
英語Ⅲ【発】	34
英語Ⅳ【発】	35
英語Ⅳ【発】	36
ブラクティカル・イングリッシュⅠ【発】	37
ブラクティカル・イングリッシュⅡ【発】	38
ブラクティカル・イングリッシュⅢ【発】	39
ブラクティカル・イングリッシュⅣ【発】	40
フランス語Ⅰ	41
フランス語Ⅱ	42
フランス語Ⅲ	43
フランス語Ⅳ	44
中国語Ⅰ	45
中国語Ⅱ	46
中国語Ⅲ	47
中国語Ⅳ	48
日本語Ⅰ	49
日本語Ⅱ	50
日本語Ⅲ	51
日本語Ⅳ	52
マスメディアと社会	53
比較文化	54

科目名： コミュニケーション表現
担当教員： 蓮井 孝夫(HASUI Takao)

【授業の紹介】

この授業では、理論的学習を中心に、「グループワーク」「ワールド・カフェ」等さまざまな対人コミュニケーションの体験を通じて「対人コミュニケーション理論・実践」「カウンセリング的コミュニケーション理論・自薦」等を身につけ、その結果、学位授与の方針に関する「自ら考え、自ら判断し、自ら行動できる社会人」になるためのスキルを身につけていくようプログラムしています。

特に「グループワーク」「ワールドカフェ」では社会問題解決のための課題発見し、仲間と共に考えプレゼンできるよう選んでいます。また対人関係の問題解決のための「的確なコミュニケーション能力」アップも重視しています。

関連科目の「コミュニケーション演習」もあわせて受講することを希望します。

【到達目標】

社会の中で、一人の人間として、「自ら考え、自ら判断、自ら行動」をして、社会で生きてゆくために、集団という群れ（自己と他者の存在）の中で、「コミュニケーション能力」のスキルアップすることを到達目標にしています。

理論学習・演習等を通じて、「自己理解力」「他者理解力」ができる。

「話す力」「聴く力」「書く力」「読みとる力」「話し合う力」ができる。

「考える力」「感じる力」「表現する力」「行動する力」ができる。

さらに悩める人に「カウンセリング的コミュニケーション」等ができる。

幼児等異世代の人と「的確なコミュニケーション（実践と理論）」を図ることができる。

【授業計画】

- 第1回 「自己概念とは・20代にやっておくこと」
 - 第2回 「大学での学びとコミュニケーション」
 - 第3回 「ことばの役割・ルビンの杯」
 - 第4回 「相互インターヴュー」
 - 第5回 「自己肯定感・自分をほめる（アドラー心理学）」
 - 第6回 「アサーション・トレーニング」
 - 第7回 「自己カウンセリング（手紙法）」
 - 第8回 「カウンセリング的コミュニケーション」
 - 第9回 「敬語と人間関係、バイト敬語」
 - 第10回 「非言語コミュニケーション表現」
 - 第11回 「自他の価値観の違い」
 - 第12回 「新聞を読む」
 - 第13回 「ワールド・カフェ」
 - 第14回 「プレゼンテーション（賛成・反対・中立）」
 - 第15回 「課題別プレゼンテーション」
- 定期試験

【授業時間外の学習】

「自分を確立し、自立・共生」できる人間として成長するには、多くの友人・知人・メンターをつくることです。また様々な「社会的スキル」も身につけることです。アルバイト、映画鑑賞、音楽鑑賞等だけでなく、毎日のテレビニュースを視聴したり、新聞・本を読みましょう。時には休暇を利用して県外、海外旅行（バックパッカー）も楽しんで下さい。新しい「価値観・視点」が発見できるでしょう。

【成績の評価】

受講態度（約30%）、授業ふりかえり・レポート（約30%）、テスト（約40%）などで総合的に評価（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行う）。

【使用テキスト】

使用テキストなし、随時授業資料を配付

【参考文献】

随時提示

科目名： コミュニケーション演習 【発】

担当教員： 蓮井 孝夫(HASUI Takao)

【授業の紹介】

「コミュニケーション」が苦手な人たちが増えています。この授業では、学位授与の方針に関する、幼児などの異世代とのコミュニケーションの理論と演習（実践力）をも大切にし、演習では「絵本の読み聞かせ方」「ことばの発音・発声・滑舌の仕方」なども取りいれています。

演習の中で「自己のみつめ直し」「自己表現」などを通じて、まず自分自身を深く知り、自分の価値観をしっかりと持てるようにしています。その結果、社会問題にも関心を持ち、「的確なコミュニケーション」が図れるよう授業構成しています。

毎回の演習課題解決を通じて、将来、組織において社会性を持った行動・活動に「コミュニケーション能力」が生かせるよう授業を進めていきます。「自ら考え・判断し・行動できる」人間として成長できるよう授業構成しています。積極的な授業参加を期待します。

関連科目の「コミュニケーション演習」、「コミュニケーション表現」もあわせて履修を希望します。

【到達目標】

自己理解を深めたり・広めたりすることができる。

幼児や児童に絵本の読み聞かせができる。

ことばの発音が正確にできる。

ことばを通じて対人関係を深めたり・広めたりすることができる。

幼児・児童の話す言葉の向こうにある「心の言葉」への理解（実践と理論）を深めることができる。

グループワーク等を通じプレゼンテーション力を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 ことば表現演習：「オリエンテーション」&DVD
- 第2回 ことば表現演習：「アイスブレイク体験」
- 第3回 ことば表現演習：「コミュニケーションはじめ・挨拶ことば」
- 第4回 ことば表現演習：「自己開示・自己紹介」
- 第5回 ことば表現演習：「大学時代50のこと」
- 第6回 ことば表現演習：「絵本の読み聞かせかた」
- 第7回 ことば表現演習：「日本語の発声・発音・滑舌」
- 第8回 ことば表現演習：「日本語の発声・発音・滑舌」
- 第9回 ことば表現演習：「自己概念とWho am I?」
- 第10回 ことば表現演習：「変身？・反転？」
- 第11回 ことば表現演習：「内観法・深く自己を探る」
- 第12回 ことば表現演習：「3つのききかた」
- 第13回 ことば表現演習：「自他の価値観」（ワークショップ）
- 第14回 ことば表現演習：「私のセールスポイント」
- 第15回 ことば表現演習：「就活へのはじめのはじめ」

定期試験

【授業時間外の学習】

社会生活を送るには、「自分の価値観をしっかりとつ」「他人と共生できる」ことが求められています。そのためには、社会での多くの体験（学び）が必要です。アルバイトやインターシップ、ボランティア活動だけでなく、クラブ活動、旅行、読書、映画鑑賞、美術鑑賞などを通じて、心豊かな人間に成長するだけでなく、多くの友人・知人をつくって下さい。その友人・知人は将来あなたの「心豊かな財産」になるでしょう。

【成績の評価】

受講態度（約30%）、授業ふりかえり・レポート（約30%）、テスト（約40%）などで総合的に評価（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行う）。

【使用テキスト】

使用テキストなし、随時授業資料を配付（保存のこと・資料持ち込みテスト）

【参考文献】

随時提示

科目名： コミュニケーション演習 【発】

担当教員： 蓮井 孝夫(HASUI Takao)

【授業の紹介】

「あなたの周りで、心から話し合える友人は何人いますか」「あなたの気持ちは、何%くらい相手に伝えられますか」などの問いに、多くの学生は「コミュニケーション能力」を身につけたいと答えています。

この授業では、幼児などの異世代とのコミュニケーションの理論と演習（実践力）をも大切にし、演習では「音読・朗読の仕方」「紙芝居の演じ方」なども取りいれています。

演習の中で「心理学的コミュニケーションの仕方」「自己表現」「文章理解力」「グループワーク」などアクティブ・ラーニングを通じて、多様な視点から自分自身を知り、自分の価値観をしっかりと持てるようにしています。その結果、学位授与の方針に関する、社会問題にも広く関心を持ち、「的確なコミュニケーション」が図れるよう授業構成しています。

関連科目の「コミュニケーション演習」、「コミュニケーション表現」もあわせて履修を希望します。

【到達目標】

自己理解を深めたり・広めたりすることができる。

幼児や児童に絵本の読み聞かせができる。

ことばの発音・アクセントが正確にできる。

ことばを通じて対人関係を深めたり・広めたりすることができる。

幼児・児童の話す言葉の向こうにある「心の言葉」への理解（実践と理論）を深めることができる。

グループワーク等を通じプレゼンテーション力を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 ことば表現演習：オリエンテーション「伝える力づくり」
- 第2回 ことば表現演習：「大学でのコミュニケーション力の学び」
- 第3回 ことば表現演習：「心のレフレミング」（心の枠組みを見つめる）
- 第4回 ことば表現演習：「パブリック・スピーチ」
- 第5回 ことば表現演習：「文章の理解を深める」（「1%の力」鎌田實著）
- 第6回 ことば表現演習：「社会的スキルを身につけよう」
- 第7回 ことば表現演習：「トラブル・葛藤との付き合い方」
- 第8回 ことば表現演習：「7つの習慣」「マズローの欲求段階からの学び」
- 第9回 ことば表現演習：「キャッチ・フレーズづくり」
- 第10回 ことば表現演習：「友達への99の質問」
- 第11回 ことば表現演習：「紙芝居の演じ方」
- 第12回 ことば表現演習：「音読・朗読の仕方」
- 第13回 ことば表現演習：「ブレン・ストーミング」（自分と他者の意見の違い）
- 第14回 ことば表現演習：「面接のはじめのはじめ」
- 第15回 ことば表現演習：「クルーザー物語」（グループワーク）

定期試験

【授業時間外の学習】

社会生活を送るには、「自分をしっかりもった人」「自立・共生できる人」が求められています。そのためには、社会での多くの実体験が必要です。アルバイトやインターシップ、ボランティア活動だけでなく、クラブ活動、旅行、読書、映画鑑賞、美術鑑賞などを通じて、多くの友人・知人をつくって下さい。その友人・知人は将来あなたの「心豊かな財産」になるでしょう。

【成績の評価】

受講態度（約30%）、授業ふりかえり・レポート（約30%）、テスト（約40%）などで総合的に評価（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行う）。

【使用テキスト】

使用テキストなし、随時授業資料を配付（保存のこと・資料持ち込みテスト）

【参考文献】

随時提示

科目名： 情報基礎

担当教員： 山口 直木(YAMAGUCHI Naoki)

【授業の紹介】

コンピュータの内部がどうなっているのか知っている人は少ないでしょう。また、知っていたからといってものすごく得をすることも少ないでしょう。しかし、内部の構造や動作の原理を理解することは決して無駄ではありません。みなさんの周りにもパソコンで困っている人がたくさんいるはずです。そんな人にとっての救世主となることができるからです。

本講義でコンピュータの基礎理論、内部構造や動作原理を中心に講義を行い、情報科学の基礎的な知識の習得を目的としています。なお、下記の授業計画は目安であって受講生の理解度に合わせて進行状況を変えることがあります。

学位授与の方針との結びつきは、「課題に気づいて解決する力」と「学部が示す専門的知識や技能および実践的能力」と関連があります。

【到達目標】

- (1) 情報科学の基礎的知識を修得できる
 - (2) インターネットを安全に利用できる
 - (3) 情報発信の利点と問題点を説明できる
- 以上3点を目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 情報科学とは
 - 第3回 データと情報の表現
 - 第4回 データの表現（基数変換）
 - 第5回 データの表現（文字、音、画像の表現）
 - 第6回 情報の伝達とコミュニケーション
 - 第7回 ここまでのまとめと中間試験
 - 第8回 ハードウェア
 - 第9回 ソフトウェアとデータベース
 - 第10回 ネットワーク
 - 第11回 ここまでのまとめと中間試験
 - 第12回 情報システムの開発
 - 第13回 情報システムの活用
 - 第14回 セキュリティと情報倫理
 - 第15回 インターネットの安全な利用
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習・復習を行い、不明な部分は必ず質問に来るようにすること。

【成績の評価】

中間試験 4 0 %、試験 6 0 % で評価します。

フィードバックとして、
中間試験は採点・添削をし、次回以降の授業で返却します。
定期試験の返却を希望する人は教務課まで申し出てください。

【使用テキスト】

情報科学基礎 コンピュータとネットワークの基本 伊東 俊彦（著）ムイスリ出版 \ 2,300+税

【参考文献】

適宜指示する。

科目名： 情報基礎演習【発】
担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word 2013）の機能について学習し、さらにその間に「情報と社会」というテーマを挿入する形で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。

【到達目標】

1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Word 2013を対象としてワープロの主要な機能が使える。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。

【授業計画】

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、Windowsの基本操作と日本語入力 |
| 第2回 | 文書作成（1）基本操作と印刷 |
| 第3回 | 文書作成（2）表の作成 |
| 第4回 | 文書作成（3）書式の設定 |
| 第5回 | 情報と社会（1）電子メールによるコミュニケーション |
| 第6回 | 情報と社会（2）個人情報保護 |
| 第7回 | 文書作成（4）図・画像などの挿入 |
| 第8回 | 文書作成（5）アウトラインの設定 |
| 第9回 | 文書作成（6）Webブラウザとの連携 |
| 第10回 | 情報と社会（3）情報倫理・情報モラル |
| 第11回 | 情報と社会（4）知的財産権 |
| 第12回 | 文書作成（7）図の作成と編集 |
| 第13回 | 文書作成（8）縦書き、PDF変換 |
| 第14回 | 情報と社会（5）ネット犯罪 |
| 第15回 | 情報と社会（6）未来の情報化社会 |

定期試験は実施しない

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013』（実教出版，2013年）ISBN:9784407332537
テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

田中亘，できるシリーズ編集部著『できるWord 2013 Windows 8/7対応』（インプレス，2013年）ISBN:9784844333487
購入義務はありません。

科目名： 情報応用演習【発】
担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel 2013）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint 2013）の機能について学習します。また、前期に学習したワープロ（Microsoft Word 2013）を含めて、ソフトウェア間のデータ関係についても学習します。

【到達目標】

1. Microsoft Excel 2013を対象として表計算ソフトの主要な機能が使える。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft Excel PowerPointを対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能が使える。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。

【授業計画】

- | | | |
|------|----------------|-----------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、表計算（1） | 基本操作と印刷 |
| 第2回 | 表計算（2） | 表の作成と基本編集 |
| 第3回 | 表計算（3） | 表の書式設定と印刷（詳細） |
| 第4回 | 表計算（4） | 数式（1）絶対参照と相対参照、基本関数 |
| 第5回 | 表計算（5） | 数式（2）順位取得、条件判断 |
| 第6回 | 表計算（6） | 数式（3）表参照によるデータ取得、端数処理 |
| 第7回 | 表計算（7） | 数式（4）エラー回避、文字列操作 |
| 第8回 | 表計算（8） | グラフと図形 |
| 第9回 | 表計算（9） | データベース機能 |
| 第10回 | プレゼンテーション（1） | 基本操作と印刷 |
| 第11回 | プレゼンテーション（2） | 図やオブジェクトの挿入 |
| 第12回 | プレゼンテーション（3） | 図の作成と編集 |
| 第13回 | プレゼンテーション（4） | SmartArt、グラフ、表の挿入 |
| 第14回 | プレゼンテーション（5） | 特殊効果と自動実行 |
| 第15回 | プレゼンテーション（6） | ソフトウェア間のデータ関係 |

定期試験は実施しない

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013』（実教出版，2013年）ISBN:9784407332537

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

小館由典，できるシリーズ編集部著『できるExcel 2013 Windows 8/7対応』（インプレス，2013年）ISBN:9784844333494

井上香緒里，できるシリーズ編集部著『できるPowerPoint 2013 Windows 8/7対応』（インプレス，2013年）ISBN:9784844333593

購入義務はありません。

科目名： 英語 【発A】

担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

中学時代及び高校時代に学んだ、英語学習の基礎となる英文法をテキストに沿って復習しながら、例文を覚え込むことで英文に慣れ、覚えた例文を用いてペアワークでコミュニケーションを図る形態の授業を実施します。また、英語の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく配し、テキストに載っている英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりする演習も併せて行います。

受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、継続的に学ぶ姿勢が求められます。

毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用しますので、必ず持参してください。

【到達目標】

- ・英文法を復習し、英語学習の基礎を身に付けることができる。
- ・例文を暗唱することで英語に慣れ、覚えた例文を用いてコミュニケーション活動を行うことができる。
- ・まとまった英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
- ・自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 be動詞
- 第3回 一般動詞（現在）
- 第4回 一般動詞（過去）
- 第5回 進行形
- 第6回 未来形
- 第7回 助動詞
- 第8回 名詞・冠詞
- 第9回 代名詞
- 第10回 前置詞
- 第11回 形容詞
- 第12回 副詞
- 第13回 比較
- 第14回 命令文
- 第15回 感嘆文

定期試験

各回、英文読解演習も併せて行います。

【授業時間外の学習】

毎時間、次の課題を課します。

- 予習プリントを活用したテキストの予習
- 小テストのための準備

【成績の評価】

「授業への取組に対する関心・意欲・態度」10%、「授業時間外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「定期試験」60%の4項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

English Primer <Revised Edition>（南雲堂）佐藤哲三・愛甲ゆかり著

【参考文献】

なし

科目名： 英語 【発B】
担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

本授業では、中・高校で習った基礎的な文法力の定着を図るとともに、卒業後の社会において求められる英語でのコミュニケーション力の強化のために必要となる聴解力と読解力の強化に努めます。家庭では予習と復習が求められ、その確認のため毎回授業のはじめに小テストを行います。

【到達目標】

バランスの取れた英語力の習得のためには、当然のことながら文法・語法の理解は不可欠です。この授業で目指すものは、以下の三つです。

基礎的な文法を確実に理解できるようになる。
まとまった長さの英文を読んだり、聞いたりして理解できる。
実用英語技能検定試験3級に合格することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・英語の品詞について
- 第2回 be動詞・現在・過去
- 第3回 一般動詞・現在
- 第4回 一般動詞・過去
- 第5回 多様な疑問文
- 第6回 未来形
- 第7回 進行形
- 第8回 助動詞 (can, may, must)
- 第9回 助動詞 (それらの特殊用法)
- 第10回 接続詞
- 第11回 受動態 (基本的なもの)
- 第12回 受動態 (熟語となっているもの)
- 第13回 特殊な文
- 第14回 比較 (原級比較と比較級)
- 第15回 比較 (最上級と特殊のもの)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、次のことに注意して下さい。

1. 毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること
2. 提出物の準備をすること
3. 次回の授業の予習をすること

【成績の評価】

小テスト(20 %)、宿題(30 %)および 定期試験(50 %)の結果を総合的に判断して行ないます。小テストは直後に解答を解説し、また提出物は評価したものを次の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】

佐藤哲三他、基礎からの英語入門 (南雲堂)

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

科目名： 英語 【発A】

担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

英語 に引き続き、中学時代及び高校時代に学んだ、英語学習の基礎となる英文法をテキストに沿って復習しながら、例文を覚え込むことで英文に慣れ、覚えた例文を用いてペアワークでコミュニケーションを図る形態の授業を実施します。

また、英語の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく配し、テキストに載っている英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりする演習も併せて行います。

受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、継続的に学ぶ姿勢が求められます。

毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用しますので、必ず持参してください。

【到達目標】

- ・英文法を復習し、英語学習の基礎を身に付けることができる。
- ・例文を暗唱することで英語に慣れ、覚えた例文を用いてコミュニケーション活動を行うことができる。
- ・まとまった英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
- ・自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 接続詞（ ）
- 第3回 不定詞（ ）
- 第4回 動名詞（ ）
- 第5回 受動態
- 第6回 完了形
- 第7回 接続詞（ ）
- 第8回 5つの基本文型
- 第9回 各種疑問文
- 第10回 不定詞（ ）
- 第11回 Itの特別用法
- 第12回 分詞
- 第13回 動名詞（ ）
- 第14回 関係代名詞
- 第15回 仮定法

定期試験

各回、英文読解演習も併せて行います。

【授業時間外の学習】

毎時間、次の課題を課します。
読解演習用の英文の予習
小テストのための準備

【成績の評価】

「授業への取組に対する関心・意欲・態度」10%、「授業時間外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「定期試験」60%の4項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

English Primer <Revised Edition>（南雲堂）佐藤哲三・愛甲ゆかり著

【参考文献】

なし

科目名： 英語 【発B】

担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

英語 に引き続き、この授業では基礎的な文法力の定着を図るとともに、身近な話題を扱いながら、英語の4技能の運用能力を高め、将来社会人として最低限必要な英語力の涵養に努めます。また、実用英語技能検定試験やTOEICの問題にあたりながら、英語による問題解決力の向上をも目指します。

【到達目標】

1. 基本的な英文法を理解することができる。
2. 平易な英文の読解ができる。
3. 日常的な英文を聞いて、概要をつかむことができる。
4. 実用英語技能検定試験準2級に合格することができる。

【授業計画】

- | | |
|------|-----------------|
| 第1回 | オリエンテーション・前期の復習 |
| 第2回 | 文型（第1、第2、第3文型） |
| 第3回 | 文型（第4、第5文型） |
| 第4回 | 節 |
| 第5回 | 代名詞 |
| 第6回 | 動名詞 |
| 第7回 | 分詞 |
| 第8回 | 時制 |
| 第9回 | 関係代名詞（基本） |
| 第10回 | 関係代名詞（発展） |
| 第11回 | 完了形（結果、継続） |
| 第12回 | 完了形（経験） |
| 第13回 | 仮定法過去 |
| 第14回 | 仮定法過去完了 |
| 第15回 | 英語の重要構文と熟語 |
| | 定期試験 |

【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、次のことに注意して下さい。

1. 毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること
2. 提出物の準備をすること
3. 次回の授業の予習をすること

【成績の評価】

小テスト(20 %)、宿題(30 %)および 定期試験(50 %)の結果を総合的に判断して行ないます。小テストは直後に解答を解説し、また提出物は評価したものを次の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】

前期の進度により、後期に使用するテキストは、前期の最後に指示します。

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

科目名： 英語 【発A】
担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

英語 ・ で復習した基本的な文法力をもとに、2年生の前期では、実用英語技能検定試験やTOEICの受験対策を始めます。これらは、外国語活動が行われている小学校の教員を目指す者や、様々な形で英語が導入されている幼稚園や保育園で働くとする学生にとって、今後求められる資格です。さらに、基本的な日常的会話力をつけるために、クラスルームイングリッシュも暗記していただきます。

【到達目標】

日本語訳に頼らず平易な英語を直読直解することができる。
自然な速度の、短い英語を聞き、その要点を理解することができる。
英検準2級に合格することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション・TOEICの英語
第2回 Transportation and Information
第3回 Instructions and Explanations
第4回 Eating and Drinking
第5回 Business Scene
第6回 Communication
第7回 Socializing
第8回 Invitaion
第9回 Medical Treatment and Insurance
第10回 Culture
第11回 Entertainment
第12回 Shopping
第13回 Sports and Exercise
第14回 Trouble and Claims
第15回 Reading and Grammar
定期試験

【授業時間外の学習】

- ・ 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。
- ・ 次回の授業の予習をすること。
- ・ 宿題となる提出物の準備をすること。

【成績の評価】

毎時間行なう小テスト（20点）の結果、宿題の提出（30点）、定期試験（50点）の結果などを総合的に判断して行う。小テストは直後に解答を解説し、また提出物は評価したものを返却し、解説します。

【使用テキスト】

北山 長貴、Bill Benfield 著、Start-up Course for the TOEIC Test（成美堂）

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示する。

科目名： 英語 【発B】

担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

英語学習の基礎となる英文法をテキストに沿って確認しながら、例文を覚え込むことで英文に慣れ、覚えた例文を用いてペアワークでコミュニケーションを図る形態の授業を実施します。

また、英語の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく配し、テキストに載っているまとまった内容のかなり長い英文を聴いたり、読んだりして内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。

受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、継続的に学ぶ姿勢が求められます。

毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用しますので、必ず持参してください。

【到達目標】

- ・英文法を習得し、英語学習の基礎を身に付けることができる。
- ・例文を暗唱することで英語に慣れ、覚えた例文を用いてコミュニケーション活動を行うことができる。
- ・まとまったかなり長い英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
- ・自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	Unit 1 文型（1）
第3回	Unit 2 文型（2）
第4回	Unit 3 名詞
第5回	Unit 4 冠詞
第6回	Unit 5 代名詞（1）
第7回	Unit 6 代名詞（2）
第8回	Unit 7 未来形
第9回	Unit 8 進行形
第10回	Unit 9 完了形
第11回	Unit 10 助動詞（1）
第12回	Unit 11 助動詞（2）
第13回	Unit 12 態（1）
第14回	Unit 13 態（2）
第15回	総復習
	定期試験

【授業時間外の学習】

毎時間、次の課題を課します。

予習プリントを活用したテキストの予習
小テストのための準備

【成績の評価】

「授業への取組に対する関心・意欲・態度」10%、「授業時間外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「定期試験」60%の4項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

English Makeover（成美堂）

【参考文献】

なし

科目名： 英語 【発A】

担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

英語による幅広いコミュニケーション能力は、将来小学校や幼稚園の教師になるものにとって、習得が求められるスキルのひとつです。この授業では前期の授業を受け、リスニングとスピーキングの技能をさらに磨き、実用の役に立つ基礎的な能力を養う部分と、実用英語技能検定試験またはTOEIC対策を行う部分の、2本立てで行います。

【到達目標】

1. 日本語訳に頼らず平易な英語を直読直解することができる。
2. 自然な速度の短い英語の要点を、聞いて理解することができる。
3. 日常生活で使う簡単な英語を表出できる。
4. 英検2級に合格する。さらに可能ならばTOEICで400点以上のスコアをとることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・TOEFLとTOEIC
- 第2回 Entertainment
- 第3回 Personnel
- 第4回 Office Work & Supplies
- 第5回 Office Messages
- 第6回 Eating Out
- 第7回 Technology
- 第8回 Research & Merchandise Development
- 第9回 Finance & Budgets
- 第10回 Purchases
- 第11回 Manufacturing
- 第12回 Marketing & Sales
- 第13回 Travel
- 第14回 Contracts & Negotiations
- 第15回 Housing & Properties
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。
- ・次回の授業の予習をすること。
- ・宿題となる提出物の準備をすること。

【成績の評価】

毎時間行なう小テスト（20％）の結果、宿題の提出（30％）、定期試験（50％）の結果などを総合的に判断して行う。小テストは直後に解答を解説し、また提出物は評価したものを返却し、解説します。

【使用テキスト】

塚野 壽一、山本 厚子他: Successful Steps for the TOEIC Test （成美堂）

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

科目名： 英語 【発B】

担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

英語 に引き続き、英語学習の基礎となる英文法をテキストに沿って確認しながら、例文を覚え込むことで英文に慣れ、覚えた例文を用いてペアワークでコミュニケーションを図る形態の授業を実施します。

また、英語の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく配し、テキストに載っているまとまった内容のかなり長い英文を聴いたり、読んだりして内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。

受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、継続的に学ぶ姿勢が求められます。

毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用しますので、必ず持参してください。

【到達目標】

- ・英文法を習得し、英語学習の基礎を身に付けることができる。
- ・例文を暗唱することで英語に慣れ、覚えた例文を用いてコミュニケーション活動を行うことができる。
- ・まとまったかなり長い英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
- ・自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	Unit 14 不定詞（1）
第3回	Unit 15 不定詞（2）
第4回	Unit 16 分詞（1）
第5回	Unit 17 分詞（2）
第6回	Unit 18 動名詞（1）
第7回	Unit 19 動名詞（2）
第8回	Unit 20 比較（1）
第9回	Unit 21 比較（2）
第10回	Unit 22 前置詞
第11回	Unit 23 関係詞（1）
第12回	Unit 24 関係詞（2）
第13回	Unit 25 仮定法（1）
第14回	Unit 26 仮定法（2）
第15回	総復習
定期試験	

【授業時間外の学習】

毎時間、次の課題を課します。

予習プリントを活用したテキストの予習
小テストのための準備

【成績の評価】

「授業への取組に対する関心・意欲・態度」10%、「授業時間外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「定期試験」60%の4項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

English Makeover（成美堂）

【参考文献】

なし

科目名： プラクティカル・イングリッシュ 【発】

担当教員： パーキンス ガレス エドワード(Perkins Gareth Edwards)

【授業の紹介】

This course focuses on developing English communication skills and aims to have the students be able to express themselves in short conversations on familiar topics. The students will learn a great deal of common vocabulary, as well as strategies for checking understanding.

【到達目標】

After taking this course you will be able to:

- 1: introduce yourself.
- 2: discuss interests, work and home-life.
- 3: start and respond to conversations naturally.
- 4: elicit vocabulary.
- 5: gain a larger English vocabulary.
- 6: build English expressions.

【授業計画】

- 1: introduction to class and goals
- 2: introducing yourself in a informal situation
- 3: talk about hobbies and interests
- 4: practice pronouns and contractions
- 5: discuss common greetings and what is appropriate
- 6: small talk and follow up questions
- 7: midterm project workshop: email detailing their hobbies, interests and ambitions.
- 9: jobs and careers
- 10: shopping, discussing prices and tastes
- 11: music: practice using pronouns to discuss famous musicians
- 12: further practice on preferences with a focus on building a bank of descriptive adjectives
- 13: making arrangements to meet and see people
- 14: short phrases, abbreviations and natural English
- 15: course review and quiz
- final exam

【授業時間外の学習】

Students should focus on building their reading vocabulary skills outside of class and they should make a habit of reviewing what is studied in class. Homework will also occasionally be set.

【成績の評価】

In class effort: 30
project: 20 (An email from the student describing themselves and their interests.)
final exam: 50

The quality of notes taken during class counts towards In Class Effort. Because of this, students should keep the habit of taking notes in every class.

【使用テキスト】

Interchange (fourth edition) by Jack C. Richards, with Jonathan Hull and Susan Proctor
ISBN 978-1-107-64867-8

【参考文献】

www.sulantra.com

A good site for brushing up your English with options for both British and American english.

科目名： プラクティカル・イングリッシュ 【発】

担当教員： パーキンス ガレス エドワード(Perkins Gareth Edwards)

【授業の紹介】

This course will focus on communication strategies as well as build a bank of useful phrases and vocabulary. Students should be able to discuss their families and cultures as well as give simple opinions on various topics.

【到達目標】

After this course you will be able to:

1. discuss family and friends.
2. make statements about traditions, values and culture
3. develop more natural responses to questions
4. have a better understanding of verb tenses and nuance.
5. build a larger vocabulary

【授業計画】

1. Introduction and goals
 2. Family
 3. discussing family jobs and lifestyles
 4. elicit information about family and friends
 5. sports and adverbs of frequency
 6. review and quiz
 7. midterm project review and feedback
 - 8: sports and diet, correct verb collocations.
 - 9: leisure activities
 - 10: travel and tourism, recommendations
 - 11: giving directions
 - 12: manners and personal etiquette
 - 13: review and mini quiz
 14. comparatives and superlatives
 - 15: dreams and life goals
- final exam

【授業時間外の学習】

Occasional homework will be set and it is highly recommended that students review their notes in order to prepare for the final exam and class quizzes.

【成績の評価】

In Class Effort: 30%

Project: 20% (students will produce a poster or a questionnaire based on a topic that will be chose in class.

Final Exam: 50%

In class Effort means attending classes and actively participating through keeping notes, taking part in discussions and generally showing a positive attitude towards your studies.

【使用テキスト】

Interchange, Fourth Edition, Jack C. Richards, with Jonathan Hull and Susan Proctor

【参考文献】

www.sulantra.com

A good site for brushing up your English with options for both British and American english.

科目名： プラクティカル・イングリッシュ 【発】

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

This course is a continuation of Practical English I and Practical English II. Students will have to take those course as a prerequisite to this class. Students will work on basic English conversation and being able to practically use English in common everyday situations. students will learn to express themselves in English.

【到達目標】

The goal of this course is to improve on the language skills that students learned in Practical English I and Practical English II. Students should become more relaxed with using English in the classroom and in a real life situation. Topic will include daily conversation and cultural situations. Students should learn about cultures that use English, and become prepared to use English to describe their own culture.

【授業計画】

第1回 Explanation of course; Instructor introduction
第2回 Unit 1 Describing what people look like
第3回 Unit 1 Clothes and fashion singular and plural
第4回 Unit 1 Pop culture, describing famous people
第5回 Unit 2 Past experiences
第6回 Unit 2 Talking about what you "have done."
第7回 Unit 2 Talking about doing things that are interesting in town
第8回 Writing day. Writing about your hometown or area
第9回 Unit 3 Talking about your hometown
第10回 Unit 3 Describing what a place is like?
第11回 Unit 3 Famous things to do or visit
第12回 Unit 4 Aches and pains and how to treat illness
第13回 Unit 4 Medicines and their packaging
第14回 Unit 4 Giving advice to others
第15回 test review
final exam

【授業時間外の学習】

Students will occasionally be giving homework to prepare for the next lesson.

【成績の評価】

Students will get 30% of the points for their grade from participation in the class. 70% of the points will come from a short mid-term and a comprehensive final examination. students' homework will be evaluated in the Final class at test review.

【使用テキスト】

Interchange Fourth Edition Level 1 Student Book B
Author: Jack C. Richards
Publisher: Cambridge University Press
2,052yen

Students will be required to bring a Japanese to English dictionary

【参考文献】

なし

科目名： プラクティカル・イングリッシュ 【発】

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

The prerequisite for this class will be Practical English I, Practical English II and Practical English III. Students will study basic English conversation, following the outline of the textbook. They will use common every day topic and study how to communicate in English in such situations, with practical exercises in the classroom. students will learn to express themselves in English.

【到達目標】

The goal is to build students' communicative abilities in English. They should be able to communicate in basic English in everyday situations. They should be able to talk about themselves and their culture, and be able to converse about such topics in English.

【授業計画】

第1回 Explanation of course; Instructor introduction
第2回 Unit 5 Food culture and what foods are popular
第3回 Unit 5 Ordering in restaurants
第4回 Unit 5 Making plans to eat out; conversation quiz
第5回 Unit 6 Talking about different landforms
第6回 Unit 6 Comparing places
第7回 Unit 6 Giving facts about culturally significant places; conversation quiz
第8回 Writing day. Write about a famous place in Japan
第9回 Unit 7 Going out for leisure activities
第10回 Unit 7 Asking other people out
第11回 Unit 7 Making phone calls; conversation quiz
第12回 Unit 8 Future plans
第13回 Unit 8 lifestyle changes
第14回 Unit 8 parties and class reunions; conversation quiz
第15回 test review
final exam

【授業時間外の学習】

Students will sometimes be given homework in order to prepare for the next lesson

【成績の評価】

Students will get 30% of the points for their grade from participation in the class. 70% of the points will come from a short mid-term and a comprehensive final examination. students' homework will be evaluated in the Final class at test review.

【使用テキスト】

Interchange Fourth Edition Level 1 Student Book B
Author: Jack C. Richards
Publisher: Cambridge University Press
2,052yen

Students should bring a Japanese to English dictionary to class

【参考文献】

なし

科目名： フランス語

担当教員： 岡部 ベアトリス(OKABE Beatrice)

【授業の紹介】

＜英語 外国語＞確かに英語が話せると便利だと思いますが、ドイツ語や中国語、フランス語もまた世界への窓を開くと思いませんか？新しく素晴らしい発見が多くできるように授業を進めていきたいと考えています。ネイティブのフランス語教師のもとでその都度、理解度を確かめながら丁寧に無理なく、「使える」フランス語をABCから勉強していきます。基礎的な発音や短い構文からまずフランス語に親しみ、慣れてきたら単語や文法を学びながら実用的な表現や会話文を身につけます。初級的な教材（ビデオ教材を含む）を用いて、主に口頭練習を行います。

高松大学経営学部の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」では、「多様な立場の人々との確かなコミュニケーションを図る」ための能力を養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「見る・聞く・書く・話す」の総合的なフランス語能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 授業紹介(講義中での教室内のルール・決まり事など)、アルファベット
 - 第2回 フランス語の発音に親しむ、挨拶の仕方を覚える
 - 第3回 国籍を言う・第1課の本文を理解する・主語人称代名詞
 - 第4回 第1課の本文を暗記する・動詞etre (...である)の変化
 - 第5回 第一群規則動詞の変化・ロールプレイを用いて口頭練習
 - 第6回 名前や職業を言う・第2課の本文を理解する
 - 第7回 第2課の本文を暗記する・形容詞の性・数の一致
 - 第8回 フランス語の発音と綴り字の読み方・練習問題
 - 第9回 持ち物を尋ねる・第3課の本文を理解する・男性名詞、女性名詞、不定冠詞
 - 第10回 第3課の本文を暗記する・動詞avoir (...を持っている)の変化
 - 第11回 趣味を語る・第4課の本文を理解する・定冠詞
 - 第12回 第4課の本文を暗記する・疑問文の作り方、疑問詞
 - 第13回 ビデオ教材を用いて、フランス文化に親しむ(パリの歴史的建造物の紹介)・練習問題
 - 第14回 口頭試験に向けてのまとめ(様々な質問に答えを作文 口頭練習)
 - 第15回 記述試験に向けてのまとめ・総合練習問題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

教科書にはCDがついているので、会話文や練習問題を繰り返し聞くなど、復習すること。
毎授業ごとに復習の範囲を指示して、次の授業で口頭または小テストにより、確認する。

【成績の評価】

授業中、積極的に参加しているかどうか、書き込み式教科書・ノートやプリントに丁寧に書いているか、評価します。

学期末口頭試験	20%
学期末記述試験	60%

総合合格点は60点以上です。

【使用テキスト】

藤田祐二『Pascal au Japon (パスカル オ ジャポン)』(白水社)

【参考文献】

特になし

科目名： フランス語

担当教員： 岡部 ベアトリス(OKABE Beatrice)

【授業の紹介】

フランス語で身につけた知識をベースに、コミュニケーションの場で使える「生」のフランス語の習得を目指します。初回から積極的に授業に参加し、学習に取り組まれることを期待しています。既習事項を確かめながら、暗記や応用練習を通じて最小限の構文・文法の法則を理解する中で、少しずつ自分についての表現もできるようになります。「体験の場」という意識のもとで授業に臨んでほしいです。

高松大学経営学部の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」では、「多様な立場の人々との確かなコミュニケーションを図る」ための能力を養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「見る・聞く・書く・話す」の総合的なフランス語能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 フランス語の復習、ロールプレイを用いて口頭練習
 - 第2回 第5課の本文を理解する・＜誰ですか＞を尋ねる・非人称構文：il y a ... (...がある)
 - 第3回 第5課の本文を暗記する・否定文の作り方
 - 第4回 疑問代名詞qui（誰）、練習問題
 - 第5回 第6課の本文を理解する・＜したいこと＞を尋ねる・前置詞と定冠詞の縮約
 - 第6回 指示形容詞・否定疑問文の応答、練習問題
 - 第7回 第6課の本文を暗記する・動詞vouloirとpouvoir（したい、できる）の変化
 - 第8回 第7課の本文を理解する・＜住んでいる場所＞を言う・人称代名詞の強勢形
 - 第9回 第7課の本文を暗記する・所有形容詞
 - 第10回 第8課の本文を理解する・＜何をしているか＞を尋ねる・動詞faire（～をする）の変化
 - 第11回 第8課の本文を暗記する・疑問代名詞que（何）
 - 第12回 場所を表す前置詞、フランスの習慣に親しむ（パリの公園など）（ビデオ教材）、練習問題
 - 第13回 第9課の本文を理解する・＜家族を語る＞・否定文における冠詞の変形
 - 第14回 口頭試験に向けてのまとめ（様々な質問に答えを作文 口頭練習）
 - 第15回 記述試験に向けてのまとめ・総合練習問題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

教科書にはCDがついているので、会話文や練習問題を繰り返し聞くなど、復習すること。
毎授業ごとに復習の範囲を指示して、次の授業で口頭または小テストにより、確認する。

【成績の評価】

授業中、積極的に参加しているかどうか、書き込み式教科書・ノートやプリントに丁寧に書いているか、評価します。

学期末口頭試験	20%
学期末記述試験	60%

総合合格点は60点以上です。

【使用テキスト】

藤田祐二『Pascal au Japon（パスカル オ ジャポン）』（白水社）

【参考文献】

特になし

科目名： フランス語

担当教員： 岡部 ベアトリス(OKABE Beatrice)

【授業の紹介】

フランス語、で身につけた知識をベースに、引き続きコミュニケーションの場で使える「生」のフランス語の習得を目指します。積極的に授業に参加し、学習に取り組まれることを期待します。教科書において各課の構成は基本的に会話文・文法事項・練習問題となっています。既習事項を確かめながら、会話文の暗記や応用練習を通じて最小限の構文・文法の法則を理解する中で、少しずつ自分についての表現もできるようにします。「体験の場」という意識のもとで授業に臨んでほしいです。

高松大学経営学部の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」では、「多様な立場の人々との確かなコミュニケーションを図る」ための能力を養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「見る・聞く・書く・話す」の総合的なフランス語能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 フランス語 の復習、ロールプレイを用いて口頭練習
 - 第2回 第9課の本文の単語を確認する・発音練習・女性形容詞の特殊な形
 - 第3回 第9課の本文を暗記する・新しい単語：家族、練習問題
 - 第4回 第10課の本文を理解する・＜年齢を言う＞、数字（1～30）
 - 第5回 数字（復習）、数字と...オヤユーロ...を合わせた表現・第10課の本文を暗記する
 - 第6回 疑問副詞（いつ、どこ、なぜ、など）と応答、練習問題
 - 第7回 第11課の本文を理解する・＜時刻を言う＞・日常的な時刻の言い方
 - 第8回 動詞finirと partir（終える、出発する）の変化、時の前置詞
 - 第9回 第11課の本文を暗記する、練習問題
 - 第10回 第12課の本文を理解する・＜人を紹介する＞・補語人称代名詞・指示代名詞
 - 第11回 第12課の本文を暗記する・動詞attendre（待つ）、練習問題
 - 第12回 第13課の本文を理解する・＜日常生活の表現＞・代名動詞
 - 第13回 第13課の本文を暗記する・近接未来と近接過去、練習問題
 - 第14回 口頭試験に向けてのまとめ（様々な質問に答えを作文 口頭練習）
 - 第15回 記述試験に向けてのまとめ・総合練習問題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

教科書にはCDがついているので、会話文や練習問題を繰り返し聞きなど、復習すること。
毎授業ごとに復習の範囲を指示して、次の授業で口頭または小テストにより、確認する。

【成績の評価】

授業中、積極的に参加しているかどうか、書き込み式教科書・ノートやプリントに丁寧に書いているか、評価します。

学期末口頭試験	20%
学期末記述試験	60%

総合合格点は60点以上です。

【使用テキスト】

藤田祐二『Pascal au Japon（パスカル オ ジャポン）』（白水社）

【参考文献】

特になし

科目名： フランス語

担当教員： 岡部 ベアトリス(OKABE Beatrice)

【授業の紹介】

フランス語、で身につけた知識をベースに、引き続きコミュニケーションの場で使える、より高度な「生」のフランス語の習得を目指します。積極的に授業に参加し、学習に取り組まれることを期待します。教科書において各課の構成は基本的に会話文・文法事項・練習問題となっています。様々なシチュエーションにおいて、手持ちの知識と想像力をフル稼働させて会話相手を理解したり、自分を表現できるように会話演習を反復して行います。「体験の場」という意識のもとで授業に臨んでほしいです。

高松大学経営学部の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」では、「多様な立場の人々との確かなコミュニケーションを図る」ための能力を養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「見る・聞く・書く・話す」の総合的なフランス語能力を身につける。フランス語、で習得した能力をさらに伸ばし、より高度なフランス語コミュニケーション能力を身に付ける。

【授業計画】

- 第1回 フランス語 の復習、ロールプレイを用いて口頭練習
 - 第2回 第14課の本文を理解する・＜ワインを飲んでいますか？＞・量を表す表現：部分冠詞
 - 第3回 中性代名詞en・第14課の本文を暗記する・動詞boire（飲む）の変化、練習問題
 - 第4回 第15課の本文を理解する・＜天候を言う＞、天候の様々な表現
 - 第5回 命令形・中性代名詞y・動詞voir（見る）の変化
 - 第6回 第15課の本文を暗記する、練習問題
 - 第7回 第16課の本文を理解する・＜お台場にて、自由の女神を眺めて＞・比較する
 - 第8回 比較級（優等／同等／劣等）、練習問題
 - 第9回 指示代名詞celui 他・第16課の本文を暗記する、練習問題
 - 第10回 第17課の本文を理解する・＜過去のことを語る＞・複合過去形
 - 第11回 複合過去形（復習）、練習問題・第17課の本文を暗記する
 - 第12回 第18課の本文を理解する・＜未来のことを語る＞・単純未来形
 - 第13回 単純未来形（復習）、練習問題・第18課の本文を暗記する
 - 第14回 口頭試験に向けてのまとめ（様々な質問に答えを作文 口頭練習）
 - 第15回 記述試験に向けてのまとめ・総合練習問題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎授業ごとに復習の範囲を指示して、次の授業で口頭または小テストにより、確認する。

【成績の評価】

授業中、積極的に参加しているかどうか、書き込み式教科書・ノートやプリントに丁寧に書いているか、評価します。

学期末口頭試験	20%
学期末記述試験	60%

総合合格点は60点以上です。

【使用テキスト】

藤田祐二『Pascal au Japon（パスカル オ ジャポン）』（白水社）

【参考文献】

特になし

科目名： 中国語

担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業では、中国語を話すや読むための発音記号（ピンイン）や中国語の基本文型を学習し、そのうえ、漢字を読み、単語を覚え、簡単な会話や挨拶を練習していきます。発音の練習は通信媒体の機能を利用して楽しく学習していきます。また、中国社会や中国文化についても紹介し、グローバルな思考を養います。

また、上記の述べた講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養うという学位授与の方針に関する知識、技法を修得する。

【到達目標】

- 1．中国語の発音記号（ピンイン）を学習することによって中国語の漢字をすべて読むことができます。
- 2．中国語での挨拶や簡単な会話ができるようになります。
- 3．中国語基本文型の構造が理解できます。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと単母音
- 第2回 子音 b p m f、d t n l と複合母音
- 第3回 子音 g k h、j q x と複合母音
- 第4回 子音、鼻音
- 第5回 ピンインの小テスト
- 第6回 名前の言い方
- 第7回 簡単な挨拶
- 第8回 「是」の使い方
- 第9回 形容詞述語文
- 第10回 中間テスト
- 第11回 「的」の使い方・指示代名詞
- 第12回 動詞述語
- 第13回 疑問文のタイプ
- 第14回 数字の言い方
- 第15回 お金の言い方
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業内容の復習と中国文化や習慣などについて調べたりします。

【成績の評価】

会話文作成（25％）、小テスト（25％）、期末テスト（50％）
会話文作成や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 『新版 1年生のコミュニケーション中国語』（白水社、2014年）

【参考文献】

『中日・日中辞典』
自編教材『ピンイン書き込み練習帳』

科目名： 中国語
担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業は、中国語 を学習した学生を対象にさらに語彙を増やし、基本文型を学習し、それを使って会話をしたり、中国語の文章を読んだり、書いたりします。
また、上記の述べた講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養うという学位授与の方針に関する知識、技法を修得する。

【到達目標】

- 1 簡単な会話ができるようになります。
- 2 簡単な中国語を読める・書けるようになります。

【授業計画】

- 第1回 前置詞「在」、
- 第2回 存在する動詞「有」
- 第3回 時間量詞の学習
- 第4回 存在の表現
- 第5回 過去形
- 第6回 選択疑問文
- 第7回 中間テスト
- 第8回 現在進行形
- 第9回 「会」、「能」の使い方
- 第10回 助動詞「可以」
- 第11回 動詞の重ね型
- 第12回 「是・・・的」の使い方
- 第13回 過去の経験を現す「过」
- 第14回 連動型
- 第15回 復習
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業内容の復習
簡単な中国語文章の読解練習

【成績の評価】

作文（25%）、小テスト（25%）、期末テスト（50%）
作文や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 『新版1年生のコミュニケーション中国語』（白水社、2014年）

【参考文献】

『中日・日中辞典』

科目名： 中国語
担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業は、中国語・ を学習した学生を対象に、さらに語彙や文型を学習し、1つの場面を決め、それにめぐる内容で話す・書く練習をします。
また、上記の述べた講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養うという学位授与の方針に関する知識、技法を修得する。

【到達目標】

- 1 いくつかの日常生活場面の会話ができるようになります。
- 2 生活場面の会話内容を中国語で書けるようになります。

【授業計画】

第1回～第2回 北京に到着する
第3回～第4回 道を尋ねる会話
第5回～第6回 買い物する会話
第7回～第8回 バスに乗る会話
第9回～第10回 新しい友達と知り合う
第11回～第12回 レストランでの表現
第13回～第14回 約束する
第15回 復習
定期試験

【授業時間外の学習】

生活場面の会話内容に関する単語の予習
中文の読解

【成績の評価】

作文や中文の読解（25％）、小テスト（25％）、期末テスト（50％）
作文や中文の読解、小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 『新版2年生のコミュニケーション中国語』（白水社、2014年）

【参考文献】

『中日・日中辞典』

科目名： 中国語
担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業は、中国語・・・を習得した学生を対象にします。中国へ一人旅するときに遭遇する場面
を想定し、その会話の練習をします。また、その会話文を文章にする練習もします。さらに、中国文化や
最近の出来事などをも紹介する。

上記の述べた講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養うという学位授与の方針
に関する知識、技法を修得する。紹介します。

【到達目標】

中国へ一人旅できる程度の会話ができるようになります。

【授業計画】

第1回～第2回 友達に電話を掛ける練習
第3回～第4回 郵便局での会話
第5回～第6回 病院での会話
第7回～第8回 家庭訪問の会話
第9回 中間テスト
第10回～第11回 お礼を言う時の会話
第12回～第13回 パーティーを開く
第14回 知り合う時の表現
第15回 復習
定期試験

【授業時間外の学習】

中文の読解と中国文化などについてのレポート

【成績の評価】

中文の読解・レポート（25%）、小テスト（25%）、期末テスト（50%）
中文の読解・レポートや小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う
。

【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 『新版2年生のコミュニケーション中国語』（白水社、2014年）

【参考文献】

『中日・日中辞典』
自編教材『中国語会話 初級から中級へ』

科目名： 日本語

担当教員： 稲井 富赴代(INAI Tokiyo)

【授業の紹介】

本講義は、外国人留学生が大学で学ぶために必要な「読む」「書く」「話す」能力を、中級レベルから中上級レベルに引き上げることがめざします。留学生が十分興味を抱けるようなテーマで各課を統一し、文法・文型練習を取り入れた本文の精読練習、本文の要旨を短くまとめる練習、テーマに関して自分の意見を述べる練習、本文中の書き言葉を使った作文練習等を通して、中上級レベルの日本語能力を養成します。また、別冊「ことばの練習張」を使って、漢字・語彙練習も行います。これにより、学位授与の方針のうち、「豊かな人間性や主体的に生きる力」、「課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」の修得をめざします。

【到達目標】

中上級レベルの文章を正確に理解できる。
中上級レベルの漢字・語彙が使える。
本文の要旨を短くまとめることができる。
テーマに沿って自分の意見を述べられる。

【授業計画】

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	第 1 課まなぶ「なぞなぞ」
第 3 回	第 2 課みつける「花の名前」
第 4 回	第 3 課たべる「ごちそう」
第 5 回	第 1 課～第 3 課の復習
第 6 回	第 4 課たとえる「猫に小判」
第 7 回	第 5 課あきれる「満員電車」
第 8 回	第 6 課つたえる「思いやり」
第 9 回	第 4 課～第 6 課の復習
第 10 回	第 7 課かざる「名刺」
第 11 回	第 8 課おもいこむ「男の色・女の色」
第 12 回	第 9 課まもる「見えない相手」
第 13 回	第 10 課なれる「腕時計」
第 14 回	第 7 課～第 10 課の復習
第 15 回	授業のまとめ（第 1 課～第 10 課の復習及び理解度の確認）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業の終わりに次回授業の範囲を提示するので、必ずテキストの本文の音読と、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくる。また、各課の終わりに小テストを実施するので、必ず復習を行うこと。

【成績の評価】

授業態度（ 30 % ）、小テスト・レポート（ 30 % ）、期末試験（ 40 % ）
小テスト、レポート等は添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

松田浩志ほか著『テーマ別 中級から学ぶ日本語 三訂版』（KENKYUSHA）

【参考文献】

松田浩志監修『テーマ別 中級から学ぶ日本語の漢字・語彙練習』（KENKYUSHA）
松田浩志ほか著『テーマ別 中級から学ぶ日本語 ワークブック 三訂版』（KENKYUSHA）

科目名： 日本語

担当教員： 稲井 富赴代(INAI Tokiyo)

【授業の紹介】

本講義は、「日本語」に引き続き、外国人留学生が大学で学ぶために必要な「読む」「書く」「話す」能力を、中級レベルから中上級レベルに引き上げることがめざします。留学生が十分興味を抱けるようなテーマで各課を統一し、文法・文型練習を取り入れた本文の精読練習、本文の要旨を短くまとめる練習、テーマに関して自分の意見を述べる練習、本文中の書き言葉を使った作文練習等を通して、中上級レベルの日本語能力を養成します。また、別冊「ことばの練習帳」を使って、漢字・語彙練習も行います。これにより、学位授与の方針のうち、「豊かな人間性や主体的に生きる力」、「課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」の修得をめざします。

【到達目標】

中上級レベルの文章を正確に理解できる。
中上級レベルの漢字・語彙が使える。
本文の要旨を短くまとめることができる。
テーマに沿って自分の意見を述べられる。

【授業計画】

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	第11課つながる「タテとヨコ」
第 3 回	第12課わける「A B O A B」
第 4 回	第13課おもいだす「昼のにおい」
第 5 回	第11課～第13課の復習
第 6 回	第14課みなおす「てるてるぼうず」
第 7 回	第15課ふれあう「旅行かばん」
第 8 回	第16課うたう「歌の力」
第 9 回	第14課～第16課の復習
第10回	第17課なおす「命」
第11回	第18課はなれる「ふるさと」
第12回	第19課かなえる「ふたつの夢」
第13回	第20課おぼえる「ものづくり」
第14回	第17課～第20課の復習
第15回	授業のまとめ（第11課～第20課の復習及び理解度の確認）

期末試験

【授業時間外の学習】

授業の終わりに次回授業の範囲を提示するので、必ずテキストの本文の音読と、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくる。また、各課の終わりに小テストを実施するので、必ず復習を行うこと。

【成績の評価】

授業態度（ 30 % ）、小テスト・レポート（ 30 % ）、期末試験（ 40 % ）
小テスト、レポート等は添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

松田浩志ほか著『テーマ別 中級から学ぶ日本語 三訂版』（KENKYUSHA）

【参考文献】

松田浩志監修『テーマ別 中級から学ぶ日本語の漢字・語彙練習』（KENKYUSHA）
松田浩志ほか著『テーマ別 中級から学ぶ日本語 ワークブック 三訂版』（KENKYUSHA）

科目名： 日本語

担当教員： 稲井 富赴代(INAI Tokiyo)

【授業の紹介】

本講義は、外国人留学生の日本語能力を、中級レベルから上級レベルに引き上げることを目的としています。日本人学生は受講することができません。日本社会の現状を反映した読み物を使って、「読む」「聴く」「書く」「話す」能力を総合的に伸ばしていきます。中級から上級へ到達するには、語彙力のアップ、文型の正確な使用や状況に応じた運用が求められます。そのため、ワークブックを併用し、豊富な問題練習によって、重要表現や語彙、漢字の理解・定着を図ります。さらに、学んだ語彙や重要表現を用いて、テキストの内容に即した話題で、自分の考えを自由に発信するタスク練習を行います。「読む」「聴く」「書く」「話す」を統合させたクラス活動を通して、運用能力を高めていきます。これにより、学位授与の方針のうち、「豊かな人間性や主体的に生きる力」、「課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」の修得をめざします。

【到達目標】

自分の考えを正確な日本語で表現できる。
上級レベルの表現や文法・語彙を使える。
複雑なコミュニケーションが行える。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回～第4回	ユニット1「自己紹介と本当の自分」 本文：「自分とは何だろう」 重要表現：～（の）ではないでしょうか／～ことを「……」と言う／～ばかりで／このように見えてみると（考えると）～ということになる／～ば～ほど／例えば～とする／～場合もある／～と、なおさら…… タスク：エントリーシートを書く
第5回～第7回	ユニット2「若者の自己評価」 本文：「日米の大学生のコミュニケーション・スタイル」 重要表現：～に関するN／～に関して／～なりに／～なりのN／～ごとに／～まで／めったに～ない／いったい～の（だろう）か／～にすぎない／～はずがない／～わけではない タスク：ロールプレイ「人物を紹介する」
第8回～第10回	ユニット3「ジェンダーを考える」 本文：「男の料理 市民権」 重要表現：～限り／～うえ（に）／～といったふうに／～というふうに／～（の）代わりに／～うえで／どちらかといえば（どちらかという）／～ってことは……ってこと／～ということとは……ということ／～も～もない タスク：グラフを説明する
第11回～第13回	ユニット4「ことばと文化」 本文：「日本人は『ノー』と言わない？」 重要表現：～ようなものだ／～（よ）うものなら／～かねない／～ものの／なんと／いっても／とても～ない（ぬ）／～をめくり（めぐって）／～に反して／～からといって／～にとって／～にとってのN タスク：メール「先生にお願いをする」
第14回～第15回	ユニット5「心と体のバランス」 本文：「健康病が心身をむしばむ」 重要表現：～と（いうの）は……ことを言う（ことだ）／と言っても／～度に／そも／そも／～ふしがある／～べきだ（～べきではない）／いかにも～そうだ／～という／～つつ／～かける／～かけのN／～に…を感じさせられる（考えさせられる）／さらには タスク：アンケート「日本事情について調査する」
定期試験	

【授業時間外の学習】

授業の終わりに次回授業の範囲を提示するので、必ずテキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくる。また、各課の初めと終わりに小テストを実施するので、必ず予習・復習を行うこと。

【成績の評価】

授業態度（30％）、小テスト・レポート（30％）、期末試験（40％）
小テスト、レポート等は添削して授業時に返却する。
遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

鎌田修・ボイクマン総子・富山佳子・山本真知子著『生きた素材で学ぶ 新・中級から上級への日本語』（ジャパントイムズ）、3,200円+税

【参考文献】

鎌田修監修、奥野由紀子・金庭久美子・山森理恵著『生きた素材で学ぶ 新・中級から上級への日本語ワークブック』（ジャパントイムズ）、1,800円+税

科目名： 日本語

担当教員： 稲井 富赴代(INAI Tokiyo)

【授業の紹介】

本講義は、「日本語」に引き続き、外国人留学生の日本語能力を、中級レベルから上級レベルに引き上げることを目的としています。日本人学生は受講することができません。日本社会の現状を反映した読み物を使って、「読む」「聴く」「書く」「話す」能力を総合的に伸ばしていきます。中級から上級へ到達するには、語彙力のアップ、文型の正確な使用や状況に応じた運用が求められます。そのため、ワークブックを併用し、豊富な問題練習によって、重要表現や語彙、漢字の理解・定着を図ります。さらに、学んだ語彙や重要表現を用いて、テキストの内容に即した話題で、自分の考えを自由に発信するタスク練習を行います。「読む」「聴く」「書く」「話す」を統合させたクラス活動を通して、運用能力を高めていきます。これにより、学位授与の方針のうち、「豊かな人間性や主体的に生きる力」、「課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」の修得をめざします。

【到達目標】

自分の考えを正確な日本語で表現できる。
上級レベルの表現や文法・語彙を使える。
複雑なコミュニケーションが行える。

【授業計画】

- 第1回～第3回 ユニット6「働くということ」
本文：「『驚き』や『喜び』を食べて育つ」
重要表現：つまり／結果として／～につれ（て）／～末に／～からこそ（てこそ）／～として／ここ＋[期間]／～なんか／いかに～か／なぜなら（ば）～からだ
タスク：インタビュー「企業で働くOBや社員にインタビューする」
- 第4回～第6回 ユニット7「日本語の多様性」
本文：「『越境』が広げる言葉の可能性 外国人作家が書く日本文学」
重要表現：～がち／～による／XもあればYもある／XもいればYもいる／それに対して／～のに対して／～（か）が問題ではなく、……（か）が重要だ／～ざるを得ない
タスク：ロールプレイ「相手に応じた言い方で依頼する」
- 第7回～第9回 ユニット8「環境のためにできること」本文：「暮らしの無駄、自覚」
重要表現：～とすれば／～にとどまる／～割に／～に従って／A（が）、逆にB／～一方（で）／～に限られる（限る）
タスク：ディスカッション「論理的に意見を述べる」
- 第10回～第12回 ユニット9「食の共同性」
本文：「新しい食の共同性を求めて」
重要表現：～ほど…はない（いない）／～を通して／～（が）ゆえに／しかも／～に向けて
タスク：スライド作成「発表内容をスライドにまとめる」
- 第13回～第15回 ユニット10「笑いのちから」
本文：「笑いの効能」
重要表現：～をはじめとするN／～をはじめとして／いまだ／～にて／～を込める（～が込められる）／～ねば
タスク：発表「スライドを見せながら発表する」

定期試験

【授業時間外の学習】

授業の終わりに次回授業の範囲を提示するので、必ずテキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をしておくこと。また、各課の初めと終わりに小テストを実施するので、必ず予習・復習を行うこと。

【成績の評価】

授業態度（30％）、小テスト・レポート（30％）、期末試験（40％）
小テスト、レポート等は添削して授業時に返却する。
遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

鎌田修・ボイクマン総子・富山佳子・山本真知子著『生きた素材で学ぶ 新・中級から上級への日本語』（ジャパントイムズ）、3,200円+税

【参考文献】

鎌田修監修、奥野由紀子・金庭久美子・山森理恵著『生きた素材で学ぶ 新・中級から上級への日本語ワークブック』（ジャパントイムズ）、1,800円+税

科目名： マスメディアと社会
担当教員： 山下 淳二(YAMASHITA Junji)

【授業の紹介】

ネット社会の進展につれ変貌するマスコミュニケーションの実相を新聞を中心としたオールドメディアの側から明らかにし、現代社会において望ましいマスメディアの在り方、市民との関係について学ぶ。情報はどのようにとらえられ、加工され、送られるのか。40年を超える新聞づくりの経験を生かしながら、送り手側の問題点、受け手側の課題を探る。その中で得られるメディア・リテラシーは、自ら考え、判断し、行動する力の基礎となるだろう。言葉を換えれば、「情報化社会を知的に生きる基礎」と言え、豊かな人間性を培い、幅広い教養を養うという学位授与方針に沿う授業であることは論を俟たない。

【到達目標】

情報を読むことは単に字面を追うことではない。

1. 毎回の授業の冒頭は、最新のニュースを題材に、読み方を議論しながら情報を鵜呑みにしない視点を磨くことができる。
2. 情報を主体的に読み解く力、メディア・リテラシーの獲得をめざす。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 マスメディアの興亡（歴史）
 - 第3回 ネット社会のマスメディア（現状）
 - 第4回 ニュースとは何か
 - 第5回 ニュースの価値判断
 - 第6回 報道と人権（概論）
 - 第7回 報道と人権（えん罪の構造）
 - 第8回 知る権利と報道の自由
 - 第9回 取材源の秘匿と報道倫理
 - 第10回 マスメディアの構造的問題（記者クラブ）
 - 第11回 マスメディアの構造的問題（新聞の宅配制度と特殊指定）
 - 第12回 マスメディアの構造的問題（クライアントとの距離感）
 - 第13回 マスメディアの構造的問題（クロス・オーナー・シップ）
 - 第14回 メディア・リテラシー
 - 第15回 これまでの講義のまとめ及び質疑応答
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

1週間のうち1本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをレポートする。授業への疑問、提案も可。メディア・リテラシーの実践である。

【成績の評価】

この1週間の出来事の中から、テーマを選び毎週提出するミニ・レポートは、独自の視点を養い、情報の偏りの有無などを発見する作業。

毎授業の初めに、前週のレポートの主な評価をコメント付きで発表し、全員で考える材料とする。

（50％）

最後に、統一のテーマを設定して締めくくりのレポート提出を求める。（50％）

【使用テキスト】

使用なし

【参考文献】

日々の新聞、雑誌など

科目名： 比較文化

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

人間は常に環境条件と結びつきながら存在し、自己意識は他者との係わり合いのなかで形成されていく。他者を知り、また異文化を理解することを通して、自らと自らの文化を改めて把握し、認識を深めることが可能となる。

急速な国際化の進む現代において、あらゆる地域の価値観や習慣と係わり合う機会が増加し、齟齬のないコミュニケーションを目指すには異文化に対するより深い理解が必要となってくる。

この授業では、日本の地域を含む世界中の文化を多角的な観点から比較し、自己を再認識した上で相互理解によるコミュニケーション能力と豊かな人間性を培うことを目指します。

また、適宜グループワークを取り入れ、与えられたテーマについて研究、発表、討論を行うことにより複数人での学習プロセスを体得する。

【到達目標】

1. 授業で取り扱ったテーマのうち、2つ以上について具体的に解説することができる。
2. 調査したテーマについて正確に1500字程度で書き表すことができる。
3. 文化を比較することによって自分が感じたこと、主張について分かりやすく述べることができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション、比較文化とは、グループワーク担当分担

第2回：ヨーロッパの日常（ひと）

第3回：ヨーロッパの日常（暮らし）

第4回：衣の比較（自国庶民の昔と今）

第5回：衣の比較（他国庶民の昔と今）

第6回：食の比較（自国、地域別特色）

第7回：食の比較（他国庶民の食卓）

第8回：住の比較（温暖地域）

第9回：住の比較（寒冷地域）

第10回：タブーの比較（自国、社会人として知っておくべきこと他）

第11回：タブーの比較（他国、国際人として知っておくべきこと他）

第12回：ジェスチャー、表現の比較

第13回：性、恋愛事情の比較

第14回：日常生活における芸術との係わり方の比較

第15回：日常生活における宗教との係わり方の比較

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

日頃より異文化を観察し、気になったことを書き留めておく。

そのテーマに関して、異文化の「なぜ」を調査するのはもちろんのこと、それではなぜ自己（自文化）のパターンが形成されたのかも考えてみる。

（調査においては複数のソースを確認してから、考察する。）

【成績の評価】

レポート（50%）、グループ発表（30%）、小テスト（20%）

小テスト、レポートは添削して授業時に返却する。

グループ発表の評価は最終授業時に伝える。

【使用テキスト】

なし。

【参考文献】

「比較文化のおもしろさ」金山宣夫著、大修館書店

全学共通科目：健康とスポーツ科目

科目	掲載ページ
健康とスポーツ	56
健康とスポーツ実習【発】	57

科目名： 健康とスポーツ

担当教員： 宮本 賢作(MIYAMOTO Kensaku)

【授業の紹介】

成長期から成人期に移行するこの時期に、正しいヘルスリテラシーを身につけるとともに、今後起こりうる健康問題について理解することで、その予防としての運動、食事、休養の重要性と、それをサポートする社会的なシステムについて理解する。またこれらを主体的かつ科学的に捉え、行動変容を意識した実践力と、その基盤となるエビデンスに基づいた健康づくりについて考察する。

【到達目標】

健康な生活を営む上で必要な基礎知識の理解を深める。

ヒトの生涯のさまざまな場面で生じる疾病の予防および健康の維持と生体機能の関係について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・健康（及び疾病）の概念とヘルスプロモーション
 - 第2回 健康を取り巻く環境についての理解
 - 第3回 健康情報とヘルスリテラシー
 - 第4回 幼少期～成長期の健康問題
 - 第5回 成人期～高齢期の健康問題
 - 第6回 死生観と生命倫理
 - 第7回 健康と運動・労働
 - 第8回 健康と食事・栄養
 - 第9回 健康と休養・睡眠
 - 第10回 喫煙、飲酒、薬物乱用、メディアリテラシーと健康
 - 第11回 運動の科学と健康
 - 第12回 体力の評価と分析
 - 第13回 エビデンスに基づいた医療と健康づくり
 - 第14回 持続可能な健康づくり
 - 第15回 まとめ（生涯にわたる健康増進とスポーツライフの継続を目指して）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい。

【成績の評価】

成績の評価は学期末試験（60％）、レポート・出席確認のためのミニテスト（30％）、学習態度（10％）によって行い、総計60％以上を合格とします。なお、レポートについては講評や添削を行い返却（フィードバック）します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

適宜資料を配付する。

科目名： 健康とスポーツ実習【発】

担当教員： 宇野 博武(UNO Hiromu)

【授業の紹介】

本実習では、みなさんが生涯各ライフステージにおいてQOLを豊かにし、楽しむことのできるスポーツを実践します。具体的には、ネット型スポーツ、ゴール型スポーツの2分野を実施し、各競技の基本的技術を身につけるとともに、仲間と協力し自ら進んで行動する力を養うことを目的とします。ただし、季節や天候によって実施種目を変更することがあります。なお、本実習では、学籍番号順に前期と後期の履修者を決定することとします。

【到達目標】

- 1．スポーツを通し、自立的に自己の体力向上や健康の維持と増進ができるようさまざまな運動の行い方を習得し、生涯スポーツの実践力を身につける。
- 2．スポーツを楽しむ上で、社会人として生涯スポーツに臨む態度を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 スポーツの歴史とスポーツ文化
- 第3回～第6回 ネット型スポーツ（バドミントン・卓球・バレーなど）
- 第7回～第10回 ゴール型スポーツ（バスケットボール・サッカー・フットサルなど）
- 第11回～第14回 ネット型スポーツ（バドミントン・卓球・バレーなど）
- 第15回 上記実技種目の総まとめ（上記実技種目の戦術およびルール、技術の復習）

【授業時間外の学習】

スポーツ中継や新聞、雑誌等を見てスポーツに対して興味・関心を持ち、ルールを覚える。インターネットを参照して実習実施種目の技術や面白さを味わえるようにすること。

【成績の評価】

各種目技能習得状況、授業態度等を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【使用テキスト】

使用しません

【参考文献】

中村敏雄著『スポーツとは何か』（ポプラ・ブックス，1982年）

専門科目：子育て支援に関する基礎科目

科目	掲載ページ
児童学研究法	59
教育学原論	60
教育制度論	61
教師論	62
保育課程総論	63
教育課程論	65
保育原理 I	66
家庭支援論	67

科目名： 児童学研究法

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育者・保育者になること。それは、あなた方にとって目標かもしれませんがゴールではありません。現場に出れば、日々子どもたちとのふれあいの中で様々な発見をするとともに、つまり、思い悩むことの連続でしょう。そして、それらを乗り越えながら、教育者・保育者は子どもとともに成長するのです。教育者・保育者になった後の研究態度は、その意味で重要です。

この授業では、皆さんの学ぶ力を育てたいと考えています。そして、学修を通じて、学部のポリシーに掲げる「教育・保育に関する研究の能力を涵養」「子どもの成長・発達を究明」する力を養います。

【到達目標】

- ・自主的な学習態度を形成し、問題発見能力を開発するとともに問題をとらえる視点の多様性を理解することができる。
- ・実際に教育・保育に関する各種のレポートを作成したり、調査研究の演習・発表・討議を通じて、文献資料の収集方法（図書館の利用方法を含む）の習得、読解力と文章構成力を高め、保育者にとって必要な発表や討論の方法を習得することができる。
- ・演習を通して、学生と教員、あるいは学生同士の自由な語り合いの下地を作り、本学の特色であるゼミ活動における教育研究をより一層効果的に実現することができる。
- ・将来、教育者・保育者に求められる自己研修能力の基盤を形成することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 レポートの作成(1)
 - 第3回 レポートの作成(2)
 - 第4回 研究進め方
 - 第5回 マスコミ情報の批判的検討
 - 第6回 研究の方向性の決定
 - 第7回 研究の方向性の確定
 - 第8回 研究の進展(1)
 - 第9回 中間発表レジュメの検討
 - 第10回 中間発表レジュメの完成
 - 第11回 研究中間発表
 - 第12回 発表レジュメの再検討(1)
 - 第13回 研究成果発表会レジュメの完成
 - 第14回 研究成果発表会
 - 第15回 研究の振り返りと全体のまとめ
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ毎に、授業時に必要な資料の準備、また、授業後における学習内容の振り返り・整理が必要となります。また、研究成果発表会に向けての準備など、授業時間外での学習を指導します。

【成績の評価】

出席カードへのコメント(約30%)、レポート及び研究室単位の研究結果(約50%)、発表及び質疑での答弁等(約20%)を総合的に評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、最後の授業時に以後の学びへの継続についてフィードバックします。

【使用テキスト】

基礎演習で使用する発達科学部オリジナルテキスト「しるべ」を使用します。

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： 教育学原論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育学原論は、教育職員免許法施行規則に定める教育の基礎理論（教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想）を学ぶ科目です。こういうとなんだか難しそうに聞こえるでしょうか？でも、家庭・学校・社会とあなたが生活をするどのような場でも教育はあなたに深く関わりのあるもので、とてもなじみの深いものでもありますね。この科目では、教育学を身近に感じてもらえるように教育学を概括的に学びます。

この科目は、学部のポリシーに掲げる、小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための理論として位置づけられます。

【到達目標】

- ・教育という社会事象を専門的な立場から理解するために必要な基礎的な知識を獲得することができる。
- ・自らの教育観の基礎を作り、教育に関する事柄について、専門的・客観的な立場から、自分なりの意見表明ができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・教育の意味と本質
- 第2回 教育目的の歴史的変遷
- 第3回 教育法規における教育の目的
- 第4回 西洋における教育の思想
- 第5回 学校制度の歴史的発展過程
- 第6回 単線型学校の成立と主要国の学校制度
- 第7回 日本の学校教育の歴史
- 第8回 我が国における義務教育制度の概要
- 第9回 教育課程の基礎
- 第10回 学習指導の基礎
- 第11回 家庭教育
- 第12回 生涯学習
- 第13回 教師教育
- 第14回 現代教育の課題
- 第15回 今日の学校教育の課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

適宜、レポート課題や授業前の学習課題を指示します。

【成績の評価】

毎回の授業終了時に課するミニレポート(約30%)、レポート(約20%)、試験(約50%)の3つを以て、総合的に評価する。

毎回の授業時に、各学生の学びを点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、私の学内HPを通じて学生に以後の学びへの示唆をフィードバックします。

【使用テキスト】

佐々木正治編著『新 初等教育原理』福村出版、2014年

【参考文献】

文部科学省「幼稚園教育要領」2017

文部科学省「小学校学習指導要領」2017

その他、授業時に、適宜、紹介します。

科目名： 教育制度論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

「教育制度」という言葉は、やや「お堅い」言葉に聞こえるかもしれませんが。また、制度や法規に関連することがらは難しいのでできれば避けて通りたい・・・と思う人も少なくないと思います。

しかし、学校は、今日、私たちの暮らしを支える制度の1つとして機能しています。それ故に、学校には、その目的や制度のあり方、保育内容について様々な規定が設けられるとともに、多くの税金やその他の財貨が投入され、そこに教員をはじめとてたくさんの人々が関わって、子どもたちの生活を支えているのです。それゆえに、教員に対する社会的使命や期待には大きなものがあると同時に厳しいものがあります。

本講義は、そのような点を考慮して、責任を果たせる教員としての意識づくりを図りたいと思います。また、採用試験も考慮して、法制面からのアプローチによって教育制度の理解を目指します。できるだけ、丁寧にわかりやすく講義することに努めますので、肩肘張らず受講して下さい。

この科目は、学部のポリシーに掲げる、小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための理論として位置づけられます。

【到達目標】

- ・教育現場での1つ1つの行為が、社会的な制度の枠の中で運営されていることを理解し、自らの教育実践に取り組む姿勢を形成することができる。
- ・この授業では、教育制度の基本的な枠組みを理解すると共に、制度構築の理念を理解して、教育制度に関する問題に自分なりの意見表明ができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション&教育制度を学ぶことの意味
 - 第2回 教育法規の理論と体系
 - 第3回 我が国の教育行政制度
 - 第4回 我が国の教育行政の組織と機能
 - 第5回 学校制度の歴史的発展過程（外国編）
 - 第6回 学校制度の歴史的発展過程（日本編）
 - 第7回 学校教育の法制
 - 第8回 学校の制度と経営
 - 第9回 教育課程の制度
 - 第10回 教育の権利と義務
 - 第11回 教職員の権利と義務
 - 第12回 教職員の身分保障法制と研修
 - 第13回 教育財政の法制
 - 第14回 児童・生徒の管理
 - 第15回 特別支援教育
- 定期試験

【授業時間外の学習】

各授業の最後に復習と次回の予習のポイントを指示しますので、自己学習時に確認をしておいて下さい。また、自己学習の成果をレポートとして提出することを求めます。

【成績の評価】

出席カードへのコメント(約30%)、レポート(約20%)及び試験(約50%)の合計点によって成績を評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学びを点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、私の学内HPを通じて学生に以後の学びへの示唆をフィードバックします。

【使用テキスト】

河野和清編著『現代教育の制度と行政 改訂版』福村出版 2017

【参考文献】

文部科学省「幼稚園教育要領」2017

文部科学省「小学校学習指導要領」2017

その他、授業時に、適宜紹介します。

科目名： 教師論

担当教員： 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育は教師次第と言われます。それほど教師の役割が重要であることを示しています。他方で、誰でも親になれるとか、学生がアルバイトで家庭教師や塾の講師をすることがいのように、教えるのは誰にでもできるように思われています。そうでしょうか。本授業では教師には様々な役割があり、そこにはいかに人間性（例えば豊かな心、コミュニケーション力、使命感など）や専門性（例えば教育・保育の体系的な知識や理論、実践力など）が必要か、そして教職はどのような仕組みになっているか（職務、研修、服務、チーム学校など）、などを明らかにします。それらは本学部のカリキュラムポリシーやディプロマポリシーに含まれています。

受講に当たって、自分自身が幼稚園・保育所・小学校時代の先生のこと、あるいは現在の様々な教育・保育問題や教育実践を思い起こしながら受講するといいいでしょう。また、講義形式を主とするが、ディスカッション、調査、発表、小課題も取り入れるなどするので、受講生の積極的受講を期待します。

なお、ここで「教師」「先生」「教職」とは、幼稚園、小学校の教員と保育士の両方を含めています。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下のことができるようになることである。

1. 受講生が教師・教職（保育職）を具体的に理解し、それぞれの教師像を明確にでき、教職（保育職）に対する情熱や使命感・倫理観を高める。
2. 具体的には、教師の人間性、専門性、職業人としての教師について理解でき、具体例をあげて、あるいは教育実践と結びつけて、考えることや説明できる。
3. そして教師をめぐる諸問題について疑問を持つことができ、教職についての知識や理解を深めることができ、自分の適性を確かめることができ、熱意・使命感などを高めることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	
第2回	(1) 教師の人間性	1) 歴史の中の教師
第3回	教師の人間性	2) 現代の教師像
第4回	教師の人間性	3) 人間として成長する教師
第5回	(2) 教師の専門性	1) 求められる専門性の変遷
第6回	教師の専門性	2) 現代に求められる専門性
第7回	教師の専門性	3) 専門性確立の課題
第8回	(3) 職業人としての教師	1) 職務
第9回	職業人としての教師	2) 身分
第10回	職業人としての教師	3) 服務規律
第11回	職業人としての教師	4) 勤務条件
第12回	職業人としての教師	5) 研修
第13回	(4) 教師の仕事の種類	1) 学習指導、生活指導
第14回	教師の仕事の種類	2) 学級（保育室）経営、学校（園）経営
第15回	(5) 教師をめぐる現代的諸問題 - チーム学校への対応など -	
	定期試験を実施する。	

【授業時間外の学習】

授業の中でしっかり取り組むことはもちろんだが、紹介された参考文献や配られた資料を事前にあるいは事後に参照する、あるいは課題や宿題を一つ一つきちんとこなすと、より理解が進むだろう。

【成績の評価】

ディスカッション、調査、発表など授業内外での活動状況（20%）、小課題（宿題含む）（30%）、期末試験（40%）、ノート・資料（10%）などを総合して評価する。比率は出来具合を見て変更することがある。

小課題及び期末試験のフィードバックについては、前者は次回の授業時に、後者は後日、オフィスアワーで解答例を示す予定である。

【使用テキスト】

なし。適宜資料を配付する。

【参考文献】

- ・佐竹勝利他編『新世紀の教職論』（コレール社、2006年）
- ・秋山弥監修『新版 教師の仕事とは何か』（北大路書房、2009年）
- ・汐見稔幸他編『保育者論』（最新保育講座2）（ミネルヴァ書房、2010年）
- ・榎沢良彦他編『保育者論』（保育・教育ネオシリーズ9）（同文書院、2015年）
- ・広岡義之編著『はじめて学ぶ教職論』ミネルヴァ書房、2017年
- その他

科目名： 保育課程総論
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

保育者は日々子どもと遊びを共にしながら、子どもが幼稚園や保育所、認定こども園に入園（所）してから修了するまでの生活の全貌を見通した保育の計画を立て実践しています。本授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき各園で編成・作成される教育課程・全体的な計画の意義や方法を学び、保育の計画、実践、評価、改善の過程についての全体構造を理解していきます。そして、他教科の学びと関連付けて理解し、保育の実践力を構築していく力が身に付くことをめざします。また、保育の基本的理念を理解することを通して、保育者としての使命感、倫理観を育んでいくことになります。

【到達目標】

1. 教育課程・全体的な計画が有する役割・機能・意義を理解し論理的に思考・創造することができる。
 - (1) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格及び位置付け並びに編成・作成の目的が理解できる。
 - (2) 幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景が理解できる。
 - (3) 教育課程・全体的な計画が社会において果たしている役割や機能を理解し、使命感をもつことができる。
 - (4) 教育課程の基礎理論の習得により保育の営みの本質を探究しようとする態度を育むことができる。
2. 教育課程・全体的な計画の基本原則及び教育実践に即した編成・作成の方法を理解し、実践力の向上に努めることができる。
 - (1) 教育課程編成、全体的な計画作成の基本原則が理解できる。
 - (2) 幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力を例示し、多面的に課題に取り組むことができる。
 - (3) 長期的な視野からまた、乳幼児や園、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性が理解できる。
3. 園全体のカリキュラムを把握し、教育課程、全体の計画をマネジメントすることの意義を理解する。
 - (1) カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、柔軟な思考力を用いて課題に取り組むことができる。
 - (2) カリキュラム評価の基礎的な考え方が理解できる。

【授業計画】

- | | |
|------|--|
| 第1回 | カリキュラムについて |
| 第2回 | 保育の基本と計画 |
| 第3回 | 幼稚園における教育課程の役割 |
| 第4回 | 保育所における全体的な計画 |
| 第5回 | 幼保連携型認定こども園における教育及び保育並びに子育て支援等における全体的な計画 |
| 第6回 | 幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力 |
| 第7回 | 長期の指導計画と短期の指導計画の実際 |
| 第8回 | 保育の評価 |
| 第9回 | カリキュラム・マネジメントの意義と実際 |
| 第10回 | 小学校へつなぐ保育と計画 |
| 第11回 | 幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂の変遷とその背景 |
| 第12回 | 指導計画の実際(1) 指導計画の作成方法 |
| 第13回 | 指導計画の実際(2) 部分指導案の作成 |
| 第14回 | 指導計画の実際(3) 全日指導案の作成 |
| 第15回 | 指導計画立案の発表と評価 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読しておきます。
復習：授業内容を復習し、ノートに整理するなど理解を深めるよう努力をします。
その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりします。

【成績の評価】

課題およびワークシートの取組みと内容（４０％）、定期試験（６０％）

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出します。

課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成２９年３月告示 文部科学省)

保育所保育指針(平成２９年３月告示 厚生労働省)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

【参考文献】

適宜、資料を配布する。

科目名： 教育課程論

担当教員： 吉田 茂孝(YOSHIDA Shigetaka)

【授業の紹介】

本授業は、ディプロマ・ポリシーにある小学校・特別支援学校で直接に子どもの教育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備えるために、カリキュラム・ポリシーの子育てに関する基礎的総合的カリキュラムである「子育て支援に関する基礎科目」として、今後の専門科目の基盤になる教育課程の基本的内容を習得する。具体的には、教育課程・カリキュラムの編成と原理を学習する。特に、学習指導要領の変遷、今日の教育施策の特長、学力問題に焦点をあてる。

【到達目標】

教育課程・カリキュラムの理論的な背景とともに、現代の日本の教育状況と学校教育の課題をとらえ、学習指導要領の趣旨を理解した上で、学力の問題との関係について説明できることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 教育課程・カリキュラム、学習指導要領とは何か
- 第2回 学習指導要領の基本的な考え方
- 第3回 隠れたカリキュラム(1) - 理論的背景
- 第4回 隠れたカリキュラム(2) - 具体的な事例と分析
- 第5回 教師と教育課程
- 第6回 日本における教育課程の変遷 - 経験主義
- 第7回 日本における教育課程の変遷 - 新教育批判と系統主義
- 第8回 日本における教育課程の変遷 - 「ゆとり」から現代へ
- 第9回 日本における教育課程の変遷の分析
- 第10回 教育課程の編成
- 第11回 学力問題(1) - 学びからの逃走
- 第12回 学力問題(2) - 「学力」低下と学習の質の問題
- 第13回 学力問題(3) - PISA調査と日本の教育への影響
- 第14回 学校づくりと教育課程
- 第15回 教育課程の現状・課題・展望

【授業時間外の学習】

履修する学生には、前時の復習が求められる。配布したプリントなどを熟読しておくこと。

【成績の評価】

提出物(ミニレポート(30%)・レポート(20%))、小テスト(50%)を総合して成績を評価する。
なお、提出物などについては講義の際にフィードバックを行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

小学校学習指導要領 文部科学省
小学校学習指導要領解説総則編 文部科学省
田中博之『カリキュラム編成論』放送大学教育振興会、2013年。
古川治・矢野裕俊・前迫孝憲編『教職をめざす人のための教育課程論』北大路書房、2015年。
山崎準二編『教育課程論』学文社、2009年。

科目名： 保育原理
担当教員： 相馬 宗胤(SOMA Munetane)

【授業の紹介】

本科目では、保育に関する知識や心構えを習得する第一歩として、我が国の保育制度、保育の歴史や保育をめぐる思想について学習します。これらの事項の学習を通して、保育士に必要な基礎知識を習得しつつ、良い保育について考えるための思考力を養うことを目指します。

なお、本科目は保育士資格取得のための必修科目です。

【到達目標】

1. 保育の制度・思想・歴史などの基本的事項の学習を通して、保育者として持つべき使命感・倫理観について考え、保育者を目指す者として、今の自分に欠けている事柄を自覚することができる。
2. 保育の意義や目的、保育者に求められる資質能力について学習したことをもとに、自分自身が当たり前のものとして抱いている保育のイメージを再考し、保育について多角的に考えることができる。
3. 保育の制度・思想・歴史に関する専門的知識を習得する。また、より良い保育を考えるための「考え方」を身につけることができる。
4. 豊かな保育実践を展開するための基礎として、保育を支える原理や基礎理論を理解し、より良い保育実践を行うために必要な着眼点や思考法を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 本授業の目的・ルール・評価方法など + 保育の理念と概念
- 第2回 保育の社会的役割と責任
- 第3回 保育の制度
- 第4回 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- 第5回 発達過程と保育（1）3歳未満児
- 第6回 発達過程と保育（2）3歳以上児
- 第7回 子育てをめぐる問題と子育て支援
- 第8回 保育の目標・方法・内容
- 第9回 指導計画とカリキュラムのマネジメント
- 第10回 欧米の保育の思想・歴史
- 第11回 日本の保育の思想・歴史（1）大正期まで
- 第12回 日本の保育の思想・歴史（2）昭和期以降
- 第13回 諸外国の保育
- 第14回 保育の現代的課題
- 第15回 保育者の専門性
定期試験

【授業時間外の学習】

ほとんどの授業で、当日授業内容に関する予習確認テストと、前回の授業内容に関する復習確認テストを行います。次回授業する内容の箇所を事前に読んでおくと同時に、前回の授業内容に関する復習をしておくことを求めます。

【成績の評価】

小テストの成績（30%）、レポート（20%）、期末試験（50%）

小テストの解説は、各授業内で行います。レポートと試験については成績判定後にフィードバックを行います。

【使用テキスト】

天野珠路、北野幸子編『基本保育シリーズ1 保育原理 第2版』中央法規出版社、2017年。

【参考文献】

平成29年3月告示 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

科目名： 家庭支援論

担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko)

【授業の紹介】

家庭支援論では、私的領域であった家庭内の子育てを、社会全体で支えるようになった背景について理解し、職業使命感と倫理観を高めます。その上で、保育所を利用する親子のみならず、地域の親子までを視野に入れた支援のあり方に関する専門的知識を身に付け、保育実践力向上へと導いていきます。

【到達目標】

- ・学生は、子育て家庭への支援者としての保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高めることができる。
- ・学生は、家庭ならびに子育て家庭への支援に関する専門的知識や判断力を習得することができる。

【授業計画】

- 第1回 家族の今とむかし
 - 第2回 家族の機能
 - 第3回 現代家族の状況 (結婚)
 - 第4回 現代家族の状況 (家族の変化)
 - 第5回 現代家族の状況 (子育てにおける問題)
 - 第6回 子育て支援政策
 - 第7回 家庭支援の基本姿勢
 - 第8回 保育所保育指針における家庭支援
 - 第9回 保育所保育指針における地域の親子に対する支援
 - 第10回 その他の家庭支援
 - 第11回 子育て家庭の理解(専業主婦・働く母親)
 - 第12回 要保護児童・家庭への支援
 - 第13回 特別な支援を必要とする子ども・家庭への支援
 - 第14回 さまざまな子育て支援サービスが抱える問題
 - 第15回 全体のまとめと質疑応答
- 期末試験

【授業時間外の学習】

今回の授業範囲の予習として、本授業に関連する保育所保育指針を確認しておいてください。また、復習としては、授業開始時に説明をした事例内容を再度読み返し理解を深めてください。

【成績の評価】

学習シートの記入・提出(30%)、レポート(10%)、試験(60%)の合計点で評価し、単位認定をします。第1回目に詳しく説明しますので、履修意思のある人は、必ず出席してください。

期末試験の結果は、オフィスアワーの際に解説します。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

厚生労働省『保育所保育指針 平成29年告示』

全国社会福祉協議会『改訂2版新 保育士養成講座第10巻 家庭支援論』

松本園子・永井陽子・福川須美・堀口美智子『実践 家庭支援論』ななみ書房

専門科目：子どもの心の育ちを支える科目

科目	掲載ページ
発達心理学Ⅰ	69
発達心理学Ⅱ	70
心理学研究法	71
教育心理学	72
教育相談	73
保育内容－人間関係Ⅰ	74
保育内容－人間関係Ⅱ	75
保育内容－環境Ⅰ	76
保育内容－環境Ⅱ	77
道徳教育論	78
生徒指導の研究（進路指導を含む）	79

科目名： 発達心理学

担当教員： 中塚 勝俊 (NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

人間のこころとからだは、生まれてから死ぬまで一生涯を通じて発達（＝変化）しつづけます。特に、乳幼児期の発達は一生涯のなかで最も著しく、量的にも質的にも大きな変化を示します。将来、保育者を目指す学生にとって、乳幼児の心身の発達について正しい知識を持っているかどうかは大変重要です。そこで本講義では、乳幼児の心身の発達（運動、認知、言語、知能、情動、気質、人間関係、社会性など）についての授業を通して、発達に応じた子どもへの働きかけや調和のとれた子どもの育ちを支える保育者を目指します。

【到達目標】

発達心理学の基礎知識を身につけ、保育者に必要な「子どもを見る目」・「親とかかわる態度」・「自分を見る目」を修得することをめざします。また、教育実習や保育実習に向けて、学んだ知識を現場で確認し、適用することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（発達と保育の営み）
 - 第2回 運動の発達（乳幼児）
 - 第3回 認知の発達 各発達段階と年齢の特徴
 - 第4回 認知の発達 発達の仕組み
 - 第5回 言語・コミュニケーションの発達 前言語的コミュニケーション
 - 第6回 言語・コミュニケーションの発達 言語的コミュニケーション
 - 第7回 知能の発達
 - 第8回 情動の発達
 - 第9回 気質の発達
 - 第10回 遊びの発達
 - 第11回 親子関係・きょうだい関係・仲間関係の発達
 - 第12回 道徳性・向社会的行動の発達
 - 第13回 自己の発達（自我から自己へ）
 - 第14回 乳幼児期の発達の連関 歩行開始前
 - 第15回 乳幼児期の発達の連関 歩行開始以後
- 定期試験

【授業時間外の学習】

重要と思われる内容は、事前に予習の範囲を指定します。

【成績の評価】

- ・授業への参加度（10％）、提出物（授業へのコメント・レポート）（20％）、テスト（70％）から総合的に評価します。
- ・提出物に関しては、授業時にコメントを返却します。試験については、個人的に研究室でフィードバックします。

【使用テキスト】

本郷一夫（編著）『シードブック 発達心理学 保育・教育に活かす子どもの理解』（建帛社、2007年）1995円

【参考文献】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： 発達心理学

担当教員： 中塚 勝俊 (NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

発達心理学では、発達段階ごとの特徴をまとめ、部分的な知識を全体的で連続性のある知識へと深める中で、保育者・教育者に求められる使命感の涵養をめざします。発達心理学Ⅰを履修していることが受講の条件です。

【到達目標】

発達心理学の知識を深め、子どもの発達を全体的で連続性のあるものとして捉えること、そしてより長期的な視点で子どもの育ちを見通しながら、一人ひとりの子どもの発達を支える保育者として何ができるかという個別の指導計画の立案のスキルを習得することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 発達の定義と原理
 - 第3回 発達段階と発達課題
 - 第4回 胎生期 - 受精と器官形成 -
 - 第5回 新生児期 - 原始反射とコミュニケーション能力 -
 - 第6回 乳児期 - 母子相互作用と愛着形成 -
 - 第7回 幼児期 - 身体発達と運動 -
 - 第8回 幼児期 - 自我の芽生えと第一反抗期 -
 - 第9回 幼児期 - 認知発達と遊び -
 - 第10回 児童期 - 社会性と仲間関係 -
 - 第11回 児童期 - 学童期の発達課題 -
 - 第12回 思春期 - 第二次性徴と反抗期 -
 - 第13回 青年期 - アイデンティティの確立 -
 - 第14回 成人期 - ライフイベントと危機 -
 - 第15回 老年期 - 人生の統合と死の受容 -
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

毎回、予定の箇所について、発表用のレジュメを用意すること。

【成績の評価】

- ・授業態度（10%）、提出物（授業へのコメント・レポート）（10%）、テスト（80%）から総合的に評価します。
- ・提出物に関しては、授業時にコメントを返却します。試験については、個人的に研究室でフィードバックします。

【使用テキスト】

柏木恵子 著「発達心理学」（萌文書林、2012年）2000円

【参考文献】

無藤隆 他（編）「よくわかる発達心理学」ミネルヴァ書房、2010年

科目名： 心理学研究法
担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

心理学においては、研究課題の実証的な検討が重要です。そのためには実験計画のたて方、調査の方法を学ぶことが不可欠となってきます。また、心理学の諸分野では使用される方法も異なってきます。「心理学研究法」では、心理学研究の基礎である測定、実験、調査方法の概要を説明し、様々な研究分野において、実際にどのように適用されているかを理解することを目的としています。心理学における研究法の長所、短所などを理解することにより、実際に心理学の研究する際に適切な方法を用いることができるようになることを目指します。

【到達目標】

「心」を科学するための方法を理解することを目指します。また、様々な「心」に関する知見が、「何を根拠に主張されているのか」、「その根拠は信頼に値するのか」といったことを批判的に検討する力を身につけることを目標とします。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	心理学の研究とは何か
第2回	質的調査	観察法
第3回	質的調査	面接・フィールドワーク
第4回	量的調査	質問紙法
第5回	量的調査	相関
第6回	統計的分析	変数・データ・度数分布
第7回	統計的分析	代表値と散布度
第8回	統計的分析	統計的有意差検定
第9回	実験の論理と方法	実験的研究の構造
第10回	実験の論理と方法	要因計画の理論
第11回	実験の論理と方法	複雑な要因計画
第12回	実験の論理と方法	交互作用の分析
第13回	心理学研究法と日常の思考	
第14回	心理学研究の展開	
第15回	まとめ	実験計画の立案

定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業については、授業で使用したパワーポイントのスライドを学内サーバーに保存していますので、各自のノートとあわせて、復習に利用してください。また、各授業の終わりに、次回の授業内容に関するテキストの範囲を指示しますので、そのページを必ず読んでくるようにしてください。

【成績の評価】

授業への積極的参加（10％）、レポート（20％）、心理学実験・調査への参加（10％）、および、期末テスト（60％）の総合判断により行います。

【使用テキスト】

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦 編（2001）「心理学研究法入門」（東京大学出版）

【参考文献】

大軒裕明・中沢潤 編著（2002）「心理学マニュアル 研究法レッスン」（北大路書房）
後藤宗理 他 編著（2000）「心理学マニュアル 要因計画法」（北大路書房）
南風原朝和（2014）「続・心理統計学の基礎」（有斐閣アルマ）
吉田寿夫（1998）「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」（北大路書房）
宇佐美慧・荘島宏二郎（2015）「発達心理学のための統計学：縦断データの分析（心理学のための統計学7）」（誠心書房）

科目名： 教育心理学

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

教師は、幼児・児童の発達、学習状態を正しくとらえ、それに応じて指導することが求められています。本講義では、児童・生徒の性格、知的能力（記憶、思考、学習）、やる気、学習指導と評価などについての基本的知識の獲得を目指します。また、特別な学習支援が必要な幼児・児童の学習過程についても、その特徴などを学びます。本講義の目標は「心理学による教育方法の充実」です。小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育に関わるに際し必要となる理論を紹介し受講した学生が理論と教育実践と結びつけられることをめざします。

【到達目標】

1. 学生が子どもの教育・保育にあたるための幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、理論を含めた基礎的な知識を身に付けることができる。
2. 学生が各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。
3. 学生がそのような知識をどのようにして子どもの教育・保育の実践に生かせるのか考える態度を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：記憶（1）記憶のメカニズム
 - 第3回：記憶（2）効率的に覚えてられる指導
 - 第4回：学習（1）古典的条件づけと道具的条件づけによる学習のメカニズム
 - 第5回：学習の動機づけ（1）達成動機づけを高く保つ要因
 - 第6回：学習の動機づけ（2）学習の理由や目的が動機づけに及ぼす影響
 - 第7回：発達 遺伝と環境が発達に及ぼす影響
 - 第8回：知的能力の発達 IQとは何か
 - 第9回：人格の発達 発達段階における課題と性格特性
 - 第10回：発達障害の理解と支援
 - 第11回：学習指導の形態と効果
 - 第12回：教育評価の方法と効果
 - 第13回：学級における社会的構造
 - 第14回：学級の荒れと学級の特徴
 - 第15回：教育心理学を学ぶ意義
- 定期試験

【授業時間外の学習】

テキストの指定範囲の予習を課す。復習ではフィードバックされた課題について授業内容を復習しながら再度授業で扱った理論と実践を結びつけるように考えることを推奨する。

【成績の評価】

各回の授業の最後に行う課題（30%）、心理学実験・調査への参加（10%）、および、定期試験（60%）の総合判断により行う。授業内に実施する課題は次回授業時に解答のポイントを示すとともに受講学生の回答を全体で共有することによりフィードバックを行う。定期試験の結果は採点基準と解答のポイントを研究室のドアに掲示し希望者にはオフィスアワーの際に個別対応して解説する。

【使用テキスト】

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著（2009）「やさしい教育心理学」（有斐閣）

【参考文献】

- 鎌原雅彦・竹綱誠一郎（2005）「改訂版 やさしい教育心理学」（有斐閣）
- 森敏昭・青木多寿子・淵上克義 編（2010）「よくわかる学校教育心理学」（ミネルヴァ書房）
- 中澤潤 編（2008）「よくわかる教育心理学」（ミネルヴァ書房）
- 石井正子・松尾直博 編著（2004）「教育心理学 保育者をめざす人へ」（樹村房）
- 藤田哲也 編著（2007）「絶対に役立つ教育心理学」（ミネルヴァ書房）

科目名： 教育相談

担当教員： 七條 正典(SHICHIJO Masanori)

【授業の紹介】

教育の専門家としての教師にとって、教育相談に関する基礎の習得は不可欠である。授業では、子ども理解の方法およびそれに基づく援助の方法について、具体的事例を挙げながら学習していく。また、保護者や関係諸機関との連携の実際や、生徒の心理的成長を支える予防的援助について学習する。

【到達目標】

教育相談は、子どもたちの心理的発達を支援するための日常的な教育活動である。発達段階に即しつつ、個々の特性や課題を適切に捉えるための基礎的知識や、保護者や関係機関と連携して子どもを支援するために必要な知識を身につける。また、複雑化する教育相談に関する問題について柔軟に対応するためのスキルについて学習する。到達目標は以下の4点である。

1. 学校における教育相談の意義と理論を理解する。
2. 教育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解する。
3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。
4. 学校での生徒に対する予防的心理教育の方法について理解し、実践力を高める。

【授業計画】

- 第1回：教育相談の意義
 - 第2回：教育相談の実際
 - 第3回：教育相談におけるアセスメント : アセスメントの方法
 - 第4回：教室での仲間づくり : 関係づくりのゲーム
 - 第5回：対人関係ゲームの理論と実際
 - 第6回：教育相談におけるアセスメント : 問題行動のアセスメント
 - 第7回：教育相談におけるカウンセリングの基礎 : コミュニケーションの基本
 - 第8回：教育相談におけるカウンセリングの基礎 : 質問技法および感情の反映技法
 - 第9回：教育相談におけるカウンセリングの基礎 : 発達段階に応じた教育相談の在り方
 - 第10回：教室での仲間づくり : 集団の楽しさを実感するゲーム
 - 第11回：いじめ
 - 第12回：子どもの貧困と学校
 - 第13回：保護者・関係機関との連携
 - 第14回：危機介入
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

【授業時間外の学習】

指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと。

【成績の評価】

学期末試験（80％）と小レポート（20％）

なお、定期試験の結果については、オフィスアワーの際に解説する。また、小レポートは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

授業時間中に資料を配布します。

【参考文献】

特になし

科目名： 保育内容 - 人間関係
担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

子どもたちを取り巻く「人間関係」の希薄さ、子ども自身の「人間関係」づくりの弱さなどの問題に対し、保育者として、また、親としてどのように対応すればいいのだろうか。幼稚園教育要領、および、保育所保育指針における基本理念をふまえながら、乳幼児の様々な生活場面での「人とのかわり」の育ちについて、心理学的な知識を仲立ちとした、保育理念と保育実践の統合という観点から検討します。子どもの育ちについて理論と実践力を兼ね備えた、子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身に付けることをめざします。

【到達目標】

領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことをめざすことができるものである。

1. 学生が、幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて深く理解できる。
2. 学生が、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して理論と結びついた実践的な保育を構想する方法を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：現代社会と子どもの「人間関係」
 - 第3回：外国の保育
 - 第4回：道徳性の芽生えとルール（1）（道徳性の芽生えを培う）
 - 第5回：道徳性の芽生えとルール（2）（集団のルールやきまりに気づき守る）
 - 第6回：道徳性と向社会的行動の発達（1）（道徳性の発達理論）
 - 第7回：道徳性と向社会的行動の発達（2）（向社会的行動と社会化への支援）
 - 第8回：ジェンダーと保育
 - 第9回：ジェンダーフリーの教育から学ぶ
 - 第10回：多様な文化的背景をもつ幼児の保育
 - 第11回：乳児期の自己の発達
 - 第12回：幼児期の自己の発達
 - 第13回：乳児期の人間関係の特徴
 - 第14回：幼児期の人間関係の特徴
 - 第15回：まとめ（保育における人間関係の大切さを考える）
- 定期試験は実施しない（レポート）

【授業時間外の学習】

毎回の授業については、授業で使用したパワーポイントのスライドを学内サーバーに保存していますので、各自のノートとあわせて、復習に利用してください。また、各授業の終わりに、次回の授業内容に関するテキストの範囲を指示しますので、そのページを必ず読んでくるようにしてください。また、グループをつくり最低1回は授業内容について資料を作成し、発表することになります。担当回の授業資料は、授業時間外に作成することになります。

【成績の評価】

授業の授業課題（30%）、心理学関連調査への参加状況（10%）、グループ発表（30%）、期末レポート（30%）の総合判断により行います。授業での課題や発表については授業内でフィードバックを行う。レポートについては、全体傾向と採点基準について研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

新保育ライブラリー 保育内容 人間関係（小田豊・奥野正義 編著，北大路書房，2009年）

【参考文献】

平成30年施行 保育所保育指針幼稚園教育要領幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント（汐見稔幸・武藤 隆監修，ミネルヴァ書房，2018年）
保育所保育指針平成29年告示（フレーベル館，2017年）
幼稚園教育要領平成29年告示付・教育基本法，学校教育法（抄），学校教育法施行規則（抄）（フレーベル館，2017年）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領平成29年告示（フレーベル館，2017年）

科目名： 保育内容 - 人間関係
担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

保育内容 - 人間関係 に引き続き、幼稚園教育要領、および、保育所保育指針の基本理念をふまえた上で、子どもの人間関係をどのようにとらえるのか、また指導はどのようにあるべきかについて、人間関係に関するさまざまな心理学的知見をもとに検討します。特に、日々の保育の中で起こりうる子どもの「人とかかわり」に関する具体的な問題を多くとりあげ、そのような問題に対処する理論に基づいた基本的な考え方と対処方法について学ぶ。保育や教育で必要となる理論と実践を備え、子育て支援社会を支えるための実践力の向上をめざします。

【到達目標】

領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことをめざすものである。

1. 学生が、幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて深く理解できる。
2. 学生が、乳幼児の「人とかかわり」に関するさまざまな事項を検討・考察することで、人間関係全般に関する基礎的指導力を向上させることができる。
3. 学生が、子どもにとっての人とかかわりの意味の重要性をあらためて理解し、主観に陥らない子どもと問題のとらえ方を身に付け、子育て支援社会を支えるための実践力の向上させることができる。

【授業計画】

- 第1回：あそびと人間関係
 - 第2回：あそびと保育者
 - 第3回：新しいあそび
 - 第4回：保育者と子どもの人間関係（1）（6ヶ月未満児、6ヶ月～1歳3ヶ月児の保育）
 - 第5回：保育者と子どもの人間関係（2）（1歳3ヶ月～2歳児の保育）
 - 第6回：保育者と子どもの人間関係（3）（幼児の仲間づくりと保育者）
 - 第7回：長時間の昼間保育の効果
 - 第8回：人間関係でちょっと気になる子ども（1）（「気になる子ども」と自分の「見方」）
 - 第9回：人間関係でちょっと気になる子ども（2）（「気になる子ども」のチェックリスト）
 - 第10回：保育所・幼稚園における人間関係
 - 第11回：地域に生きる保育者の人間関係
 - 第12回：保育者同士の人間関係
 - 第13回：領域「人間関係」の考え方（1）（幼稚園教育要領を中心に）
 - 第14回：領域「人間関係」の考え方（2）（保育所保育指針を中心に）
 - 第15回：まとめ（現代社会における保育者の役割を考える）
- 定期試験は実施しない（レポート）

【授業時間外の学習】

毎回の授業については、授業で使用したパワーポイントのスライドを学内サーバーに保存していますので、各自のノートとあわせて、復習に利用してください。また、各授業の終わりに、次回の授業内容に関するテキストの範囲を指示しますので、そのページを必ず読んでくるようにしてください。また、グループをつくり最低1回は授業内容について資料を作成し、発表することになります。担当回の授業資料は、授業時間外に作成することになります。

【成績の評価】

授業の授業課題（30%）、心理学関連調査への参加状況（10%）、グループ発表（30%）、期末レポート（30%）の総合判断により行います。授業での課題や発表については授業内でフィードバックを行う。レポートについては、全体傾向と採点基準について研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

新保育ライブラリー 保育内容 人間関係（小田豊・奥野正義 編著，北大路書房，2009年）

【参考文献】

平成30年施行 保育所保育指針幼稚園教育要領幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント（汐見稔幸・武藤 隆監修，ミネルヴァ書房，2018年）
保育所保育指針平成29年告示（フレーベル館，2017年）
幼稚園教育要領平成29年告示付・教育基本法，学校教育法（抄），学校教育法施行規則（抄）（フレーベル館，2017年）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領平成29年告示（フレーベル館，2017年）

科目名： 保育内容 - 環境
担当教員： 藤澤 典子(FUZISAWA Noriko)

【授業の紹介】

子どもは、周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わります。子どもにとってのよりよい環境作りや保育者が果たす役割などについて、具体的指導場面を想定しながら考え、子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を培っていく授業です。

【到達目標】

1. 幼稚園教育要領等に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解することができる。
2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 幼稚園教育要領等に示された幼児教育の基本について
 - 第2回 保育内容「環境」のねらいと内容
 - 第3回 0歳児から3才未満児の育ちと環境とのかかわり
 - 第4回 3, 4歳児の育ちと環境とのかかわり
 - 第5回 5歳児の育ちと環境とのかかわり
 - 第6回 幼小接続期の育ちと環境とのかかわり
 - 第7回 長期・短期の指導計画における領域「環境」
 - 第8回 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえて保育を構想する。(子どもの関わり方)
 - 第9回 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえて保育を構想する。(保育者の役割)
 - 第10回 環境構成の具体(春)
 - 第11回 環境構成の具体(夏)
 - 第12回 環境構成の具体(秋)
 - 第13回 環境構成の具体(冬)
 - 第14回 保育の構想の実際(指導案作成)
 - 第15回 保育の構想の実際の振り返り(指導案・教材研究・環境の構成等)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・課題について関連する情報を次回の授業までに収集する。
- ・授業の振り返りやまとめから、新たな疑問や気づき等を記録する。

【成績の評価】

関心・態度(20%) ワークシート等への記入や提出(40%) 定期試験(40%)
授業の振り返りやレポートは添削して返したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】

神長美津子・堀越紀香・佐々木晃編著
「乳幼児 教育・保育シリーズ『保育内容 環境』光生館(2018年2月発行予定)

【参考文献】

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

科目名： 保育内容 - 環境
担当教員： 藤澤 典子(FUZISAWA Noriko)

【授業の紹介】

環境 では、主に子どもの育ちや環境の意味について学びます。環境 では、子どもが主体的に環境に関わる力を育む保育について事例研修や具体的な活動を通して学び、学んだ知識を教育・保育の実践と関連づけて理解していきます。他領域や小学校とのつながり、保育実践の動向などの情報も収集し、論理的な思考力を用いて判断できる力も付けていく授業です。

【到達目標】

1. 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的指導場面を想定して保育構想力を身に付ける。
2. 他領域の内容との関連性や小学校とのつながりを理解し、保育構想の向上に取り組む。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・環境を通して行う教育・保育の意義と特質
 - 第2回 遊びや生活の中での興味や関心（好奇心・探究心）
 - 第3回 遊びや生活の中での興味や関心（数量や図形、文字）
 - 第4回 遊びや生活の中で思考力の芽生えを培う（幼児理解）
 - 第5回 遊びや生活の中で思考力の芽生えを培う（環境構成）
 - 第6回 遊びや生活の中で自然との関わりをつくる（幼児理解）
 - 第7回 遊びや生活の中で自然との関わりをつくる（環境構成）
 - 第8回 社会生活との関わりをつくる（幼児理解）
 - 第9回 社会生活との関わりをつくる（環境構成）
 - 第10回 子どもの育ちをつなぐ（スタートカリキュラム）
 - 第11回 子どもの育ちをつなぐ（アプローチカリキュラム）
 - 第12回 幼保小をつなぐ理解（幼児理解と児童理解）
 - 第13回 物や人との関わりを深める環境の構成と保育の展開
 - 第14回 保育内容の現状と課題
 - 第15回 保育者に求められる専門性
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・課題について関連する情報を次回の授業までに収集する。
- ・授業の振り返りやまとめから、新たな疑問や気づき等を記録する。

【成績の評価】

関心・態度（20％） ワークシート等への記入や提出（40％）定期試験（40％）
授業の振り返りやレポートは添削して返したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】

神長美津子・堀越紀香・佐々木晃編著
『乳幼児 教育・保育シリーズ』『保育内容 環境』光生館（2018年2月発行予定）

【参考文献】

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

科目名： 道徳教育論

担当教員： 七條 正典(SHICHIJO Masanori)

【授業の紹介】

授業を大まかに理論編と実践編に分ける。理論編では、現代社会と道徳問題について概説し、道徳及び道徳教育の本質について講義する。実践編では、学習指導要領に基づいた道徳教育のあり方や実践的方法について具体例や演習を通して考えていく。

【到達目標】

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導法を理解する。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション

第2回：[] 理論編：現代社会と道徳問題

第3回：道徳の本質

第4回：道徳性の発達

第5回：道徳教育の歴史

第6回：学校における道徳教育及び道徳科の目標と内容

第7回：[] 実践編：学校における道徳教育の指導計画

第8回：道徳科の指導方法

第9回：道徳科の教材と授業設計（小学校）（価値内容と教材分析）

第10回：道徳科の教材と授業設計（小学校）（教材の活用と授業設計）

第11回：学習指導案の作成（小学校）（学習指導案作成の手順と内容）

第12回：学習指導案の作成（小学校）（学習指導案の作成）

第13回：模擬授業と学習評価（小学校）（模擬授業の準備）

第14回：模擬授業と学習評価（小学校）（模擬授業の実施と評価）

第15回：まとめ

定期試験

【授業時間外の学習】

前時に指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと。

【成績の評価】

定期試験（30％）、授業への取り組み及び指導案や小レポート（70％）

なお、定期試験の結果については、オフィスアワーの際に解説する。また、小レポートは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

『小学校学習指導要領解説 道徳編』『中学校学習指導要領解説 道徳編』

【参考文献】

授業時に随時提示する。またはプリントを配布する。

科目名： 生徒指導の研究（進路指導を含む）

担当教員： 七條 正典(SHICHIJO Masanori)

【授業の紹介】

この授業は、学校における生徒指導の進め方、進路指導・キャリア教育のあり方について、児童生徒の社会的な自己実現に関わる様々な「問題」やトピックスを取り上げながら臨床教育学的に考察するものである。

【到達目標】

この授業では、学校の教育活動全体を通じて行われる生徒指導、進路指導・キャリア教育の理論と方法について学ぶ。学校において組織的・効果的な生徒指導と進路指導・キャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につける。

【授業計画】

第1回：生徒指導の意義と教育課程における位置づけ
第2回：生徒指導の方法原理
第3回：生徒指導と教育相談
第4回：生徒指導と進め方（1） - ほめと叱りの人間学
第5回：生徒指導の進め方（2） - 集団づくりと生徒指導
第6回：生徒指導の組織的な取り組みと学校内外の連携
第7回：生徒指導上の「問題」 - 不登校を中心に
第8回：生徒指導上の「問題」 - いじめを中心に
第9回：生徒指導ケーススタディー - 小学校の事例 -
第11回：生徒指導ケーススタディー - 中学校の事例 -
第11回：進路指導・キャリア教育の意義と教育課程における位置づけ
第12回：職業に関する体験活動とキャリア教育
第13回：進路指導・キャリア教育の組織的な推進体制と連携
第14回：学校における異年齢集団活動
第15回：生涯を通じたキャリア形成とキャリア・カウンセリング
定期試験

【授業時間外の学習】

前時に指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと。

【成績の評価】

学期末試験（80％）と授業内の小レポート（20％）による総合評価
なお、定期試験の結果については、オフィスアワーの際に解説する。また、小レポートは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

文部科学省『生徒指導提要』教育図書

【参考文献】

随時資料を配布する

専門科目:子どもの体の育ちを支える科目

科目	掲載ページ
乳児保育Ⅰ	81
乳児保育Ⅱ	82
子どもの食と栄養Ⅰ	83
子どもの食と栄養Ⅱ	84
子どもの保健Ⅰ－Ⅰ	85
子どもの保健Ⅰ－Ⅱ	86
子どもの保健Ⅱ	87
保育内容－健康Ⅰ	88
保育内容－健康Ⅱ	89
体育Ⅰ－Ⅰ	90
体育Ⅰ－Ⅰ	91
体育Ⅰ－Ⅱ	92
体育Ⅰ－Ⅱ	93
体育Ⅱ－Ⅰ	94
野外活動実習Ⅰ	95
野外活動実習Ⅱ	96
保育内容－表現Ⅲ	97

科目名： 乳児保育

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

本講は、保育士として乳児との生活をつくり上げていくために必要な知識と技術を獲得することを目的としています。乳児保育の理念、3歳未満児の発達、保育内容、保護者との連携を基本柱として学び、保育者に求められる「理論」と「実践力」を身につけることを目指します。さらに、乳児保育の現状と課題に関心を持ち、子育て支援社会を支える保育者としての視点を養います。

【到達目標】

- ・乳児保育の理念について説明できる。
- ・子どもの発達過程を理解し、発達の特徴について説明できる。
- ・発達に応じた子どもの生活・遊びを実現するために、必要な保育者のかかわり・環境構成を説明できる。
- ・乳児保育の現状と課題について、自分の考えを述べることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 乳児保育の理念
- 第3回 乳児保育の基礎知識
- 第4回 乳児院における乳児保育
- 第5回 保育所における乳児保育
- 第6回 6か月未満児の発達と保育内容 保護者との連携
- 第7回 6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容
- 第8回 1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容
- 第9回 2歳児の発達と保育内容
- 第10回 乳児保育の計画
- 第11回 乳児保育の記録
- 第12回 乳児保育の歴史
- 第13回 保護者との連携
- 第14回 乳児保育の実際
- 第15回 保育者の専門性

定期試験なし

【授業時間外の学習】

次回授業のテキスト範囲を読んでくるよう、指示します。また複数回レポート課題を課します。

【成績の評価】

小テスト40%、授業シート30%、レポート30%により、評価します。
小テスト、授業シート、レポートは、添削して授業時に返却します。

【使用テキスト】

- ・松本峰雄・池田りな監修『よくわかる！保育士エクササイズ 乳児保育演習ブック』（ミネルヴァ書房 2016年）

【参考文献】

- ・汐見稔幸・無藤隆監修『＜平成30年施行＞保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』（ミネルヴァ書房 2018年）
- ・社会福祉法人あすみ福祉会茶々保育園グループ編『新訂見る・考える・創りだす乳児保育 養成校と保育室をつなぐ理論と実践』（萌文書林 2014年）
- ・乳児保育研究会編『改訂4版 資料でわかる乳児の保育新時代』（ひとなる書房 2015年）

科目名： 乳児保育

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

この授業は、保育の現場で求められる保育士像を理解し、乳児期の子どもを保育するために必要な「理論」と「実践力」を獲得することを目的としています。乳児保育 で学んだ基礎的な知識・技術をより発展させるために、演習を多く取り入れます。乳児期のあそびに用いるおもちゃを作成したり乳児期の発達をテーマに沿ってまとめたりする等、さまざまな活動を通して、創造力を身につけます。

【到達目標】

- ・乳児保育における保育者の配慮と環境構成について説明できる。
- ・乳児期の発達に応じたおもちゃを提案し、作成できる。
- ・乳児期の保育場面を見て、記録・考察ができる。
- ・乳児期の発達を理解し、情報を整理して、発達表を作成できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 乳児期の基礎知識
- 第3回 乳児保育の一日と配慮事項
- 第4回 乳児保育の生活環境
- 第5回 乳児保育の遊び環境
- 第6回 保育課程に基づく指導計画の作成
- 第7回 観察・記録及び自己評価
- 第8回 発達表の作成（1）テーマ決定・情報収集
- 第9回 発達表の作成（2）情報整理・調査
- 第10回 発達表の作成（3）情報整理・まとめ
- 第11回 発達表の発表
- 第12回 保護者とのパートナーシップ
- 第13回 職員間の協働
- 第14回 手作りおもちゃの発表
- 第15回 乳児保育の現状と課題

定期試験なし

【授業時間外の学習】

この授業では、乳児期の発達表・おもちゃを作成します。授業時間外にも準備や作成、発表準備をする必要があります。

【成績の評価】

提出物（発達表、手づくりおもちゃ、レポート）60%、授業シート40%により、評価します。
発達表、手づくりおもちゃについては、発表時に解説します。レポートは添削して授業時に返却します。

【使用テキスト】

- ・松本峰雄・池田りな監修『よくわかる！保育士エクササイズ 乳児保育演習ブック』（ミネルヴァ書房 2016年）

【参考文献】

- ・汐見稔幸・無藤隆監修『＜平成30年施行＞保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教・保育要領 解説とポイント』（ミネルヴァ書房 2018年）
- ・社会福祉法人あすみ福祉会茶々保育園グループ編『新訂見る・考える・創りだす乳児保育 養成校と保育室をつなぐ理論と実践』（萌文書林 2014年）
- ・乳児保育研究会編『改訂4版 資料でわかる乳児の保育新時代』（ひとなる書房 2015年）

科目名： 子どもの食と栄養
担当教員： 川染 節江(KAWASOME Setsue)

【授業の紹介】

「子どもの食と栄養」では、小学校・特別支援学校や幼稚園、保育所で、直接的に子どもの教育、保育にあたるための「食と栄養、食生活」の領域における理論と実践力を身につけることをめざした授業内容です。

また、実際に食事づくりを体験し、栄養素と体の関係を理解するように授業を進める。

【到達目標】

- 1．乳幼児期から思春期に至る子どもの心身の発達に必要な栄養素の種類とその働きを知る。
- 2．心身の発達に必要な栄養素と食品について知る。
- 3．子どもの身体発達を評価する手法を知る。（BMI、肥満度）
- 4．調理実習の体験から、栄養素、消化、吸収、味覚の仕組みを理解する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、子どもの食と栄養とは何か、学ぶ目的は何か。
 - 第2回 子どもの心身の健康と食生活の意義（発育・発達の評価方法）、食事の目的
 - 第3回 子どもの食生活環境の現状把握と課題（世界の子どもの栄養状態）
 - 第4回 子どもの食と栄養の特徴、生涯発達と食生活
 - 第5回 栄養の基本的概念、栄養素の種類と機能
 - 第6回 栄養素の種類と機能、栄養素の消化・吸収の機能、ビデオによる学習
 - 第7回 日本人の食事摂取基準（2015年度版）、PFCのエネルギーバランス、必要な栄養素
 - 第8回 食品の基礎知識、食品の分類、市販食品の現状、食品の選び方
 - 第9回 献立作成と調理の基本
 - 第10回 調理実習 思春期の望ましい食事づくり
 - 第11回 調理実習 離乳食、子どものおやつづくり
 - 第12回 子どもの発育・発達と栄養生理 食欲・味覚の仕組みなど
 - 第13回 子どもの発育・発達と食生活（乳児期・離乳期・幼児期）
 - 第14回 子どもの発育・発達と食生活（学童期・思春期）
 - 第15回 重要項目について確認及びテストについて
- 定期試験

【授業時間外の学習】

復習をしっかりと、毎回の授業内容を理解するように取り組んでください。
教育実習・保育実習時における食事場面をよく観察し、授業内容の理解にいかしてください。

【成績の評価】

授業態度（10％）、実習レポート（20％）、テスト結果（70％）を総合的に評価します。
講義内容のミニレポート、実習などのレポートを提出させて、理解度を深め、後日、返却することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

岡崎 光子編『子どもの食と栄養』（光生館）

【参考文献】

到達目標に関連した新聞記事やデータなどの資料を配布し、保育者としての資質向上をはかる。

科目名： 子どもの食と栄養

担当教員： 川染 節江(KAWASOME Setsue)

【授業の紹介】

「子どもの食と栄養」では、「子どもの食と栄養」で得た子どもの健全な成長・発達に、食生活と栄養が深くかかわっていることを理解し、食育の推進・子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身に付けるような内容とする。

【到達目標】

- 1．離乳期から乳幼児期、児童期、思春期に至る、実際の生活のあり方を知る。
- 2．それぞれ発達段階に応じた栄養および食生活の問題点と対応を知り、子育て支援に活かせることができる。
- 3．幼稚園、保育所、小学校における食育推進の基本と実践力を身に付ける。
- 4．子どもの食生活におけるアレルギー対策・障害のある子どもへの食事の支援などの知識を得る。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 離乳期の意識と食生活
 - 第3回 幼児期の食生活の特徴
 - 第4回 幼児期の食生活の特徴
 - 第5回 学童期・思春期の発達・発達と食生活
 - 第6回 妊娠期の心身の発達と栄養・食生活
 - 第7回 調理実習、おやつづくり
 - 第8回 調理実習、幼児食、学童食
 - 第9回 食育の基本と内容 保育園の例、食育基本法、食育推進基本計画
 - 第10回 食育の基本と内容 学童期・思春期の例（食生活上の問題点、特に朝食の必要性）
 - 第11回 家庭における食育（生活習慣病・肥満対策）
 - 第12回 児童福祉施設における食事と栄養
 - 第13回 食物アレルギー・障害がある子どもの食と栄養
 - 第14回 保育所・学校給食の変遷・現状・栄養教諭の役割・学校で食育活動
 - 第15回 各自の目標達成度の確認、及びテストについて
- 定期試験

【授業時間外の学習】

復習をしっかりと、毎回の授業内容を理解するように取り組んでください。
教育実習・保育実習時における食事場面をよく観察し、授業内容の理解にいかしてください。

【成績の評価】

授業態度（10％）、実習レポート（20％）、テスト結果（70％）を総合的に評価します。
講義内容のミニレポート、実習などのレポートを提出させて、理解度を深め、後日、返却することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

岡崎 光子 編『子どもの食と栄養』（光生館）

【参考文献】

到達目標に関連した新聞記事やデータなどの資料を配布し、保育者としての資質向上をはかる。

科目名： 子どもの保健 -
担当教員： 磯部 健一 (ISOBE Kenichi)

【授業の紹介】

胎生期から新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期までの小児期全体を対象としますが、特に胎生期から乳幼児までを重点的に扱います。成長発達の途上において各臓器にはさまざまな臨界期が存在しており、一度それが障害されると一生を決定づける非可逆的な変化が引き起されます。子どもの健全な成長発達とその病的な面だけでなく、生理的な面の知識を習得することが重要です。これらの知識を基本として、三つの健康（身体健康、心の健康、社会健康）を重視する視点を習得します。小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための理論と実践力を修得します。

【到達目標】

胎児期より新生児期、乳児期、学童期、思春期の各時期の正常な成長、発達および生理を理解できる。特に心の健康の問題、母子相互作用の重要性について理解できる。

【授業計画】

第1回 小児保健の概念(少子化の現状と問題点、母子保健統計)
第2回 子どもの成長と発達(胎児・新生児期、乳幼児期の成長)
第3回 生理機能の発達 - 1
第4回 生理機能の発達 - 2
第5回 母子相互作用、親子の関係性障害
第6回 母乳育児
第7回 これまでの講義のまとめと質疑応答
第8回 小児の栄養
第9回 小児の生活習慣病
第10回 子どもの精神保健(心身症・発達障害)
第11回 子どもの精神保健(子どもの虐待)
第12回 健康及び安全の実施体制(母子保健対策と保育)
第13回 健康及び安全の実施体制(母子保健に関連する法規)
第14回 健康及び安全の実施体制(乳幼児健診)
第15回 これまでの講義のまとめと質疑応答
期末試験

【授業時間外の学習】

授業内容についてのレポート作成を課題とします。

【成績の評価】

授業参加状況・ミニレポート(10%)、小テスト(20%)、期末試験(70%)の成績により総合的に判断します。ミニレポートと小テストは授業時に返却し解説する。

【使用テキスト】

佐藤益子、中根淳子編著『新版子どもの保健』(ななみ書房、2017年)

【参考文献】

巷野悟郎監修・日本保育園保健協議会編『最新保育保健の基礎知識 第8版改訂』(日本小児医事出版社、2013年)
金子堅一郎編『イラストを見せながら説明する育児のポイントと健康相談』(南山堂、2015年)
金子堅一郎編『イラストを見せながら説明する子どもの病気とその診かた』(南山堂、2015年)

科目名： 子どもの保健 -
担当教員： 磯部 健一 (ISOBE Kenichi)

【授業の紹介】

子どもの成長と発達には、子どもの一生を決定づける臨界期があり、小児の疾患を取り扱う時の基本となっています。成長と発達の時期に合わせた生理的、心理的な面を理解した上で病気になった子どもに接することが重要です。大切なことは、子どものおかれている環境をよく理解して、将来の発育にどのような影響を及ぼすかについても考えることが必要です。さらに、疾患の予防法などについても知ることが大切です。成長・発達的变化を時間軸にして、乳幼児期にみられる疾患について学習し、理論と実践力を修得します。

【到達目標】

予防小児科（事故、成人病、心身症）、予防接種、乳児健診、学校保健など社会小児科学を理解できる。また、乳幼児施設で、子どもに見られる症状や病気、感染性疾患などの原因や症状について学び予防と対策ができることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 小児の主な病気（感染症 - 1）
 - 第2回 小児の主な病気（感染症 - 2）
 - 第3回 小児の主な病気（感染症 - 3）
 - 第4回 免疫機能と予防接種
 - 第5回 小児の主な病気（先天異常、アレルギー性疾患）
 - 第6回 小児の主な病気（消化器、循環器、血液疾患）
 - 第7回 小児の主な病気（神経系疾患）
 - 第8回 これまでの講義のまとめと質疑応答
 - 第9回 環境と衛生管理・安全管理（保育の環境整備と衛生管理）
 - 第10回 環境と衛生管理・安全管理（事故防止と安全対策 - 1）
 - 第11回 環境と衛生管理・安全管理（事故防止と安全対策 - 2）
 - 第12回 環境と衛生管理・安全管理（突然死症候群）
 - 第13回 環境と衛生管理・安全管理（救急対応 - 1）
 - 第14回 環境と衛生管理・安全管理（救急対応 - 2）
 - 第15回 これまでの講義のまとめと質疑応答
- 期末試験

【授業時間外の学習】

授業内容についてのレポート作成を課題とします。

【成績の評価】

授業参加状況・ミニレポート（10%）、小テスト（20%）、期末試験（70%）の成績により総合的に判断します。ミニレポートと小テストは授業時に返却し解説する。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】

佐藤益子、中根淳子編著『新版子どもの保健』（ななみ書房、2017年）

【参考文献】

- 巷野悟郎監修・日本保育園保健協議会編『最新保育保健の基礎知識 第8版改訂』（日本小児医事出版社、2013年）2800円
- 金子堅一郎編『イラストを見せながら説明する育児のポイントと健康相談』（南山堂、2015年）、4000円
- 金子堅一郎編『イラストを見せながら説明する子どもの病気とその診かた』（南山堂、2015年）、9000円

科目名： 子どもの保健

担当教員： 磯部 健一 (ISOBE Kenichi), 小川 佳代 (OGAWA Kayo)

【授業の紹介】

子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画と評価、子どもの健康増進及び心身の成長発達を促す保健活動、子どもの病気とその予防及びその対応について学習します。そして、乳児の抱き方や計測の仕方や包帯法などの救急時の対応と事故防止、安全管理について具体的に学び理論と実践力を修得するとともに、心と身体健康問題と地域保健活動について理解を深めます。乳幼児の身体計測と評価、乳幼児の養護と看護は小川が担当し、子どもの疾病と対応、事故防止及び健康・安全管理は磯部が担当します。

【到達目標】

1. 子どもの成長発達と健康状態を把握するための計測や観察ができる。
2. 把握した健康状態をもとに保健活動の計画やその評価ができる。
3. 救急時の対応や病気・事故が発生した時の対応について具体的にわかる。
4. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動について考えられる。

【授業計画】

- 第1回 子どもの疾病と適切な対応(感染症の予防と対応)(磯部)
 - 第2回 子どもの疾病と適切な対応(個別的な配慮を必要とする子どもへの対応)(磯部)
 - 第3回 事故防止及び健康管理・安全管理 (磯部)
 - 第4回 災害への備えと危機管理 (磯部)
 - 第5回 子どもの救急(応急)処置 (磯部)
 - 第6回 子どもの救急蘇生法(心肺蘇生法)(磯部)
 - 第7回 心とからだの健康問題と地域保健活動 (磯部)
 - 第8回 保健活動の計画と評価、乳幼児の身体計測と評価 (小川)
 - 第9回 乳幼児の身体計測と評価の実際 (小川)
 - 第10回 子どもの保健と環境 (小川)
 - 第11回 乳幼児の養護(抱き方・寝かせ方・おむつ交換) (小川)
 - 第12回 乳幼児の養護(授乳・調乳・離乳食・幼児食) (小川)
 - 第13回 乳幼児の養護(乳幼児の清潔)(小川)
 - 第14回 保育における看護(一般看護、包帯法など) (小川)
 - 第15回 これまでの講義のまとめと質疑応答 (磯部)
- 期末試験

【授業時間外の学習】

演習内容については事前に資料を配布するので、予習をして授業に臨むこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。

【成績の評価】

学習態度(10%)、演習記録などの提出物(20%)、期末試験(70%)によって総合的に判断する。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】

佐藤益子、中根淳子編著『新版子どもの保健 』(ななみ書房、2017年)

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

科目名： 保育内容 - 健康

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

最近では、子どもの運動能力の低下や身の自立ができていないことなどが話題となっています。本来、子どもにとって『健康』とは何でしょうか？
健康 および健康 では、幼稚園・保育園の保育の基本と領域「健康」の関係を明らかにし、そのねらい、内容、方法に関して理解を深めるとともに、本来の子どもの健康を考えます。健康 では、「子どもの健康」の考え方をふまえ、健康にかかわる子どもの生活実態を中心に学びます。

【到達目標】

1. “健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う”という目標を達成するために、どのように子どもにかかわればよいのかを探究できる。
2. 子どもがたくましく生きるための健康や体力について習得することをめざす。
3. 子どもの心と体の「理論」と子どもが健康で安全な生活を送ることができるための「実践力」を身につける。

【授業計画】

- 第1回 「健康」の考え方
 - 第2回 子どもの健康の考え方
 - 第3回 領域「健康」において育むもの
 - 第4回 領域「健康」と他の領域との関係
 - 第5回 小学校教育と領域「健康」の関連性
 - 第6回 健康にかかわる子どもの生活実態 (睡眠について)
 - 第7回 健康にかかわる子どもの生活実態 (食生活について)
 - 第8回 健康にかかわる子どもの生活実態 (日中の活動について)
 - 第9回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動の発達について)
 - 第10回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動能力について)
 - 第11回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動能力低下の背景について)
 - 第12回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動発達の特徴について)
 - 第13回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもと運動遊びについて)
 - 第14回 総括 (子どもと生活)
 - 第15回 総括 (子どもと運動)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、授業中に配布する補助資料のプリントの内容を理解しておいてください。また、次回の授業内容を予告するので、該当するテキストの内容を熟読しておくこと。実際の保育の現場と保育内容-健康の理論とを結びつけるために、幼稚園教育実習終了後、“子どものからだ”に関するレポートを課します。

【成績の評価】

期末試験：65%（この授業は、期末試験を受験しなければ単位を修得することはできません。）

レポート点：20%

授業態度：15%

* 全体の60%以上の得点で合格とします。

* 成績については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

- 河邊貴子『演習 保育内容 健康』（建帛社、2008年）
- 森下はるみ 池田裕恵『健康 - 乳幼児のここところから - 』（不昧堂出版、1992年）
- 原田碩三『幼児健康学』（黎明書房、1997年）
- 生田清衛門 秋山俊夫『内容研究 領域 健康』（北大路書房、1993年）
- 菊地秀範 石井美晴『子どもと健康』（萌文書林、1990年）
- 無藤隆 倉持清美『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』（萌文書林、2007年）

科目名： 保育内容 - 健康
担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

健康 の内容をふまえ、さらに「子どもの体や健康」について学習していきます。健康 では、子どもの身体や運動の発達を中心に学び、それらの基礎理論をもとに、実際の園生活を考えます。乳幼児は、100%大人が保護し、守る義務があります。したがって、保育者として、どのような安全の管理と指導および援助の方法があるのかを実際の事例をもとに修得します。

【到達目標】

1. 子どもの身体および運動の発育発達の原則を理解することができる。
2. 子どもを取り巻くすべてに対して、生命を守るための安全をどのように捉え、子どもたちにどのように指導していくかについて実践的な立場から具体的に考察できる。
3. 健康 に引き続き、子どもの基本的生活習慣の「理論」、その基本的生活習慣を形成するための「実践力」を身につける。

【授業計画】

- 第1回 子どもの身体発達の原則 (身長と体重について)
 - 第2回 子どもの身体発達の原則 (骨の形成について)
 - 第3回 子どもの身体発達の原則 (脊柱の湾曲について)
 - 第4回 子どもの身体発達の原則 (生理的機能の発達について)
 - 第5回 子どもの身体と発達の原則 (さまざまな発育曲線から発達の原則をよむ)
 - 第6回 子どもの身体と運動の発達のまとめ
 - 第7回 基本的生活習慣の形成 (食事について)
 - 第8回 基本的生活習慣の形成 (睡眠について)
 - 第9回 基本的生活習慣の形成 (衣服の着脱、排泄について)
 - 第10回 基本的生活習慣の形成 (生活リズムについて)
 - 第11回 安全の指導 (けが・事故の実態について)
 - 第12回 安全の指導 (事故のメカニズムについて)
 - 第13回 安全の指導 (子どもの安全の指導)
 - 第14回 安全の指導 (子どものルール・きまりの理解)
 - 第15回 総括(子どもの発育・発達の原則を踏まえた子どもの健康について)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、授業中に配布する補助資料のプリントの内容を理解しておいてください。また、次回の授業内容を予告するので、該当するテキストの内容を熟読しておくこと。実際の保育の現場と保育内容-健康の理論とを結びつけるために、幼稚園教育実習終了後、“子どものからだと健康”に関するレポートを課します。

【成績の評価】

- 期末試験：70% (この授業は、期末試験を受験しなければ単位を修得することはできません。)
授業態度：20%
レポート点：10%
* 全体の60%以上の得点で合格とします。
* 成績については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

- 河邊貴子『演習 保育内容 健康』(建帛社、2008年)
森下はるみ 池田裕恵『健康 - 乳幼児のこころとからだ - 』(不昧堂出版、1992年)
原田碩三『幼児健康学』(黎明書房、1997年)
生田清衛門 秋山俊夫『内容研究 領域 健康』(北大路書房、1993年)
菊地秀範 石井美晴『子どもと健康』(萌文書林、1990年)
無藤隆 倉持清美『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』(萌文書林、2007年)

科目名： 体育 -
担当教員： 山神 眞一(YAMAGAMI Shin'ichi)

【授業の紹介】

この授業では、子どもの主体的な活動が確保されるように、子ども一人ひとりの行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成されなければならないとする保育の中で、“運動あそび”をどう指導してゆくかについて理解し、現場における位置づけを考察します。近い将来、幼児教育や保育の仕事に携わるみなさんが、子どもの運動遊びを適切に指導できるようになるためにこの授業を行います。

【到達目標】

1. 運動遊びを実施するにあたっての基礎的、理論的根拠を修得できる。
2. 子どものからだ、心の発達発達の基礎を理解し、運動の学習と指導の理論を修得できる。
3. 子どもの運動能力の開発に必要な基礎的指導技術を身につけることをめざす。
4. 子どもの発達発達の「理論」とそれを踏まえた運動指導の「実践力」を兼ね備えることをめざす。

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 保育の中での運動あそびの援助について |
| 第3回 | 子どもの発達・発達の特徴について (歩く・走る) |
| 第4回 | 子どもの発達・発達の特徴について (跳ぶ) |
| 第5回 | 子どもの発達・発達の特徴について (投げる) |
| 第6回 | 基本的運動あそび (生活の中にあるあそび) |
| 第7回 | 基本的運動あそび (体を使ってのやりとりあそび) |
| 第8回 | 基本的運動あそび (一人であそぶ) |
| 第9回 | 基本的運動あそび (イメージを共有するあそび) |
| 第10回 | 基本的運動あそび (戸外でのあそび) |
| 第11回 | 子どもの運動能力を引き出す指導 (ボールあそび) |
| 第12回 | 子どもの運動能力を引き出す指導 (鬼ごっこ) |
| 第13回 | 子どもの運動能力を引き出す指導 (季節的なあそび) |
| 第14回 | 総括 (子どもの運動あそび) |
| 第15回 | 総括 (子どもの運動あそびとその実際) |

【授業時間外の学習】

授業中にいろいろな運動遊びや、レクリエーションゲームを紹介するので、ノートに記録し、授業内容とともに復習しておいて下さい。

【成績の評価】

小テスト(技術)：40%

授業態度：40%

レポート点：10%

期末試験：10%

*全体の60%以上の得点で合格とします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

- 西田俊夫ほか 『幼児期の運動あそび』(不昧堂出版、1991年)2,500円
前橋 明ほか 『親と子のふれあい体操』(星雲社、1993年)1,500円
松井洋子 『からだでおはなし』(太郎次郎社、1994年)1,850円
井形高明ほか 『新・子どものスポーツ医学』(南江堂、1997年)3,200円
佐藤雅弘 『子どもの運動能力を引き出す方法』(講談社、2004年)1,600円
石井美晴ほか 『保育の中の運動あそび』(萌文書林、1994年)1,890円

科目名： 体育 -
担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

この授業では、子どもの主体的な活動が確保されるように、子ども一人ひとりの行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成されなければならないとする保育の中で、“運動あそび”をどう指導してゆくかについて理解し、現場における位置づけを考察します。近い将来、幼児教育や保育の仕事に携わるみなさんが、子どもの運動遊びを適切に指導できるようになるためにこの授業を行います。

【到達目標】

1. 運動遊びを実施するにあたっての基礎的、理論的根拠を修得できる。
2. 子どものからだ、心の発育発達的基础を理解し、運動の学習と指導の理論を修得できる。
3. 子どもの運動能力の開発に必要な基礎的指導技術を身につけることをめざす。
4. 子どもの発育発達の「理論」とそれを踏まえた運動指導の「実践力」を兼ね備えることをめざす。

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 保育の中での運動あそびの援助について |
| 第3回 | 子どもの発育・発達の特徴について (歩く・走る) |
| 第4回 | 子どもの発育・発達の特徴について (跳ぶ) |
| 第5回 | 子どもの発育・発達の特徴について (投げる) |
| 第6回 | 基本的運動あそび (生活の中にあるあそび) |
| 第7回 | 基本的運動あそび (体を使ってのやりとりあそび) |
| 第8回 | 基本的運動あそび (一人であそぶ) |
| 第9回 | 基本的運動あそび (イメージを共有するあそび) |
| 第10回 | 基本的運動あそび (戸外でのあそび) |
| 第11回 | 子どもの運動能力を引き出す指導 (ボールあそび) |
| 第12回 | 子どもの運動能力を引き出す指導 (鬼ごっこ) |
| 第13回 | 子どもの運動能力を引き出す指導 (季節的なあそび) |
| 第14回 | 総括 (子どもの運動あそび) |
| 第15回 | 総括 (子どもの運動あそびとその実際) |

【授業時間外の学習】

授業中にいろいろな運動遊びや、レクリエーションゲームを紹介するので、ノートに記録し、授業内容とともに復習しておいて下さい。

【成績の評価】

小テスト(技術)：40%

授業態度：40%

レポート点：10%

期末試験：10%

*全体の60%以上の得点で合格とします。

*成績については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

- 西田俊夫ほか 『幼児期の運動あそび』(不昧堂出版、1991年)2,500円
前橋 明ほか 『親と子のふれあい体操』(星雲社、1993年)1,500円
松井洋子 『からだでおはなし』(太郎次郎社、1994年)1,850円
井形高明ほか 『新・子どものスポーツ医学』(南江堂、1997年)3,200円
佐藤雅弘 『子どもの運動能力を引き出す方法』(講談社、2004年)1,600円
石井美晴ほか 『保育の中の運動あそび』(萌文書林、1994年)1,890円

科目名： 体育 -
担当教員： 山神 眞一(YAMAGAMI Shin'ichi)

【授業の紹介】

この授業では、体育 に引き続き、保育理念に基づいた運動あそびの指導とは何かについて理解します。子どもの興味や能力に応じた遊びの中で、子ども自らがからだを動かす心地よさを味わうことができるようにする方法を学習します。また、単に運動あそびを行うということだけでなく、様々な活動とおして意欲的に満足する体験を積み重ねるようにするための具体的な指導方法を身につけるための授業です。

【到達目標】

1. 子どもの発達・発達の基礎理論をもとに、多種多様な運動の実技能力と指導力を養うことができる。
2. 子どもの興味、子どもの創意、工夫、感動の喜びを共感し合いながら、からだを十分に使って遊ぶ「運動あそび」を展開することができる。
3. 授業におけるさまざまな活動の中で、共に助け合い、豊かな心と創造力を身につける。

【授業計画】

- | | | |
|------|--------------------------------|-----------|
| 第1回 | 子どもの発達・発達の特徴と運動あそびについて | (3歳児のあそび) |
| 第2回 | 子どもの発達・発達の特徴と運動あそびについて | (4歳児のあそび) |
| 第3回 | 子どもの発達・発達の特徴と運動あそびについて | (5歳児のあそび) |
| 第4回 | 子どもの体力・運動能力を踏まえた運動あそびの指導 | (ボールあそび) |
| 第5回 | 子どもの体力・運動能力を踏まえた運動あそびの指導 | (鬼ごっこ) |
| 第6回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(用具を使って) | (すべり台) |
| 第7回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(用具を使って) | (ブランコ) |
| 第8回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(用具を使って) | (低鉄棒) |
| 第9回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(四季の運動あそび) | (春) |
| 第10回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(四季の運動あそび) | (夏) |
| 第11回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(四季の運動あそび) | (秋) |
| 第12回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(四季の運動あそび) | (冬) |
| 第13回 | 子どもの運動指導の実際(指導クリニック・リハーサル) | |
| 第14回 | 子どもの運動指導の実際(指導クリニック) | |
| 第15回 | 総括(子どもの発達・発達を踏まえた運動あそびの実際) | |

【授業時間外の学習】

授業中にいろいろな運動遊びや、レクリエーションゲームを紹介するので、ノートに記録し、授業内容とともに復習しておいてください。また、子どもへの運動指導の場面を設定して実際に行うので、日頃から子どもの運動遊び関連の資料を収集しておいてください。

【成績の評価】

小テスト(技術)：40%

授業態度：40%

レポート点：10%

期末試験：10%

*全体の60%以上の得点で合格とします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

- 西田俊夫ほか 『幼児期の運動あそび』(不昧堂出版、1991年)2,500円
前橋 明ほか 『親と子のふれあい体操』(星雲社、1993年)1,500円
松井洋子 『からだでおはなし』(太郎次郎社、1994年)1,850円
井形高明ほか 『新・子どものスポーツ医学』(南江堂、1997年)3,200円
佐藤雅弘 『子どもの運動能力を引き出す方法』(講談社、2004年)1,600円
石井美晴ほか 『保育の中の運動あそび』(萌文書林、1994年)1,890円

科目名： 体育 -
担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

この授業では、体育 に引き続き、保育理念に基づいた運動あそびの指導とは何かについて理解します。子どもの興味や能力に応じた遊びの中で、子ども自らがからだを動かす心地よさを味わうことができるようにする方法を学習します。また、単に運動あそびを行うということだけでなく、様々な活動とおして意欲的に満足する体験を積み重ねるようにするための具体的な指導方法を身につけるための授業です。

【到達目標】

1. 子どもの発育発達の基本理論をもとに、多種多様な運動の実技能力と指導力を養うことができる。
2. 子どもの興味、子どもの創意、工夫、感動の喜びを共感し合いながら、からだを十分に使って遊ぶ「運動あそび」を展開することができる。
3. 授業におけるさまざまな活動の中で、共に助け合い、豊かな心と創造力を身につける。

【授業計画】

- | | | |
|------|--------------------------------|-----------|
| 第1回 | 子どもの発育・発達の特徴と運動あそびについて | (3歳児のあそび) |
| 第2回 | 子どもの発育・発達の特徴と運動あそびについて | (4歳児のあそび) |
| 第3回 | 子どもの発育・発達の特徴と運動あそびについて | (5歳児のあそび) |
| 第4回 | 子どもの体力・運動能力を踏まえた運動あそびの指導 | (ボールあそび) |
| 第5回 | 子どもの体力・運動能力を踏まえた運動あそびの指導 | (鬼ごっこ) |
| 第6回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(用具を使って) | (すべり台) |
| 第7回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(用具を使って) | (ブランコ) |
| 第8回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(用具を使って) | (低鉄棒) |
| 第9回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(四季の運動あそび) | (春) |
| 第10回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(四季の運動あそび) | (夏) |
| 第11回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(四季の運動あそび) | (秋) |
| 第12回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(四季の運動あそび) | (冬) |
| 第13回 | 子どもの運動指導の実際(指導クリニック・リハーサル) | |
| 第14回 | 子どもの運動指導の実際(指導クリニック) | |
| 第15回 | 総括(子どもの発育・発達を踏まえた運動あそびの実際) | |

【授業時間外の学習】

授業中にいろいろな運動遊びや、レクリエーションゲームを紹介するので、ノートに記録し、授業内容とともに復習しておいてください。また、子どもへの運動指導の場面を設定して実際に行うので、日頃から子どもの運動遊び関連の資料を収集しておいてください。

【成績の評価】

小テスト(技術)：40%

授業態度：40%

レポート点：10%

期末試験：10%

*全体の60%以上の得点で合格とします。

*成績については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

西田俊夫ほか 『幼児期の運動あそび』(不昧堂出版、1991年)2,500円

前橋 明ほか 『親と子のふれあい体操』(星雲社、1993年)1,500円

松井洋子 『からだではなし』(太郎次郎社、1994年)1,850円

井形高明ほか 『新・子どものスポーツ医学』(南江堂、1997年)3,200円

佐藤雅弘 『子どもの運動能力を引き出す方法』(講談社、2004年)1,600円

石井美晴ほか 『保育の中の運動あそび』(萌文書林、1994年)1,890円

科目名： 体育 -
担当教員： 上野 耕平(UENO Kouhei)

【授業の紹介】

体育 - ・ における学習内容に基づき、幼児や児童を対象として運動遊びや体育を指導するための実践的な能力を養成することを目的とする。従って授業では、各運動の特性を理解すると共に、運動の実践能力、さらには授業を行う際の指導法の基礎を獲得することが求められる。自ら体を動かしつつ、「各運動のコツ」について体験を通じて学習する。

【到達目標】

1. マット運動、ボール運動、表現運動ほか各運動の特性について説明できる。
2. 各運動を楽しんで行い、その楽しさについて説明できる。
3. 各運動の実践能力を向上させるコツについて説明できる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：マット運動（前転・後転）
- 第3回：マット運動（開脚前転・開脚後転）
- 第4回：跳び箱運動（開脚跳び）
- 第5回：跳び箱運動（台上前転）
- 第6回：縄跳び（一回旋一・二跳躍）
- 第7回：縄跳び（創作縄跳び）
- 第8回：表現運動（各種ステップ）
- 第9回：表現運動（リズムダンス）
- 第10回：ボール運動（ネット型）
- 第11回：ボール運動（ネット型：簡易ルール）
- 第12回：ボール運動（ゴール型）
- 第13回：ボール運動（ゴール型：簡易ルール）
- 第14回：ボール運動（ベースボール型）
- 第15回：ボール運動（ベースボール型：簡易ルール）及び全体の振り返り

【授業時間外の学習】

初回授業時に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、授業は実技形式で行いますので、普段から運動に親しみ、授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいて下さい。

【成績の評価】

成績は運動の実践能力（40％）、期末レポート（60％）によって評価します。なお集団での活動になりますので、遅刻しないよう特に注意して下さい。

【使用テキスト】

授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】

体育科教育学入門（高橋健夫ほか編著、大修館書店）
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示 文部科学省）

科目名： 野外活動実習

担当教員： 植田 宗士(UETA Muneo), 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

子どもたちの体力の低下や体験不足が指摘されています。今や子どもたちの体験不足は幼児期に及んでいると言われています。かつては、子どもたちが自然と触れ合う機会や仲間と遊ぶ場が豊富にありました。しかし、今日では、ゆっくりと自然と触れ合う、自然の中で友だちといっしょに工夫して遊ぶ、といった生活体験も少なくなってきました。

この授業は、将来、小学校教員をめざす者を対象に実施するものです。

体験活動における様々な知識の獲得や活動フィールド整備を行う上での知識・技能の獲得、野外炊飯等を通して、子どもたちの様々な体験活動をサポートするための専門的知識・技能を学び、小学校の教員としての実践力を身につけるものです。

なお、この授業は、国立青少年教育振興機構の実施する「学生ボランティアリーダー養成講座」（2泊3日：8月）に参加します。

実習代金（4～5千円程度）は個人負担とする。詳細は、6月掲示する。

【到達目標】

- ・体験活動の基礎的知識や安全に関する知識を習得することができる。
- ・キャンプの基礎知識やフィールド整備に関する基礎知識等を習得することができる。
- ・仲間との集団生活を通して社会性を身につけることができる。
- ・理論と実践力を備えた小学校教員になることをめざす。

【授業計画】

- ・事前オリエンテーション：7月の予定
- ・学生ボランティアリーダー養成講座：8月中旬に実施の予定：2泊3日
- ・まとめ・報告会
- ・定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

体験活動に関する資料等を配布するので、実技に参加する前に熟読すること。また、青少年の体験活動に関する現状等についても予習しておく。

【成績の評価】

体験活動における活動状況（70％）および体験報告・レポート（30％）による。

【使用テキスト】

- ・体験のかぜをおこそう - 体験活動の企画と展開 - 田中壮一郎編（2012）・悠光堂
- ・体験・遊びナビゲーター 独立行政法人国立青少年教育振興機構（2013）・悠光堂

【参考文献】

その都度提示する。

科目名： 野外活動実習

担当教員： 植田 宗士(UETA Muneo), 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

子どもたちの成長にとって体験活動は大きな糧になります。国立青少年教育振興機構の調査研究でも、体験活動を通じて子どもたちの意欲・人間関係力・社会性などが高まることが報告されています。

この授業では、将来、小学校教員をめざす者を対象に「屋島チャレンジヴィレッジ」において9月上旬～中旬実施予定の「子どもチャレンジキャンプ」＜2泊3日＞・11月上旬～中旬実施予定の親子自然体験「森のまつり」＜日帰り3日間＞の運営・サポートを行います。

なお、実習代金（保険代・食事代等実費額）は個人負担とします。

詳細は、7月上旬に掲示する。

この実習は「野外活動実習」を受講した学生に限ります。

【到達目標】

- ・子どもたちと活動フィールドの整備や野外炊飯など寝食を共にすることができる。
- ・子どもたちの様々な体験活動をサポートすることができる。
- ・親子の体験活動に関する技能と知識を身につけることができる。
- ・理論と実践力を備えた小学校教員になることをめざす。

【授業計画】

事前オリエンテーション： 未定

「子どもチャレンジキャンプ」：9月中旬に実施予定 3泊4日

親子自然体験「森の祭り」：11月に実施予定 日帰り3日間

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

野外活動実習に関する冊子を事前に配布するので、野外活動実習に参加する前に熟読すること。また、青少年の体験活動に関する現状等についても予習しておくこと。

【成績の評価】

体験活動における活動状況（70％）および体験報告・レポート（30％）による。

【使用テキスト】

田中壮一郎編 『体験の風をおこそう - 体験活動の企画と展開 - 』（悠光堂）2010年8月

【参考文献】

その都度、提示する。

科目名： 保育内容 - 表現
担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

幼稚園・保育園の保育の基本理念をふまえ、「子どもにとって表現とは何か」「保育における表現とは何か」さらには「人間にとって表現とは何か」を考察した上で、“動きのスケッチ”による表現の方法を身につけます。

この授業では、今までにみなさんが行ってきた“創作ダンス”とは一味違う身体運動を行います。踊ることが“キライ”という人、からだは“カタイ”という人、人前でパフォーマンスをするのは“ニガテ”という人...も安心して授業を受けてください。この授業をとおして、豊かな人間性を高め、保育実践力を身につけ、保育者としての素養を獲得します。

【到達目標】

1. 自分が見たこと、感じたこと、考えたこと、想像したことなどを自分の身体を媒体にして自由に伸び伸びと動きで表現することができる。
2. 子どもの身体表現の基礎的知識を理解し、実践できる。
3. 表現活動をとおして、豊かな心と創造力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 人間と表現の関係 《講義》
 - 第2回 子どもと表現の関係 《講義》
 - 第3回 保育の基本と表現（子どもにとって表現とは何か）《講義》
 - 第4回 保育の基本と表現（子どもの表現活動の実際）《講義》
 - 第5回 身体の部分を使ってのいろいろな動き 《実技》
 - 第6回 身体全体を使ってのいろいろな動き（2人組での動き）《実技》
 - 第7回 身体全体を使ってのいろいろな動き（音楽に合わせての動き）《実技》
 - 第8回 主題に対する表現（小さな動物）《実技》
 - 第9回 主題に対する表現（大きな動物）《実技》
 - 第10回 主題に対する表現（小さな乗り物）《実技》
 - 第11回 主題に対する表現（大きな乗り物）《実技》
 - 第12回 作品の分析（創作した作品を分析する）《講義》
 - 第13回 作品の分析（舞台作品を分析する）《講義》
 - 第14回 総括（子どもの生活における表現活動）
 - 第15回 総括（作品づくりのまとめ）、最終レポート
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業の終わりに、次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので、グループで予習しておいてください。

【成績の評価】

授業時間内での作品評価：70%

授業態度：20%

最終レポート：10%

* 全体の60%以上の得点で合格とします。

* 授業内で発表する作品の評価は、ビデオ等により振り返り、フィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

- 杉浦 とく他 『子どもの表現力を高める舞踊』（明治図書、1988年）
- 黒川 健一他 『表現』（ミネルヴァ書房、1990年）
- 高橋 和子他 『表現 - 風の卵がころがったとき - 』（不昧堂出版、1995年）

専門科目：子どもの知性の発達を促す科目

科目	掲載ページ
教育の方法及び技術	99
保育方法論	100
保育内容－言葉Ⅰ	101
保育内容－言葉Ⅱ	102
国語(書写を含む)	103
社会	104
算数	105
児童英語	106
生活	107
理科	108
子ども文化Ⅰ	109
子ども研究	110
保育内容－表現Ⅰ	111
図画工作Ⅰ－Ⅰ	112
図画工作Ⅰ－Ⅱ	113
図画工作Ⅱ－Ⅰ	114
図画工作Ⅱ－Ⅱ	115
特別活動の研究	116
保育原理Ⅱ	117
教育法規	118
家庭	119
保育内容－総合	120
在宅保育	121

科目名： 教育の方法及び技術
担当教員： 松下 文夫(MATSUSHITA Humio)

【授業の紹介】

現代は高度情報通信社会と言われるように、スマホやタブレット型情報端末等に代表される各種の情報メディアが開発され、容易に大量の情報生成、蓄積、流通等が可能になり、その普及は今やパソコンを凌駕する勢いです。このような社会で求められる能力は、インターネットや新しいICTを活用し、必要とする情報の選択、加工、創造、伝達等に関わる新しいコミュニケーション能力です。しかし、従来の一斉指導形態の授業では限界があります。そこで、授業は、学習者の「主体的で対話的な深い学び」を目標にアクティブラーニングの手法を用いて行います」。

この科目では、学習者の豊かな発想や興味・関心に対応できる学習形態の中で、経験、観察や調査、情報検索、映像やCGなどが活用できる自由度の高いメディアの選択とその構成、活用を可能とする教育の方法と技術が修得できることをめざします。

【到達目標】

1. 教育実践に必要な教育の方法に関する基礎的・基本的な知識の理解、技術の習得ができる。
2. 新しい学力観に対応した教授学習システムを設計することができる。
3. 情報ネットや情報メディアなど、ICTを活用した教育技術の習得ができる。
4. アクティブラーニングの手法を通して、新しい教育の方法・技術の活用法を習得することで、教育者としての資質・力量の向上をめざす。

【授業計画】

- 第1回 良い授業（保育）の調査からみる教育方法・技術
 - 第2回 子どもの成長・発達における教育の役割
 - 第3回 小学校学習指導要領（幼稚園教育要領）と「生きる力」
 - 第4回 授業（保育）計画に伴う構成要素
 - 第5回 指導（保育）技術に関する構成要素
 - 第6回 教育（保育）目標と評価
 - 第7回 アクティブラーニング（遊びこむ保育）の有効性と限界
 - 第8回 ICTの特徴と教育（保育）利用の有効性
 - 第9回 ICTを活用した学習（保育）指導案の作成
 - 第10回 ICTによるマルチメディア教材の作成
 - 第11回 ICTを活用した学習（保育）の成果の記録
 - 第12回 情報社会の光と影・情報モラル
 - 第13回 ALによる幼・小教育の円滑な接続（1）指導内容・方法
 - 第14回 ALによる幼・小教育の円滑な接続（2）人的環境他
 - 第15回 教育の方法及び技術のまとめと展望等
- 定期試験

【授業時間外の学習】

配布された印刷物（資料）は、随時ファイリングし、授業での活用のほか、授業前の予習や授業後の復習や期末試験に向けたまとめなどにも利用しましょう。

【成績の評価】

課題別レポート(30%)、定期試験(70%)に基づいて評価します。レポートについては、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領（文部科学省、平成29年3月）
教育の方法と技術（田中俊也編、ナカニシヤ出版、平成29年10月）

【参考文献】

授業の中で適宜印刷物（資料）を配布します。

科目名： 保育方法論

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

幼稚園教育要領や保育所保育指針をふまえ、「環境を通して行う教育」という基本に基づいた保育方法の実際を理論的に学びます。授業は、講義を中心としますが、演習も取り入れ、今後の実習等保育実践に生かすことができるように進めていきます。そして、自己の課題に真摯に取り組みながら継続的学習を行うことで、豊かな人間性をはぐくんでいくことになります。

【到達目標】

- (1)保育方法に係る基本的理念の理解を通して保育者としての使命感・倫理観をもつことができる。
- (2)保育者の指導・援助について理解を深め、必要な知識・判断力を身に付けることができる。
- (3)遊びを充実させる環境構成や保育の展開を理解することができる。
- (4)さまざまな指導形態や指導方法を知り、その原理を理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・保育の基本と保育方法
 - 第2回 幼児理解とその方法
 - 第3回 環境の構成と保育の展開
 - 第4回 一人一人に応じる指導
 - 第5回 保育の質と評価
 - 第6回 遊びの指導
 - 第7回 生活の指導
 - 第8回 豊かな体験と園行事
 - 第9回 小学校との連携
 - 第10回 さまざまな指導形態
 - 第11回 「主体的・対話的で深い学び」と教材研究
 - 第12回 学び合い育ち合うクラスづくり
 - 第13回 児童文化財と保育
 - 第14回 園内外の環境を生かした保育
 - 第15回 保育者に求められる専門性
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読しておきます。

復習：授業内容を復習し、ノートに整理するなど理解を深めるよう努力します。

その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりします。

【成績の評価】

課題・ワークシートのまとめ（30％）、期末試験（70％）により評価し、単位を認定します。

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出します。

課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

神長美津子・津金美智子・田代幸代 編著「乳幼児 教育・保育シリーズ『保育方法論』」
(光生館、平成30年)

【参考文献】

随時紹介します。

科目名： 保育内容 - 言葉

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

保育計画、保育実践、保育評価、保育の改善・修正を、具体的保育場面において試みることができるように授業を進めます。その中で教室での学びを教育・保育の実践と関連付けて理解することをめざします。

【到達目標】

- ・保育場面におけるPDCAサイクルを理解することができる。
- ・言語習得過程を理解することができる。
- ・表出言語が発達する以前の理解言語の重要性を認識することができる。

【授業計画】

- 第1回 保育内容としての言葉と乳幼児の発達
 - 第2回 保育内容としての言葉のねらいと内容
 - 第3回 言葉の育ちと環境(1)文脈としての経験の意味
 - 第4回 言葉の育ちと環境(2)三項関係と経験の共有化
 - 第5回 言葉の育ちと環境(3)メタ言語能力、メタコミュニケーション
 - 第6回 身体言語の意味
 - 第7回 好奇心・疑問と言葉(内言)
 - 第8回 見立て遊びと言葉
 - 第9回 絵本の中の言葉
 - 第10回 保育者の専門性と言葉
 - 第11回 言葉と保育指導計画
 - 第12回 言葉と環境構成
 - 第13回 言葉と保育実践
 - 第14回 言葉と保育の評価
 - 第15回 総合的指導と言葉
- 定期試験

【授業時間外の学習】

新聞記事に記載してある、自分にとって興味をそそられる語句や表現を収集し、授業の導入の部分で発表してもらいます。

【成績の評価】

- レポート(10%)、期末試験(80%)、授業への参加度(10%)
- ・課題(試験やレポート等)に対して、研究室で個人的にフィードバックします。

【使用テキスト】

柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』(ミネルヴァ書房、2010年)

【参考文献】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)
幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
保育所保育方針(平成29年3月告示 文部科学省)

科目名： 保育内容 - 言葉

担当教員： 中塚 勝俊 (NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

- ・領域「言葉」のねらいや意義について理解し、具体的言語教材を構想、制作する中で文化的刺激と言葉の重要性について考えを深める。
- ・お遊戯会や生活発表会において、台本の制作や演劇指導の基本的スキルを習得する。
- ・教育・保育の実践の場で活躍する保育者の養成をめざします。

【到達目標】

- ・領域「言葉」のねらいや内容を児童文化財に見出し、保育計画の中に取り入れたらいいかかを考えることができる。
- ・絵本や劇活動などについて理解し、構想し、創作することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 保育の場とエピソードの意味
 - 第3回 領域「言葉」についての意義
 - 第4回 領域「言葉」のねらい
 - 第5回 環境構成と保育の意図性
 - 第6回 観察法と記録法の実践
 - 第7回 指導計画のなぜ
 - 第8回 保育の評価の意義と指導計画
 - 第9回 童話の中の言葉
 - 第10回 紙芝居と言葉
 - 第11回 パネルシアターと言葉
 - 第12回 パネルシアターの製作
 - 第13回 絵本の製作
 - 第14回 四季の行事と言葉 ひなまつり、こいのぼり等
 - 第15回 総合的指導とは
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・四季を描いた形容詞や表現、花鳥風月を表す語句を、授業の導入部において紹介してもらいます。

【成績の評価】

- レポート（10%）、期末試験（70%）、作品（20%）
- ・課題（試験やレポート等）は、個人的に研究室でフィードバックします。パネルシアターや絵本は授業時にコメントを付けて返却する。

【使用テキスト】

柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』（ミネルヴァ書房、2010年）2200円

【参考文献】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
保育所保育指針（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： 国語（書写を含む）
担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

○学生が自ら主体的に取り組む多様な授業形態の中で、宮沢賢治の各種作品や小学校・中学校の教科書に掲載されている様々な教材を読解、鑑賞し、小学校や幼稚園などで国語教育にあたるための理論や実践力、創造力を身に付けることをねらいとした授業です。
○また、書写については、毎授業冒頭で仮名の実践的な練習をします。

【到達目標】

- 1．学生が教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連付けて理解できる力を身につけます。
- 2．学生が幼稚園・小学校教育に携わる教員として必要な「国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てる」力をつけます。
- 3．学生が自ら資質向上に向けて継続的に学ぶ力を身につけます。

【授業計画】

第1回：学習指導要領と「国語」の意義について
第2回：宮沢賢治について・作品『やまなし』の読解
第3回：作品「やまなし」の読解
第4回：現代詩・短歌・俳句について・その読解
第5回：現代詩・短歌・俳句の読解
第6回：漢詩・和歌について・その読解
第7回：漢詩・和歌の読解
第8回：様々な表現技術について（1）（文章の構造の理解）
第9回：様々な表現技術について（2）（修辞法のいろいろ）
第10回：作品『よだかの星』の読解
第11回：作品『注文の多い料理店』の読解
第12回：アクティブラーニングについて
第13回：作品「なめとこ山の熊」読解（1）（基礎的・標準的な読解）
第14回：作品「なめとこ山の熊」読解（2）（様々な角度からの読解）
第15回：これまでの読解・表現・書写についての整理
なお、書写については毎時間の冒頭に練習します。
定期試験

【授業時間外の学習】

○学生が予習をして授業に臨むことができるよう、授業で使用する教材や資料をあらかじめ配布し、予習課題を明示します。

【成績の評価】

○下記の と を合わせて総合的に評価します。
定期試験の結果（70％）
予習課題の提出状況・授業に対する取り組み姿勢・毎時の思索や感想の文章化・授業記録（30％）

なお、定期試験の結果については、考査終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】

○保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）
○幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
○小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
○『やまなし』・『よだかの星』・『注文の多い料理店』・『なめとこ山の熊』（宮沢賢治著）
○自作資料集

【参考文献】

○必要があれば、授業中に適宜配布、紹介します。

科目名： 社会

担当教員： 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro)

【授業の紹介】

小学校の社会科は、児童の社会認識を育てることによって、平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うことを目標とする教科である。

本授業では、前半で、小学校社会科教育に関する基本的な考え方や社会科の内容構成について述べ、後半では、具体的な授業の場面を想定しながら、学習指導・授業実践論・評価等について述べる。また、今日の変化する社会の中で、教師がどのような姿勢で、教材観を養い、教材研究を進めるべきか考えたい。その中で、将来、小学校で授業を行う際の「理論」と「実践力」を養う。

【到達目標】

小学校社会科の歴史や社会科の目標・指導内容等について理解するとともに、児童の社会認識の発達段階に応じた適切な教材選びや指導方法の選択ができるようにする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・社会科の歴史 (P.7～P.22)
- 第2回 小学校社会科の目標 (P.22～P.26)
- 第3回 小学校社会科の内容構成・社会科と道德教育 (P.26～P.31)
- 第4回 小学校社会科の内容・地域学習と郷土学習 (P.32～P.41)
- 第5回 " ・地理的学習 (P.41～P.47)
- 第6回 " ・歴史的学習 (P.47～P.56)
- 第7回 " ・公民的学習と環境・国際理解の学習 (P.57～P.75)
- 第8回 小学校社会科の学習指導論・社会科の学習過程 (P.76～P.86)
- 第9回 " ・社会科の学習活動 (P.86～P.96)
- 第10回 小学校社会科の授業実践・中学年 (P.97～P.107)
- 第11回 " ・5年 (P.108～P.116)
- 第12回 " ・6年
- 第13回 教材研究のあり方
- 第14回 教材研究のあり方
- 第15回 小学校社会科の評価はどうあるべきか (P.126～P.136)

【授業時間外の学習】

毎回授業中に質問をするので、テキスト『初等社会科教育研究』の該当ページを予習し、自分なりの意見や感想をまとめておくこと。また、ユニットの区切りごとには小テストまたはレポートを行うので、ノートを取り授業の復習も怠らないようにしておくこと。本学図書館には、小学校社会科関係の参考図書が数多く所蔵されているので、積極的に利用すること。

【成績の評価】

授業への参加意欲や受講態度を重視するとともに、授業の中で行うリフレクションペーパーの作成や小テスト(50%)、期末試験(50%)とする。

小テスト、レポートについては、評価と解説を行い、授業の中で返却します。

試験については、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説・社会編』(東京書籍、2008年、208円) 安野功著『社会科・授業力向上5つの戦略』(東洋館出版社、2006年、2,268円) 『新編新しい社会』3・4年～6年の上・下(東京書籍、2009年、2,706円)。

【参考文献】

必要に応じて授業の中で適宜紹介する。

科目名： 算数

担当教員： 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

あなたが考え、あなたが解決する時間です。生活に密着している算数から論理的思考へと広がっていく数学の世界をいろいろな領域で調べていきます。また、問題を解決していく中で、古典的課題から現代数学までの様々な発想や方法を学びます。また、生活に密着している算数から論理的思考へと広がっていく数学の世界のおもしろさ、良さを体感し、算数の見方、考え方を認識していきます。そうすることから豊かな人間性を作っていく、主体的に生きる力を育てていきます。

【到達目標】

- ・算数のおもしろさ、良さを理解し、算数的見方、考え方を身に付けることができる。
- ・算数科の学習評価の考え方が理解できる。
- ・算数科と背景になる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
- ・算数教育に必要な知識を体系的に理解し、実線と関係づけて理解できる。

【授業計画】

- 第1回：江戸時代の和算
- 第2回：算数教育の流れ
- 第3回：数の世界(計算の約束)
- 第4回：昔からの計算(過不足算等)
- 第5回：大小関係(そろえる)
- 第6回：図形の特徴 (内角の和、外角の和)
- 第7回：図形の特徴 (ピタゴラスの定理)
- 第8回：図形の特徴 (等積変形)
- 第9回：集合(仲間分け)
- 第10回：数量関係(比例・反比例)
- 第11回：資料の平均
- 第12回：単位と測定
- 第13回：場合の数
- 第14回：統計
- 第15回：全国学力学習状況調査

【授業時間外の学習】

予習として、学習指導要領の領域ごとの内容のまとめ作業を課題として指示し、復習として授業プリントからの資料収集を行う。

【成績の評価】

受講態度(10%) 演習(10%) レポート(10%) 期末試験(70%)

- ・小テスト及び演習を行うことで内容把握を細かく行う。
- ・レポートについてはコメントを作成して、状況認識を図る。
- ・期末試験は答案用紙にコメントで今後の対策について書くとともに、正解記入を行い間違いが分かるようにして学生に返却する。

【使用テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

なし

科目名： 児童英語

担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

平成32年度から小学校3,4年生には外国語活動が導入され,5,6年生では英語が教科として新設されることになる。こういう状況のなか、小学校や幼稚園の教師になろうとする人たちは、英語圏の子どもたちが使っている「生きている」英語はどのようなものかを、読んだり、聞いたりして体験しておくことは、非常に大切なことと思える。この授業では、音声、文字、絵を媒体とした「子どもの英語」をとりあげ、さらに、児童英語教育に必要な基本的知識や指導方法を紹介する。

【到達目標】

英語圏や日本で出版された英語の絵本や紙芝居に触れ、

1. その中の一冊の英語をしっかりと理解し、読み聞かせが上手にできるようになる
2. 英語で書かれた物語を読んだり聞いたりして、それらを子供たちにとって分かりやすい日本語に直し、伝えることができるようになる
3. 教室英語の基本的なものを理解し、使えるようになる
4. さらに、子どもに対し英語を指導する際、知っておく必要がある知識・技能を獲得する。

【授業計画】

- 第1回：授業概要の説明と各自担当の物語の決定
 - 第2回：読み聞かせの実際（DVD鑑賞）、読み聞かせ・翻訳の練習
 - 第3回：「児童英語教育の目指すもの」と読み聞かせ・翻訳の練習
 - 第4回：「日本における現状と課題」と読み聞かせ・翻訳の練習
 - 第5回：「国際理解教育と英語の役割」と読み聞かせ・翻訳の練習
 - 第6回：「子どもの言語獲得と言語習得」と読み聞かせ・翻訳の練習
 - 第7回：「言語心理学からの知見」と読み聞かせ・翻訳の練習
 - 第8回：「子どもに対する代表的な英語指導法（1）」と読み聞かせ・翻訳の練習
 - 第9回：「子どもに対する代表的な英語指導法（2）」と読み聞かせ・翻訳の練習
 - 第10回：「子どもに対する代表的な英語指導法（3）」と読み聞かせ・翻訳の練習
 - 第11回：「基本的なクラスルーム・イングリッシュ（1）」と読み聞かせ・翻訳の練習
 - 第12回：「基本的なクラスルーム・イングリッシュ（2）」と読み聞かせ・翻訳の練習
 - 第13回：「子どもが好きな英語の歌（1）」と読み聞かせ・翻訳の練習
 - 第14回：「子どもが好きな英語の歌（2）」と読み聞かせ・翻訳の練習
 - 第15回：読み聞かせの最終発表
- 定期試験

【授業時間外の学習】

英語絵本を読む、聞く、訳すための予習は自宅で必ず行い、英語の絵本の読み聞かせや紙芝居の実演のための準備は長期間にわたり少しずつなされることが求められる。

【成績の評価】

英語の絵本の発表30%、復習テスト20%、日本語訳20%、定期試験30%として、最終評価を行う。定期試験以外は、毎時間、それらが行われて直後、コメント、アドバイスをして、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

図書館に備え付けてある多くの英語の絵本の中から、自分にとって興味あるものを選び、読み聞かせの練習に使う。翻訳を求める物語は、随時こちらで用意する。

【参考文献】

「えいごよみきかせ絵本1」、「えいごよみきかせ絵本1」（ともに成美堂出版）

科目名： 生活

担当教員： 高橋 英弐(TAKAHASHI Eiji)

【授業の紹介】

自らの体験を基に、生活科学習に関する疑問、質問を出し合い、解決の視点づくりに取り組む。子どもたちの体験不足は、自らもまた同様であることに気づき、学内の空き地を活用した畑、ビオトープでの動植物の飼育栽培をする体験活動、おもちゃ作り、地域のフィールドワーク等に挑戦しながら、生活科教育の概要と現状を把握する。そこから、保こ幼と小の違いに目を向けて、「わかる」から「できる」へと実践力を高めていく。

【到達目標】

1. 生活科創設の歴史的背景を探り、生活科本来の目標を把握にするとともに、教科用図書を基に、価値ある体験活動の重視、個性重視、学・家・地域連携のあり方を理解できる。
2. 児童主体の生活科教育の理解を通して、教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を身に付けることができる。

【授業計画】

授業計画

- | | |
|------|------------------------|
| 第1回 | 学校現場の生活科教育の現状 |
| 第2回 | 生活科の創設と歴史的背景 |
| 第3回 | 生活科の役割と特色 |
| 第4回 | 生活科の目標と内容 |
| 第5回 | 1年生の内容と体験活動（アサガオ栽培） |
| 第6回 | 自然との関わり（昆虫採集、淡水魚の採集） |
| 第7回 | 体験活動と表現活動 |
| 第8回 | 2年生の内容と体験活動（野菜の栽培） |
| 第9回 | 地域のフィールドワーク（公共機関や土地利用） |
| 第10回 | 物作り（おもちゃ作り）と科学的な見方・考え方 |
| 第11回 | 安全教育とのかかわり |
| 第12回 | 身近な人々とのかかわり |
| 第13回 | 合科的指導の展開 |
| 第14回 | 幼児教育との連携（スタートカリキュラム） |
| 第15回 | 小学校教育における生活科の役割 |

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

日頃から、学内及び春日川周辺の植物に関心を持ち、「私の見つけた植物ノート」を作成する。百種類以上見つけることを目標に、植物名、科、特徴等を記載していく。

【成績の評価】

小テスト2回(60%)やレポート(20%)、授業への参加態度、水やり等日常活動(20%)等をもとに評価。小テスト、レポートについては、その都度、結果を授業時に説明、講評する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説生活編(平成29年3月告示 文部科学省)
教科用図書 あたらしいせいかつ上、新しい生活下(平成25年 東京書籍)

【参考文献】

小学校 生活 指導資料(平成2年 文部省)

科目名： 理科

担当教員： 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro)

【授業の紹介】

子どもたちの理科離れ、自然離れが指摘されています。本来、子どもは好奇心が強く、自然のいろいろな事物・現象に興味津々です。子どもたちが不思議に思う気持ちを大切に受け止め、驚きや感動を共有して、いっしょに調べ、考えていこうとする教師の姿勢が大切です。

また、今日の社会が目ざす方向を示す標語として、「持続可能な社会」という言葉が使われます。先人が築きあげ、大切に受け継いできた文化や自然が急速に失われつつあることへの警鐘です。

これらを考え合わせ、授業では、小学校理科で学習する内容の中から生物教材を中心に、観察、実験、栽培、飼育などの体験的な方法や技能を鍛えながら、自然認識の形成と自然環境の保全について考え、学んでいきます。将来、小学校で授業を行う際の「理論」と「実践力」を養います。

【到達目標】

- (1)子どもたちの学びの場となる自然および自然の事物・現象についての基本的な知識を身につけることができる。
- (2)子どもに自然のすばらしさ、巧みさ、不思議さを気づかせる指導技術を養うことをめざす。
- (3)正しい自然認識を形成し、「持続可能な社会」の実現に向けた指導について、考えることができる。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 小学校理科の目標と生物教材の取り扱い |
| 第3回 | 環境教育の考え方 |
| 第4回 | 環境教育の実践・ビオトープ |
| 第5回 | 春の自然観察・春日川と野鳥 |
| 第6回 | 春の自然観察・学内の生き物 |
| 第7回 | 栽培の方法 |
| 第8回 | 飼育の方法 |
| 第9回 | 観察と記録の方法 |
| 第10回 | 観察と記録の演習 |
| 第11回 | 動物の誕生・メダカ |
| 第12回 | 花から実へ・植物の成長 |
| 第13回 | 教材研究と授業計画 |
| 第14回 | 指導案作成 |
| 第15回 | 模擬授業 |

【授業時間外の学習】

- ・『小学校指導要領解説 理科編』と配付資料を読んで授業に臨むこと。
- ・ワークシートを完成させて、提出すること。
- ・飼育、栽培している動植物の世話と観察を継続的に行うこと。

【成績の評価】

レポート、模擬授業など授業の成果と筆記試験をそれぞれ50%で評価する。
小テスト、レポートについては、評価と解説を行い、授業の中で返却します。
試験については、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

文部科学省編 『小学校学習指導要領解説 理科編』（大日本図書、2008年）65円
文部科学省『小学校理科の観察、実験の手引き』（文部科学省ホームページからダウンロード）

【参考文献】

日本自然保護協会／編集・監修『自然観察ハンドブック』（平凡社、1994年）2160円

科目名： 子ども文化

担当教員： 藤澤 典子(FUZISAWA Noriko)

【授業の紹介】

子どもは、子どもを取り巻く文化の中で育っていきます。伝承や文学、芸術などの文化財について学ぶと共に、子どもと関わる人たちの行動の仕方やものの見方・考え方についても理解していきます。伝承遊びや読み聞かせなど具体的な活動を通して、幅広い教養と実践的能力を身に付けていきます。

【到達目標】

- 1．子ども文化が子どもの感性や心の育ちに与える影響について理解することができる。
- 2．子どもの生活や遊びを豊かにする文化について理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 子ども文化とは
 - 第2回 子ども観の変遷・時代と子ども観
 - 第3回 子どもの生活と遊び（子どもの遊び）
 - 第4回 子どもの生活と遊び（子どもの遊びの変化）
 - 第5回 子どもの生活と遊び（伝承遊びなど）
 - 第6回 子どもの生活と遊び（子どもに伝えたい歌）
 - 第7回 子どもの生活と遊び（子どもに伝えたい伝承遊び）
 - 第8回 子どもの生活と文化（子どもの健康とゲーム）
 - 第9回 子どもの生活と文化（子どもと食事）
 - 第10回 子どもの生活と文化（生活の変容と世代文化）
 - 第11回 子どもと文学（絵本の力）
 - 第12回 子どもと文学（読み聞かせ）
 - 第13回 子どもと文学（素話）
 - 第14回 子どもの絵
 - 第15回 子ども文化を伝承すること、創ること
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・実習園、図書館、美術館、街で子ども文化を見つける。
- ・授業の振り返りやまとめから、新たな疑問や気付き等を記録する。

【成績の評価】

関心・態度（20％）ワークシート等への記入や提出（40％）定期試験（40％）
授業の振り返りやレポートは添削して返したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】

皆川美恵子編著「新版 児童文化」（ななみ書房2,016年）

【参考文献】

適時紹介

科目名： 子ども研究
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

幼児期にふさわしい保育を行う際に必要なことは、幼児一人一人の特性を的確に把握し、理解することです。そのため、本授業では、幼児理解の意義と重要性を理解し、それらを保育実践と結びつけて考察する力を身に付けることをめざします。また、文献や観察記録、映像視聴など様々な演習方法を通して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について学ぶとともに、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付けていきます。そして、幼児の育ちを支えるために必要な保育の実践力及び豊かな人間性を養うことをめざします。

【到達目標】

1. 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。
 - (1) 幼児の生活及び遊びの実態に即した幼児理解の意義が理解できる。
 - (2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解することができる。
 - (3) 幼児理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解することができる。
2. 幼児理解の方法を具体的に理解する。
 - (1) 観察や記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。
 - (2) 個と集団の関係を捉える意義や方法が理解できる。
 - (3) 幼児の発達や学びの過程で生じるつまずきやその要因を周りの幼児との関係やその他の背景から捉える原理及び方法を示すことができる。
 - (4) 保護者の心情や基礎的な対応の方法が理解できる。

【授業計画】

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 幼児理解の必要性 |
| 第2回 | 保育における「幼児理解」 子どもを見る目 |
| 第3回 | 幼児の発達や学びの理解 |
| 第4回 | 幼児の遊びと幼児理解 |
| 第5回 | 幼児理解を深める保育者の姿勢 |
| 第6回 | 幼児理解に向けて～個と集団 |
| 第7回 | 保育における「理解」と「援助」 |
| 第8回 | 幼児理解と保育者の意図 |
| 第9回 | 幼児理解の様々な方法 |
| 第10回 | 幼児理解を深める「観察と記録」 |
| 第11回 | 幼児のつまずきの理解とその対応 |
| 第12回 | 気になる行動への保育者の対応 |
| 第13回 | 子育て支援における幼児理解 |
| 第14回 | 保護者への対応のロールプレイ |
| 第15回 | 幼児の学びのつながり 園内の協力体制と関係機関との連携 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

幼児理解を深めるに当たり、実習における記録等を振り返ることがありますので、観察記録・日誌などをしっかり読み返しておくことが求められます。また、毎回のワークシートの内容を復習するとともに、紹介した文献や資料等を読み、学びを深めるようにしましょう。

【成績の評価】

課題およびワークシートの取組みと内容（40％）、期末試験（60％）により評価します。
ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出します。
課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

随時、資料を配布します。

【参考文献】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)
幼保連携型こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： 保育内容 - 表現

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

人間には本来創造力が備わっている。子どもの「あそび」はそのことを強く感じさせてくれる。造形活動は、人間のそのような根源的な力をありありと見せてくれるものであり、その力を伸ばす働きをもっている。「形の展開と表現」、「空想による表現」、「切り紙による模様の表現」、「しかけの表現」の「造形あそび」によって、子どもが持っているありのままの姿を素直に表せる感性を高めることや、表現という力を育てるために必要な知識や技能を修得し、豊かな心と創造力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. 子どもの自己表現や意欲を受け入れる感性を身に付けることができる。
2. 子どもの発達段階における造形表現とその特徴を理解することができる。
3. 「造形あそび」を体験することによって、さまざまな表現のあり方を修得することができる。
4. 豊かな感性や人間性を育み、子どもたちの「あそび」から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける保育者をめざす。

【授業計画】

- 第1回 「表現」とは何か。「遊び」「造形」とは何か。
 - 第2回 ユニットを考える。
 - 第3回 ユニットの形を展開する。
 - 第4回 ユニットの色面をつくる。
 - 第5回 お話をつくる。
 - 第6回 お話を絵にする。(スケッチ、彩色)
 - 第7回 お話を絵にする。(彩色)
 - 第8回 お話を絵にする。(彩色、仕上げ)
 - 第9回 イメージしたものを、色紙を使って形にする。(試作)
 - 第10回 イメージしたものを、色紙を使って形にする。(造形)
 - 第11回 一枚の紙に形と色で表現する。(スケッチ)
 - 第12回 一枚の紙に形と色で表現する。(カッティング)
 - 第13回 一枚の紙に形と色で表現する。(彩色)
 - 第14回 一枚の紙に形と色で表現する。(彩色、仕上げ)
 - 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

「色彩表現」・「お話」・「立体表現」の構想。「イメージ表現」のアイディア。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

大場 牧夫著『表現原論』(萌文書林、2005年)、1,728円
大原まゆみ著『美しい切り紙』(永岡書店、2007年)、1,296円
菊地 清著『紙ワザ工房』(日貿出版社、2007年)、1,620円

科目名： 図画工作 -
担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

子どもの教育・保育にあたる人にとって造形とは、「美」にふれることを教えることである。子どもが本来持っている素直で自由な表現力を高めるためには、日々の生活の中から育まれる「美」への発見を喜びに結ばせ、楽しく自由な表現活動を行うことが重要である。素描、水彩画、平面構成、ペーパークラフトを通して、造形活動に必要な基礎的知識と技能を修得し、豊かな心と創造力を身に付けることによって子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

- 1．自然の中における色や形を考えることによって、「美」の発見と造形表現のイメージをもつことができる。
- 2．各種の造形表現によって、基礎的な造形力を身に付けることができる。
- 3．構想する力によって、創造性を養うことができる。
- 4．表現することの喜びを得ることによって、豊かな感性を磨くことを目指す。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 鉛筆デッサン（形の把握）
- 第3回 鉛筆デッサン（光の表し方 - 陰影）
- 第4回 水彩画（モチーフの配置、下絵）
- 第5回 水彩画（下絵、彩色）
- 第6回 水彩画（彩色）
- 第7回 水彩画（彩色、仕上げ）
- 第8回 平面構成（アイディアスケッチ）
- 第9回 平面構成（レイアウト）
- 第10回 平面構成（配色）
- 第11回 平面構成（配色と調整）
- 第12回 平面構成（配色と調整、仕上げ）
- 第13回 ペーパークラフト（平行対折りなど基本の折り方）
- 第14回 ペーパークラフト（色彩表現）
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。

【授業時間外の学習】

身近なモチーフを使った鉛筆デッサン。「イメージ表現」のアイディア。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80％）、授業態度・意欲・準備物（20％）
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 菊地 清著『紙ワザ工房』（日貿出版社、2007年）、1,620円
- タンタン著『切り絵工房花編』（高橋書店、2006年）、1,080円
- 飯島 武著『紙でつくる動物たち』（雄鶏社、2007年）、1,404円

科目名： 図画工作 -
担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

子どもの教育・保育にあたる人にとって造形とは、「美」にふれることを教えることである。子どもが本来持っている素直で自由な表現力を高めるために、日々の生活の中から育まれる「美」への発見を喜びに結ばせ、楽しく自由な表現活動を行うことが重要である。平面デザイン、立体構成、貼り絵、粘土造形を通して、造形活動に必要な基礎的知識と技能を修得し、豊かな心と創造力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

- 1．自然の中における色や形を考えることによって、「美」の発見と造形表現のイメージをもつことができる。
- 2．各種の造形表現によって、基礎的な造形力を身に付けることができる。
- 3．構想する力によって、創造性を養うことができる。
- 4．表現することの喜びを得ることによって、豊かな感性を磨くことを目指す。

【授業計画】

- 第1回 感ずる心と創造
- 第2回 デザイン（アイディアスケッチ）
- 第3回 デザイン（レイアウト、着色）
- 第4回 デザイン（着色）
- 第5回 デザイン（着色、仕上げ）
- 第6回 ペーパークラフト（試作）
- 第7回 ペーパークラフト（カッティングと立体制作）
- 第8回 貼り絵（アイディアスケッチ、構図を考える）
- 第9回 貼り絵（配色を考える）
- 第10回 貼り絵（色の集合体を表現する）
- 第11回 貼り絵（色のバランス、調整）
- 第12回 貼り絵（色の調整と修正、仕上げ）
- 第13回 粘土造形（成形）
- 第14回 粘土造形（彩色、仕上げ）
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。

【授業時間外の学習】

「デザイン」・「ペーパークラフト」の構想。「貼り絵」の資料収集。「粘土造形」の構想。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80％）、授業態度・意欲・準備物（20％）
課題についてはその都度チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

菊地 清著『紙ワザ工房』（日貿出版社、2007年）、1,620円
中山ゆかり著『ペーパークラフトどうぶつえん』（MPC、2007年）、2,160円

科目名： 図画工作 -
担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

造形は、人間が独創的で積極的に創造活動を行うことができるものである。創作へのイメージや構想は多くの人がもてるものである。しかし、これが不定形なものでは創造とはいえない。これを表現という手段で実体化し、自己のイメージと一致したときにはじめて創造の喜びが生まれる。素描、水彩画、色鉛筆画、切り絵などによって造形に必要な基礎的能力や美的感覚を養い、創作活動の枠を広げた技能を修得し豊かな心と創造力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

- 1．素描の仕方、形の取り方、構成の仕方、彩色方法など造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
- 2．絵画などの創造活動によって、美的体験を豊かにすることができる。
- 3．造形表現力や作品鑑賞力によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
- 4．観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

【授業計画】

- 第1回 表現力について
- 第2回 静物による素描（形、明暗、材質、空間の把握）
- 第3回 静物による素描（ヴァルールの表現）
- 第4回 切り絵（ラフスケッチ、試作、下絵）
- 第5回 切り絵（細部のカッティング）
- 第6回 切り絵（細部と大きい部分のカッティング）
- 第7回 切り絵（カッティング、修正、仕上げ）
- 第8回 色鉛筆による描画（作品鑑賞、アイディアスケッチ）
- 第9回 色鉛筆による描画（レイアウト、配色、着色）
- 第10回 色鉛筆による描画（着色）
- 第11回 色鉛筆による描画（着色、仕上げ）
- 第12回 水彩画（モチーフの配置と構図のとり方、スケッチ）
- 第13回 水彩画（彩色）
- 第14回 水彩画（彩色、仕上げ）
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。

【授業時間外の学習】

静物のデッサン。参考作品の調査と分析。「色鉛筆画」・「切り絵」の構想。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80％）、授業態度・意欲・準備物（20％）
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

永守基樹、清原知二著『幼児造形教育の基礎知識』（建帛社、1999年）、2,700円
『アートテクニック大百科』（美術出版社、1996年）、6,090円

科目名： 図画工作 -
担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

造形は、人間が最も独創的で積極的に創造活動を行うものである。創作へのイメージや構想は多くの人のもてるものである。しかし、これが不定形なものでは創造とはいえない。これを表現という手段で実体化し、自己のイメージと一致したときにはじめて創造の喜びが生まれる。絵本の制作を中心に、平面デザインや立体デザインなどによって造形に必要な基礎的能力や美的感覚を養い、創作活動の枠を広げた技能を修得し、豊かな心と創造力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

- 1．素描の仕方、形の取り方、構成の仕方、彩色方法など造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
- 2．デザインなどの創造活動によって、美的体験を豊かにすることができる。
- 3．造形表現力や作品鑑賞力によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
- 4．観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

【授業計画】

- 第1回 保育の絵本、絵本作家の作品鑑賞
- 第2回 題材を決める。あら筋を考える。ストーリーの整理。ページ割り
- 第3回 絵本のためのイラスト（ラフスケッチ、下絵）
- 第4回 絵本のためのイラスト（着色）
- 第5回 絵本のためのイラスト（着色、仕上げ）
- 第6回 絵本のしかけ（ポップアップの試作）
- 第7回 絵本のしかけ（ポップアップの制作）
- 第8回 絵本のしかけ（ポップアップの制作、彩色）
- 第9回 レタリングの基本
- 第10回 レタリングの制作
- 第11回 デザイン（アイディアスケッチ）
- 第12回 デザイン（レイアウト、配色）
- 第13回 デザイン（着色）
- 第14回 デザイン（着色、仕上げ）
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。

【授業時間外の学習】

絵本の調査・分析。「イラスト」の構想。「しかけ」の構想。「デザイン」の構想。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80％）、授業態度・意欲・準備物（20％）
課題は中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

井上共子編著『保育の絵本研究』（三晃書房、1986年）、1,836円

科目名： 特別活動の研究

担当教員： 七條 正典(SHICHIJO Masanori)

【授業の紹介】

学校における多様な集団活動を通して課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる活動の総体である特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」「チームとしての学校」の視点から、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【到達目標】

学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。
教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解している。
学級活動・ホームルーム活動の特質を理解している。
児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。
教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解している。
特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解している。
合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。
特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。

【授業計画】

第1回：特別活動の意義・目標・内容と教育課程における位置づけ
第2回：特別活動の歴史的変遷
第3回：特別活動と生徒指導
第4回：特別活動と学級経営
第5回：学級活動の意義・目標・内容
第6回：児童会活動の意義・目標・内容
第7回：クラブ活動の意義・目標・内容
第8回：学校行事の意義・目標・内容
第9回：特別活動の指導の在り方 - 小学校の事例（学級活動を中心に） -
第10回：特別活動の指導の在り方 - 小学校の事例（児童会・クラブ活動を中心に） -
第11回：特別活動の指導の在り方 - 小学校の事例（学校行事を中心に） -
第12回：学級活動の指導の実際（模擬体験）
第13回：児童会活動の指導の実際（模擬体験）
第14回：学校行事の指導の実際（模擬体験）
第15回：これからの特別活動
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

前時に指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと。

【成績の評価】

小レポート（30%）および学期末の最終レポート（70%）による。
なお、定期試験の結果については、オフィスアワーの際に解説する。また、小レポートは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

授業中に適宜資料を配布する。

【参考文献】

「小学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成29年6月 文部科学省）
「中学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成29年7月 文部科学省）

科目名： 保育原理

担当教員： 相馬 宗胤(SOMA Munetane)

【授業の紹介】

本科目は、保育原理 を履修し、単位認定されている学生を対象としています。保育原理 で学習した事項を振り返りつつ、保育の重要概念に焦点を当てて探究することで、保育に対する理解を理論的に深めていきます。授業では、概念についての講義、課題文章について授業時間外で書いたエッセーの振り返り、そして特定テーマについてのディスカッションを行います。最終的に、受講生はそれぞれ自分なりの保育理念を執筆していきます。

なお、授業内容について、以下の授業計画で挙げたものを基本としますが、受講生の関心や卒業論文のテーマに応じて、柔軟に設計します。

【到達目標】

- 1．保育に関わる概念について考察することを通して、保育実践の奥深さを知ると同時に、保育者として持つべき使命感・倫理観について考えを深めることができる。
- 2．ディスカッションにおいて、他者を尊重することができる。また、他者が持っている様々な意見や物の見方を知ること、自分自身の保育理念について考えることができる。
- 3．保育に関わる概念について理論的に理解し、保育実践について多角的に考えることができる。
- 4．保育実践を行うにあたっての、自分なりの保育理念を持つことができる。

【授業計画】

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | 本授業の進め方を理解する、保育という概念（１）なぜ概念にこだわるのか |
| 第2回 | 保育という概念（２）「保育」と「教育」「養護」 |
| 第3回 | 「遊び」をめぐる議論から保育を再考する。 |
| 第4回 | 「遊び」について書いたエッセーをレビューする。 |
| 第5回 | 「遊び」をテーマにディスカッションを行い、考えを深める。 |
| 第6回 | 「メディア」をめぐる議論から保育を再考する。 |
| 第7回 | 「メディア」について書いたエッセーをレビューする。 |
| 第8回 | 「メディア」をテーマにディスカッションを行い、考えを深める。 |
| 第9回 | 「物語」をめぐる議論から保育を再考する。 |
| 第10回 | 「物語」について書いたエッセーをレビューする。 |
| 第11回 | 「物語」をテーマにディスカッションを行い、考えを深める。 |
| 第12回 | 「理論と実践」をめぐる議論から保育を再考する。 |
| 第13回 | 「理論と実践」をテーマにディスカッションを行い、考えを深める。 |
| 第14回 | これまでの授業をまとめ、自らの保育理念を考える。 |
| 第15回 | フィードバックを踏まえて、自らの保育理念を深める。 |
- 定期試験は行いません。

【授業時間外の学習】

課題文章を指定した場合は、授業が始まる前までにそれを読んでおくこと。またエッセーや保育理念の執筆を数回求めるので、授業時間外を使って執筆すること。

【成績の評価】

課題エッセーの完成度（30%）、授業への参加度（30%）、最終レポート（40%）

すべての課題エッセーと最終レポートを提出していることが、評価の条件です。エッセーと最終レポートへのフィードバックは、各授業内で行います。

なお、「授業への参加度」とは、出席数のことではなく、授業に出席した上で、授業内活動にどれだけ参加し、貢献しているかを教員が判断し、評価したものです。

【使用テキスト】

テキストは指定しません。資料は適宜配布します。

【参考文献】

- ・日本保育学会編『保育学講座1 保育学とは 問いと成り立ち』東京大学出版会、2016年。
- ・小笠原道雄編『教育的思考の作法3 進化する子ども学』福村出版、2009年。

科目名： 教育法規

担当教員： 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

子どもや子育てに関する問題が目まぐるしく起こっており、これまで見られなかった複雑な判断が求められることもある教育や保育の現場において、法規についての基礎的理解が欠かせません。教育法規の意義は何か、学校教育に関してどのような法律がどのように定められているか、子育て支援など保育に關係する法規はどのように定められているのだろうか、等々について質疑応答しながら検討します。小学校、幼稚園・保育所などの採用試験対策としての問題解説も行います。

【到達目標】

1. 教育・保育の法規の意義、教育・保育に関する基本的な法規の内容、教育・保育の諸問題についての法的な関わりなどを理解し、説明できる。
2. 教育・保育の法規そのものに対する知識や理論を獲得するとともに、具体的な事例や判例を学ぶことによって、教師（保育士）に求められる実践的な判断ができる。
3. 小学校や幼稚園・保育所等の採用試験に出る法規の問題を解くことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 教育法規の意義
 - 第3回 憲法の教育規定
 - 第4回 教育基本法と教育・保育
 - 第5回 行政と教育・保育関連法規
 - 第6回 生涯学習と教育法規
 - 第7回 学校（園）と教育法規
 - 第8回 これまでのまとめ
 - 第9回 教育課程と教育法規
 - 第10回 学校（園）経営と教育法規
 - 第11回 教職員と法規
 - 第12回 幼児・児童の人権と法規
 - 第13回 家庭教育と法規
 - 第14回 現代社会と教育法規
 - 第15回 教育法規改革の動向
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎回、前回についてのパーフェクトをめざす小テストを行うので、各回に学んだことを、次回までに復習することが必要である。

【成績の評価】

質疑応答状況（20%）、小テスト（80%）を総合して評価する。
毎回、小テストの解答を示す。

【使用テキスト】

使用しない。適宜資料を配付する。

【参考文献】

- ・仙波克也・榊達雄〔編著〕『現代教育法制の構造と課題』（コレール社、2010年）
- ・解説教育六法編修委員会編『解説教育六法 2018 平成30年版』（三省堂、2018年）
- ・ミネルヴァ書房編集部編『保育小六法 2018〔平成30年版〕』（ミネルヴァ書房、2018年）

科目名： 家庭

担当教員： 中村 真由美 (NAKAMURA Mayumi)

【授業の紹介】

この授業ではまず、小学校の家庭科の学習内容について学びます。そして、演習や実験、実習などの実践的な活動を中心に、小学校で家庭科の授業を行うために必要な家庭科の学習内容についての知識と基礎的な技能を習得します。また、そのような実践的な活動を通して小学校家庭科の教材についての認識を深め、教材研究をする力を培います。

被服製作実習では裁縫道具及び布地などの資材、調理実習では白衣またはエプロン、三角巾、布巾などの準備が必要です。また、共通で使用するものの材料費として受講生全員から実習費を徴収します。

「家庭科指導法研究」を履修する予定の学生は、受講するようにして下さい。

【到達目標】

小学校の家庭科の学習内容を自分の言葉で説明する事ができる。

小学校の家庭科の授業を行うために必要な知識や基礎的な技能を習得する。

小学校の家庭科の教材研究ができる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス（授業のねらいと進め方について）
- 第2回 「A家庭生活と家族」自立について
- 第3回 「A家庭生活と家族」生活リズムについて
- 第4回 「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」エコ掃除について 指あみのエコたわしの製作
- 第5回 「B衣食住の生活」衣生活分野 被服製作の基礎知識
- 第6回 「B衣食住の生活」衣生活分野 手縫いの基礎とボタンつけ
- 第7回 「B衣食住の生活」衣生活分野 ミシン縫いの基礎
- 第8回 「B衣食住の生活」衣生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」型紙の製作
- 第9回 「B衣食住の生活」衣生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」裁断・印つけ
- 第10回 「B衣食住の生活」衣生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」本縫い
- 第11回 「B衣食住の生活」衣生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」本縫い
- 第12回 「B衣食住の生活」衣生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」本縫い
- 第13回 「B衣食住の生活」衣生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」本縫い
- 第14回 「B衣食住の生活」衣生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」本縫い
- 第15回 「B衣食住の生活」食生活分野 毎日何を食べているのか
- 第16回 「B衣食住の生活」食生活分野 何をどう食べるのか
- 第17回 「B衣食住の生活」食生活分野 調理の基礎
- 第18回 「B衣食住の生活」食生活分野 鍋でご飯を炊いてみよう 味噌玉作り
- 第19回、第20回 「B衣食住の生活」食生活分野 ご飯と味噌汁 茹でる料理
- 第21回、第22回 「B衣食住の生活」食生活分野 ご飯と味噌汁 炒める料理
- 第23回 「B衣食住の生活」食生活分野 アレルギー対応のお菓子 清涼飲料水を作ってみよう
- 第24回 「B衣食住の生活」住生活分野 調理室のエコ掃除
- 第25回、第26回 「B衣食住の生活」食生活分野 1食分の献立の立案と調理
- 第27回、第28回 「B衣食住の生活」食生活分野 郷土料理について
- 第29回 教材発表
- 第30回 これまでの講義の要点の確認と質疑応答

【授業時間外の学習】

授業、演習、実験及び実習形式中心に進めていきますので、予習や授業に必要なものの準備や、授業後のレポート等提出物の課題に取り組む必要があります。家庭科の指導においては、まず教師自身が基礎的・基本的な知識と技能を習得し、生活面で自立していることが必要とされます。授業の予習、復習だけでなく、各自が日常生活を科学的な視点から改めて見つめなおし、主体的に生活することを心がけてください。

【成績の評価】

授業態度及び意欲（10%）、演習、実験、実習などの準備（10%）、提出物の提出状況や提出内容（60%）、教材作成や発表内容（20%）で評価します。レポート等の課題については授業時間内またはオフィスアワーに解説します。なお、提出物の提出期限後の提出及び未提出、事前連絡なしの遅刻、欠席は減点とします。

【使用テキスト】

- ・『小学校学習指導要領解説 家庭編』、文部科学省、東洋館出版社、2017年、165円（税別）
- ・『新編 新しい家庭5・6』、東京書籍、274円（内税）
- ・『新編 新しい家庭5・6 家庭科ノート上』、東京書籍、324円（税別）

【参考文献】

講義の中で説明します。

科目名： 保育内容 - 総合

担当教員： 藤澤 典子(FUZISAWA Noriko)

【授業の紹介】

保育の基準である「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み解きながら、幼児の自発的な活動を通しての総合的な指導の在り方を学んでいきます。また、事例研修を通して、幼児を理解する目を養っていき、実態に応じてカリキュラム・マネジメントできる豊かな保育実践的能力を培っていきます。

【到達目標】

1. 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容を理解できる。
2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児理解に根ざした保育を構想する力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・保育の基本とその内容
 - 第2回 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における教育・保育の内容の考え方
 - 第3回 遊びを通した総合的な指導
 - 第4回 保育内容の変遷
 - 第5回 幼児教育と小学校教育の接続（アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム）
 - 第6回 幼児理解に基づく保育の展開
 - 第7回 指導計画作成の考え方と作成の実際
 - 第8回 指導計画の評価・改善と保育者の役割
 - 第9回 物や人との関わりを深める環境の構成と教材研究
 - 第10回 保育記録を書くことの意義と実際
 - 第11回 模擬保育の実際
 - 第12回 幼児理解に基づく保育の展開（事例研修）
 - 第13回 遊びと幼児理解（事例研修）
 - 第14回 幼児理解を深める保育者の基本的な姿勢（事例研修）
 - 第15回 保育内容の現状と課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・課題について関連する情報を次回の授業までに収集する。
- ・授業の振り返りやまとめから、新たな疑問や気づき等を記録する。

【成績の評価】

関心・態度（20％）ワークシート等への記入や提出（40％）定期試験（40％）
授業の振り返りやレポートは添削して返したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
神長美津子・堀越紀香・佐々木晃編著「乳幼児 教育・保育シリーズ『保育内容総論』」光生館（2018年2月発行予定）

【参考文献】

適時紹介

科目名： 在宅保育

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

保育形態の1つに、子どもの家庭に保育者が訪問して保育をおこなう家庭訪問保育があります。本科目では、保育制度における家庭訪問保育の独自性について施設保育との比較から学びます。さらに、家庭訪問保育に必要な基本姿勢や保育技術について実践的に学び、子育て支援社会を支えるために必要な「理論」と「実践力」を身につけます。

【到達目標】

- ・家庭訪問保育の社会的役割について説明できる。
- ・子どものより良い生活と遊びを支えるための保育者の配慮・環境構成について説明できる。
- ・子育てに関する基本的知識を持ち、他者にわかりやすく伝えることができる。
- ・家庭訪問保育に必要な基本的姿勢について考え、話し合うことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 居宅訪問型保育の概要
- 第3回 乳幼児の生活と遊び
- 第4回 乳幼児の食事と栄養
- 第5回 小児保健
- 第6回 居宅訪問型保育の保育内容
- 第7回 居宅訪問型保育における環境整備
- 第8回 居宅訪問型保育の運営
- 第9回 安全の確保とリスクマネジメント
- 第10回 居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項
- 第11回 居宅訪問型保育における保護者への対応
- 第12回 子ども虐待
- 第13回 特別に配慮を要する子どもへの対応
- 第14回 実践演習（生活・遊び）
- 第15回 一般型家庭訪問保育の業務の流れ

定期試験なし

【授業時間外の学習】

現在の家庭での子育て、社会の子育て支援についてのレポートを課します。

【成績の評価】

授業シート40%、小テスト30%、レポート30%により、評価する。
授業シート、小テスト、レポートは添削して授業時に返却します。

【使用テキスト】

- ・公益社団法人全国保育サービス協会監修『家庭訪問保育の理論と実際 居宅訪問型保育基礎演習テキスト・一般型家庭訪問保育学習テキスト』（中央法規出版 2017年）

【参考文献】

- ・汐見稔幸・無藤隆監修『＜平成30年施行＞保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』（ミネルヴァ書房 2018年）
- ・社会福祉法人あすみ福祉会茶々保育園グループ編『新訂見る・考える・創りだす乳児保育 養成校と保育室をつなぐ理論と実践』（萌文書林 2014年）

専門科目：特別な支援を必要とする子育てを支えるための科目

科目	掲載ページ
社会的養護	123
社会的養護内容	124
特別支援教育総論	125
特別支援教育演習	126
知的障害児の心理	127
知的障害児の生理・病理	128
病弱児の心理・生理・病理	129
肢体不自由児の心理・生理・病理	130
障害児保育Ⅰ	131
障害児保育Ⅱ	132
障害児の教育課程と指導法	133
特別支援教育指導法研究	134
知的障害児教育	135
知的障害児教育演習	136
病弱児教育	137
病弱児教育演習	138
肢体不自由児教育	139
肢体不自由児教育演習	140
視覚の発達と障害	141
聴覚障害教育総論	142
重複障害教育総論	143
LD等教育総論	144
相談援助	145
保育相談支援	146
社会福祉	147
児童家庭福祉	148

科目名： 社会的養護

担当教員： 植村 倫子(UEMURA Michiko)

【授業の紹介】

近年多様かつ複雑な家庭環境の増加及び社会全体における家庭の子育ての潜在力が小さくなり、社会的養護を必要とする子どもが増加しています。

本講義では、社会的養護を要する子どもの現状と課題及び施設養護の現状について学び、児童福祉施設の援助者としての基礎知識、技術、倫理観、特に福祉に関わる「思考力・判断力」や「保育実践力」を修得します。

【到達目標】

- ・社会的養護の歴史的返還のなかで重要な人物・施設を記述できる。
- ・社会的養護の基本原則を理解し、その内容を説明できる。
- ・施設養護や家庭養護に関する基本的な知識を身につけ、必要な用語について説明できる。
- ・社会的養護の現状と課題について考えを述べることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会的養護の歴史的変換
- 第3回 児童の権利擁護と社会的養護
- 第4回 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
- 第5回 施設養護における養育
- 第6回 児童相談所の役割と連携
- 第7回 家庭からの保護
- 第8回 虐待された子どもの理解と対応
- 第9回 虐待された子どもの理解と対応 ・施設見学等
- 第10回 社会的養護の制度と実施体系
- 第11回 児童福祉施設援助者の資質
- 第12回 施設養護の現状（乳児院・養護施設）
- 第13回 施設養護の現状（障害児入所施設）
- 第14回 家庭養護の実際
- 第15回 社会的養護の現状と課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

次回の授業内容のテキスト範囲を読んでもらうことを求めます。

【成績の評価】

・レポート30%（授業時添削して返却します）、筆記試験70%（模範解答は教務課にて閲覧することでフィードバックします）、によって評価します。

【使用テキスト】

児童の福祉を支える社会的養護＜第3版＞ 吉田真里編著 萌林書林 2,160円

【参考文献】

なし

科目名： 社会的養護内容
担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

従来、家庭福祉・家庭養護が子どもの生存・成長を担ってきたが、現代では家庭だけでは十分にその機能が果たせないために、多くの子どもに社会的養護が必要になってきています。子どもや成人の施設で暮らす人たちにどのような支援がおこなわれているかを学び、保育者としての資質能力、特に～事例検討を通して～福祉に関わる「思考力・判断力」「多様な専門家との協力・協働」や「保育実践力」を身に付けます。

【到達目標】

1. 福祉施設で暮らす子どもや成人について理解できる。
2. 福祉施設で暮らす人たちにどのような支援が必要か理解し、支援技術を身につけることができる。
3. 子ども理解に基づく記録等、福祉実践を支える業務上の技術を向上させることができる。
4. 事例についての自分なりの理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（児童福祉施設の体系と概要）
 - 第2回 家庭で生活できない人々
～入所施設各論「乳児院、児童養護施設」～
 - 第3回 家庭で生活できない人々
～入所施設各論「児童自立支援施設」～
 - 第4回 家庭で生活できない人々
～入所施設各論「児童自立支援施設」～
 - 第5回 家庭で生活できない人々
～入所施設各論「知的障害児施設」～
 - 第6回 家庭で生活できない人々
～入所施設各論「その他の障害児施設」～
 - 第7回 養護の具体的内容・方法
～入所前後の支援～
 - 第8回 養護の具体的内容・方法
～入所中の支援「日常生活」～
 - 第9回 養護の具体的内容・方法
～入所中の支援「こころの支援」～
 - 第10回 養護の具体的内容・方法
～入所中の支援「親子関係の調整」～
 - 第11回 養護の具体的内容・方法
～入所中の支援「地域・学校との関係づくり」～
 - 第12回 養護の具体的内容・方法
～入所中の支援「自立への支援」～
 - 第13回 施設職員の資質と倫理
 - 第14回 子どもの最善の利益と権利
 - 第15回 専門的支援技術
- 定期試験

【授業時間外の学習】

定期的に事例に関するショートレポートを求める。

【成績の評価】

期末テスト（50％）、ショートレポート（50％）
ショートレポートについては、次回の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ったレジュメやスライド資料を用意する。

【参考文献】

辰巳隆・岡本眞幸（編）「保育士を目指す人の社会的養護内容」（株）みらい 2011年
福永博文（編著）「社会的養護内容」北大路書房 2013年
吉田眞理（編著）「演習 社会的養護内容」萌文書林 2016年
犬塚峰子（編）「子どもの発達・アセスメントと養育・支援プラン」明石書店 2013年

科目名： 特別支援教育総論

担当教員： 笠井 新一郎(KASAI Sinichiro)

【授業の紹介】

特別支援教育の現状を知り、障害児・者の正しい理解と認識を深めるとともに、特別支援教育の本質及び目標と今日的課題について紹介する。

また、障害については、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病虚弱などの従来の障害に加えて、注意欠陥多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム障害（ASD）、学習障害（LD）などについても、保健・医学・福祉・教育・労働の観点から概要について解説する。

【到達目標】

1．大学の教育目標である 豊かな人間性や主体的に生きる力、課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力、学科が示す専門的知識や技能および実践的能力を培うことをめざす。

2．特別支援教育の現状を知り、障害児・者の正しい理解と認識を深めるとともに、特別支援教育の本質及び目標と今日的課題について理解できる。

3．障害については、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病虚弱などの従来の障害に加えて、注意欠陥多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム障害（ASD）、学習障害（LD）などについても、保健・医学・福祉・教育・労働の観点から概要について理解できる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 障害児とは（障害の定義）

第3回 障害と療育・教育

第4回 視覚障害児の理解と支援

第5回 聴覚障害児の理解と支援

第6回 知的障害児の理解と支援

第7回 肢体不自由児の理解と支援

第8回 病虚弱児の理解と支援

第9回 発達障害児（ADHD・ASD・LDなど）の理解と支援（1）

第10回 発達障害児（ADHD・ASD・LDなど）の理解と支援（2）

第11回 言語聴覚障害児の理解と支援

第12回 特別支援教育と関係機関（保健・医療・福祉・労働など）の連携（1）

第13回 特別支援教育と関係機関（保健・医療・福祉・労働など）の連携（2）

第14回 特別支援教育（幼児・児童・生徒）の現状と問題点（1）

第15回 特別支援教育（幼児・児童・生徒）の現状と問題点（2）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業計画に基づいて、必ず予習を行う必要がある。また、授業終了後、配布された講義資料に基づいて復習する必要がある。予習・復習を繰り返すことで、必要な専門的知識・技術が身に付けられる。必要に応じて、小テスト、ミニレポート課題を課すことがある。

【成績の評価】

毎回の講義に対する要点レポート（15%）、ミニレポート（15%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。また、試験に対してもフィードバックを行う。

【使用テキスト】

拓殖 雅義、木船 憲幸著 『特別支援教育総論（改訂新版）』（放送大学教育振興会 2016年）

【参考文献】

湯浅 恭正編 『よくわかる特別支援教育』（ミネルヴァ書房 2008年）

科目名： 特別支援教育演習

担当教員： 藤井 明日香(FUJII Asuka)

【授業の紹介】

特別支援教育演習は、特別支援教育を必要とする幼児・児童・生徒の特徴やその支援の概要について学び、特別支援学校の授業形態や指導方法の実際を学ぶとともに、特別支援教育の指導形態に応じた学習指導の工夫について演習を通じて学びます。特別支援教育を必要としている教育現場において求められる知識及び実践力の基礎を培います。

【到達目標】

別支援教育の実践者として求められる基礎的知識の基盤形成及び実践的技能の基礎獲得を目指し、特別支援学校教育の実際に触れ、個々の教育的ニーズに応じた指導の実際について学ぶことで、児童生徒の個々のニーズに応じた基本的な対応及び配慮事項を提案することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 特別支援教育とICF
 - 第3回 特別支援教育の現状と動向
 - 第4回 知的障害児の教育の概要と特徴
 - 第5回 肢体不自由児の教育の概要と特徴
 - 第6回 視覚障害児の教育の概要と特徴
 - 第7回 聴覚障害児の教育の概要と特徴
 - 第8回 重度・重複障害児の教育の概要と特徴
 - 第9回 発達障害児の教育の概要と特徴(1：ASD)
 - 第10回 発達障害児の教育の概要と特徴(2：ADHD)
 - 第11回 発達障害児の教育の概要と特徴(3：LD)
 - 第12回 その他の障害児の教育の概要と特徴
 - 第13回 特別支援教育と自立
 - 第14回 特別支援教育と合理的配慮
 - 第15回 重要ポイントの確認と整理
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

各授業時間のテーマについて毎回レポートの提出を課します。資料や参考文献を用いて予習及び復習が必要になります。

【成績の評価】

受講態度(30%)、課題の提出状況(70%)などを総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

特別支援教育総論：インクルーシブ時代の理論と実践，川合紀宗他著，北大路書房，2016.
その他必要に応じて，資料を配布します。

【参考文献】

必要に応じて，講義内で紹介します。

科目名： 知的障害児の心理

担当教員： 中塚 勝俊 (NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

知的障害のある子どもへの適切な教育的支援を実践するためには、その心理学的な特徴について理解を深めておくことは重要です。この授業では、知的障害とはどのようなことか、「知能」とは何かについて考えた上で、知的障害のある子どもの心理学的な特徴をふまえた教育的支援のあり方について考えていきます。

【到達目標】

保育所や幼稚園、特別支援学校などにおける知的障害のある子どもの心理学的な特徴を理解することにより、適切な教育的支援ができるための基礎基本を学び、知的障害の子どもを支える方策を考えることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 知的障害の定義
第3回 知的障害の分類
第4回 知的障害のアセスメント
第5回 言語のアセスメント
第6回 社会生活のアセスメント
第7回 学習
第8回 言語獲得と社会的相互作用
第9回 行動調整機能
第10回 記憶の特徴
第11回 動機づけ
第12回 自閉症（高機能自閉症）
第13回 ダウン症
第14回 学習障害（LD）
第15回 注意欠陥多動性障害（ADHD）
定期試験

【授業時間外の学習】

特に重要と思われる内容は、事前に予習の範囲を指定し、レジュメを作成してもらいます。

【成績の評価】

・成績の評価は、授業への参加度（15%）、ショート・レポート（15%）、期末試験（70%）の結果をもとに総合的に行います。
・ショート・レポートは授業時にコメントを付けて返却します。期末試験に関しては、個人的に研修室でフィードバックします。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

新保育士養成講座編纂委員会（編）『子どもの保健』（全国社会福祉協議会、2012年）
湯浅恭正（編）『よくわかる 特別支援教育』（ミネルヴァ書房、2008年）

科目名： 知的障害児の生理・病理
担当教員： 宮崎 雅仁(MIYAZAKI Masahito)

【授業の紹介】

特別支援教育は障害を持つ子どもたちへの教育支援プログラムであるが、知的レベルに問題のある知的障害に加えて行動や情緒に障害のある発達障害に対する社会的認知度の高まりに伴い、それを専門とする教員への期待度・必要性が高まりつつあります。それ故、その教育に関与する教員は子どもたちが持つ障害特性や病態生理を十分に理解し、科学的根拠の基に仁愛の念を持って対応する事が必要不可欠です。本講義では特別支援教育に必要な定型的な子どもの成長・発達の知識から各障害の具体的な診断、治療、対処法までの内容を出来るだけわかり易く授業する予定です。

【到達目標】

1. 子どもの定型発達を正しく理解できる。
2. 特別支援教育を必要とする子どもたちの障害特性を充分理解できる。
3. その知識を生かして子どもたちの持つ表明的な症状だけでなく、その病態生理に基いた適切な対応ができる。

【授業計画】

- 第1回 子どもの成長・発達
 - 第2回 知的・発達障害概論（総論的内容）
 - 第3回 発達障害各論（自閉症スペクトラム障害の病態生理）
 - 第4回 発達障害各論（自閉症スペクトラム障害の診断・治療）
 - 第5回 発達障害各論（注意欠陥/多動性障害の病態生理）
 - 第6回 発達障害各論（注意欠陥/多動性障害の診断・治療）
 - 第7回 発達障害各論（限局性学習障害の病態生理・診断・治療）
 - 第8回 発達障害各論（発達性協調運動障害、トゥレット障害の病態生理・診断・治療）
 - 第9回 中間習熟度チェック（質疑応答と意見交換）
 - 第10回 知的障害各論（精神遅滞（脳性麻痺合併を含む））
 - 第11回 知的障害各論（染色体異常）
 - 第12回 知的障害各論（てんかんの病態生理・診断・治療）
 - 第13回 知的障害各論（遺伝性・代謝性疾患の病態生理）
 - 第14回 知的障害各論（遺伝性・代謝性疾患の診断・治療）
 - 第15回 期末習熟度チェック（授業のまとめと質疑応答・意見交換）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業で使用したスライド原稿を各自が持ち帰り、講義内容の復習を行う。また、授業の最後に実施する小テストや中間習熟度チェックを受ける事により自らの到達度を絶えず把握する事が可能である。

【成績の評価】

毎回の講義の最後に実施する小テストの成績（15点）、中間習熟度チェック（5点）、期末試験（80点）の総合点により判定する。小テストの正答は当日解説し、学生自身が毎回理解度を確認する。

【使用テキスト】

宮崎雅仁・編：脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために（医学書院、2012年）本体3500円（税別）

【参考文献】

なし

科目名： 病弱児の心理・生理・病理
担当教員： 磯部 健一(ISOBE Kenichi)

【授業の紹介】

児童生徒の教育現場において、病弱児の心理、生理、病理を理解しておくことは非常に重要です。しかし、病弱児といっても個々の病気の種類や病態は千差万別です。それぞれの子どもに適切に対応することが必要とされています。本科目では病弱児の心理、生理、病理について医学・医療、心理の立場から多面的に映像的な資料としてスライドなどを使用して講義します。また、病弱児の主要な疾患についてグループ毎に発表を行い理解を深める授業にします。

【到達目標】

特別支援学校などにおける病弱児について、多様化、重度化しつつある病弱児の主要な疾患や病弱児の心理・生理・病理を理解することにより、病弱児に適切な指導、支援ができる教員としての資質を培うことができる。

【授業計画】

第1回 病弱・虚弱児の定義
第2回 小児の慢性疾患
第3回 病弱養護学校在籍児童生徒の主な病気、医教連携
第4回 小児喘息とストレス、自律神経
第5回 小児の腎疾患と病識、子どもの入院と心理変化
第6回 小児の心疾患
第7回 小児の血液・腫瘍疾患、母子分離入院と母子入院
第8回 小児の内分泌疾患、小児の生活習慣病
第9回 小児の神経疾患、小児の心身症
第10回 未熟児・新生児と障害、デベロップメンタル・ケア、愛着形成
第11回 先天異常、ドローターの心理変化、親の会
第12回 小児の感染症、感染予防とスタンダードプレコーション
第13回 QOL,医療とターミナルケア、緩和ケア
第14回 病弱・虚弱児の医療的ケア
第15回 これまでの講義のまとめと質疑応答
期末試験

【授業時間外の学習】

各授業時に病弱・虚弱児に関係する事柄(前もって提示)について質問するので学習しておくこと。病弱・虚弱児の主要な疾患をグループ毎に割り当てるので、発表できるようにすること。

【成績の評価】

学習態度(10%)、レポート(20%)、期末試験(70%)の結果により総合的に判断します。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】

使用しません。

【参考文献】

全国病弱養護学校長会編著『病弱教育Q&A PART1 改訂版』(ギアース教育新社、2002年)
及川郁子監 伊藤龍子編『小児慢性特定疾患療育指導マニュアル』(診断と治療社、2006年)
独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』(ギアース教育新社、2015年)

科目名： 肢体不自由児の心理・生理・病理

担当教員： 磯部 健一(ISOBE Kenichi), 川田 人包(KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】

この授業では、肢体不自由児の心理、生理、病理をそれぞれの観点から考えることとします。具体的には、（１）肢体不自由の概念を明らかにしたうえで、医学的な観点からは、人間行動の成り立ちと肢体不自由、身体のおくみとその生理と病理、肢体不自由の原因と主な起因疾患について、（２）心理学的な観点からは、肢体不自由と発達の関係、肢体不自由児の感覚・知覚、運動・動作、コミュニケーション、肢体不自由児への心理的支援について考えます。これらを通じて、肢体不自由児の教育にあたるための理論と実践力を身につけることを学びます。なお、授業は、生理・病理の領域を磯部が担当し、心理の領域を川田が担当して行います。

【到達目標】

特別支援学校などにおける肢体不自由児について、肢体不自由児の主要な疾患や肢体不自由児の心理・生理・病理を理解することにより、実践力を身につけ肢体不自由児に適切な支援ができる教員としての資質を培うことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・肢体不自由の概念（磯部）
 - 第2回 人間行動の成り立ちと肢体不自由（子どもの正常運動発達）（磯部）
 - 第3回 身体のおくみとその生理・病理(1)（磯部）
 - 第4回 身体のおくみとその生理・病理(2)（磯部）
 - 第5回 肢体不自由の原因と主な起因疾患(1)（未熟医療の進歩と脳性麻痺）（磯部）
 - 第6回 肢体不自由の原因と主な起因疾患(2)（磯部）
 - 第7回 肢体不自由の原因と主な起因疾患(3)（磯部）
 - 第8回 肢体不自由と発達の関係（川田）
 - 第9回 肢体不自由児の感覚・知覚（川田）
 - 第10回 肢体不自由児の運動・動作（川田）
 - 第11回 肢体不自由児のコミュニケーション(1)（川田）
 - 第12回 肢体不自由児のコミュニケーション(2)（川田）
 - 第13回 肢体不自由児への心理的支援（川田）
 - 第14回 肢体不自由に係わる社会的・制度的課題（磯部）
 - 第15回 講義のまとめと質疑応答
- 期末試験

【授業時間外の学習】

受講者をグループに分けて、肢体不自由の原因となる主な疾患を割り当てるので、各グループは担当する疾患をレポートにまとめグループ毎に発表することとします。

【成績の評価】

授業参加状（10％）、レポート（20％）、期末試験（70％）の成績により総合的に判断します。グループ発表時に各疾患についての解説を行います。

【使用テキスト】

安藤隆男・藤田継道編著『よくわかる肢体不自由教育』（ミネルバ書房、2015年）（川田）
授業者が作成した資料を講義テキストとします（磯部）。

【参考文献】

篠田達明監修、沖 高司、岡川敏郎、土橋圭子編集『肢体不自由児の医療・療育・教育改訂3版』（金芳堂、2015年）
その他、授業のなかで、適宜紹介します。

科目名： 障害児保育
担当教員： 藤井 明日香

【授業の紹介】

障害のある子どもに関する環境は、特別支援教育の実施に伴い、早期発見・早期療養が求められており、保育現場でも特別なニーズを伴う幼児への支援が求められています。本講義では、「特別支援教育」の特徴と実際に学び、保育現場で求められている具体的な支援の在り方や保育の仕方について理解を深めます。

【到達目標】

特別支援教育の特徴と実践を理解し、望ましい教育的支援の在り方、効果的な支援方法の理解、ニーズに応じた環境設定の仕方、効果的な教材開発の仕方を学習し、多様なニーズを有する幼児への保育士としての知識、技能を高め、ニーズに応じた基本的な対応を提案することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 特別支援教育と障害児保育
第3回 知的障害児の特徴と支援
第4回 肢体不自由児の特徴と支援
第5回 視覚障害児の特徴と支援
第6回 聴覚障害児の特徴と支援
第7回 言語障害児の特徴と支援
第8回 自閉症児の特徴と支援（1）
第9回 自閉症児の特徴と支援（2）
第10回 学習障害児の特徴と支援
第11回 注意欠陥多動性障害児の特徴と支援
第12回 グレーゾーンの子の特徴と支援
第13回 重度・重複障害児の特徴と支援
第14回 インクルーシブ保育の展望と課題
第15回 合理的配慮の実施とまとめ
定期試験を実施します

【授業時間外の学習】

履修する学生には、前時の復習と次時の復習を求めます。また、毎時間、復習を兼ねたレポートや感想文の提出を求めます。各テーマについて授業時間外に検索したり、まとめたりする必要があります。

【成績の評価】

受講態度（20％）、提出物（30％）、筆記試験（50％）を総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

小野次朗・上野一彦・藤田継道・（編）『よくわかる発達障害』（ミネルヴァ書房）

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介します。

科目名： 障害児保育
担当教員： 藤井 明日香(FUJII Asuka)

【授業の紹介】

障害のある子どもに関する環境は、特別支援教育の実施に伴い、早期発見・早期療養が求められており、保育現場でも特別なニーズを伴う幼児への支援が求められています。本講義では、「特別支援教育」の基本的概念と理念、その体系を学び、保育現場で求められている特別なニーズのある幼児への支援の在り方や保育に求められている「特別支援教育」について理解を深めます。

【到達目標】

特別支援教育の基本的概念や理念を理解し、望ましい支援の在り方、効果的な支援方法の理解、ニーズに応じた環境設定の仕方を学び、多様なニーズを有する幼児への「特別支援教育」を担う保育士としての知識、技能を高め、ニーズに応じた基本的な対応及び配慮の工夫を提案することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「障害」と「特別なニーズ」
 - 第3回 特別支援教育の特徴（1）（知的障害教育・肢体不自由教育）
 - 第4回 特別支援教育の特徴（2）（聴覚障害教育）
 - 第5回 障害児保育の実践（1）3歳児の事例と配慮の工夫
 - 第6回 障害児保育の実践（2）4歳児の事例と配慮の工夫
 - 第7回 障害児保育の実践（3）5歳児の事例と配慮の工夫
 - 第8回 障害児保育の実践（4）環境構成と配慮の工夫
 - 第9回 障害児保育の実践（5）就学支援の実際
 - 第10回 保護者への支援と保育士の役割（1）
 - 第11回 保護者への支援と保育士の役割（2）
 - 第12回 関係機関との連携とチーム支援
 - 第13回 早期発見・早期療育の視点と実践
 - 第14回 障害児保育の展望と課題
 - 第15回 障害児保育における保育者資質
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

履修する学生には、前時の復習と次時の復習を求めます。また、復習を兼ねたレポートや感想文の提出を求めることがあります。

【成績の評価】

受講態度（20%）、レポート課題の提出状況（60%）、発表（20%）等を総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別にフィードバックします。

【使用テキスト】

尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子(編)『よくわかる障害児保育』（ミネルヴァ書房）

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介します

科目名： 障害児の教育課程と指導法
担当教員： 笠井 新一郎(KASAI Sinichiro)

【授業の紹介】

特別支援教育の対象になる各種障害における教育課程について、特別支援学校、特別支援学級、通級学級ごとに基本的な事項を体系的に紹介するとともに、それらの具体的な支援法及び配慮項目についても紹介する。

【到達目標】

1. 大学の教育目標である 豊かな人間性や主体的に生きる力、課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力、学科が示す専門的知識や技能および実践的能力を培うことをめざす。
2. 各種障害における教育課程について、特別支援学校、特別支援学級、通級学級ごとに基本的な事項を体系的に理解し、それらの具体的な支援法について立案できることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 特別支援教育の基本的な考え方
 - 第3回 特別支援教育の学習指導要領
 - 第4回 特別支援学校の教育課程の編成
 - 第5回 特別支援学級の教育課程の編成
 - 第6回 通級教室の教育課程の編成
 - 第7回 視覚障害児の障害特性の理解と教育課程及び支援法
 - 第8回 聴覚障害児の障害特性の理解と教育課程及び支援法
 - 第9回 知的障害児の障害特性の理解と教育課程及び支援法
 - 第10回 肢体不自由児の障害特性の理解と教育課程及び支援法
 - 第11回 言語障害の障害特性の理解と教育課程及び支援法
 - 第12回 情緒障害の障害特性の理解と教育課程及び支援法
 - 第13回 学習障害児の障害特性の理解と教育課程及び支援法
 - 第14回 注意欠陥多動性障害児の障害特性の理解と教育課程及び支援法
 - 第15回 自閉症スペクトラム障害児の障害特性の理解と教育課程及び支援法
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業計画に基づいて、必ず予習を行う必要がある。また、授業終了後、配布された講義資料に基づいて復習する必要がある。予習・復習を繰り返すことで、必要な専門的知識・技術が身に付けられる。必要に応じて、小テスト、ミニレポート課題を課すことがある。

【成績の評価】

毎回の講義に対する要点レポート（15%）、ミニレポート（15%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。また、試験に対してもフィードバックを行う。

【使用テキスト】

文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚園・小学部・中学部）』（教育出版 2016年）

【参考文献】

文部科学省 『特別支援学校 幼稚園教育要領、小学部・中学部学習指導要領、高等部学習指導要領』（海文堂出版 2016年）

科目名： 特別支援教育指導法研究
担当教員： 藤井 明日香(FUJII Asuka)

【授業の紹介】

特別支援学校における教育実習に向けて、特別支援学校の授業形態や指導方法の実際を学ぶとともに、大学において習得した知識や技能を基盤として、特別支援教育の指導形態に応じた学習指導の工夫について演習を通じて学びます。特別支援教育実習において求められる実践力の基礎を培います。

【到達目標】

特別支援教育の実践者として求められる基礎的知識や技能の基盤形成及び実践的技能の習得を目指し、特別支援学校教育の実際に触れ、それぞれの学部で用いられている学習指導案を研究することで、学習指導案を作成に求められる基礎的な技能を習得できる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 特別支援教育における教育実習のねらい
第3回 特別支援学校(知的障害)の概要と特徴
第4回 特別支援学校(肢体不自由)の概要と特徴
第5回 特別支援学校(病弱)の概要と特徴
第6回 特別支援学校教育の実際(1)(特別支援学校の訪問)
第7回 特別支援学校教育の実際(2)(特別支援学校の訪問)
第8回 特別支援学校教育の実際(3)(特別支援学校の訪問)
第9回 特別支援学校教育の実際(4)(特別支援学校の訪問)
第10回 特別支援教育指導法研究(教育課程と学習指導案)
第11回 特別支援教育指導法研究(幼稚部の学習指導案)
第12回 特別支援教育指導法研究(小学部の学習指導案)
第13回 特別支援教育指導法研究(中学部の学習指導案)
第14回 特別支援教育指導法研究(高等部の学習指導案)
第15回 重要ポイントの確認と整理
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

これまで講義や演習で学んだこととともに、指導案の作成や教材研究など自宅学習の時間確保が必要です。また特別支援学校の授業参観やボランティア活動に積極的に参加して、実践力の基盤形成に努めることが大切です。

【成績の評価】

受講態度(30%)、レポート課題(70%)などを総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

特別支援教育の学習指導案と授業研究-子どもたちが学ぶ楽しさを味わえる授業づくり-,肥後祥治ら
(2013) ジアース教育新社

【参考文献】

必要に応じて、講義内で紹介します。

科目名： 知的障害児教育

担当教員： 笠井 新一郎(KASAI Sinichiro)

【授業の紹介】

知的障害のある子どもの基本的知識および発達特徴を紹介する。さらに知的障害児の教育の教育課程の特徴を理解し、学習指導要領に基づいた各支援法及び配慮項目について紹介する。

【到達目標】

1. 大学の教育目標である 豊かな人間性や主体的に生きる力、課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力、学科が示す専門的知識や技能および実践的能力を培うことをめざす。
2. 知的障害のある子どもの基本的知識および発達特徴を理解する。
3. 知的障害児の教育の教育課程の特徴を理解し、学習指導要領に基づいた各支援法及び配慮項目に熟知でき、使用できることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 知的障害の定義(DSM-とDSM-5の比較)
 - 第3回 知的障害の原因および合併症
 - 第4回 知的障害の発達特徴(ダウン症を含む)(1)
 - 第5回 知的障害の発達特徴(ダウン症を含む)(2)
 - 第6回 知的障害の総合的検査・評価(臨床的評価、客観的評価)
 - 第7回 知的障害の全般的な支援及び配慮項目(1)
 - 第8回 知的障害の全般的な支援及び配慮項目(2)
 - 第9回 支援法及び配慮項目(日常生活・遊びの支援)
 - 第10回 支援法及び配慮項目(生活単元学習)
 - 第11回 支援法及び配慮項目(国語)
 - 第12回 支援法及び配慮項目(算数)
 - 第13回 支援法及び配慮項目(自立活動・作業学習・職場実習)
 - 第14回 支援法及び配慮項目(交流・共同学習)
 - 第15回 まとめ
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業計画に基づいて、必ず予習を行う必要がある。また、授業終了後、配布された講義資料に基づいて復習する必要がある。予習・復習を繰り返すことで、必要な専門的知識・技術が身に付けられる。必要に応じて、小テスト、ミニレポート課題を課すことがある。

【成績の評価】

毎回の講義に対する要点レポート(15%)、ミニレポート(15%)、定期試験(70%)を総合的に評価する。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。また、試験に対してもフィードバックを行う。

【使用テキスト】

太田 俊巳、藤原 義博著 『知的障害教育総論』(放送大学教育振興会 2016年)

【参考文献】

小池 敏英、北島 善夫著『知的障害の心理学 - 発達支援からの理解』(北大路書房 2001年)

科目名： 知的障害児教育演習

担当教員： 笠井 新一郎(KASAI Sinichiro)

【授業の紹介】

特別支援教育を行っていくためには、的確な検査・評価を実施することで、正しい障害像が得られる。特に、さまざまな障害を真に理解するためには、臨床的な評価とともに、客観的な評価を実施し、総合的な評価が必要になる。知的障害を通して、的確な検査・評価（臨床的評価、客観的評価）の意義、重要性について紹介する。

【到達目標】

1. 大学の教育目標である 豊かな人間性や主体的に生きる力、課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力、学科が示す専門的知識や技能および実践的能力を培うことをめざす。
2. 特別支援教育において、的確な検査・評価（臨床的評価、客観的評価）の意義、重要性について、理解する。
3. 各種検査（発達、知能、言語発達、その他）について、各検査の特性について理解し、検査が実施できるようになることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 的確な検査・評価の重要性（1）
 - 第3回 的確な検査・評価の重要性（2）
 - 第4回 発達検査の概要の紹介
 - 第5回 発達検査の実習
 - 第6回 検査結果の指導計画への活用方法
 - 第7回 知能検査の概要の紹介
 - 第8回 知能検査の実習
 - 第9回 検査結果の指導計画への活用方法
 - 第10回 言語発達検査の概要の紹介
 - 第11回 言語発達検査の実習
 - 第12回 検査結果の指導計画への活用方法
 - 第13回 その他の検査の概要の紹介
 - 第14回 その他の検査の概要の実習
 - 第15回 検査結果の支援計画への活用方法
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業計画に基づいて、必ず予習を行う必要がある。また、授業終了後、配布された講義資料に基づいて復習する必要がある。予習・復習を繰り返すことで、必要な専門的知識・技術が身に付けられる。必要に応じて、小テスト、ミニレポート課題を課すことがある。

【成績の評価】

毎回の講義に対する要点レポート（15%）、ミニレポート（15%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。また、試験に対してもフィードバックを行う。

【使用テキスト】

上野一彦・他著 『日本版WISC- による発達障害のアセスメント』（日本文化科学社 2016年）

【参考文献】

尾崎康子・他編著 『知っておきたい 発達障害のアセスメント』（ミネルヴァ書房 2016年）

科目名： 病弱児教育

担当教員： 笠井 新一郎(KASAI Sinichiro)

【授業の紹介】

病弱児の心理・生理及び病理について理解しておくことは重要である。病弱児の抱える障害について、原因、特徴、リハビリテーションなどについて述べるとともに、障害の理解、それらをかかえて生きている子どもの理解、その子どもと共に生きる家族、地域の人々との関係性についても述べる。

【到達目標】

1. 大学の教育目標である 豊かな人間性や主体的に生きる力、課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力、 学科が示す専門的知識や技能および実践的能力を培うことをめざす。
2. 病弱児の心理・生理及び病理について理解する。
3. その障害について、医学、リハビリテーション、教育のそれぞれの立場から理解する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 病弱・身体虚弱の概念と歴史
 - 第3回 子どもの主な疾患、障害特徴および配慮事項の実際（神経疾患）
 - 第4回 子どもの主な疾患、障害特徴および配慮事項の実際（神経疾患）
 - 第5回 子どもの主な疾患、障害特徴および配慮事項の実際（循環器）
 - 第6回 子どもの主な疾患、障害特徴および配慮事項の実際（呼吸器）
 - 第7回 子どもの主な疾患、障害特徴および配慮事項の実際（消化器）
 - 第8回 子どもの主な疾患、障害特徴および配慮事項の実際（内分泌・代謝）
 - 第9回 子どもの主な疾患、障害特徴および配慮事項の実際（腎・泌尿器）
 - 第10回 子どもの主な疾患、障害特徴および配慮事項の実際（腫瘍）
 - 第11回 子どもの主な疾患、障害特徴および配慮事項の実際（その他）
 - 第12回 特別支援教育の学習要領を踏まえた病弱教育
 - 第13回 保護者支援の重要性
 - 第14回 児童・生徒への指導・助言と地域との連携
 - 第15回 まとめ
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業計画に基づいて、必ず予習を行う必要がある。また、授業終了後、配布された講義資料に基づいて復習する必要がある。予習・復習を繰り返すことで、必要な専門的知識・技術が身に付けられる。必要に応じて、小テスト、ミニレポート課題を課すことがある。

【成績の評価】

毎回の講義に対する要点レポート（15%）、ミニレポート（15%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。また、試験に対してもフィードバックを行う。

【使用テキスト】

小野次郎、西牧謙吾、榊原洋一著 『特別支援教育に生かす 病弱児の生理・病理・心理』（ミネルヴァ書房 2011年）

【参考文献】

西間三馨、横田雅史監修 全国病弱養護学校校長会編著 『病弱教育Q & A・PART - 病弱教育の視点からの医学事典』（シアーズ教育新社 2003年）

科目名： 病弱児教育演習

担当教員： 笠井 新一郎(KASAI Sinichiro)

【授業の紹介】

病気の子どもへの教育的支援をするためには、その病気について心理・生理・病理を理解し、適切に対応することが必要である。そのためには、その病気について、正確に理解する必要があるため、自分でさまざまな手段を使って、調べて、まとめて発表し、討論することを行う。

【到達目標】

1. 大学の教育目標である 豊かな人間性や主体的に生きる力、課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力、学科が示す専門的知識や技能および実践的能力を培うことをめざす。
2. さまざまな病気について心理・生理・病理を理解できる。
3. 支援事例について、調べて、まとめて発表することができることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 病弱教育の意義
 - 第3回 病気の子どもへの教育的支援（実践編）
 - 第4回 病気の子どもへの教育的支援（制度編）
 - 第5回 支援事例の具体的検討（1）支援事例の概要
 - 第6回 支援事例の具体的検討（1）発表・検討会
 - 第7回 支援事例の具体的検討（1）報告書作成
 - 第8回 支援事例の具体的検討（2）支援事例の概要
 - 第9回 支援事例の具体的検討（2）発表・検討会
 - 第10回 支援事例の具体的検討（2）報告書作成
 - 第11回 支援事例の具体的検討（3）支援事例の概要
 - 第12回 支援事例の具体的検討（3）発表・検討会
 - 第13回 支援事例の具体的検討（3）報告書作成
 - 第14回 個々の子どもへの支援の共通点と相違点
 - 第15回 まとめ
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業計画に基づいて、必ず予習を行う必要がある。また、授業終了後、配布された講義資料に基づいて復習する必要がある。予習・復習を繰り返すことで、必要な専門的知識・技術が身に付けられる。必要に応じて、小テスト、ミニレポート課題を課すことがある。

【成績の評価】

毎回の講義に対する要点レポート（15%）、ミニレポート（15%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。また、試験に対してもフィードバックを行う。

【使用テキスト】

安藤 隆男著 『特別支援教育基礎論（改訂新版）』（放送大学教育振興会 2016年）

【参考文献】

横田雅史監修 全国病弱養護学校校長会編著 『病弱教育Q & A・PART - 教科等指導 - 』（シアーズ教育新社 2004年）

科目名： 肢体不自由児教育

担当教員： 川田 人包(KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】

「肢体不自由児教育」は、肢体不自由児の教育や療育についての基礎・基本を学び、障がいの多様な肢体不自由児に適切に対応するために設けられた科目です。本講義では、他の障がい種の組み合わせを含め重度・重複、多様化した幼児児童生徒一人ひとりに対して、適切な指導と必要な支援のあり方について学びます。また、共体験等を通して肢体不自由児の心と身体に対する理解を深めます。

【到達目標】

肢体不自由児の正しい理解に努め、望ましい指導や支援の基本的な学びを通して、一人ひとりに向けた効果的な指導法や環境づくり、教材教具の開発の仕方等を習得します。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 肢体不自由児の教育 - 歴史と現状 -
 - 第3回 特別支援学校や特別支援学級における教育の実際
 - 第4回 肢体不自由児の運動発達と認知発達について
 - 第5回 脳性まひ児等の肢体不自由児疾患による特性
 - 第6回 肢体不自由児の心理発達
 - 第7回 教育課程編成の基本と授業づくり
 - 第8回 身体の動きの指導や支援
 - 第9回 コミュニケーションの指導や支援
 - 第10回 各教科・領域の関連と指導や支援
 - 第11回 重度・重複障がい児の指導や支援 - 医療的ケアの問題 -
 - 第12回 自立活動と個別の指導計画
 - 第13回 教材教具を活用した発達支援 - 福祉機器等 -
 - 第14回 肢体不自由児のキャリア教育
 - 第15回 新たな取組と今後の課題 - 権利擁護と社会生活 -
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

履修する学生には、講義の復習と共に、事前に次時の資料を渡しますので予習を求めます。また、復習を兼ねたレポート等の提出を求めることがあります。

【成績の評価】

受講態度（30％）、レポート等（40％）、小筆記試験（30％）を総合して成績を評価します。
なお、課題解決に対するフィードバックにつきましては試験並びに提出物で確認します。

【使用テキスト】

「よくわかる肢体不自由児教育」安藤隆男・藤田継道編著 ミネルヴァ書房 2015年

【参考文献】

必要に応じて、講義内で紹介します。

科目名： 肢体不自由児教育演習
担当教員： 川田 人包(KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】

「肢体不自由児教育演習」は、「肢体不自由児教育」で学んだ基礎・基本を基盤にして、肢体不自由児個々の実態把握に基づいて展開される具体的な指導法や評価のあり方等を学ぶために設けられた科目です。特に、本演習では教育心理学的なアプローチ等を通して肢体不自由児の心と身体を支える具体的な指導法や支援のあり方を学びます。また、肢体不自由児が安心して学べる環境のあり方合理的な配慮についても検証します。

【到達目標】

肢体不自由児に対する関係機関との連携（個別的教育支援計画）や「実態把握 指導・支援 評価 改善 引継」といった継続性や連続性を備えた偏りのない授業づくり（個別の指導計画）、自立活動で活用されている指導法等を学び、肢体不自由児教育に携わる教員としての資質向上を目指します。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 I E Pの理念と実践 - 「個別的教育支援計画」と「個別の指導計画」
第3回 肢体不自由児教育における「自立活動」の計画・実践・評価・改善
第4回 肢体不自由児教育における指導法（身体の動き1）リラクセーション
第5回 肢体不自由児教育における指導法（身体の動き2）座位
第6回 肢体不自由児教育における指導法（身体の動き3）膝立ち位
第7回 肢体不自由児教育における指導法（身体の動き4）立位・歩行
第8回 肢体不自由児教育における指導法（感覚運動学習）ムーブメント教育
第9回 肢体不自由児教育における指導法（コミュニケーション）
第10回 肢体不自由児教育における指導法（各教科の指導と自立活動）
第11回 肢体不自由児教育における指導法（訪問教育等）
第12回 授業や日常生活におけるユニバーサルデザインについて
第13回 事例研究
第14回 授業研究
第15回 授業研究
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

履修する学生には、特別支援学校や特別支援学級、福祉施設等の実地見学や実習等を通して肢体不自由児や重度・重複障害児等に対する問題意識を高める姿勢を求めます。また、復習を兼ねたレポートや感想文の提出を求めています。

【成績の評価】

演習への参加態度（30%）や習熟度（30%）、レポート等（40%）を総合して成績を評価します。なお、習熟度につきましては試験並びにレポートでフィードバックします。

【使用テキスト】

「よくわかる肢体不自由児教育」安藤隆男・藤田継道編著 ミネルヴァ書房 2015年

【参考文献】

必要に応じて、講義内で紹介します。

科目名： 視覚の発達と障害
担当教員： 惠羅 修吉(ERA Shukichi)

【授業の紹介】

目が見える人にとって、目の見えない人が経験する世界を想像することはとても難しいことです。目が見えている私たちは、「見える」ということを子どものときから当たり前のこととして経験してきました。当たり前のように存在している「見え」の世界。しかしながら、私たちは経験としては気づいていませんが、「見え」の世界は子どもから大人になるについて少しずつ変化しているのです。この授業では、「見え」の発達について、いろいろな事例や研究を通して基礎的な知識を提供することをめざします。さらに、目が見えない、あるいは目が見えにくいといった視覚障害について解説します。私の専門は心理学なので、視覚の発達と障害について、特に心理学的なトピックを取り上げて紹介したいと思います。

なお、本授業は「特別支援学校教諭免許」に必要な科目です。視覚障害のある子どもの理解と教育に必要な情報について授業のなかでしっかりと提供します。

【到達目標】

1. 視覚の成立に関わる基本的構造について理解できる。
2. 視覚に関わる検査について、その意義を説明することができる。
3. 視機能に困難を有する子どもの心理特性について理解し、配慮点について説明できる。
4. 視覚障害教育の歴史と現状について理解できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 視覚の構造 1：眼から脳まで
- 第3回 視覚の構造 2：高次脳機能
- 第4回 視覚障害の定義と分類
- 第5回 視覚検査 1：視力検査
- 第6回 視覚検査 2：眼位検査
- 第7回 視覚検査 3：色覚検査
- 第8回 視覚検査 3：その他の検査，中間試験（前半の内容に関する小テスト）
- 第9回 視覚障害児の心理学的特性 1：聴覚認知
- 第10回 視覚障害児の心理学的特性 2：触運知覚
- 第11回 視覚障害児の心理学的特性 3：空間認知
- 第12回 視覚障害児の心理学的特性 4：音声言語の発達
- 第13回 視覚障害児の心理学的特性 5：視覚言語（点字を含む）の発達
- 第14回 視覚障害に対応した支援機器の活用
- 第15回 視覚障害児教育の歴史：授業のまとめ

【授業時間外の学習】

授業中に文献を配布いたしますので、それらを必ず読むこと。また、参考図書やホームページをいくつか紹介いたしますので、それらを閲覧してください。

授業期間中に報道された視覚障害に関連する記事を読み、その背景などについて調べてみましょう。

【成績の評価】

評価は、授業中の小レポート（30%）、中間試験（40%）、期末レポート（30%）とします。小レポートについては次回の授業時に全体的に講評し、中間試験については次回の授業時に採点したものを返却いたします。

【使用テキスト】

ありません。

【参考文献】

香川邦生・千田耕基(編)『小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援』(教育出版, 2009年)
香川邦生(編)『四訂版 視覚障害教育に携わる方のために』(慶應義塾大学出版会, 2010年)

科目名： 聴覚障害教育総論

担当教員： 谷本 忠明(TANIMOTO Tadaaki)

【授業の紹介】

人は生まれて1年ほどでことばを話すようになるが、その過程で聴覚は大きな役割を果たしている。しかし、私たちは、普段、聴覚の働きや特徴について意識することは余りない。一般に、聴覚に障害のない子どもの場合には、生後数年間でことばを急速に獲得し、小学校に入学する頃には話しことばと共に、書きことばも学習活動を支える重要な手段となる。また、相互の意思の伝達手段としても用いられる。他方、聴覚障害教育の対象となる幼児児童生徒の多くは、乳児期から聞こえに障害がある。そのため、初期の段階から聞こえにくいことを踏まえて、ことばの獲得に向けた関わりを行う必要がある。本授業では、そうした聴覚障害幼児児童生徒の教育に関連する事項について扱うが、特別支援学校教諭免許状取得に関わる授業であることを踏まえ、「心理・生理・病理」に関する内容と「教育課程・指導法」に関する内容とで構成している。具体的な内容は授業計画に示しているが、特に近年のインクルーシブ教育の考えの広がりに伴い、聴覚障害教育の場も多様になっていることから、聴覚障害の状態を踏まえた学習環境の整備の視点についても解説する。授業を通して、聴覚障害幼児児童生徒の指導において留意すべき事項についての知識や、それを支える教育場面、教育内容の特徴に関する知識を修得する。

【到達目標】

1. 音に関する基礎的事項と聞こえの仕組み、話す仕組みについて説明できる。
2. 聴覚障害の原因と特徴、聞こえを補う機器やコミュニケーションの方法について説明できる。
3. 聴覚障害児のことばの特徴を、障害のない子どもと対比しながら説明できる。
4. わが国における近年の聴覚障害教育の動向について説明できる。
5. 聴覚障害教育の制度や教育課程の内容について説明できる。
6. 聴覚障害児に対することばの指導の考え方について、歴史的経緯を含めて説明できる。
7. 聴覚障害教育における教科指導と自立活動の指導の概要について説明できる。
8. これからの聴覚障害教育において重要と考えられることを述べることができる。

【授業計画】

- 第1回 音の基礎と聞こえの仕組み・話す仕組み
 - 第2回 聴覚障害の原因と特徴、聴覚補償機器、コミュニケーションの方法
 - 第3回 聴覚障害児のことばの特徴
 - 第4回 聴覚障害教育を巡る近年の動向と聴覚障害教育の現状
 - 第5回 聴覚障害教育を支える制度と教育課程
 - 第6回 聴覚障害教育の歴史とことばの指導を巡る考え方
 - 第7回 聴覚障害教育における教科と自立活動の指導
 - 第8回 これからの聴覚障害教育に求められるもの
- 定期試験

【授業時間外の学習】

本授業では、様々な用語や新しい内容について学習することが多いと思われると共に、集中講義で実施するので、時間外の学習で内容の理解を図るようにすること。

【成績の評価】

定期試験（最終試験）（100%）

毎時間ごとに合計8回の出席をとる。出欠時の2回の遅刻で欠席1回とみなす。出欠後の欠席（退室）は、受講を取り止めたものとして扱う。授業中の居眠り、スマホ操作等、授業参加が認められない場合には、その時間は欠席とする。1度の注意で改善されない場合は、受講を取り消す。

定期試験は、教務課窓口で模範解答を閲覧できるようにする。

【使用テキスト】

なし。（講義資料を配布する。）

【参考文献】

「難聴Q & A」（伊藤壽一・中川隆之著、ミネルヴァ書房、2005年）、「難聴児はどんなことで困るのか？」（木島照夫・菅原仙子・岡野敦子編著、難聴児支援教材研究会、2011年）、「特別支援学校教育要領・学習指導要領」（文部科学省著、2017年：文部科学省のHPで閲覧可能）、「難聴児・生徒理解ハンドブック」（白井一夫・小網輝夫・佐藤弥生編著、学苑社、2009年）、「聴覚障害教育これまでとこれから」「『9歳の壁』を越えるために」（脇中起余子著、北大路書房、2009、2013年）

科目名： 重複障害教育総論

担当教員： 落合 俊郎(OCHIAI Toshiro)

【授業の紹介】

重複障害児教育の歴史をさかのぼり、ヘレン・ケラーに始まる盲ろう二重障害の教育方法を学び、点字、手話、発話へどのように教育するのか学習します。1979年の養護学校義務制実施以降、知的障害、肢体不自由、病弱をあわせて重複障害の子どもが多くなりました。このような児童生徒に対して、どのような授業を展開するのか、さらに改訂される学習指導要領の新旧の違いについて説明します。また、たんの吸引、経管栄養等の医療的ケアが必要な子どもたちへの対応も学びます。国連障害者の権利条約批准後、重複障害のある子どもたちの合理的配慮をどのようにするのか説明します。重複障害のある児童生徒に寄り添った豊かな人間性をはぐくみ、授業の内容に対して積極的かつ主体的に意見の発表を行うような授業を行います。さらに重複障害のある児童生徒の教育の課題を明らかにし、その課題を解決する力を身につけ、特別支援学校の教員になる前にボランティア等で社会に貢献する気づきを養います。授業で修学した専門的知識や技能を生かし、特別支援学校での実践的能力を培います。

【到達目標】

重複障害のある児童生徒の教育に関する新しい学習指導要領の内容を理解することができる。そして、重複障害のある児童生徒の心理・生理・病理的な特徴と、特別支援学校重複学級の中では、どのような授業が行われるか理解すると同時に、医療的ケアが必要な児童生徒の対応に関する知識を含め、特別支援学校教諭に必要な総合的な知識と教育実践に必要な知識を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション。
- 第2回 重複障害の定義と新旧学習指導要領の違いを説明します。
- 第3回 重複障害教育の歴史をさかのぼって：盲ろう二重障害児の教育とはどのようなものか紹介します。
- 第4回 NHK「ETVスペシャル あなたと話したい」から学ぶもの：重度の知的障害・肢体不自由・病弱を併せもつ児童生徒の教育とは何か紹介します。
- 第5回 個別の教育計画、個別の指導計画、合理的配慮とはなにか、具体的な内容について学びます。
- 第6回 自立活動について(学習指導要領解説から)：授業案を作成するときのポイント、行動の見方について学びます。
- 第7回 重複障害のある児童生徒の教育課程：特別支援学校重複障害学級の中での授業を紹介します。
- 第8回 医療的ケアが必要な子どもたちへの対応についての説明と授業の振り返りを行います。
- 第9回 定期試験の実施

【授業時間外の学習】

重複障害のある児童生徒は肢体不自由特別支援学校や病弱特別支援学校に在籍していることが多いのでボランティアや介護等の体験等でこれらの子どもたちと親しむことを勧めます。特別支援学校での教育実習は2週間という短い間で研究授業を行い、指導案も書かなければなりません。重複障害のある児童生徒の担当になることもありますので、事前にボランティア活動等をと通して、これら重複障害のある児童生徒への対応を経験してください。

【成績の評価】

授業の参加状況(20%)と試験(80%)の結果により総合的に評価します。授業の参加状況については、出席だけではなく、学生と教員との意見のやり取り、質疑応答等の内容も評価対象とします。

【使用テキスト】

まだ、新しい特別支援学校学習指導要領が市販されていないので、現在のところ使用テキストについては言及できません。授業中に必要な資料を配布します。

【参考文献】

なし、授業の中で必要な資料を配布します。

科目名： LD等教育総論

担当教員： 井上 とも子(INOUE Tomoko)

【授業の紹介】

発達障害、主にLD・ADHD・高機能自閉症スペクトラム障害の様態に応じて必要となる支援、特に教育的支援について学びます。はじめに、発達障害の定義について、教育的支援の方向性を示す形で解説します。教育的支援を組み立てるために、まず、アセスメントについて話を進める中で、標準化された発達検査についても触れます。次にそれぞれの学習上の特性に応じた指導・支援方法を論じた後、昨今、通常の学級で困っているとされる問題行動に関しても、対応方法と共に説明します。

最後に発達障害児を持つ保護者の障害受容と教育相談のポイントについて述べます。

【到達目標】

幼児期と小学校期の発達障害の様態を理解し、起こす行動の意味を知り、特性と行動の意味にあった支援・指導の方法を知り、通常の学級における特別支援教育のあり方全般の知識を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方・学習の仕方等・発達障害の概要）
 - 第2回 特別支援教育への転換と今、求められる支援の方向性（障害者差別解消法を踏まえて）
 - 第3回 アセスメントの重要性と支援のPDCAサイクル
 - 第4回 各種発達検査と検査から分かること
 - 第5回 学習障害について
 - 第6回 学習障害と注意欠如多動性障害について
 - 第7回 注意欠如多動性障害と問題行動の意味
 - 第8回 問題行動の理解と対応（応用行動分析学と対応方法を含む）
 - 第9回 自閉症スペクトラム障害（中でも高機能に焦点を当てて）の特性
 - 第10回 自閉症スペクトラム障害の教育について
 - 第11回 発達障害と社会性の課題
 - 第12回 通常の学級の中の発達障害児と周囲の子ども達との関係
 - 第13回 通常の学級における指導・支援（学級運営を含む）
 - 第14回 発達障害児を持つ保護者の障害受容と苦悩
 - 第15回 まとめ（これまでの講義にかかる質問・応答、課題に応じたレポート作成と発表）
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業計画に沿って進めます。事前に参考文献に目を通し、疑問点等を持って授業に望む事を期待しています。

【成績の評価】

レポート70% 授業中の質問・発言20% 授業態度10%
成績評価の不明な点についての質問には、十分な説明を行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

小島道生・宇野宏幸・井澤信三編著『発達障害の子がいるクラスの授業・学級経営の工夫』明時図書（2008）
小野次郎・上野一彦・藤田継道編『よく分かる発達障害』第2版ミネルヴァ書房（2010）
日本LD学会編『発達障害事典』（2016）

科目名： 相談援助
担当教員： 赤川 陽子 (AKAGAWA Youko)

【授業の紹介】

本講義では、保育所や児童福祉施設など子どもとその家族に関わる援助専門職として、子どもと家族に適切な支援・援助を実践するために必要な相談援助の手法を習得することを目的とする。特に、事例を用いて具体的に学ぶ中で、援助専門職としての実践力に直結する知識を身に付けることを目標とする。

【到達目標】

1. 相談援助の概要について理解する。
2. 相談援助の方法と技術について理解する。
3. 相談援助の具体的展開について理解する。
4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象の理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：授業の進め方や評価の方法について
- 第2回 相談援助の概要（1）相談援助の理論と意義
- 第3回 相談援助の概要（2）相談援助の機能とソーシャルワーク
- 第4回 相談援助の概要（3）保育とソーシャルワーク
- 第5回 第2回～第4回のテーマに関するまとめとグループワークと討議
- 第6回 相談援助の方法と技術（1）保育の専門性と相談援助
- 第7回 相談援助の方法と技術（2）保育所における相談援助とその役割
- 第8回 相談援助の具体的展開（1）計画・記録・反省
- 第9回 相談援助の具体的展開（2）関係機関との連携
- 第10回 第6回～第9回のテーマに関するまとめとグループワークと討議
- 第11回 事例分析（1）乳児をもつ保護者への支援
- 第12回 事例分析（2）幼児をもつ保護者への支援
- 第13回 事例分析（3）虐待を受ける子どもとその保護者への支援
- 第14回 事例分析（4）障がいのある子どもとその保護者への支援
- 第15回 第11回～第14回のテーマに関するまとめとグループワークと討議およびこれまでの授業の質疑応答

【授業時間外の学習】

以下の学修課題に即した課題を毎授業課します。

学修課題

- ・対面式の相談援助の展開方法及び留意点を説明できる。
- ・理論的な相談援助の方法、技術、評価を踏まえて、具体的な援助場面で実践できる。

【成績の評価】

10回以上出席した学生を評価対象に、受講態度、提出物（レポート・振り返りノートなど）を総合的に判断します。成績評価の具体的な方法については、第1回のオリエンテーション時に説明します。

【使用テキスト】

テーマに関係のある文献については授業中に随時紹介します。

【参考文献】

テーマに関係のある文献については授業中に随時紹介します。

科目名： 保育相談支援
担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

我が国は人口減少社会を迎えて今日に至っています。保育所が子どもや子育て家庭を取り巻く今日的課題を踏まえ、保育の専門機関として地域社会に貢献することが求められています。保育者としての【専門性】の向上を目指して「保育所保育指針」が改定され、「食育の推進」や「保護者支援」などがうたわれました。保育者が現場での「問題の発見」「情報の収集・分析」「多様な専門家との協力・協働」等を含め、ソーシャルワークを使いこなして、保育実践を、園内はもちろん地域社会に伸ばし、より実り豊かなものにできるよう取り組みます。

【到達目標】

1. 保育相談支援の意義と原則について理解できる。
2. 保護者支援の基本を説明できる。
3. 保育相談支援の実践を学び、内容や方法を理解できる。
4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の事例について理解できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 保育相談支援の意義
 - 第3回 保育相談支援の原理 原理・構造・展開
 - 第4回 保育相談支援の基本 - 子どもの最善の利益、保護者の養育力の向上等
 - 第5回 保育相談支援の基本 - 受容、自己決定、秘密保持等
 - 第6回 保育相談支援の基本 - 地域資源の活用、機関連携等
 - 第7回 保育相談支援実際 - 保護者支援の内容と方法
 - 第8回 保護者支援の実際 - 保護者支援の技術、記録、評価等
 - 第9回 児童福祉施設における保育相談支援 - 保育所での家庭支援事例
 - 第10回 児童福祉施設における保育相談支援 - 保育所での発達障害事例
 - 第11回 児童福祉施設における保育相談支援 - 保育所で特別対応を要する事例
 - 第12回 児童福祉施設における保育相談支援 - 児童養護施設での家庭支援事例
 - 第13回 児童福祉施設における保育相談支援 - 障害児施設等での事例
 - 第14回 地域に向けた保育相談支援の取り組みー役割、機能、事例等
 - 第15回 保育者の成長 研修、スーパーバイズ等
- 定期試験

【授業時間外の学習】

定期的にテーマに関するショートレポートや事例分析を求める。

【成績の評価】

期末テスト(50%)、ショートレポート・事例分析(50%)
ショートレポート・事例分析については、次の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ったレジュメまたはスライド資料を用意する。

【参考文献】

柏女霊峰・橋本真紀(編著)『保育相談支援』ミネルヴァ書房2012年
福丸由佳・安藤智子・無藤隆(編著)『保育相談支援』北大路書房2013年
大島恭二・金子恵美(編著)『保育相談支援』建帛社2012年
笠師千恵・小橋明子著『相談援助 保育相談支援』中山書店2014年
児童育成協会監修/西村重稀・青井夕貴(編集)『保育相談支援』中央法規2015年
東豊『セラピスト入門』日本評論社 1993年

科目名： 社会福祉

担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

社会福祉の基本「福祉とは何か」を共に考えていきます。社会福祉の考え方や、社会福祉を取り巻く現状を理解したうえで、社会福祉全般に関する理解を深め、「専門的知識と思考力」「多様な専門家との協力・協働」「豊かな人間性」や専門職が順守すべき「倫理（望ましい態度）」などを身に付け、社会に貢献できることをめざします。

【到達目標】

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解できる。
2. 社会福祉と家庭福祉との関連性について理解できる。
3. 社会福祉の制度や実施体制について理解できる。
4. 社会福祉における相談援助や利用者保護にかかわる仕組みについて説明できる。
5. 社会福祉の動向や課題について説明できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 社会福祉の理念と概念
 - 第3回 社会福祉の歴史的変遷 - イギリス、アメリカ、スウェーデン
 - 第4回 社会福祉の歴史的変遷 - 日本
 - 第5回 現代社会と社会福祉 - 少子高齢化・ライフスタイルの変化等
 - 第6回 現代社会と社会福祉 - 家庭や地域社会の変容
 - 第7回 現代社会と社会福祉 - 貧困問題
 - 第8回 社会福祉の制度と法体系
 - 第9回 障害者福祉 - 基礎概念、動向、施策等
 - 第10回 高齢者福祉 - 理念、社会政策等
 - 第11回 社会福祉における援助技術 - 相談援助の意義と方法
 - 第12回 社会福祉における援助技術 - ソーシャルワーク、グループワーク等
 - 第13回 利用者保護に関する仕組み - 第三者評価、苦情解決等
 - 第14回 現代の福祉問題 - 障害者虐待、高齢者虐待、引きこもり等
 - 第15回 社会福祉の動向と課題 - 在宅福祉・地域福祉の推進、諸外国の動向等
- 定期試験

【授業時間外の学習】

定期的に、テーマに関するショートレポートを求める。

【成績の評価】

期末テスト（50％）ショートレポート（50％）
ショートレポートについては、次の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ってレジュメ又はスライド資料を用意する。

【参考文献】

- 平岡公一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人『社会福祉学』（有斐閣、2011年）
- 橋本好一・宮田徹（編著）『保育と社会福祉』（みらい、2014年）
- 小林育子・一瀬早百合（共著）『社会福祉と私たちの生活』（萌文書林、2016年）
- 西村昇・日開野博・山下政國（編著）『社会福祉概論』（中央法規 2013年）
- 稲沢公一・岩崎晋也（著）『社会福祉をつかむ』（有斐閣 2012年）
- 直島正樹・原田旬哉（編著）『社会福祉』（萌文書林 2015年）
- 吉田眞理（著）『社会福祉』（青鞥社 2014年）

科目名： 児童家庭福祉

担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

児童家庭福祉は、児童福祉の増進とともに、「子どものより良き適応を援助する」だけでなく、児童の家庭を含めて支援する体制や仕組みが必要となっています。また、現代社会における子ども・家庭問題は、少子化の中で、児童虐待をはじめ、危機的状況に立たされている。このような時、子ども家庭福祉の専門職として、「職業使命感と倫理観」「専門的知識と思考力・判断力」や「豊かな人間性」などを身に付け、子どもや保護者に温かく適切に対応できるようになることをめざします。

【到達目標】

1. 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解できる。
2. 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について説明できる。
3. 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解できる。
4. 児童家庭福祉の現状と課題について説明できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 子ども家庭福祉の理念・概念
 - 第3回 子ども家庭福祉の歴史 - イギリス、アメリカ
 - 第4回 子ども家庭福祉の歴史 - 日本
 - 第5回 現代社会と子ども・家庭 - 少子高齢化社会と次世代育成支援
 - 第6回 現代社会と子ども・家庭 - 子どもの育ち、子育て、ひとり親家庭
 - 第7回 現代社会と子ども・家庭 - 虐待
 - 第8回 現代社会と子ども・家庭 - 不登校、引きこもり
 - 第9回 子ども家庭福祉にかかわる法体系
 - 第10回 子ども家庭福祉の機関と施設
 - 第11回 子ども家庭福祉のサービスの現状 - 母子保健、児童健全育成、保育
 - 第12回 子ども家庭福祉のサービスの現状 - 発達障害
 - 第13回 子ども家庭福祉のサービスの現状 - 反社会的行動
 - 第14回 子ども家庭福祉のサービスの現状 - 相談援助活動
 - 第15回 児童家庭福祉の専門職 児童指導員、ファミリー・ソーシャルワーカー等
- 定期試験

【授業時間外の学習】

定期的に、テーマに関するショートレポートを求める。

【成績の評価】

期末テスト(50%)、ショートレポート(50%)
ショートレポートについては、次の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ってレジュメ又はスライド資料を用意する。

【参考文献】

- 吉田眞理著『児童家庭福祉』（青鞥社、2014年）
- 吉田眞理著『児童家庭福祉』（萌文書林、2016年）
- 松本園子、堀口美智子、森和子著『子供と家庭の福祉を学ぶ』（みなみ書房、2017年）
- 佐々木政人、澁谷昌史編著『子ども家庭福祉』（光生館、2011年）
- 新・社会福祉士養成講座「児童福祉論」（中央法規出版株式会社 2010年）

専門科目:子どもの音楽教育に関する科目

科目	掲載ページ
音楽理論	150
作曲法	151
器楽(鍵盤)Ⅰ	152
器楽(鍵盤)Ⅱ	153
声楽	154
声楽	155
合唱	156
合奏	157
音楽Ⅰ－Ⅰ	158
音楽Ⅰ－Ⅱ	159
音楽Ⅱ－Ⅰ	160
音楽Ⅱ－Ⅱ	161
音楽Ⅲ－Ⅰ	162
音楽Ⅲ－Ⅱ	163
保育内容－表現Ⅱ	164
子ども音楽療育概論	165
子ども音楽療育演習	166
子ども音楽療育実習	167

科目名： 音楽理論

担当教員： 柴田 玲子(SHIBATA Reiko)

【授業の紹介】

時間芸術である音楽、これを再現する手段として「楽譜」があります。楽譜から様々な情報を得て私たちは演奏しています。それを正しく読み取ること、そして逆の立場から、人にこちらの思う通りに正確に演奏してもらえる楽譜を書けることが音楽活動には必要です。五線に記号を並べただけのものから、あの名曲が再現されるのです。ソルフェージュの授業とも関連がありますが、楽譜の秘密を解き明かしながら様々な方向から音楽にアプローチしていきます。この授業を通して、子どもの教育・保育にあたる際の実践力、特に音楽環境を豊かにできる基礎力を身に付けることができます。

【到達目標】

1. 正確に楽譜の読み書きができる
2. 楽譜の知識をもとにして、理論的裏付けのある表現ができる
3. 正しく楽譜を使って子どもたちに的確な対応ができる
4. 子どもの音楽環境を豊かに保ち、音楽的感性を拓く人的環境になることをめざす

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------------------|
| 第1回 | 中学校までの教育現場で扱われる音楽理論、音符と休符 |
| 第2回 | 五線、音部記号、日本とドイツの音名、連符 |
| 第3回 | 正しい記譜法、3度音程、和音の基礎 |
| 第4回 | キーボード上の3度音程と和音、コードネーム |
| 第5回 | 音程の基礎・判断、記譜の練習 |
| 第6回 | 長音階の構造から長調の調号へ |
| 第7回 | 長調の調号、様々な音程、長音階と音程のまとめ |
| 第8回 | 平行調の理解、短調の調号、短音階 |
| 第9回 | 五度円の理解と使い方、近親調 |
| 第10回 | 調号の復習、移調の基礎 |
| 第11回 | 管弦楽の楽器、移調楽器の概念 |
| 第12回 | コードネームの利用、移調奏の基礎 |
| 第13回 | 三和音と七の和音、属七の和音の重要性 |
| 第14回 | 授業のまとめ 練習問題の実施 |
| 第15回 | 練習問題の解説 各種の楽譜を題材にこれまでの復習、応用の可能性 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

配布する練習問題や授業時に完成できなかったワークシートは次回までに必ず完成することが必要です。それを通して理解度を自覚し、質問事項を発見することに努めましょう。また、これまでより楽譜に注目して音楽を聴く習慣をつけることや、授業で扱わないところも含めて教科書をよく読むことが音楽の知識を豊かにします。

【成績の評価】

筆記試験70%、講義・演習（学習シート）への取り組み30%
学習シート内の課題（作業・練習問題）は次回の授業時に解説、定期試験の模範解答と解説は、試験終了後に配布します。

【使用テキスト】

坂口博樹編著『一冊でわかる楽典』成美堂出版

【参考文献】

菊池有恒著『楽典 音楽家を志す人のための』音楽之友社

科目名： 作曲法

担当教員： 柴田 玲子(SHIBATA Reiko)

【授業の紹介】

作曲と聞くと難しいと考えてしまいがちですがそうではありません。皆さんが口ずさむうた、好き勝手に弾く音楽、それだけで作曲です。しかし、それはその場限りの感動で終わってしまいます。再現できる形にして初めて「曲」として自立するのです。

この授業では様々な曲の分析を通して旋律や和声のあり方に気付き、自分の思い通りの表現が可能になるよう研究を進めていきます。その創造力を直接、教育・保育の実践力に反映できることを目指した授業です。各自で作りたい曲を決定してからは、個々にその分野の曲について知識を深めていきます。講義と一言いながら演習や実技の部分が長く、積極的に楽器や楽譜に取り組む姿勢が必要です。楽譜を作る作業になるので、音楽理論、ソルフェージュ・ の単位を取得していること、そして、器楽（鍵盤）を履修済みあるいは履修中であることを受講の条件とします。

【到達目標】

1. 日常的な子どもの活動から、そこに潜在する「音楽」を読み取ることができる。
2. 読み取った音楽を、教育・保育の場にふさわしい形に増幅して実践につなげることができる。
3. 読み取った子どもの表現を正確に（再現可能な形に）記録することができる。
4. 教育・保育の場に必要音楽環境を的確に作り出すことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、基礎知識（音楽理論・記譜法）の確認
- 第2回 基礎知識（楽曲）の確認、様々な楽曲の紹介
- 第3回 子どもの表現、子どもの歌作曲に向けて（楽曲研究）
- 第4回 実作1 - 1 子どもの歌（ことばの選び方、ことばのイントネーションやリズム）
- 第5回 実作1 - 2 子どもの歌（旋律の成り立ち、旋律と和声）作品の発表と振り返り
- 第6回 自由作曲に向けて、曲の種類を大まかに選択し参考曲を分析する準備
- 第7回 各自で参考曲を分析すると共に作品の方向性を決定
これ以後は作りたい曲の種類により手順が異なりますが例としてピアノソナタの場合を挙げます
- 第8回 実作2 - 1 ソナタ形式を知る手始めにソナチネを分析研究
- 第9回 実作2 - 2 第1主題で用いる動機を決定し、展開の可能性を探る
- 第10回 実作2 - 3 第1主題完成、第2主題スケッチ、調の確認
- 第11回 実作2 - 4 提示部完成、展開部で主に展開したい動機のスケッチ、転調の計画
- 第12回 実作2 - 5 展開部の主要部分完成、帰結楽句から再現部冒頭へ
- 第13回 実作2 - 6 提出用楽譜の浄書、曲の構成確認、演奏の練習
- 第14回 楽曲の発表と振り返り、修正点について検討、より完成度の高い楽譜へ
- 第15回 教育・保育の実践に向けて発展の可能性を含んで授業のまとめ、作品の提出
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

作曲に必要なソルフェージュ能力を高めるために、聞き覚えのある曲を楽譜にする練習をしましょう。その具体的な方法は授業の中で指示します。実作に取り掛かると自ら楽器に向かって音を探す場合が多いので授業中ばかりでなく静かな環境で自主的に取り組む必要があります。実際に作ることに費やす授業回数は少ないので、そこで積極的に指導が受けられるように準備しておくことと順調に進みます。また、作りたい曲が決定した後はできるだけ多く関連楽曲に触れるように努力しましょう。

【成績の評価】

普段の取り組み（40%）、作品の成果（40%）、楽譜の完成度（20%）。作品について、毎回の授業の中で問題点を指摘し、改善の提案を与えるのでその都度フィードバックされます。最終作品の楽譜は（不備があれば添削して）返却します。

【使用テキスト】

共通のテキストはありませんが、自由作曲で選んだ曲の参考曲を研究する必要があるため、書き込みが出来るように楽譜を購入、それが各自のテキストとなります。

【参考文献】

記譜に関しては各種の楽譜、ソルフェージュや音楽理論の教科書が参考になります。

科目名： 器楽（鍵盤）

担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)、酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

ピアノもしくは電子オルガンの授業です。教育、保育の現場における音楽活動に必要な知識を、楽曲を通して学び、自主的に音楽表現を行えるように、個人レッスンで指導をします。こども音楽療育士の資格取得に関する科目です。

・ピアノ：ソナチネ以上の演奏技術を有する学生対象の授業です。ソナチネ程度以上の楽曲から任意の一曲を選び、仕上げていきます。その中で演奏技術、音楽性を高めます。

・電子オルガン：電子オルガンを使っていろいろな曲を演奏できるよう指導します。電子オルガンの経験は問いません。初心者・経験者それぞれのレベルにあわせて選曲し、進めていきますので心配ありません。コードネームを覚えれば一段譜（ト音記号）の楽譜でも伴奏をつけて弾けるようになります。

【到達目標】

・ピアノ：より高度な楽曲ー西洋クラシックを中心としたピアノ音楽に取り組むことで高い技術の習得を、また、作品の背景についても学び、高度な音楽性の習得をめざす。

・電子オルガン：両手・両足を使っていろいろなリズムの曲の演奏技術習得をめざすとともに、コードネームを見て適切な伴奏をつける技術の習得をめざす。

【授業計画】

第1回	オリエンテーションおよび楽曲の決定
第2回	各自のレベルに応じた個人指導（～第13回）
第3回	譜読み指導 作品全体について説明
第4回	〃 運指、装飾音など奏法に関すること
第5回	〃 調性、臨時記号（楽曲に応じて）
第6回	技術指導 ペダル
第7回	〃 難しい箇所のリズム練習
第8回	〃 タッチの練習、音のバランス
第9回	作品の背景 作曲家について
第10回	〃 作曲年代、時代背景
第11回	作品の構成 形式、フレーズ、和声構造
第12回	暗譜で通して弾く、解釈について
第13回	テンポ、リズム等の調整
第14回	実技テスト向けて～リハーサル
第15回	まとめ。受講生同士で演奏を聴き合い、お互いに意見・感想を交換する

定期試験

【授業時間外の学習】

楽器演奏は日々の練習が欠かせません。また練習しないと授業そのものが成り立ちません。授業時に指摘した問題点を1週間の練習によって克服してください。

【成績の評価】

定期試験（90％）による評価とともに、授業に取り組む姿勢（10％）なども加味して評価します。

授業においては、楽曲の演奏について指摘した問題点を、次回の授業にて、また定期試験においては、試験終了後に演奏のフィードバックを行います。

【使用テキスト】

ソナチネアルバム以上のレベルの曲集（ピアノ）、それぞれのレベルに応じた楽譜（電子オルガン）

【参考文献】

なし

科目名： 器楽（鍵盤）

担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)、酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

ピアノもしくは電子オルガンの授業です。教育、保育の現場における音楽活動に必要な知識を、楽曲を通して学び、自主的に音楽表現を行えるように、個人レッスンで指導をします。こども音楽療育士の資格取得に関する科目です。

・ピアノ：ソナチネ以上の演奏技術を有する学生対象の授業です。ソナチネ程度以上の楽曲から任意の一曲を選び、仕上げていきます。その中で演奏技術、音楽性を高めます。

・電子オルガン：電子オルガンを使っていろいろな曲を演奏できるよう指導します。電子オルガンの経験は問いません。初心者・経験者それぞれのレベルにあわせて選曲し、進めていきますので心配ありません。コードネームを覚えれば一段譜（ト音記号）の楽譜でも伴奏をつけて弾けるようになります。

【到達目標】

・ピアノ：より高度な楽曲に取り組むことで高い技術の習得を、器楽（鍵盤） から引き続いて履修する学生は、その作品の作曲家について学び、楽曲の簡単な分析を行い解釈できることをめざす。また、自身の音楽表現を高め、コンサートに備える。

・電子オルガン：両手・両足を使っていろいろなリズムの曲の演奏技術習得をめざすとともに、コードネームを見て適切な伴奏をつける技術の習得をめざす。

【授業計画】

第1回	オリエンテーションおよび楽曲の決定
第2回	各自のレベルに応じた個人指導（～第13回）
第3回	譜読み指導 作品全体について説明
第4回	“ 運指、装飾音など奏法に関すること
第5回	“ 調性、臨時記号（楽曲に応じて）
第6回	技術指導 ペダル
第7回	“ 難しい箇所のリズム練習
第8回	“ タッチの練習、音のバランス
第9回	作品の背景 作曲家について
第10回	“ 作曲年代、時代背景
第11回	作品の構成 形式、フレーズ、和声構造
第12回	暗譜で通して弾く、解釈について
第13回	テンポ、リズム等の調整
第14回	実技テスト向けて～リハーサル
第15回	まとめ。受講生同士で演奏を聴き合い、お互いに意見・感想を交換する

定期試験

【授業時間外の学習】

楽器演奏は日々の練習が欠かせません。また練習しないと授業そのものが成り立ちません。授業時に指摘した問題点を1週間の練習によって克服してください。また、積極的に学校行事に参加して、発表の機会を増やしましょう。

【成績の評価】

定期試験（90％）による評価とともに、授業に取り組む姿勢（10％）なども加味して評価します。

授業においては、楽曲の演奏について指摘した問題点を、次回の授業にて、また定期試験においては、試験終了後に演奏のフィードバックを行います。

【使用テキスト】

ソナチネアルバム以上のレベルの曲集（ピアノ）、それぞれのレベルに応じた楽譜（電子オルガン）

【参考文献】

なし

科目名： 声楽

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)、水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

乳幼児期から学童期における子どもの健全な成長・発達の姿を明解にする中で指導者に求められる豊かな心と創造性を発揮する為に「声は人なり」とも言われています。そこで自らの声を磨く事が求められています。声楽経験者も初心者も受講できる少人数制で個別指導の授業です。基本的な無理のない発声練習を行いながら、情感豊かな表現力に富んだ声で童謡や唱歌、日本の抒情歌を中心に演奏します。又声楽の基本であるイタリア古典歌曲や世界の名曲にも取り組みます。

【到達目標】

- ・ 息の流れを習得事ができる
- ・ 音域を広げることができる
- ・ 声を明瞭にする
- ・ 童謡、唱歌、日本の抒情歌をそれぞれ歌うことができる（１曲ずつ）

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番1~3、春の童謡
 - 第3回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番4~6、春の唱歌
 - 第4回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番7~9、夏の童謡
 - 第5回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番10~12、夏の唱歌
 - 第6回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番13~15、秋の童謡
 - 第7回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番16~18、秋の唱歌
 - 第8回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番19~21、冬の童謡
 - 第9回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番22~24、冬の唱歌
 - 第10回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番25~27、日本の抒情歌
 - 第11回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番28~30、日本の抒情歌
 - 第12回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番31~33、イタリア古典歌曲
 - 第13回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番34~36、イタリア古典歌曲
 - 第14回 呼吸法と発声練習、コンコーネ50番世界の名曲
 - 第15回 呼吸法と発声練習、各クラスにて発表演奏
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。

【成績の評価】

指定された楽曲に取り組むことができること。歌の楽しさ美しさを表現していること。楽曲に取り組む態度等を加味して評価し、単位を認定する。

当日発表演奏90% 課題への取り組み方10%

クラス発表後全員で感想を述べあう。

【使用テキスト】

- 『コンコーネ50番』（畑中良輔 編）（全音楽譜出版社）
- 『こどものうた大集合210』（坂田おさむ 編）（ソットーミュージック出版 2012年）
- 『日本の名歌集1・2』（音楽之友社 編）（音楽之友社 2010年）
- 『イタリア古典歌曲集』（畑中良輔 編）（全音楽譜出版社）

【参考文献】

- 『美しい発声法』（D.P.マクロスキー著、高山教子 訳）（音楽之友社 2002年）

科目名： 合唱

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae), 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

子育て支援を支える豊かな心と創造力を身につけるために多くの科目があるが「声はひとり」と言われています。合唱は心ここを一つにして歌いあげるものです。受講者全員の声を聴きそれぞれの声に合ったパート分けをし、二部、三部、四部合唱等を楽しむことができますようにします。女声合唱、男声合唱、混声合唱等各種の合唱の魅力を味わい、人の声の素晴らしさを体験し、曲目については、日本の名曲、世界の名曲、童謡等から選び外国の曲は原語で演奏する。バロックから現代まで幅広く選曲します。

【到達目標】

- ・ 各自のパートをしっかりと歌えるようになる。
- ・ 合唱になっても他のパートにつられない様に歌うことを目標にする。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション、パート分け
第2回	発声練習、楽曲解説、パート練習
第3回	発声練習、パート練習
第4回	発声練習、パート練習
第5回	発声練習、パート練習
第6回	発声練習、パート練習
第7回	発声練習、パート練習、全体練習
第8回	発声練習、パート練習、全体練習
第9回	発声練習、パート練習、全体練習
第10回	発声練習、パート練習、全体練習
第11回	発声練習、全体練習、パート練習
第12回	発声練習、全体練習、パート練習
第13回	発声練習、全体練習、パート練習
第14回	発声練習、全体練習、パート練習
第15回	発声練習、全体練習、その後公開演奏、総合的なまとめ

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

まずテキストの音読を毎日し、各自のパートの譜読みに時間を十分かけて欲しい。テキストの内容の解釈に努めてほしい。

【成績の評価】

各自の個性を大切にしつつ全体のハーモニーの事を考え、楽曲の理解や演奏内容を考慮して評価し、単位を認定する。

公開演奏 90% 課題への取り組み方 10%

授業終了後、全員で合唱して音楽の美しさ・楽しさを感じ取ること。そして、オータムコンサートに向けて更に練習すること。

【使用テキスト】

- 『コンコーネ50番』（畑中良輔編）（全音楽譜出版社）
- 『各種合唱名曲集』等

【参考文献】

- 『声とことばのトレーニング』（加藤友康）桐書房出版（1998年）

科目名： 合奏

担当教員： 金川 公久(KANAGAWA Hirohisa)

【授業の紹介】

中学・高校の吹奏楽部などで器楽演奏を経験したり、個人的に習ったことのある管打楽器を使用して合奏を行います。演奏技術に応じた教材を用意し、技術に応じた学習ができるよう、工夫した授業を行います。

【到達目標】

1. 演奏技術及び合奏技術の向上を図ることができる。
2. 集団での演奏活動を通して、積極性、協調性、社会性、集中力や感性を養うことができる。
3. 将来子供たちを指導するためのポイントのつかみ方を学ぶことができる。

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「ダンシング・ヒーロー」 |
| 第3回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「ダンシング・ヒーロー」 |
| 第4回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「ダンシング・ヒーロー」 |
| 第5回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「ダンシング・ヒーロー」 |
| 第6回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「ダンシング・ヒーロー」 |
| 第7回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「J-BEST2017」 |
| 第8回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「J-BEST2017」 |
| 第9回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「J-BEST2017」 |
| 第10回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「J-BEST2017」 |
| 第11回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「J-BEST2017」 |
| 第12回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「J-BEST2017」 |
| 第13回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「J-BEST2017」 |
| 第14回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「J-BEST2017」 |
| 第15回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「J-BEST2017」 |
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。絶えず楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。

【成績の評価】

平常の授業への取り組む姿勢40%、個人的指導に対する応える能力40%、演奏行事（オープンキャンパス）への参加20%。演奏内容について、合奏する合間で、常に講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

全体的な演奏の技量に応じて、楽譜などを配布します。

【参考文献】

- JBCバンドスタディ（ヤマハ楽譜出版）
- 3Dハンドブック（ヤマハ楽譜出版）

科目名： 音楽 -

担当教員： 音楽Ⅰ－Ⅰ担当教員全員

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で音楽が果たす役割は大変大きく、保育園、幼稚園、小学校、特別支援学校において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育士、幼稚園、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は不可欠です。この授業では、個人の能力に応じて教則本を選定し、初心者についてはバイエル60番を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指す一方、基本的な音符や音楽用語を学びます。また他学生の演奏等を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものとします。

【到達目標】

- ・正しい指使いで曲を弾くことができる。
- ・楽譜を読むことができる。
- ・楽器の持つ特徴を理解することができる。。
- ・曲想を感じて弾くことができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	音符の読み方、片手ずつの簡単な旋律の練習
第3回	楽語の説明、両手の簡単な旋律の練習
第4回	バイエル 10～15番の練習曲
第5回	バイエル 15～20番の練習曲
第6回	バイエル 20～25番の練習曲
第7回	バイエル 25～30番の練習曲
第8回	バイエル 30～35番の練習曲
第9回	バイエル 35～40番の練習曲
第10回	バイエル 40～45番の練習曲
第11回	バイエル 45～50番の練習曲
第12回	バイエル 50～55番の練習曲
第13回	バイエル 55～60番の練習曲
第14回	バイエル 60番
第15回	バイエル 60番暗譜、グループで発表演奏
定期試験	

【授業時間外の学習】

毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。特に初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

前期終了時に各自の課題曲を演奏し、楽曲の解釈、リズム感、旋律の美しさ等を担当教員5名が聴き完成度を評価し、単位を認定します。

当日発表演奏 90% 課題への取り組み方 10%

試験結果を担当教員より発表、今後の勉学の為に役立てることを目標にする。一人ずつに行う。

【使用テキスト】

『バイエル教則本』（F.バイエル作曲）（全音楽譜出版社）

【参考文献】

なし

科目名： 音楽 -

担当教員： 音楽Ⅰ－Ⅱ担当教員全員

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で音楽が果たす役割は大変大きく、保育園、幼稚園、小学校、特別支援学校において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育士、幼稚園、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は不可欠です。この授業では、音楽Ⅰに引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、初心者についてはバイエル80番を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指す一方、基本的な音符や音楽用語を学びます。また他学生の演奏等を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものとします。

【到達目標】

- ・正しい指使いで曲を弾くことができる。
 - ・楽譜を読むことができる。
 - ・楽器の持つ特徴を理解することができる。
 - ・曲想を感じて弾く事ができる。
- (音楽Ⅰよりは難易度が上がる)

【授業計画】

第1回	オリエンテーション、前期音楽Ⅰの復習
第2回	音階の練習
第3回	バイエル 61・62番練習
第4回	バイエル 63・64番練習
第5回	バイエル 65・66番練習
第6回	バイエル 67・68番練習
第7回	バイエル 69・70番練習
第8回	バイエル 71・72番練習
第9回	バイエル 73・74番練習
第10回	バイエル 75・76番練習
第11回	バイエル 77・78番練習
第12回	バイエル 79・80番練習
第13回	バイエル 80番練習
第14回	バイエル 80番練習
第15回	バイエル 80番暗譜、グループで発表演奏
定期試験	

【授業時間外の学習】

毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。特に初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

後期終了時に各自の課題曲を演奏し、楽曲の解釈、リズム感、旋律の美しさ等を担当教員5名が聴き完成度を評価し、単位を認定します。

当日発表演奏90% 課題への取り組み方10%

試験結果を担当教員より発表、今後の勉学の為に役立てることを目標にする。一人ずつに行う。

【使用テキスト】

『バイエル教則本』（F.バイエル作曲）（全音楽譜出版社）

【参考文献】

なし

科目名： 音楽 -

担当教員： 音楽Ⅱ－Ⅰ担当教員全員

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で音楽が果たす役割は大変大きく、保育士、幼稚園、小学校において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育士、幼稚園、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は不可欠です。

この授業では、音楽 - 、 - に引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、大学入学後ピアノを始めた学生についてはバイエル終了を目標としピアノ演奏技術の向上を目指す一方、基本的な音符、休符、記号等を学びます。また他学生の演奏等を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

将来無理なく教育現場で楽曲が弾けるように基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、各自のピアノ演奏能力を再調査し楽曲を選ぶ
第2回 実技指導
第3回 実技指導
第4回 実技指導
第5回 実技指導
第6回 実技指導
第7回 実技指導
第8回 課題曲を中心に実技指導
第9回 課題曲を中心に実技指導
第10回 課題曲を中心に実技指導
第11回 課題曲を中心に実技指導
第12回 課題曲を中心に実技指導
第13回 課題曲を中心に実技指導
第14回 課題曲を中心に実技指導
第15回 各クラスにおける課題の発表演奏
定期試験

【授業時間外の学習】

練習目標を設定し、必ず毎日ピアノに向い練習すること。

【成績の評価】

前期終了時に実技発表演奏を行い、担当教員5名で曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価します。
当日実技発表演奏90% 課題への取り組み方10%
試験結果を担当教員より発表、今後の勉学の為に役立てることを目標にする。一人ずつに行う。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社出版部 『バイエル教則本』（全音楽譜出版社）972円、
シェルニー100・30番教則本、
ブルグミュラー練習曲
ソナチネアルバム第1巻、
ソナタアルバム、その他

【参考文献】

なし

科目名： 音楽 -

担当教員： 音楽Ⅱ－Ⅱ担当教員全員

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で音楽が果たす役割は大変大きく、保育士、幼稚園、小学校において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育士、幼稚園、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は不可欠です。

この授業では、音楽 - を習得後引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルを終了した学生はツェルニー100番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進みピアノ演奏技術の向上を目指す一方、基本的な音符、休符、記号等を学びます。また「保育内容 - 表現」の授業と関連することもあり、他学生の演奏等を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

音楽 - に引き続き、将来無理なく教育現場で楽曲が弾けるように基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、各自のピアノ演奏能力を再調査し楽曲を選ぶ
 - 第2回 実技指導
 - 第3回 実技指導
 - 第4回 実技指導
 - 第5回 実技指導
 - 第6回 実技指導
 - 第7回 実技指導
 - 第8回 課題曲を中心に実技指導
 - 第9回 課題曲を中心に実技指導
 - 第10回 課題曲を中心に実技指導
 - 第11回 課題曲を中心に実技指導
 - 第12回 課題曲を中心に実技指導
 - 第13回 課題曲を中心に実技指導
 - 第14回 課題曲を中心に実技指導
 - 第15回 各クラスにおける課題の発表演奏
- 定期試験

【授業時間外の学習】

練習目標を設定し、必ず毎日ピアノに向い練習すること。

【成績の評価】

後期終了時に実技発表演奏を行ない、担当教員5名で曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価します。

当日実技発表演奏90% 課題への取り組み方10%

試験担当教員より発表、今後の勉学の為に役立てることを目標にする。一人ずつに行う。

【使用テキスト】

バイエル教則本、ツェルニー100・30番教則本、ブルグミュラー練習曲
ソナチネアルバム第1巻、ソナタアルバム、その他

【参考文献】

なし

科目名： 音楽 -
担当教員： 福崎 至佐子(FUKUZAKI Hisako)

【授業の紹介】

この授業は3年生前期に行います。
打楽器(小太鼓・大太鼓・カスタネット・スネア・タンバリン・すず・トライアングル)・音板楽器(木琴・鉄琴)・ピアノ・管楽器(リコーダー)等を用いて、簡単な重奏や合奏にした楽曲・クラシックの名曲を演奏します。

【到達目標】

学生が幅広く数多くの楽器を演奏できるようにします
将来保育士・幼稚園・小学校等の教諭となるための音楽の基礎知識(楽典)を理解することを目指す
あらゆる器楽の基礎演奏法を広く修得することを目指す

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(合奏について)
- 第2回 楽器の扱い方(手入れの仕方)
- 第3回 エルガー作曲 行進曲「威風堂々」第1番を演奏、強弱記号、速度記号について理解を深める
- 第4回 モーツァルト作曲 アイネクライネナハトムジークを演奏、総譜(スコア)の読み方に慣れる
- 第5回 ブラームス作曲 ハンガリアン舞曲5番を演奏、強弱記号、反復記号をマスターする
- 第6回 バッハ作曲 G線上のアリアを演奏、緩やかなリズムの取り方、美しい音の出し方を学ぶ
- 第7回 メンデルスゾーン作曲 歌の翼にを演奏、細かい音符をはっきり出す奏法を学ぶ
- 第8回 ヴィヴァルディ作曲 四季より「春」を演奏、はざれ良い音の出し方を研究
- 第9回 ヨハン・シュトラウス2世作曲「青く美しきドナウ」を演奏、ワルツのリズム感(3拍子)を会得する
- 第10回 ヨハン・シュトラウス1世 デラッキー行進曲を演奏、打楽器の基礎奏法と明確な音の出し方を研究する
- 第11回～第15回
毎回、すべての曲を演奏し、お互いに指揮をしながら強弱、テンポ設定を声に出せるようになることをめざします
すべての回で全員に2拍子、3拍子、4拍子、8分の6拍子の指揮ができるように指導します

定期試験

【授業時間外の学習】

復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。1日10分でも良いので復習を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD,CDなどで常に聞くようにしましょう。

【成績の評価】

平常の授業への取り組みを重視し、期末試験も含め総合的に評価します。

期末試験点 80%

平常点 20%

また、発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

こどもの器楽合奏大全集 クラシック1
クラシック2

株式会社デプロ(2007年発行)

【参考文献】

音楽科の基礎練習
パウル・ヒンデミット著 坂本良隆/千蔵八郎 英訳
音楽之友(昭和63年発行)

科目名： 音楽 -
担当教員： 金川 公久(KANAGAWA Hirohisa)

【授業の紹介】

中学・高校の吹奏楽部などで器楽演奏を経験したり、個人的に習ったことのある管打楽器を使用して合奏を行います。演奏技術に応じた教材を用意し、技術に応じた学習ができるよう、工夫した授業を行います。

【到達目標】

1. 演奏技術及び合奏技術の向上を図ることができる。
2. 集団での演奏活動を通して、積極性、協調性、社会性、集中力や感性を養うことができる。
3. 将来子供たちを指導するためのポイントのつかみ方を学ぶことができる。

【授業計画】

- | | | |
|------|---------------------|--|
| 第1回 | オリエンテーション | |
| 第2回 | 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品1 | |
| 第3回 | 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品1 | |
| 第4回 | 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品1 | |
| 第5回 | 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品1 | |
| 第6回 | 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品1 | |
| 第7回 | 基礎合奏及びスクリーン・ミュージック等 | |
| 第8回 | 基礎合奏及びスクリーン・ミュージック等 | |
| 第9回 | 基礎合奏及びスクリーン・ミュージック等 | |
| 第10回 | 基礎合奏及びスクリーン・ミュージック等 | |
| 第11回 | 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品2 | |
| 第12回 | 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品2 | |
| 第13回 | 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品2 | |
| 第14回 | 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品2 | |
| 第15回 | 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品2 | |
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。絶えず楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。

【成績の評価】

平常の授業への取り組む姿勢40%、個人的指導に対する応える能力40%、演奏行事（オープンキャンパス）への参加20%。演奏内容について、合奏する合間で、常に講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

全体的な演奏の技量に応じて、楽譜などを配布します。

【参考文献】

- JBCバンドスタディ（ヤマハ楽譜出版）
- 3Dハンドブック（ヤマハ楽譜出版）

科目名： 保育内容 - 表現
担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

幼稚園教育要領の示す領域「表現」のうち音楽に係わる内容を理解し、種々の音楽的表現と指導法を学ぶ。グループワークによる課題を通して各々の自由な発想を呼び起こし、豊かに創造する力と園児に伝える力を育成します。またほぼ毎回行う発表や模擬授業の場で保育者としての音楽的な実践力を高めると同時に、指導・観察および評価の力を養う。保育現場において専門性を持つ人材と協働し子どもとの音楽活動に十分に対応できる幅広い音楽知識を修得します。

【到達目標】

1. 領域「表現」のねらいと内容を理解（筆記試験で7割正答）できる。
2. 保育者に問われる基礎的な音楽能力と身体表現力（楽しんで発表できる力）を身に付ける。
3. 子どもの発達に合わせた保育内容の計画と実践、および適切な評価ができる。
4. レパートリーの習得（20曲）に加え、自由な発想による振付が短時間でできる。
5. 子どもに寄り添う音楽を理解し、堅実な実践力により彼らの豊かな音楽経験をサポートできる。
6. 音楽に関わる指導場面を具体的に想定し保育を構想することができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション（授業の進め方）、
幼稚園教育要領の領域「表現」、音楽表現の芽生えと発達、評価のあり方、他領域との関連
第2回：手遊び歌・体遊び歌（1）「季節の歌」
第3回：手遊び歌・体遊び歌（2）「園生活の歌」
第4回：手遊び歌・体遊び歌（3）「人気のダンス」
第5回：わらべ歌
第6回：遊びと表現、音楽を伴ったさまざまな遊び、遊びの創作
第7回：リトミック（1）概要、「ボディー・パーカッション」他
第8回：リトミック（2）「さまざまなリズムや音の表情を聴きとり、反応する」「種々のカード」他
第9回：リトミック（3）「音楽を聴いて全身で動く」「模倣」「創作ダンス」「ボディサイン」
第10回：簡単な楽器を使った合奏（鍵盤楽器、打楽器、トーンチャイム等）
第11回：簡単な楽器の伴奏による斉唱、演奏に関する指導上の留意点
第12回：保育構想における情報機器・教材の活用、
簡単な音楽劇の制作についてのオリエンテーション（素材や手法の説明、計画の立て方、
表現指導上の留意点、援助のあり方）
第13回：音楽劇の準備・練習（1）（小道具の製作、楽器伴奏、振り付け）
第14回：音楽劇の準備・練習（2）（総合的な練習）
第15回：音楽劇の発表会、相互評価と検討、まとめ
期末試験

【授業時間外の学習】

指定された曲の予習、また復習を行う。詳細はその都度教員が説明する。

【成績の評価】

定期試験（35%）、授業における発表（35%）、課題に取り組む姿勢・提出物（30%）
定期試験については採点基準を説明する。授業における発表に対してはその都度コメントを与える。
提出物は添削し、返却する。

【使用テキスト】

子どもの音楽表現・うたあそび（柚木たまみ監修、三学出版）

【参考文献】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
保育所保育指針（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： 子ども音楽療育概論
担当教員： 栗田 京子(KURITA Kyoko)

【授業の紹介】

子どもの発達子どもによって様々です。発達曲線に沿って伸びていく子どももいれば、どこかに歪みを持った子どももいます。そこで、生きにくい要素を持った子どもたちに音楽を通して援助できる方法を模索する授業です。子どもを支援していく上で、ノンバーバルで関われるのが音楽です。その音楽の持っている特性や力を音楽療法という分野からの観点で学習します。支援学級のみならず、通常学級でも生かせる知識と技術です。2年次までに学習した発達心理学を復習しながら、様々な生きにくい子ども達に音楽での具体的援助方法を学習します。

【到達目標】

障害のある子ども達に音楽を使う時に必要な基礎や専門知識を習得することができる。音楽の持つ特性を熟知し、心身の発達過程と音楽の関わりを学習し、将来関わっていくであろう様々な子どもたちへのかわり方の一つとして、より豊かな知識と技術を習得することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(授業目標及び授業の概要の確認)
 - 第2回 音楽の機能と音楽の効果について
 - 第3回 発達障害について復習(2年次までの障害児研究を検証する)
 - 第4回 個人・集団での療育の違い
 - 第5回 音楽で関わった時の子どもの変化を観る(先行文献の研究)
 - 第6回 療育における目標設定の立て方
 - 第7回 感覚統合と音楽療育との関係
 - 第8回 コミュニケーションを育てるプログラム検証1
 - 第9回 コミュニケーションを育てるプログラム検証2
 - 第10回 重度重複障害児への音楽療育とは
 - 第11回 養護学校においての音楽療育とは
 - 第12回 学校教育においての音楽療育とは
 - 第13回 音楽療育に使える楽曲紹介及び実技1
 - 第14回 音楽療育に使える楽曲紹介及び実技2
 - 第15回 まとめ(音楽療育の意義を確認する)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

2年次までに学習した発達心理学、障害児研究等を復習しておくこと

【成績の評価】

定期試験 (50%)
授業態度 (50%)
採点基準を説明することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

二俣 泉 著「音楽で育てよう」(春秋社、2011年)
必要な資料はその都度配布する

【参考文献】

クライブ・ロビンズ 著『音楽する人間』(春秋社、2007年)

科目名： 子ども音楽療育演習
担当教員： 栗田 京子(KURITA Kyoko)

【授業の紹介】

障害を持った子ども達と関わる現場は、障害の区分や形態（個人・集団）の違いがあります。それぞれの現場に対応できる音楽の使い方をシュミレーションしながら学習します。子ども音楽療育概論で学習した理論を踏まえ、音楽の効果を実践に使えるように目標設定・プランの立て方・技術を体得していきます。

【到達目標】

障害のある子ども及び健常児と言われる子どもを対象とした音楽療育の方法を、具体的に楽器や音楽の使い方を学習することで、自在に音楽を使うことができる。目標設定やプランを立てることで実践に向かって、より効果的な音楽の使い方が習得できる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション(授業目標および本授業の到達目標を示唆する)
第2回 音楽療育に使う楽器紹介および楽器の効果的使い方
第3回 コードネームの理解
第4回 コード進行および簡単な伴奏法の学習
第5回 視覚刺激の作成
第6回 活動目標のたてかた(アセスメントの方法および目標設定)
第7回 ソングライティングの方法
第8回 ソングライティング(活動目標に沿った曲作り)
第9回 活動の展開方法の検証
第10回 オリジナルソングの発表
第11回 プラン作成方法(目標・セッションの流れ・準備物など)
第12回 プラン作成
第13回 模擬セッション(各自が立てたプランの実施)
第14回 記録書の書き方及び模擬セッションの記録書作成
第15回 まとめ(授業で習得した技術の確認)
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業中の課題を提出期限までに完成させておくこと。

【成績の評価】

提出物 (50%)
授業程度 (30%)
パフォーマンス (20%)
提出物およびパフォーマンスに対してその都度アドバイスをする。

【使用テキスト】

二俣 泉 著 『音楽で育てよう』（春秋社、2011年）

【参考文献】

生野 里花 著 『静かな森の大きな木』（春秋社、2001年）

科目名： 子ども音楽療育実習
担当教員： 栗田 京子(KURITA Kyoko)

【授業の紹介】

3年次までに習得した知識及び技術を現場で検証する授業である。机上の空論ではなく、直接子どもたちに音楽を使って支援できることを考え、実施する。毎時スーパーバイザーのもと実習後フィードバックし、検証しながら授業を進める。指定された施設での実習となるので、施設の職員さんをはじめ、他業種の人たちとのコミュニケーションも欠かせない要素となる。実践の場を経験することで、卒業後の仕事に役立つ授業とする。

【到達目標】

対象となる子どもたちの困り感を軽減するプランの作成・実践・記録と一貫した流れの中で、子供たちの支援となる方法を模索、検証することができる。

【授業計画】

第1回 学内オリエンテーション
第2回 施設オリエンテーション
第3回 実習1
第4回 実習2
第5回 実習3
第6回 実習4
第7回 実習5
第8回 実習6
第9回 実習7
第10回 実習8
第11回 実習9
第12回 実習10
第13回 実習11
第14回 実習12
第15回 まとめ(実習の結果・反省)
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

実習の準備のためプランの作成・記録を準備する
仔細はオリエンテーション時に渡す要綱に沿って実習の準備をする。

【成績の評価】

プランの作成(40%)
パフォーマンス(30%)
記録書等の提出物(30%)
プラン・記録書等、毎時の提出物については添削し返却する。パフォーマンスは、実習後の時間に反省会を持ち討論を行うことでフィードバックする。

【使用テキスト】

二俣泉著 「音楽で育てよう」(春秋社2011年)

【参考文献】

なし

専門科目:教科指導に関する科目

科目	掲載ページ
教職教養演習Ⅰ	168
教職教養演習Ⅲ	169
教職専門演習	170
国語指導法研究Ⅰ	171
国語指導法研究Ⅱ	172
社会科指導法研究Ⅰ	173
社会科指導法研究Ⅱ	174
算数指導法研究Ⅰ	175
算数指導法研究Ⅱ	176
理科指導法研究Ⅰ	177
理科指導法研究Ⅱ	178
生活科指導法研究Ⅰ	179
生活科指導法研究Ⅱ	180
家庭科指導法研究	181
体育指導法研究	182
音楽指導法研究Ⅰ	183
音楽指導法研究Ⅱ	184
図画工作指導法研究	185
外国語活動(英語)指導法研究	186
保育・教職実践演習(保・幼)	187
教職実践演習(小)	189
特別演習Ⅰ	190
特別演習Ⅱ	191
特別演習Ⅲ	192

科目名： 教職教養演習

担当教員： 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育原理、教育史、保育原理などの教職教養の基礎知識は備わっただろうか。本授業はそれらの確認や復習のために実施します。それは発達科学部の専門科目である教育学原論や教育制度論、あるいは保育原理で既に学んだ内容であり、受験に向けて基礎知識の定着を図るものでもあります。主として問題演習を行うが、解説を通して内容を理解することも目的とします。

【到達目標】

- ・教育や学校に関する専門的な知識を習得し、用語や内容について説明することができる。
- ・教育の思想や仕組みについて理解し、説明することができる。
- ・習得した知識を教育・保育の実践と関連づけて、自分なりの意見や考えを述べることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 教育の意義と目的
第3回 西洋教育史（１）近代まで
第4回 西洋教育史（２）近代以降
第5回 日本教育史（１）近代まで
第6回 日本教育史（２）近代以降
第7回 教育行政と制度
第8回 教育課程（教育内容）
第9回 学習理論、教育評価
第10回 生涯教育、社会教育
第11回 特別支援教育
第12回 人権・同和教育
第13回 体罰、いじめ
第14回 学校安全、食育
第15回 これまでの授業のまとめ
定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

- ・毎時間、前回の内容に関するテストを実施しますので、復習が必要である。
- ・単なる知識の習得に終わらず、教育の専門家を志す者として、自分なりの考えや問題意識を整理しておくこと。

【成績の評価】

授業中の態度や発言（30％）、小テスト（70％）とする。割合については、状況を見て若干変更することもある。
毎回解答を示す。

【使用テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

【参考文献】

田嶋 一著『やさしい教育原理 第3版』有斐閣、2016ほか

科目名： 教職教養演習

担当教員： 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

将来教員・保育士となる場合は、学校や園の一員として、公務員として（公立の場合）、児童・保護者との関係において、様々な法律が関係しています。このため教員や保育士の採用試験においても法規は重要分野となっています。ここでは、小学校、公立幼稚園の教員や公立保育所保育士の採用試験を想定し、教員や保育士に関する法規について問題練習等を中心に行うこととします。

【到達目標】

1. 教育基本法、教育公務員特例法の全体を理解し、主な内容を説明できる。
2. 保育士に関する児童福祉法の全体を理解し、主な内容を説明できる。
3. 教員、保育士両者に共通する憲法、地方公務員法、労働基準法等における、任用、職務内容、勤務時間や給与、服務義務、研修、等に関する多くの様々な法律を理解し、内容を説明できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 教職員（保育士）の身分
 - 第3回 職務
 - 第4回 研修
 - 第5回 勤務条件 - 給与等 -
 - 第6回 - 勤務時間等 -
 - 第7回 出産・育児・介護等
 - 第8回 勤務評定
 - 第9回 これまでの復習
 - 第10回 資格・免許
 - 第11回 任用（採用や昇任）
 - 第12回 服務 - 職務上の義務 -
 - 第13回 - 身分上の義務 -
 - 第14回 分限と懲戒
 - 第15回 危機管理と教員の責任
- 定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

毎回、前回についての小テストを行うので、その回の復習をすることが必要である。

【成績の評価】

発言状況（30%）、練習問題（70%）を総合して評価する。比率は状況を見て変更することがある。小テストの解答をその都度解説する。

【使用テキスト】

使用しない。資料を配付する。

【参考文献】

- ・仙波克也・榊達雄編著『現代教育法制の構造と課題』（コレール社、2010年）
- ・解説教育六法編修委員会編『解説教育六法2018 平成30年版』（三省堂、2018年）
- ・ミネルヴァ書房編集部『保育小六法2018 平成30年版』（ミネルヴァ書房、2018年）

科目名： 教職教養演習

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

本気で教員を目指しませんか。この授業は、小学校教諭を強く志望し、4年次に小学校教員採用試験を受験する学生が対象です。教員採用試験の「教職教養」「小学校全科」に出題される学習指導要領に関する問題を多数扱います。「教職専門演習」「特別演習」も必ず受講してください。

本授業は、「学位授与の方針」にある「子どもの教育にあたるための『理論』と『実践力』」、「教育課程編成・実施の方針」にある「専門的知識と技能および実践的能力」の、「理論」「専門的知識」に重きを置いています。

【到達目標】

教員採用試験対策の一環として位置づけています。教員としての「専門的知識」を試される一次試験突破を目指します。学習指導要領及び解説編や解説書等を用いて自主的に学習を進めていくことが前提です。

・ 学習指導要領の「総則」「道德」各教科の全体目標の全文暗記をめざす。

各回の範囲の学習指導要領を・解説編を熟読しノートにまとめることができる。

毎回、教員採用試験における学習指導要領に関連する問題（「（ ）に適語を入れよ」）での合格点（正答率80%）をめざす。

【授業計画】

- 第1回 小学校学習指導要領とは(教育課程に関する法令との関連、改訂の歴史的背景)ガイダンス(学習方法・授業時間外の学習について)
 - 第2回 新学習指導要領「総則」について (学力観の具現化、言語活動の充実など)
 - 第3回 新学習指導要領「総則」について
 - 第4回 新学習指導要領「道德」について
 - 第5回 新学習指導要領「道德」について
 - 第6回 新学習指導要領「国語」について (言語活動の充実を図る方策の明確化)
 - 第7回 新学習指導要領「社会」について
 - 第8回 新学習指導要領「算数」について
 - 第9回 新学習指導要領「算数」について
 - 第10回 新学習指導要領「理科」について
 - 第11回 新学習指導要領「理科」について
 - 第12回 新学習指導要領「外国語活動」について
 - 第13回 新学習指導要領「総合的な学習の時間」について
 - 第14回 新学習指導要領「特別活動」について
 - 第15回 学習のまとめ(現学習指導要領の特徴を捉え、レポートにまとめる)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・ 毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと。
- ・ 学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。
- ・ また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の傾向を把握し対策を立てておくこと。

【成績の評価】

毎回実施する小テスト「教員採用試験における学習指導要領に関連する問題（「（ ）に適語を入れよ」）」を合わせた試験問題の点数による評価（20%）、期末試験（90%）を基本としますが、学習指導要領を分析、まとめたノートづくりや毎回の小テストへの取り組み状況などを併せて総合的に評価します。

学習指導要領に関わる学習内容は、教員採用試験対策講座等の集団討論・個人面接において活かします。

【使用テキスト】

- ・ 文部科学省『学習指導要領』（東京書籍、2008年）238円
- ・ 文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月）
- ・ 文部科学省『学習指導要領解説（各教科等）』（平成29年3月）価格は各教科ごとによる

【参考文献】

- ・ 日本教材システム編集部『一目でわかる2色刷り 小学校学習指導要領新旧対照表』（日本教材システム、2009年）
- ・ 資格試験研究会編『小学校学習指導要領らくらくマスター〔2019年度版〕』（実用教育出版、2015年）
- ・ 現代教育情報研究会『すいすい身につく小学校学習指導要領 2019年度版』（一ツ橋書店、2015年）

科目名： 教職専門演習
担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

本気で教員を目指しましょう。この授業は、小学校教諭・特別支援学校教諭を強く志望し、本年度の教員採用試験を受験する学生が対象です。「特別演習」で扱った模擬授業と、そこでは扱えなかった小学校における教科外の専門的知識と実践的指導力の習得を図ります。また、教員採用試験の面接対策にもなる「エントリーシート」「自己アピール」等の記述の指導を通して、教職に就く心構え、教育観、学校観、学力観を明確にしていきます。

本授業は、「子どもの教育にあたるための『理論』と『実践力』を兼ね備え（「学位授与の方針の一部」）ることをねらいとしています。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「子どもの教育にあたるための『理論』」関わる目標として、
自らの教育観・教職観・学校観を明確にし、原稿用紙1枚程度にまとめることができる。
「学位授与の方針」にある「子どもの教育にあたるための『実践力』」関わる目標として、
「教職専門演習ノート」を作成し、大学での学習や生活、ボランティア活動や教育実習などの経験を具体例とし、自己アピール文やスピーチに的確にまとめることができる。
教員採用試験において過去に出題された問題をもとに集団・個人面接や集団討論・集団活動を想定し、
や でまとめた内容を効果的に表現できる。

【授業計画】

第1回	ガイダンス（授業構成の説明、次回以降の授業準備等について）	模擬授業
第2回	エントリーシートの基本と書き方	「項目と条件」 模擬授業
第3回	エントリーシートの基本と書き方	「自己アピールと具体例」 模擬授業
第4回	明確な教育観・教職観・学校観のアピール	「キーワード」のとりえ方 模擬授業
第5回	明確な教育観・教職観・学校観のアピール	「自分の意見と具体例、具体策」 模擬授業
第6回	明確な教育観・教職観・学校観のアピール	「模範解答と自分の主張」 模擬授業
第7回	場面指導について	「基本と展開」 模擬授業
第8回	場面指導について	「場面の分類」 模擬授業
第9回	場面指導について	「各場面における指導のあり方」 模擬授業
第10回	模擬授業について	「学習習慣を確立させる場」の具体的指導 模擬授業
第11回	場面指導について	「知識・技能を習得させる場や活用させる場」の具体的指導 模擬授業
第12回	面接における「明確な教育観・教職観・学校観のアピール」の実際	模擬授業
第13回	面接における「場面指導」の実際	模擬授業
第14回	面接における「明確な教育観・教職観・学校観のアピール」の実際	模擬授業
第15回	面接における「場面指導」の実際	模擬授業

【授業時間外の学習】

教育観・教職観・学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。
場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。
模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。
～ で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。

【成績の評価】

到達目標 ～ について各4段階評価したものを点数化し評価の基礎データとします。
（25%）、到達目標「教職専門演習ノート」（50%）、到達目標「模擬面・討論・授業」（25%）
しかし、本来、点数化になじまない授業内容ですので、授業態度（教職に向けての意欲が現れているか）を大事にして総合的に評価します。
評価したものは、授業時間外に実施する教員採用試験対策講座の面接指導等に反映します。

【使用テキスト】

・文部科学省『小学校学習指導要領』（東京書籍、2008年）
・文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月）
・文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編・特別活動編』（東洋館出版社、2008年）
他、小学校学習指導要領解説 各教科
その他、授業において、文献資料等を配布します。

【参考文献】

・協同教育研究会編『香川県教員試験「過去問」シリーズ 香川県の論作文・面接 2019年度版』（共同出版、2016年）
・野口芳宏『教員採用試験 シリーズ2019年度版「模擬授業・場面指導」』（一ツ橋書店、2016年）
・沖山吉和編者『教員採用 シリーズ2019年度版「教育論作文」』（一ツ橋書店、2014年）
・現代教職研究会編者『教員採用試験 シリーズ2019年度版「30秒アピール面接」』（一ツ橋書店、2016年）

科目名： 国語指導法研究

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

「国語指導法」は、小学校の国語教育の全領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を、その目的、内容評価について、原理原論的立場からと、実践的立場からの両面について考えます。「国語指導法」の授業では、「子どもの教育にあたるための『理論』と『実践力』を兼ね備えるため（「学位授与の方針の一部」）の「理論」に重きを置きます。

【到達目標】

国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、国語科の全領域を指導するために必要な指導力を明らかにします。様々な学習指導理論を検討し、確かな理論に基づく指導を展開できる実践的実践力の向上をめざします。「子どもの教育にあたるための『実践力』（学位授与の方針）」の基礎として、次の3点を到達目標とします。

学習指導要領における国語科の目標・主な内容・全体構造を理解できる。

PISA調査で明らかになった「読解力」の課題と、新学習指導要領改訂への繋がりを理解できる。

具体的な指導場面を通して、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業のあり方を考えられる。

【授業計画】

第1回：ガイダンス（授業のすすめ方、実践記録を読むことの必要性、「百人一首」札取りの分担）

第2回：PISA調査と「読解力」（1）PISA調査の概要と日本の児童生徒の課題

第3回：PISA調査と「読解力」（2）PISA2003年調査以降の「読解力」向上の施策

第4回：国語科の全体構造と新旧学習指導要領の比較

第5回：「話すこと・聞くこと」の理論（「思考力・判断力・表現力」と「知識及び技能」）

第6回：「話すこと・聞くこと」の実際（1）「思考力・判断力・表現力」を身につける「言語活動例」

第7回：「話すこと・聞くこと」の実際（2）「言語活動例」を通した「知識及び技能」の指導

第8回：「書くこと」の理論（「思考力・判断力・表現力」と「知識及び技能」）

第9回：「書くこと」の実際（1）「思考力・判断力・表現力」を身につける「言語活動例」

第10回：「書くこと」の実際（2）「言語活動例」を通した「知識及び技能」の指導

第11回：「読むこと」の理論（「思考力・判断力・表現力」と「知識及び技能」）

第12回：「読むこと」の実際（1）「思考力・判断力・表現力」を身につける「言語活動例」

第13回：「読むこと」の実際（2）「言語活動例」を通した「知識及び技能」の指導

第14回：国語科における「主体的・対話的で深い学びの実現を図る」デジタル教科書の活用

第15回：これからの読書指導（大村はま実践とアニメーション等）

定期試験

【授業時間外の学習】

・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる（毎月：A41枚1400字程度）
・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します。読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。

【成績の評価】

・期末試験を基本とし(80%)、実践記録感想文等の提出物(10%)、授業への取り組み・授業態度(10%)等を併せ総合的に評価します。定期試験は後期授業に返却、解説し内容の定着を図る。

【使用テキスト】

・『小学校学習指導要領解説 国語編』（平成29年3月 文部科学省）
・『新編 あたらしいこくご』（一上～六上）（東京書籍、平成30年度版）

【参考文献】

・教師修行9 国語の授業が楽しくなる（向山洋一著、明治図書、1986年）
・読解力を高める国語科授業の改革 PISA型読解力を中心に（鶴田清司著、明治図書、2008年）
・国語科授業批判（宇佐見寛著、明治図書、1986年）

科目名： 国語指導法研究

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている（卒業認定・学位授与の方針の一部）」の「実践」に関わる授業です。

国語科の全領域を、実際に教壇に立った際に指導できるために必要な実践的指導力のトレーニングを行います。その活動を通して、「思考力・判断力・表現力」の育成を検討します。

【到達目標】

模擬授業等の活動を通し、「子どもの教育にあたるための『実践力』(学位授与の方針)」として、次の実践的指導力を身に付けることができる。

1. 目標を明確にした授業略案と板書計画案をそれぞれA4用紙1枚程度に表すことができる。
2. 発問・指示・説明(指導言)を吟味し、揺れのない明確な指導言を発することができる。
3. 必要な教材教具の準備ができ、授業において効果的に活用できる。

【授業計画】

- 第1回：学習計画説明（「範読」「音読指導」「話すこと・聞くことの指導」「漢字指導」「模擬授業」の分担）
 - 第2回：教科書教材の「範読」（1）音読・朗読における「知識及び技能」 学生による「範読」活動
 - 第3回：教科書教材の「範読」（2）音読・朗読と「思考力・判断力・表現力」 学生による「範読」活動
 - 第4回：「話すこと・聞くこと」の指導における「知識及び技能」 学生による模擬授業
 - 第5回：「話すこと・聞くこと」の指導における「思考力・判断力・表現力」 学生による模擬授業
 - 第6回：「話すこと・聞くこと」の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
 - 第7回：「音読指導」における「知識及び技能」 学生による模擬授業
 - 第8回：「音読指導」における「思考力・判断力・表現力」 学生による模擬授業
 - 第9回：「音読指導」の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
 - 第10回：「漢字指導」における「知識及び技能」 学生による模擬授業
 - 第11回：「漢字指導」における「思考力・判断力・表現力」 学生による模擬授業
 - 第12回：「漢字指導」の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
 - 第13回：教科書教材を用いた模擬授業（1）「知識及び技能」に関わる指導
 - 第14回：教科書教材を用いた模擬授業（2）「思考力・判断力・表現力」の指導
 - 第15回：教科書教材を用いた模擬授業の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・ 模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。
- ・ 空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。
- ・ 学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。

【成績の評価】

「話すこと・聞くこと」「音読」「漢字」「百人一首」の各指導(10%)、「模擬授業」(50%)の評価を基本とし、授業への取り組み・授業態度(10%)等を併せ総合的に評価します。各指導・模擬授業は授業において随時、評価・解説し、改善点等を示します。

【使用テキスト】

- ・ 『小学校学習指導要領解説 国語編』（平成29年3月 文部科学省）
- ・ 『新編 あたらしいこくご（一上～六上）』（東京書籍、平成30年版）

【参考文献】

- ・ 教育新書1 授業の腕を上げる法則（向山洋一著、明治図書、1985年）
- ・ 教員採用試験 シリーズ「模擬授業・場面指導」（野口芳宏著、一ツ橋書店、2016年）

科目名： 社会科指導法研究

担当教員： 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro)

【授業の紹介】

社会科は子どもの社会認識を育てることによって、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを目標とする教科です。

この講義では、社会科の歴史と背景及び小学校学習指導要領解説社会編に示された目標、内容と指導上の配慮事項、評価等について述べ、さらに、教科書等を分析しながら、具体的事例をもとに理解を深め、授業計画を作成し、模擬授業を行います。将来、小学校で授業を行う際の「理論」と「実践力」を養います。

また、教材開発を目的とした、体験学習やフィールドワークを実施します。

【到達目標】

- (1) 教科の目標と各学年の内容及び指導上の配慮事項、評価について、理解を深めることができる。
- (2) 教科書や地域教材の分析を通して、カリキュラムについて理解を深めることができる。
- (3) 具体的な実践事例を通して教材性を探り、授業の展開についての理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会科の目標及び社会科の歴史と背景
- 第3回 社会科のカリキュラム
- 第4回 3年・教科書分析
- 第5回 4年・教科書分析
- 第6回 地域教材の取り扱い
- 第7回 資料研究・地図他
- 第8回 5年・教科書分析
- 第9回 5年・資料研究・地球儀、グラフ他
- 第10回 6年・教科書分析
- 第11回 歴史教材の取り扱い
- 第12回 指導案作成と模擬授業
- 第13回 指導案作成と模擬授業
- 第14回 体験学習
- 第15回 教材研究（フィールドワーク）

【授業時間外の学習】

授業の終わりに次回授業の内容に関する課題を提示するので、使用テキストやワークシートもとに予習が必要です。

【成績の評価】

レポートや模擬授業等の結果とテスト結果をそれぞれ、50%として評価します。

小テスト、レポートについては、評価と解説を行い、授業の中で返却します。

試験については、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説社会編』（東洋館出版社 2014年）124円

小学校社会科教科書「新しい社会」3・4年上下、5年上下、6年上下（東京書籍 2014年）

【参考文献】

香川県小学校社会科教育研究会 著『基礎・基本の定着と発展の学習』（東洋館出版社）

香川県小学校社会科教育研究会 著『新学力観に立つ社会科授業』（明治図書）

安野 功著『社会科授業力向上5つの戦略』（東洋館出版社）

科目名： 社会科指導法研究

担当教員： 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro)

【授業の紹介】

社会科は子どもの社会認識を育てることによって、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを目標とする教科です。

社会科指導法研究を基礎に、本講座では授業づくりを中心に、小学校現場で役立つ模擬授業を行います。将来、小学校で授業を行う際の「理論」と「実践力」を養います。

また、国際貢献、伝統や文化の継承や地域の活性化など、社会参画を視野に入れた、魅力ある教材の開発に取り組みます。

もの作り体験やフィールドワークにも取り組みます。

【到達目標】

(1)教科書を基本に、魅力ある教材を使って、指導案を作成することができる。

(2)作成した指導案の基づいて模擬授業を行い、授業展開や教材の活用について考えることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 人物中心の歴史学習
- 第3回 文化遺産を中心とした歴史学習
- 第4回 指導案作り
- 第5回 模擬授業
- 第6回 地域教材の取り扱い
- 第7回 地域教材の取り扱い
- 第8回 体験的な学習
- 第9回 6年下・教科書分析
- 第10回 指導案作り
- 第11回 模擬授業
- 第12回 指導案作り
- 第13回 模擬授業
- 第14回 総合的な学習の時間との関連
- 第15回 まとめ・学校教育の中で

【授業時間外の学習】

授業の終わりに次回授業の内容に関する課題を提示するので、学習指導要領社会編、教科書の該当ページを中心に予習が必要です。

また、伝統や文化の教育の充実に向けて、県内各地の資料館等からの情報収集を行い、教材開発に取り組んでいきます。

【成績の評価】

レポートや模擬授業の成果とテストの結果をそれぞれ50%として評価します。

小テスト、レポートについては、評価と解説を行い、授業の中で返却します。

試験については、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説社会編』（東洋館出版社 2014年）124円

小学校社会科教科書「新しい社会」3・4年上下、5年上下、6年上下（東京書籍 2014年）

【参考文献】

香川県小学校社会科教育研究会著
香川県小学校社会科教育研究会著
教員養成コンソーシアム四国編集

『「社会科ノート」による思考力の育成』（東洋館出版社）
『新学力観に立つ社会科授業』（明治図書）
『博物館等の活用の手引き』

科目名： 算数指導法研究

担当教員： 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

算数科の授業に必要な知識を幅広く体系的にその特徴を知り、算数の見方、考え方に触れることで、豊かな人間性や主体的に生きる力を育てていきます。また、グループでの指導案作成や検証により、子どものつまずきを考えたり、その対応を考えたりすることで、子供にとって分かりやすい指導の在り方を身に付けていきます。

【到達目標】

- ・分かる授業、楽しい授業ができるようになるためのポイントを把握できる。
- ・学習指導要領における算数科の目標及び内容及び全体構造を理解できる。
- ・算数科と背景になる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
- ・算数教育に必要な知識を体系的に理解し、実線と関係づけて理解できる。

【授業計画】

- 第1回：算数教育の変遷（明治～戦前）
- 第2回：算数教育の変遷（戦後）
- 第3回：学習指導要領の目標と内容（数と式・図形）
- 第4回：学習指導要領の目標と内容（測定・変化と関係・データの活用）
- 第5回：楽しい、分かる授業にするためのポイント（発問・助言・机間指導）
- 第6回：楽しい、分かる授業にするためのポイント（板書・ノート指導・グループ学習）
- 第7回：学習指導の基本と教科書の工夫
- 第8回：学習の基本（教材性について）
- 第9回：学習の基本（情報機器の活用）
- 第10回：学習の基本（評価について）
- 第11回：問題解決学習
- 第12回：主体的な学習の展開の考え方
- 第13回：学習指導案作成のポイント（数と式）
- 第14回：学習指導案作成のポイント（図形・データの活用）
- 第15回：学習指導案作成のポイント（測定・変化と関係）

【授業時間外の学習】

予習として、学習指導要領の領域ごとの内容のまとめ作業を課題として指示し、復習として授業プリントからの資料収集を行う。

【成績の評価】

- 受講態度（10％） 学習指導案（30％） 期末試験（60％）
- ・小テストを行うことで内容把握を細かく行う。
 - ・学習指導案についてはコメントを作成して、状況認識を図る。
 - ・期末試験は答案用紙にコメントで今後の対策について書くとともに、正解記入を行い間違いが分かるようにして学生に返却する。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説「算数」』（予定）
（本テキストは、「算数」「算数指導法研究」においても使用します。）

【参考文献】

香川県教育委員会 『さめきの授業基礎・基本』（平成25年3月）

科目名： 算数指導法研究

担当教員： 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

領域ごとに内容の概観を学習し、必要な知識を体系的に理解することから、算数の見方、考え方に触れることができ、豊かな人間性や主体的に生きる力についても考えていきます。次に、グループや個人で学習指導案を作成し、作成した指導案を発表することで、全体で検討を行います。そして、多様な学習構成を行い、作成した指導案を基に模擬授業を行っていきます。

【到達目標】

- ・学習指導要領における算数科の目標及び内容及び全体構造を理解できる。
- ・算数科の学習評価の考え方が理解できる。
- ・算数科と背景になる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
- ・算数教育に必要な知識を体系的に理解し、実線と関係づけて理解できる。

【授業計画】

- 第1回：領域の内容の概観（数と計算）
- 第2回：領域の内容の概観（図形）
- 第3回：領域の内容の概観（測定・変化と関係）
- 第4回：領域の内容の概観（データの活用）
- 第5回：模擬授業のための学習指導案づくり（数と計算）
- 第6回：模擬授業のための学習指導案づくり（図形）
- 第7回：模擬授業と授業討議（数と計算1）
- 第8回：模擬授業と授業討議（数と計算2）
- 第9回：模擬授業と授業討議（図形）
- 第10回：模擬授業のための学習指導案づくり（測定・変化と関係）
- 第11回：模擬授業のための学習指導案づくり（データの活用）
- 第12回：模擬授業と授業討議（測定）
- 第13回：模擬授業と授業討議（変化と関係）
- 第14回：模擬授業と授業討議（データの活用）
- 第15回：模擬授業の総括と教育実習への対応

【授業時間外の学習】

予習として、学習指導要領の領域ごとの内容のまとめ作業を課題として指示し、復習として授業プリントからの資料収集を行う。

【成績の評価】

受講態度（10％） 学習指導案（20％） 模擬授業（20％） 期末試験（50％）

- ・小テストを行うことで内容把握を細かく行う。
- ・学習指導案、模擬授業についてはコメントを作成して、状況認識を図る。
- ・期末試験は答案用紙にコメントで今後の対策について書くとともに、正解記入を行い間違いが分かるようにして学生に返却する。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説「算数」』（予定）
（本テキストは、「算数」「算数指導法研究」においても使用します。）

【参考文献】

香川県教育委員会『さぬきの授業基礎・基本』（平成25年3月）

科目名： 理科指導法研究
担当教員： 藤本 一郎(FUZIMOTO Ichirou)

【授業の紹介】

児童にとって興味ある小学校の理科の授業を創るために欠かせない基礎となるものを身につけてもらいます。それは、小学校理科の学習内容の基本的な部分についてのまとめた理解と実験・観察を適切に安全に実施し指導ができる能力の二つが中心になります。この授業では、小学校学習指導要領に示された内容について、中学・高校まで見通したうえで基本となる概念や法則を確認し、実験・観察も行いながら、それらについての深い理解をめざします。その際、アルコールランプや顕微鏡、気体検知管、塩酸、水酸化ナトリウムなどの扱い方も、着実に身につけてもらいます。

【到達目標】

小学校理科の学習内容において基本となる概念・法則について、中学や高校で学習する内容と関連づけてとらえることができる。

基本的な、あるいは危険を伴う実験・観察について、教育効果と安全確保に配慮して、着実に実施できる。

【授業計画】

- 第1回 小学校3年から6年までの理科学習の系統と学習指導要領の内容(1) 3年生、4年生
 - 第2回 小学校3年から6年までの理科学習の系統と学習指導要領の内容(2) 5年生、6年生
 - 第3回 ろうそくを燃やし続けるにはどうすればよいか
物を燃やす働きのある気体は何か
 - 第4回 物が燃える前と物が燃えた後では空気はどう変わるか
 - 第5回 養分はどのように変化して体内に取り入れられるのか
どのように仕組みで消化・吸収されるのか
 - 第6回 呼吸の働きと仕組みはどのようになっているのか
 - 第7回 全身の血液の流れと働きはどのようになっているのか
 - 第8回 植物の体内に入った水の行方はどのようになっているのか
 - 第9回 植物と日光の関係はどのようになっているのか
 - 第10回 太陽と月の表面はどのようになっているのか
 - 第11回 太陽と月の見え方と動きはどのようになっているのか
 - 第12回 地層はどのようにできるのか
 - 第13回 地震や火山の噴火で大地はどのように変化するのか
 - 第14回 てこを傾ける働きはどのようになっているのか
 - 第15回 水溶液にはどのような違いがあるのか
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業中に実施した実験・観察について、レポートをまとめる。
数回程度、小テストを課します。

【成績の評価】

小テスト(40%)と実験レポート(40%)学習態度(20%)
小テスト、レポートは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

文部科学省編 「小学校学習指導要領解説 理科編」 (大日本図書 2008)
文部科学省編 「実験観察の手引き」(HPからダウンロード)
東京書籍 「新しい理科 6年」

【参考文献】

なし

科目名： 理科指導法研究
担当教員： 藤本 一郎(FUZIMOTO Ichirou)

【授業の紹介】

小学生にとっても教師にとっても、おもしろい理科の授業をつくり出すにはどうすればよいのかということ、模擬授業を通して、そもそも授業とは、理科とは、実験とは、などということを考えながら、明らかにしていきます。その際、テキストにある具体的な授業例・実践例を題材として扱うようにして、子どもたちの自然認識の実態と発達の道筋についても理解を深めてもらいます。また、教師として是非、身につけておいてもらいたい科学の基本的な概念について学び直してもらうことも、意図的に授業に含みこんで展開します。

【到達目標】

理科の意義・必要性について筋が通った説明ができる。
小学校理科で何が本質的な内容をとらえ、模擬授業ができる。
理科授業における実験の意義と役割をとらえることができる。

【授業計画】

- 第1回 水溶液の性質はどのようなものがあるか
- 第2回 指導案の書き方の説明
- 第3回 指導案の推考
- 第4回 指導案の検討
- 第5回 模擬授業（複数名）討議
- 第6回 模擬授業（複数名）討議
- 第7回 模擬授業（複数名）討議
- 第8回 模擬授業（複数名）討議
- 第9回 模擬授業（複数名）討議
- 第10回 模擬授業（複数名）討議
- 第11回 模擬授業（複数名）討議
- 第12回 模擬授業（複数名）討議
- 第13回 模擬授業（複数名）討議
- 第14回 模擬授業（複数名）討議
- 第15回 これまでの授業のまとめと質疑応答

定期試験は実施しない。

模擬授業に関しては、小学3年生から5年生までの内容を学生が選択し、模擬授業を行う。

【授業時間外の学習】

授業中に配付した資料プリントを読んできて内容をまとめる。
指導案を作成し、模擬授業の内容を考える。

【成績の評価】

小テスト（30％）模擬授業の内容（50％）学習態度（20％）
小テストは添削して授業時に返却する。模擬授業の内容に関して教員及び学生から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

文部科学省編 「小学校学習指導要領解説 理科編」（大日本図書 2008）
文部科学省編 「実験観察の手引き」（HPからダウンロード）
東京書籍 「新しい理科 6年」

【参考文献】

なし

科目名： 生活科指導法研究

担当教員： 高橋 英弐(TAKAHASHI Eiji)

【授業の紹介】

生活科の学習指導を行う上で基本となる学習指導要領の目標や内容についての理解を深めるために、花や野菜の栽培活動、生物の飼育活動、おもちゃづくり、地域のフィールドワークなど体験重視、個性重視、学友連携を3本柱に、学校現場の実践例について、協議検討を重ねる。「わかる」から「できる」よう教育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力や実践的指導力を身に付けるようにする。なお、飼育栽培活動は、当番を決めて責任を果たせるようにする。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領生活科における教科目標及び内容、指導上の留意点を理解できる。
2. 児童の意欲や思考力、判断力、表現力などの実態を視野に入れた授業づくりができる。
3. 学習指導案の構成を理解し、体験活動や個性を生かす学習指導案が作成できる。
4. 生活科教育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、実践に生かすことができる。

【授業計画】

授業計画

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 生活科の概要と教科書の概観 |
| 第2回 | 内容(1) 学校と生活 |
| 第3回 | 内容(2) 家庭と生活 |
| 第4回 | 内容(3) 地域と生活(フィールドワーク) |
| 第5回 | 内容(4) 公共物や公共施設の利用 |
| 第6回 | 内容(5) 季節の変化と生活(フィールドワーク) |
| 第7回 | 内容(6) 自然や物を使った遊び(おもちゃづくり) |
| 第8回 | 内容(7) 動植物の飼育・栽培(日常活動) |
| 第9回 | 内容(8) 生活や出来事の交流 |
| 第10回 | 内容(9) 自分の成長 |
| 第11回 | 指導計画の作成と内容の取扱い |
| 第12回 | 学習指導と評価 |
| 第13回 | 学習指導の進め方と授業参観 |
| 第14回 | 生活科と他教科との関連 |
| 第15回 | 生活科と道徳との関連、まとめ |

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ビオトープの整備、管理を常時活動として作業に取り組むとともに、栽培園においても夏野菜の栽培活動を行い、水やり、草取り、収穫など当番活動を行う。

【成績の評価】

小テスト(60%)やレポートや提出物(20%)、授業への参加態度、日常活動(20%)。
小テスト、レポートについては、その都度、結果を授業時間に説明、講評する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説生活編 (平成29年3月告示 文部科学省)

【参考文献】

小学校低学年教育を創る (平成11年 香川県生活科教育研究会著 松林社)
「振り返り学習」をしてみませんか(平成16年 香川県生活科教育研究会著 松林社)

科目名： 生活科指導法研究

担当教員： 高橋 英弐(TAKAHASHI Eiji)

【授業の紹介】

生活科の学習指導において教師に求められる視点は、児童主体の学習展開であり、児童が学びの対象である自然や社会等にどのように働きかけるとよいかについて、学ぶ児童の立場に立って支援・援助することである。「生活科指導法研究」の学修を基に、単元構想案及び学習指導案づくり、模擬授業の実施、その協議・検討を通して、生活科の学習指導についての力量、実践力を高めていく。また課題に気付いて解決する力や社会に貢献できる力を身に付けるようにする。

【到達目標】

1. 体験活動、表現活動を通して、得られた気付きを質的に高める学習指導のあり方が理解できるとともに、模擬授業を通して、児童主体の学習指導の視点を見つけることができる。
2. 小1プロブレムなどの問題を把握し、保幼小・小の具体的な連携の視点が理解できる。
3. 生活科指導法の学修を通して、その知識体系を実践と関連付けて理解できる。

【授業計画】

授業計画

- 第1回 生活科の課題と学習指導要領改善の基本方針
- 第2回 学習指導案づくりに向けたグループ分けとグループごとの計画づくり
- 第3回 単元構想案づくりとグループ検討会
- 第4回 単元構想案の全体発表と討議
- 第5回 学習指導案づくり(1)、教材研究(教材・教具)
- 第6回 学習指導案づくり(2)、グループ分検討会
- 第7回 模擬授業及び研究討議(1)(グループ)
- 第8回 模擬授業及び研究討議(2)(グループ)
- 第9回 学習指導案の修正
- 第10回 模擬授業及び研究討議(全体)
- 第11回 模擬授業及び研究協議(全体)
- 第12回 生活科における地域連携
- 第13回 保幼小、小の連携における課題
- 第14回 総合的な学習の時間との関連
- 第15回 まとめ 生活科が小学校教育に果たす役割

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

学内の栽培園で、冬野菜の栽培活動を当番制で毎日行う。(水やり、草取り、肥料やり、収穫)

【成績の評価】

小テスト(60%)や学習指導案、模擬授業、レポート(20%)、授業への参加態度、日常活動(20%)。
小テスト、レポートは、その都度、結果を授業時間に説明、講評する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説 生活編 (平成29年3月告示 文部科学省)

【参考文献】

小学校 低学年教育を創る(平成11年 香川県生活科教育研究会著 松林社)
「振り返り学習」をしてみませんか(平成16年 香川県生活科教育研究会著 松林社)

科目名： 家庭科指導法研究

担当教員： 中村 真由美 (NAKAMURA Mayumi)

【授業の紹介】

この授業は、小学校教諭一種免許状取得を目指す学生を対象としています。
家庭科教育の特徴と、小学校家庭科が果たす役割について知るとともに、中学・高校までの家庭科教育を見通した上で小学校家庭科では何をどう教えるべきであるのかを考えます。そして、学習指導要領に示された目標、内容、指導上の留意点などを理解した上で、学習指導案を作成し、グループごとに模擬授業を行います。基礎的・基本的な知識や技能の習得のために、実習も行いますので、裁縫道具や布地などの資材、白衣またはエプロン、三角巾、布巾などの準備が必要です。

なお、この授業の受講前に「家庭」を履修しておくことを希望します。

【到達目標】

小学校家庭科の教育的意義を認識し、教科内容を理解している。
小学校家庭科の教科内容を理解した上で授業計画を構想し、学習指導案を作成することができる。
小学校の家庭科の授業を展開するために必要な基礎的・基本的な知識や技能を習得する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス（授業のねらいと進め方について）
- 第2回 小学校家庭科教育の変遷
- 第3回 小学校家庭科教育の意義とねらい及び内容
- 第4回 小学校家庭科の授業づくり
- 第5回 「A家庭生活と家族」、「C消費生活・環境」の学習内容
- 第6回 「B衣食住の生活」衣生活分野及び住生活分野の学習内容
- 第7回 「生活を豊かにするための布を用いた製作」手縫いの基礎
- 第8回 「生活を豊かにするための布を用いた製作ミシン縫いの基礎とティッシュケースの製作
- 第9回 「B衣食住の生活」食生活分野の学習内容
- 第10回 ご飯と味噌汁の調理
- 第11回 ご飯と味噌汁の試食と評価
- 第12回 模擬授業の計画
- 第13回 模擬授業及び授業観察
- 第14回 模擬授業及び授業観察
- 第15回 小学校現場における家庭科指導の要点

【授業時間外の学習】

レポートや課題を出しますので、その都度締め切り厳守で提出してください。授業内容によっては準備物が必要になる事もありますので、授業までに準備をしておいてください。家庭科の指導においては知識だけでなく技能も必要です。授業で学んだ技能は各自しっかり復習し、修得してください。

また、家庭科は生活に関わる内容を取り扱う教科です。各自が科学的な視点で日々の生活を見つめ直し、自分の生活の中で主体的に実践し、自立した生活者として生活することを日常的に心がけてください。

【成績の評価】

授業態度及び意欲（10%）、実習や模擬授業の準備及び取り組み方（10%）、提出物の提出状況及びその内容（50%）、試験の結果（30%）で判断します。試験及びレポート等の課題については授業時間内またはオフィスアワーに解説します。

なお、提出物の提出期限を過ぎての提出及び未提出、事前連絡なしの遅刻、欠席は減点とします。

また、被服製作及び調理実習の出席は必須とし、準備なしでの実習の授業への出席は認めません。

【使用テキスト】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』（東洋館出版社、2017年）165円（税別）
- ・『新編 新しい家庭 5・6』（東京書籍）274円（内税）
- ・『楽しい家庭科ノート 5・6年』（文教社）476円（内税）

【参考文献】

講義の中で説明します。

科目名： 体育指導法研究
担当教員： 上野 耕平(UENO Kouhei)

【授業の紹介】

小学校学習指導要領「体育科」では、体育科の目標を「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する」としています。つまり、小学校体育では児童のスポーツ愛好度を高めることを重視した授業を求めています。本授業では児童が「夢中になって取り組める授業づくり」ができる知識や技能を修得し、創造的な教材開発力と授業実践力を身に付けることをめざします。

【到達目標】

授業の到達目標及びテーマ

1. 小学校学習指導要領体育科における教科目標及び内容、指導上の留意点について説明できる。
2. 児童の意欲や思考力、判断力などの実態に応じた授業づくり・教材づくりができる。
3. 教育に係る資質向上に向けて、自らの体育授業を客観的に評価・反省し、継続的に学習することができる。
4. 「良い体育授業」の基礎的・内容的条件を踏まえ、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：スポーツ・運動の価値
 - 第3回：体育の目的
 - 第4回：体育の目標の変遷
 - 第5回：体育の学習指導要領
 - 第6回：良い体育授業の条件
 - 第7回：体育における指導・学習スタイル
 - 第8回：体育における教材と教具
 - 第9回：体育の学習評価
 - 第10回：体育授業の観察・評価の方法
 - 第11回：学習指導案づくり
 - 第12回：体育の模擬授業（体づくり：体ほぐしの運動）
 - 第13回：体育の模擬授業（体づくり：体の動きを高める運動）
 - 第14回：体育の模擬授業（器械運動：マット運動 接点技群）
 - 第15回：体育の模擬授業（器械運動：マット運動 翻転技群）
 - 第16回：体育の模擬授業（器械運動：跳び箱運動 切り返し系）
 - 第17回：体育の模擬授業（器械運動：跳び箱運動 回転系）
 - 第18回：体育の模擬授業（陸上運動：短距離走）
 - 第19回：体育の模擬授業（陸上運動：リレー）
 - 第20回：体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型 宝取り鬼）
 - 第21回：体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型 コロコロボール）
 - 第22回：体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型 ハンドボール）
 - 第23回：体育の模擬授業（ボール運動：ネット型 キャッチバレーボール）
 - 第24回：体育の模擬授業（ボール運動：ネット型 ソフトバレーボール）
 - 第25回：体育の模擬授業（ボール運動：ベースボール型 キックベースボール）
 - 第26回：体育の模擬授業（表現運動：表現）
 - 第27回：体育の模擬授業（表現運動：フォークダンス）
 - 第28回：体育の模擬授業（保健：心の発達）
 - 第29回：体育の模擬授業（保健：心と体の相互の影響）
 - 第30回：授業のまとめと今後の課題の提示
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

次時の学習内容を予告するので、関連内容について参考資料等により予習してください。模擬授業の担当者は前時終了までに学習指導案を作成した上で教員のチェックを受けてください。模擬授業の準備はグループのメンバーで協力して行い責任を果たしてください。

【成績の評価】

中間テスト（30％）、模擬授業の発表内容（30％）、レポート（40％）で評価する。

【使用テキスト】

テキストは特に使用せず、授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】

体育科教育学入門（高橋健夫ほか編著、大修館書店）
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示 文部科学省）

科目名： 音楽指導法研究

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

児童が生活の中で音楽に親しみ味わえるようサポートするための授業を行なえる力を磨きます。共通教材を用いたピアノの弾き歌いやリコーダー、指揮等の技能と共に必要な理論を修得します。また教材を研究し自ら指導案を作成、模擬授業や相互評価を行い実践的な流れを体験します。定期的に筆記、実技の小テストを行い進歩の様子をチェックします。次回授業の課題の予習は必須です。将来、教育現場において自ら継続的に学ぶことができるよう、個々に適応した準備や練習の工程を作成します。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領に示された音楽科の教科の目標と第1から第3学年までの内容を理解（筆記試験で7割正答）できる。
2. 授業を円滑に行うために必要な演奏技術と音楽理論を修得し、教材となる曲を楽しむ（実技試験で滑らかに演奏する）ことができる。
3. 教材を多様な側面から研究し、自らのアイデアで学習指導案を作成できる。
4. 児童を導き評価を行うための聴く力（共通教材演奏時、音程やリズムの違いを判断できる力、ここちよい響きを判定できる力）を身に付け、また適切な表現でコメントすることができる。
5. 教材と学習のねらいを的確に判断し、自ら継続的に学ぶ能力を獲得することができる。
6. 音楽教科の幅広く体系的な理解を礎に、具体的な授業の計画を行うことができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、ピアノ演奏技術の進捗調査（自由曲の演奏をお願いします。）
第2回：学習指導要領に示された教科の目標と指導内容
第3回：弾き歌いの指導（1）「うみ」ト長調と階名、拍子
第4回：弾き歌いの指導（2）「日のまる」ヘ長調と階名、コードネームによる伴奏
第5回：弾き歌いの指導（3）「春がきた」美しい発声法
第6回：弾き歌いの指導（4）「虫のこえ」擬声語と打楽器による表現
第7回：弾き歌いの指導（5）「うさぎ」日本古謡と陰音階
第8回：弾き歌いの指導（6）「茶つみ」ヨナ抜き音階、手遊び、リズム打ち
第9回：リコーダー奏法
第10回：指揮法と器楽および声楽アンサンブル
第11回：「音楽づくり」の意義と指導法
第12回：「鑑賞」の教材研究と指導法
第13回：学習指導案の作成
第14回：第1回模擬授業と検討、音楽科における学習評価について
第15回：第2回模擬授業と検討、1～3学年の指導法についての総括
定期試験：筆記試験、実技試験（ピアノ弾き歌い）

【授業時間外の学習】

次回授業の課題を予習する。

【成績の評価】

定期試験-筆記（25％）、定期試験-実技（35％）、作成した学習指導案（20％）、予習・復習と授業に取り組む姿勢（20％）
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

最新 初等科音楽教育法 改訂版 小学校教員養成課程用（初等科音楽教育研究会編、音楽の友社）

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： 音楽指導法研究
担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

音楽指導法Ⅰで得た基礎能力にさらに磨きをかけ、また反復によって指導者としての資質を高めます。児童が生活の中で音楽に親しみ味わえるようサポートするための授業を行なえる力を磨きます。共通教材を用いたピアノの弾き歌いやその他の楽器、指揮等の技能と共に必要な理論を習得します。また教材を研究し自ら指導案を作成、模擬授業や相互評価を行い実践的な流れを体験します。定期的に筆記、実技の小テストを行い進歩の様子をチェックします。次回授業の課題の予習は必須です。将来、教育現場において自ら継続的に学ぶことができるよう、個々に適応した準備や練習の工程を作成します。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領に示された音楽科の教科の目標と第4から第6学年までの内容を理解（筆記試験で7割正當）できる。
2. 授業を円滑に行うために必要な演奏技術と音楽理論を修得し、教材となる曲を楽しむ（実技試験で滑らかに演奏する）ことができる。
3. 教材を多様な側面から研究し、自らのアイデアで学習指導案を作成できる。
4. 児童を導き評価を行うための聴く力（共通教材演奏時、音程やリズムの違いを判断する力、ここちよい響きを判定できる力）を身に付け、また適切な表現でコメントすることができる。
5. 教材と学習のねらいを的確に判断し、自ら継続的に学ぶ能力を獲得することができる。
6. 音楽教科の幅広く体系的な理解を礎に、具体的な授業の計画を行うことができる。

【授業計画】

- 第1回：学習指導要領に示された強化の目標と指導内容
 - 第2回：弾き歌いの指導（1）「とんび」美しい発声法
 - 第3回：弾き歌いの指導（2）「もみじ」へ長調と階名、（2部合唱への試み）
 - 第4回：弾き歌いの指導（3）「子もり歌」日本古謡、五音音階、（リコーダーとの重奏）
 - 第5回：弾き歌いの指導（4）「冬げしき」二部合唱、3拍子と抑揚の体得
 - 第6回：弾き歌いの指導（5）「おぼろ月夜」弱起、歌詞の理解と情景の味わい
 - 第7回：弾き歌いの指導（6）「われは海の子」二長調と階名、明瞭な発音、滑舌や発声のまとめ
 - 第8回：打楽器の奏法と指導法
 - 第9回：指揮法と器楽・声楽アンサンブル
 - 第10回：日本の伝統音楽と外国の民族音楽
 - 第11回：音楽科と他教科、特別活動との関連
 - 第12回：「鑑賞」の教材研究と指導法、情報機器・教材の活用
 - 第13回：学習指導案の作成
 - 第14回：第1回模擬授業と検討、音楽科における学習評価について
 - 第15回：第2回模擬授業と検討、第4～6学年の指導法についての総括
- 定期試験

【授業時間外の学習】

次回授業の課題を予習する。

【成績の評価】

定期試験-筆記（25％）、定期試験-実技（35％）、作成した学習指導案（20％）、予習・復習と授業に取り組む姿勢（20％）
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

最新 初等科音楽教育法 改訂版 小学校教員養成課程用（初等科音楽教育研究会編、音楽之友社）

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： 図画工作指導法研究

担当教員： 速水 史朗(HAYAMI Shiro), 速水 規里(HAYAMI Misato)

【授業の紹介】

まず皆さんに、絵を描く・粘土で顔を作るなどの表現及び美術館の観賞などの活動を通して、図画工作の苦手な人にも取り組みやすく、作り出す喜び、美術にふれる楽しさを自ら体験していただきます。それにとともに、児童生徒の造形的な創造活動の基礎的な能力を育て豊かな情操を養い、「生きる力」の育成をめざす、という小学校における図画工作の教育内容にそって、指導法を考察してゆきます。どのようなテーマで、どのような材料を使って、どんな活動を行うことが考えられるか、どのような活動が適切であろうか、またどのような観賞が考えられるかなどを、具体的実地的な体験から考察してゆく授業です。それを図画工作の学習指導法に活かしてゆきます。

【到達目標】

児童生徒へのアプローチや授業の目的を考えながら、平面及び立体制作を自身で体験したり、また、美術の観賞をすることで、図画工作のいろいろな教育内容を適切に具体的に体験することができる。それをいろいろな場面に当てはめながら、「児童生徒一人一人が表現の楽しさを覚え、感性を働かせながらつくりだす喜びを味わい、造形的な能力を培い、豊かな情操を養う」という目標を持った指導方法を考察し、構築してゆく力を身につけることをめざす。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション・講師自己紹介(1) 授業の進め方の説明
第2回 学生自己紹介(私の一番) 次回授業の説明(2) 学生の要望の聞き取り
第3回～4回 色彩構成(平面)(3) 色紙による色彩構成、構図を考える(4) 配色
第5回～6回 紙による立体構成(5) 画用紙での立体造形 構成を考える(6) 組み立て、配色
第7回～8回 美術鑑賞(美術館など)(7・8) 美術館、博物館の体験、美術鑑賞
第9回～第10回 絵を描く(人物・彩色)(9・10) 水彩画で人物を描く 人物のとらえ方、彩色の仕方
第11回～第12回 粘土による造形(11・12) 粘土で人物の顔を作る 立体のとらえ方、粘土の扱い方
第13回～第14回 学習指導案作成(13・14) 今までの授業から指導案を作成
第15回～第16回 コラージュ制作(15・16) 印刷物を切り取りイメージの再構築
第17回～第18回 美術鑑賞(美術館等)(17・18) 美術館での鑑賞をとおして、課外授業の考察
第19回～第20回 平面デザイン(絵手紙等)(20) 絵手紙制作(21) 消しゴムハンコ制作
第21回～第22回 抽象表現(21・22) 具体的な事象を抽象化する
第23回～第28回 木のレリーフ制作(23) 構図を考える(24・25・26) 彫る(27・28) 色を付けて仕上げる
第29回 学習指導案作成(29) 今までの体験をとおして指導案を作成
第30回 学習指導案作成及び発表(30) 作成と発表
定期試験は実施しない
各実習の進行により他の要素が加わることもあり、スケジュールが入れ替わることがあります。
特に、美術の鑑賞で美術館に行く授業の時は、内容に合わせて補講に振り替え、土曜日の3・4校時を予定しています。

【授業時間外の学習】

実習で行ういろいろな課題を、どの様に授業に活かしてゆくかを考えながら課題に取り組んでいただきます。
原則として授業時間内に課題を完成提出、提出出来なかった場合は次週提出となります。
また、休んだ場合(実習、個人の理由ともに)も、何らかの課題を提出していただきます。
美術の観賞(美術館等)の場合は、「観賞の感想、授業としてどう活かすか」を、次週にレポート提出です。
それらが、指導案の作成に繋がります。

【成績の評価】

受講態度、課題提出(期限を守れたか等も含む)、発表、授業に対する理解度等を総合的に判断します。
各課題、レポート(70%)、学習指導案(30%)。
それぞれの課題については、次回もしくはその次の授業開始時に講評を行います。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説図画工作』(最新版)

【参考文献】

なし

科目名： 外国語活動（英語）指導法研究
担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

小学校外国語教育についての基礎的な知識・理解を深め、子どもの第二言語習得についての知識とその活用法を学び、授業実践に必要な基礎的な指導技術を修得する。知識・理解を深めるために、調べてきたことや準備してきたことを発表する授業形態をとり、知識の活用法や指導技術を身に付けるために、ペアワークやグループワークによる言語活動を学生自ら体験しながら学ぶ。

また、実際の授業づくりにも取り組む。講義、演習、実習を組み合わせ、主体的・対話的で深い学びになるよう、講義中心ではなくワークショップ中心の授業を行う。

【到達目標】

- ・小学校における外国語活動（英語）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けることができる。
- ・英語を使ってコミュニケーションを図るための素地を児童に効果的に習得させることができる。
- ・英語の発音やアクセントなど、音声指導が確実にできる。
- ・小学校英語教育に求められる英語力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、日本の外国語教育について
 - 第2回 小学校外国語教育及び主教材について
 - 第3回 小中高の連携及び多様性への対応について
 - 第4回 小学校外国語教育についてフィードバック
 - 第5回 言語使用を通しての言語習得について
 - 第6回 音声によるインプットについて
 - 第7回 コミュニケーション力育成のための言語活動のポイントについて（１）ペアワーク
 - 第8回 コミュニケーション力育成のための言語活動のポイントについて（２）グループワーク
 - 第9回 受信・発信、音声・文字のプロセスについて、国語教育との連携について
 - 第10回 児童の発話を促す効果的な語りかけについて、英語での発話とやり取りについて
 - 第11回 読む活動・書く活動について
 - 第12回 学習状況の評価について
 - 第13回 指導計画及び学習指導案の書き方について
 - 第14回 模擬授業及び授業研究（１）「聞くこと」と「話すこと」
 - 第15回 模擬授業及び授業研究（２）「読むこと」と「書くこと」
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業中に配付する資料及びテキストの予習をして授業に臨んでください。

【成績の評価】

「レポート」20％、「模擬授業」20％、「定期試験」60％の3項目を総合的に評価します。レポート及び模擬授業については、その都度フィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

小学校外国語活動の進め方 「ことばの教育」として（成美堂）

【参考文献】

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説 外国語編及び外国語活動編
（平成29年3月 文部科学省）

科目名： 保育・教職実践演習（保・幼）

担当教員： 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi), 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae), 田中 美季(TANAKA Miki), 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi), 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi), 山田 純子(YAMADA Junko), 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi), 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

本授業は教職課程やそれ以外の授業科目、あるいはその他の種々の理論的、実践的活動を通して、学生が身につけた豊かな心や創造力等の資質・能力が保育者に最小限必要なものとして形成され、有機的に統合されたかについて、個々の授業計画の中で確認するものです。そのため、1年次より記録してきた教職ポートフォリオの活用による振り返り、討議、現地調査、事例研究、ロールプレイング、演習などを通して定着を図ります。

なお、後期開講ですが、必要に応じて、前期にも時間を調整して実施することがあります。

【到達目標】

- (1) 幼稚園教員や保育士としての使命感や責任感、教育的愛情等を身に付けることができる。
- (2) 幼稚園教員や保育士としての社会性や対人関係能力を身に付けることができる。
- (3) 乳幼児についての理解や学級経営等に関する知識を身に付け、考え方や基礎的事項を例示することができる。
- (4) 教育課程・全体の指導計画等についての知識や保育内容の指導力を身に付けることをめざす。

【授業計画】

以下のように各回2コマ実施します。

- | | | |
|------|--|--------------|
| 第1回 | オリエンテーション・保育職を取り巻く現代的問題
本演習の目的と進め方 | 演習 |
| 第2回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(1)
教員や保育士に求められるマナーや社会性(講義) | 模擬面接 |
| 第3回 | 実習の振り返りを通しての検討課題の抽出
講義 | 演習 |
| 第4回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(1)
講義 | 演習 |
| 第5回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(2)
講義 | 演習 |
| 第6回 | 保育内容の指導力に関する事項(1)
表現に関する保育方法や技術の検討(講義) | 演習 |
| 第7回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(2)
講義 | 演習 |
| 第8回 | 乳幼児理解や保育経営等に関する事項(1)
特別な支援を必要とする乳幼児の理解(講義) | 演習 |
| 第9回 | 乳幼児理解や保育経営等に関する事項(2)
乳幼児の保護者との懇談 | 演習 |
| 第10回 | 乳幼児理解や保育経営等に関する事項(3)
講義 | 演習 |
| 第11回 | 保育内容の指導力に関する事項(2)
健康に関する保育方法や技術の検討(講義) | 演習 |
| 第12回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(3)
講義 | 演習 |
| 第13回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(3)
講義 | 演習(ロールプレイング) |
| 第14回 | 保育内容の指導力に関する事項(3)
講義 | 演習 |
| 第15回 | 保育職に求められる資質・能力
総括 | 演習 |
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及びテキスト・資料を熟読しておきます。

復習：授業内容を復習し、ノートに整理するなどして理解を深めます。

各回について、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、指定期日までに提出します。

ワークシートは次回以降の授業時に必要に応じて講評し、返却します。

【成績の評価】

受講状況(20%)、毎回のワークシート・課題についてのまとめ(80%)によって、総合的に評価します。

【使用テキスト】

必要に応じて資料を配付、または紹介します。

【参考文献】

幼稚園教育要領(平成 2 9 年 3 月告示 文部科学省)

保育所保育指針(平成 2 9 年 3 月告示 厚生労働省)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 2 9 年 3 月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： 教職実践演習（小）

担当教員： 高橋 英弐(TAKAHASHI Eiji), 植田 宗士(UETA Muneo), 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya), 藤井 明日香(FUJII Asuka), 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro), 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

本授業は教職課程やそれ以外の授業科目、あるいはその他の種々の学修活動を通して、身に付けた資質・能力が教員として最小限必要なものとして形成され、有機的に統合されたかについて、個々の授業計画の中で確認するものである。1年次より記録してきた教職ポートフォリオの活用による振り返り、討議、現地調査、事例研究、ロールプレイング、演習などを通して「理論」と「実践力」の定着を図る。

なお、後期開講であるが、必要に応じて、前期にも時間を調整して実施することがある。

【到達目標】

1. 小学校の教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を身に付けることができる。
2. 小学校の教員としての社会性や対人関係能力を身に付けることができる。
3. 児童についての理解や学級経営等に関する知識を身に付け、基礎的経験をする。
4. 小学校の教育課程や指導についての知識や技能、指導力等を高めることができる。

【授業計画】

授業計画 以下のように各回2コマ実施します。

- | | | |
|------|--|----------------------|
| 第1回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(1)
教員に求められるマナーや社会性 | 模擬面接 |
| 第2回 | 小学校の教育内容の指導力に関する事項(1)
小学校現場の課題把握 | 小学校教員との交流 |
| 第3回 | 教職を取り巻く現代的課題
本演習の目的と進め方 | 到達目標について討議、ワークシートの作成 |
| 第4回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(1)
講話 教育実習を振り返って | |
| 第5回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(2)
講話 現職教員と学校現場の課題について討議 | |
| 第6回 | 使命感や責任感、教育的愛情に関する事項(3)
教育行政関係職員との討議 | 小学校管理職との討議 |
| 第7回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(2)
保護者への対応(講話) | ロールプレイング |
| 第8回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(3)
保護者の思い(講話) | 保護者との懇談会 |
| 第9回 | 児童理解や学級経営等に関する事項(1)
特別な支援を必要とする児童の理解(講話) | 同(演習) |
| 第10回 | 児童理解や学級経営等に関する事項(2) (学校訪問)
学校、学級経営の理解(講話) | 新規採用教員等との懇談会 |
| 第11回 | 児童理解や学級経営等に関する事項(3)
学級経営計画について(講話) | 学級経営計画の作成、発表、討議 |
| 第12回 | 教育内容の指導力に関する事項(2)
教育課程の編成原理について(講話) | 年間指導計画の作成 |
| 第13回 | 教育内容の指導力に関する事項(3)
教科内容等の指導力について検討 | 模擬授業 |
| 第14回 | 教育内容の指導力に関する事項(4)
新しい教育方法や技術の検討 | 模擬授業 |
| 第15回 | 教員に求められる資質・能力のまとめ
求められる教師像のまとめ発表 | 総括 |
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

各回について、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。

【成績の評価】

討議や発表における参加度(50%)や毎回のまとめ(30%)、ワークシート(20%)によって評価。まとめやワークシートは、その都度添削して授業時間に返却する。

【使用テキスト】

小学校習指導要領解説 総則編(平成29年3月告示 文部科学省)
教育小六法(平成30年 学陽書房)

【参考文献】

適宜紹介、資料として配付する。

科目名： 特別演習

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

本気で教員を目指しませんか。この授業は、4年次に小学校の教員採用試験を受験する学生を対象とした授業です。教員採用試験の2次試験対策の一環として位置づけ、小学校教諭に必要な教科の実践的指導力を身につけることをねらいとしています。模擬授業の相互評価を通して、教科の授業を指導する際に必要なスキルを身につけることに徹します。また、後期開講の「特別演習」、4年次の「特別演習」「教職専門演習」の授業も必ず受講してください。

本授業は、「子どもの教育にあたるための『理論』と『実践力』（「学位授与の方針の一部）」の、「実践力」を向上させることをねらいとしています。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「子どもの教育にあたるための『実践力』」と「教育課程編成・実施の方針」にある「専門的知識と技能および実践的能力」に関わる目標として、次の3つを設定します。

- ・ 小学校算数科・国語科の模擬授業を通して修得する技能として、
 - 1 授業場面において適切な発問・指示・説明ができる。
 - 2 授業場面において児童との適切な対応(応答)と評価ができる。
 - 3 国語科・算数科の本来の意味を押さえた教材研究と授業をすることができる。

【授業計画】

第1回	ガイダンス	小学校算数科(3～6年生)の教材確認と模擬授業担当等の確認	
第2回	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価		「百玉そろばん」実演
第3回	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価		「百玉そろばん」実施(3名程度)
第4回	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価		「百玉そろばん」実施(3名程度)
第5回	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価		「百玉そろばん」実施(3名程度)
第6回	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価		「百玉そろばん」実施(3名程度)
第7回	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価		
第8回	小学校算数科(3～6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価		
第9回	小学校国語科の教材を用いた模擬授業と相互評価		
第10回	小学校国語科の説明文教材を用いた模擬授業と相互評価		(「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導)
第11回	小学校国語科の説明文教材を用いた模擬授業と相互評価		
第12回	小学校国語科の文学作品教材を用いた模擬授業と相互評価		
第13回	小学校国語科の文学作品教材を用いた模擬授業と相互評価		
第14回	小学校国語科の教材を用いた模擬授業と相互評価	百人一首の指導	
第15回	小学校国語科の教材を用いた模擬授業と相互評価	百人一首の指導	

【授業時間外の学習】

ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の3点は必ず準備しておくこと。

担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。

学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。

模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。

【成績の評価】

模擬授業においては、「教員としての声」「子どもへの目線」「子どもへの対応・応答」(20%)、「発問・指示の明確さ」(20%)、「導入からの指導の流れ・リズム」(20%)、「指導の組み立て」「学習指導案の記述」(20%)、「板書」(20%)について4段階評価したものを基礎データとします。また、模擬授業への取り組み、授業検討での質疑応答などを併せて総合的に評価します。

毎回実施する模擬授業ごとに、上記の評価観点で評価コメントし、次時以降の模擬授業や「特別演習」の授業における活動に反映させます。

【使用テキスト】

- ・ 文部科学省『小学校学習指導要領』(東京書籍、2008年)238円
- ・ 文部科学省『小学校学習指導要領』(平成29年3月)
- ・ 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』(平成29年3月)
- ・ 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』(平成29年3月)
- ・ 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』(平成29年3月)

【参考文献】

- ・ 野口芳宏『教員採用試験 シリーズ2019年度版「模擬授業・場面指導」』(一ツ橋書店、2016年)1188円
- ・ 向山洋一『教育新書1 授業の腕を上げる法則』(明治図書、1985年)860円

科目名： 特別演習

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

「特別演習」と同様、4年次に小学校教員採用試験を受験する学生を対象とした授業です。小学校教諭に必要とされる教科（主に社会科・理科）の実践的指導力を身につけます。それは、「子どもの教育にあたるための『理論』と『実践力』（「学位授与の方針の一部）」の、「実践力」の向上に大きく関わります。

実際に教壇に立つ場面を想定して模擬授業を行い、相互評価を通して、教科の授業を指導する際に必要なスキルを身につけることに徹します。

この授業は、小学校教員採用試験の2次試験対策の一環として位置づけています。教員採用試験を受験する学生には必須の授業です。また、後期の「教職教養演習」、4年次の「特別演習」「教職専門演習」の授業とも関連が深いので、これらの授業も必ず受講してください。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「子どもの教育にあたるための『実践力』」と「教育課程編成・実施の方針」にある「専門的知識と技能および実践的能力」に関わる目標として、次の3つを設定します。

- ・小学校社会科・理科の模擬授業を通して修得する技能として、
 - 1 授業場面において適切な発問・指示・説明ができる。
 - 2 児童との対応(応答)場面において適切な声かけや評価ができる。
 - 3 国語科・算数科の本来の意味を押さえた教材研究と学習指導案を作成することができる。

【授業計画】

第1回	ガイダンス	小学校社会科(3～6年生)の教材と模擬授業について
第2回	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価	教科書の資料(画像・絵図)の扱い
第3回	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価	資料(グラフ・表)の読ませ方
第4回	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価	知識として身につけさせる内容
第5回	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価	思考力を育成させる場面
第6回	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価	「ねらい」を明確にする
第7回	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価	学習課題(めあて)の取り扱い
第8回	小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価	10分間で授業を完結させる
第9回	ガイダンス	小学校理科(3～6年生)の教材と模擬授業について
第10回	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価	実験器具の準備と取り扱い
第11回	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価	「予想」させる際の留意点
第12回	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価	「実験」させる際の留意点
第13回	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価	「結果の検証」をさせる際の留意点
第14回	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価	「ねらい」を明確にする
第15回	小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価	20分間で授業を完結させる

【授業時間外の学習】

ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。

担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。

学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。

社会・理科の模擬授業担当前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。

【成績の評価】

模擬授業においては、「教員としての声」「子どもへの目線」「子どもへの対応・応答」(20%)、「発問・指示の明確さ」(20%)、「導入からの指導の流れ・リズム」(20%)、「指導の組み立て」「学習指導案の記述」(20%)、「板書」(20%)について4段階評価したものを基礎データとします。また、模擬授業への取り組み、授業検討での質疑応答などを併せて総合的に評価します。毎回実施する模擬授業ごとに、上記の評価観点で評価コメントし、次時以降の模擬授業や「特別演習」の授業における活動に反映させます。

【使用テキスト】

- ・文部科学省『学習指導要領』(東京書籍、2008年)238円
- ・文部科学省『小学校学習指導要領』(平成29年3月)
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』(平成29年3月)
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』(平成29年3月)

【参考文献】

- ・常磐会学園大学教職教育研究会編『論作文と面接・模擬授業 教員採用試験のために』(大阪教育図書、2015)2484円
- その他、授業で適宜紹介します。

科目名： 特別演習

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

小学校教員採用試験の2次試験で実施される模擬授業に対応した授業です。受験する教員採用試験に対応します。

「特別演習」で培ったスキルをもとに、確かな学力を子どもたちに身につけさせられる実践的指導力を目指します。本授業は、「学位授与の方針」にある、「子どもの教育にあたるための『理論』と『実践力』を兼ね備え」の、「実践力」の向上に重点を置いています。

【到達目標】

学位授与の方針にある「子どもの教育にあたるための『実践力』」と「教育課程編成・実施の方針」にある「専門的知識と技能および実践的能力」に関わる目標として、次の5つを設定します。

- 1 受験する教員採用試験の模擬授業についての情報を収集し熟知する。
- 2 授業場面において適切な発問・指示・説明ができる。
- 3 児童との対応(応答)場面において適切な声かけや評価ができる。
- 4 授業を構成する際に必要とされる基本的な教材研究ができる。
- 5 模擬授業を実施するにあたっての学習指導案、単元計画案を作成することができる。

【授業計画】

- | | | |
|------|----------------------------|-----------------------------|
| 第1回 | ガイダンス | 教員採用試験受験地の模擬授業に関する情報の収集と分析 |
| 第2回 | 教員採用試験受験地の模擬授業に関する情報の収集と分析 | |
| 第3回 | 教員採用試験受験地の模擬授業に関する情報の収集と分析 | |
| 第4回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 学習指導書としての声と言葉 |
| 第5回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 指導する際の立ち位置 |
| 第6回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 机間指導の必要性 |
| 第7回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 「修得」の際の指導 |
| 第8回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 「活用」の際の指導 |
| 第9回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 「板書」の構成(1) |
| 第10回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 「板書」の構成(2) |
| 第11回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 「めあて」の示し方(1) |
| 第12回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 「めあて」の示し方(2) |
| 第13回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 「まとめ」の示し方 |
| 第14回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 10分間で授業を完結させる(1) |
| 第15回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 10分間で授業を完結させる(2) |

【授業時間外の学習】

ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の3点は必ず準備しておくこと。

担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。

学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。

模擬授業担当前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。

【成績の評価】

点数評価になじまない科目ですので、模擬授業への取り組み、授業検討での質疑応答・意見など総合的に評価します。

模擬授業に関しては、「教員としての声」「子どもへの目線」「子どもへの対応・応答」(20%)、「発問・指示の明確さ」(20%)、「導入からの指導の流れ・リズム」(20%)、「指導の組み立て」「学習指導案の記述」(20%)、「板書」(20%)について4段階評価したものを基礎データとします。

毎回実施する模擬授業ごとに、上記の評価観点で評価コメントし、次時以降の模擬授業や「特別演習」の授業における活動に反映させます。

【使用テキスト】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領』(東京書籍、2008年)238円
- ・文部科学省『小学校学習指導要領』(平成29年3月)
- ・協同教育研究会編『香川県教員試験「過去問」シリーズ 香川県の論作文・面接 2019年度版』(共同出版、2016年)1620円等、受験する教員採用試験の地域の過去問題集などを各自準備すること。

【参考文献】

適宜紹介します。

- ・野口芳宏『教員採用試験 シリーズ2019年度版「模擬授業・場面指導」』(一ツ橋書店、2016年)
- ・常磐会学園大学教職教育研究会編『論作文と面接・模擬授業 教員採用試験のために』(大阪教育図書、2015)

専門科目：実習の科目

科目	掲載ページ
観察参加Ⅰ	193
観察参加Ⅱ	194
教育実習事前事後指導(幼)	195
教育実習事前事後指導(小)	196
教育実習Ⅰ(幼稚園)	197
教育実習Ⅱ(幼稚園)	198
小学校教育実習	199
特別支援教育実習(事前事後指導を含む)	200
保育実習Ⅰ	201
保育実習指導Ⅰ－Ⅰ	202
保育実習指導Ⅰ－Ⅱ	203
保育実習Ⅱ	204
保育実習指導Ⅱ	205
介護体験	206
学校支援ボランティアⅠ	207
学校支援ボランティアⅡ	208

科目名： 観察参加

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi), 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

本学の特色の一つである実践力は直接保育現場に出向いての継続的長期的観察により、子どもと生活を共にする中で、園生活の様子や子どもの実態を体感することです。

子どもに話しかけたり一緒に遊んだりすることを通して、書物で学んだ子どもの発達を生で体験することにより、子どもについての理解が深まります。また、理論と実践の接点を見出すことが可能になるだろう。この授業を通して、より確かな子ども観や実践力の基礎を学びます。

【到達目標】

幼稚園の観察参加を通して、子ども理解を深め、幼稚園の保育の流れや保育活動に必要な知識技能を習得し、子ども達にどのようにかわり、そのかわりのどこを、どのように観てどう記録するかについて焦点化を図り子ども理解ができる。

【授業計画】

第1回～第2回	オリエンテーション
第3回～第4回	参加実習 の意義・目的・形態・内容・方法
第5回～第6回	実習の心得・態度
第7回～第8回	観察園の概要について知る
第9回～第10回	観察記録のとり方
第11回～第12回	観察の視点1・園の生活のリズムを理解する
第13回～第14回	同上
第15回～第16回	観察の視点2・子どもと保育者の在り方
第17回～第18回	同上
第19回～第20回	観察の視点3・年齢への着目(3歳児の生活)
第21回～第22回	同上 (4歳児の生活)
第23回～第24回	同上 (5歳児の生活)
第25回～第26回	観察の視点4・保育室・園庭の遊具と環境整理(安全管理)
第27回～第28回	心に残った子どもの記録
第29回～第30回	まとめ・参加実習 で学んだこと
定期試験は実施しない	

【授業時間外の学習】

観察結果について、提示された視点から考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく客観と主観を重ねた保育観察記録を、次週までに仕上げて提出する。

【成績の評価】

- ・観察記録(20%)、観察参加の態度(20%)、観察後の話し合いへの参加態度と意欲等(60%)を総合評価
- ・観察記録はクラス担任の先生のコメントが毎週返却されます。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

幼稚園実習 保育所・施設実習[第2版](2014年、ミネルヴァ書房、大豆生田啓友他(編))

科目名： 観察参加

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi), 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は観察参加 に続いての授業となるので、傍観者的観察者としてではなく、主体的なかかわり方を求めます。そこから、保育者としてのかかわり方やいろいろな遊び場面における環境構成の方法や、援助の在り方、さらに随時環境の再構成について学んでいきます。また、子どもの発達についても理解を深め、その期の保育のねらいと子どもの動き、配慮の仕方など実践的観察参加の中から学び取っていきます。

【到達目標】

子どもの特性や発達への理解を深めるとともに、保育活動に必要な知識技能を習得する意欲を高め、教育実習に向けて自主的に学ぼうとする態度の習得をめざす中で、保育指導の立案計画能力を身につけることができる。

【授業計画】

第1回～第2回	オリエンテーション
第3回～第4回	観察の視点・教師の役割について
第5回～第6回	同上
第7回～第8回	同上
第9回～第10回	配属クラスの観察
第11回～第12回	子どもの名前を覚えよう
第13回～第14回	その子らしさを感じよう
第15回～第16回	子どもの遊びに参加する
第17回～第18回	3歳児と話したり遊んだりする
第19回～第20回	4歳児と話したり遊んだりする
第21回～第22回	5歳児と話したり遊んだりする
第23回～第24回	環境構成の実際について
第25回～第26回	子ども同士のトラブルについて
第27回～第28回	生活指導への参加とそのポイント
第29回～第30回	まとめ・参加実習 で学んだこと

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・毎時間のテーマ・観察目標を事前にチェックし、自分なりに目標達成のための工夫ポイントを用意して授業（観察参加）に臨む。
- ・観察結果について記録にのみ留まることなく、背景や意図を探り、分析、考察する習慣を身につける。
- ・日常的に子どもの言動に注意し、「子どもらしさ、子どもならではの ...等」の気づきにメモをとる習慣をつけ、観察眼を生活の中で養う。

【成績の評価】

- ・観察記録（20％）、観察参加の態度（20％）、観察後の話し合いへの参加態度と意欲等（60％）を総合評価
- ・観察記録はクラス担任の先生のコメントが毎週返却されます。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

幼稚園実習 保育所・施設実習 [第2版] (2014年、ミネルヴァ書房、大豆生田啓友他(編))

科目名： 教育実習事前事後指導（幼）

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

本授業は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うものであり、実習の前後に講義・演習を行います。幼稚園教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるように学びを深めていきましょう。また、保育に必要な知識・技能を取得しようとする意欲を高め、保育技術を身に付けることをめざします。保育・教育に携わる者として豊かな人間性を養うよう努めていきましょう。

【到達目標】

1. 事前指導では教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高めることができる。
2. 事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解できる。
3. これらのことを通して教育実習の意義を理解することができる。
教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解することができる。

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------|
| 第1回 | 教育実習の意義と目的 |
| 第2回 | 教育実習の概要 |
| 第3回 | 保育実践の要件 |
| 第4回 | 保育を計画する 部分実習 |
| 第5回 | 保育を計画する 研究保育 |
| 第6回 | 保育の実践 |
| 第7回 | 実習日誌の実際 |
| 第8回 | 実習直前の準備と心得 |
| 第9回 | 教育実習 の振り返り |
| 第10回 | 教育実習 の振り返り （グループ協議） |
| 第11回 | 幼児同士のトラブルの対応（事例研究） |
| 第12回 | 実習日誌の作成 |
| 第13回 | 教育実習 に向けて |
| 第14回 | 指導計画の作成 - 日案 |
| 第15回 | 保育の実践 |
| 第16回 | 保育の実践 |
| 第17回 | 教育実習 の振り返り |
| 第18回 | 教育実習 の振り返り （グループ協議） |
| 第19回 | 教育実習報告会に向けて |
| 第20回 | 教育実習報告会 |
| 第21回 | 教育実習報告会の反省と自己課題の明確化 |
| 第22回 | 幼児理解と援助（事例研究） |
| 第23回 | まとめと今後の課題 |
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめ、教育実習における各自の課題を見出しておくとともに、実技演習や教材製作など積極的に取り組みます。

【成績の評価】

課題・学習シートのまとめ（50%）、実習レポート（50%）
なお、教育実習事前事後指導は、教育実習 及び教育実習 と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。
ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取り組み、提出します。
課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、資料を配布します。

科目名： 教育実習事前事後指導（小）

担当教員： 高橋 英弐(TAKAHASHI Eiji), 植田 宗士(UETA Muneo), 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

教育実習事前事後指導は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うもので、実習の前後に講義・演習を行う。教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるようにするとともに、教育活動に必要な知識・技能の修得をめざす。2年次に履修した「学校ボランティア」の体験を生かし、質の高い実践力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができるようにする。

【到達目標】

1. 小学校教諭の業務や職業倫理について理解し、教師としての使命感や倫理観を培う。
2. 学校教育活動に必要な知識や判断力を修得することができる。
3. 学習指導計画の作成・実践・記録・評価等を体験する中で、教師として必要な技能、実践力を修得することができる。
4. 自己評価及び自己課題の明確化を通して豊かな人間性を育む。

【授業計画】

授業計画

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 教育実習の意義と目的 |
| 第2回 | 教育実習の概要・心得・態度等 |
| 第3回 | 教育実習の内容と方法、実習日誌の書き方 |
| 第4回 | 学習指導案の書き方と教材準備の仕方 |
| 第5回 | 各種トラブル等の具体的解決策 |
| 第6回 | 実習直前の準備と心得 |
| 第7回 | 教育実習前半についてグループ討議、振り返りとまとめ |
| 第8回 | 指導計画・事例研究 |
| 第9回 | 模擬授業のあり方 |
| 第10回 | 教育実習の振り返り（日誌の整理） |
| 第11回 | 教育実習の振り返り（学校、子どもたちへの礼状） |
| 第12回 | 教育実習報告会に向けて（報告資料の作成） |
| 第13回 | 教育実習報告会に向けて（印刷、製本） |
| 第14回 | 教育実習報告会の反省と自己課題の明確化 |
| 第15回 | 自己評価と今後の課題について |

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

研究授業の教科を決めて、教科、ゼミナール担当教員の指導を受けながら、学習指導案の作成練習に取り組む。また、自らの課題解決に向けた資料収集に努める。

【成績の評価】

授業への参加態度(40%)、教材研究のあり方(30%)、実習のまとめ(30%)等から評価します。報告会において、各自の成果、課題について、説明、講評する。なお、教育実習事前事後指導(小)は、小学校教育実習と連動している科目のため、単独で単位認定されることはない。

【使用テキスト】

適宜、資料を配布する。

【参考文献】

なし。

科目名： 教育実習 （幼稚園）
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

教育実習 は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会です。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼児教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることをめざします。

【到達目標】

(1) 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解する。

幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。

指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。

教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。

学級担任の補助的な役割を担うことができる。

(2) 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。

幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。

保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。

学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解できる。

様々な活動の場面で適切に幼児と関わる事ができる。

【授業計画】

- | | |
|-----|--------------------------------|
| 第1週 | 1 実習園の概要を知る |
| | 2 実習園の1日の流れを把握する |
| | 3 幼児の遊びの状況を理解し、参加する |
| | 4 発達特性により、遊び、生活、課題への取り組みの違いを知る |
| | 5 幼児の行動観察、記録とその活用について学ぶ |
| | 6 実習記録の取り方、反省、評価について学ぶ |
| | 7 安全に対する配慮、清掃、環境整備の仕方を知る |
| 第2週 | 1 年間指導計画の中での現在の保育を理解する |
| | 2 配属クラスの個々の子どもの特徴を知る |
| | 3 いろいろな子どもとの関係を深める |
| | 4 保育における指導と援助のあり方を探る |
| | 5 部分実習をする |
| | 6 保育実践の反省、評価を受ける |
| | 7 園行事に参加し、行事のあり方について考える |

上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがあります。
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

毎日、実習日誌を記録することによって、一日を振り返り、課題を見出して、明日の実習に生かします。様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行います。

【成績の評価】

実習園の評価（60％）、実習日誌・提出物（20％）、実習状況（20％）

なお、教育実習 は、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： 教育実習 （幼稚園）
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

教育実習 は、教育実習 の学習を踏まえたうえで、幼児教育の特質を知り、幼稚園保育の実際を理解し、実践力を培うことをねらいとします。実習園では、指導教員の指導を受けながら、観察・部分保育・全日保育・研究保育などの実習を行います。実習とはいえ一定期間、教師としての職責を果たすことになるので、実習生の主体的、意欲的な学習への取組が不可欠となります。

【到達目標】

(1) 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解する。

幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。

指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。

教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。

学級担任の補助的な役割を担うことができる。

(2) 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。

幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。

保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。

学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解できる。

様々な活動の場面で適切に幼児と関わる事ができる。

【授業計画】

- | | | |
|-----|---|---------------------------------|
| 第1週 | 1 | 子どもの成長発達を理解する |
| | 2 | 集団生活における子どもの学びを知る |
| | 3 | 学級経営について学ぶ（グループ編成、当番活動を含む） |
| | 4 | 特別な配慮を必要とする子どもへのかかわり方を知る |
| | 5 | 季節の行事に関する保育を知る |
| | 6 | 研究保育をする（保育計画を立案し、実践する） |
| | 7 | 保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する |
| | 8 | 幼稚園と家庭との連携についてその意義と方法を知る |
| 第2週 | 1 | 保育室の環境整備・経営について知り、実践する |
| | 2 | 幼稚園教諭についての職務内容を理解する |
| | 3 | 地域との協力関係、幼稚園の社会的意義を理解する |
| | 4 | 幼稚園の特色ある保育についての理解を深める |
| | 5 | 子育て支援についての現状を知る（預かり、延長、未就園児保育等） |
| | 6 | 全日保育の計画、実践を行う |
| | 7 | 総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する |
| | 8 | 実習反省会・お別れ会 |
| | 9 | これからの課題についてまとめ、指導助言を受ける |

上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがある。

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

毎日、実習日誌を記録することによって、一日を振り返り、課題を見出して、明日の実習に生かします。様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行います。

【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）

なお、教育実習 は、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： 小学校教育実習

担当教員： 高橋 英弉(TAKAHASHI Eiji), 植田 宗士(UETA Muneo), 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事前に設定した課題解決に取り組む。一定の期間、教科等の指導をはじめ、生徒指導、教育相談、学校事務など実践を通して、学級経営、学校経営及び教育活動の特色や小学校教育全般についての理解を深めていく。さらに、教育実習で得られた成果と課題を振り返り、教員免許取得までの補充を実践的に進める。

【到達目標】

1. 経験豊かな担当教員の指導を受けながら、学校教育の実際を体験的、総合的に理解して、教育実践並びに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることができる。
2. 学校現場での教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を高めるとともに、その資質・能力や適性を身に付けることができる。

【授業計画】

授業計画

- 第1回：学校の教育方針や特色ある教育（校長）、配属学級での活動
 - 第2回：指導講話 実習全般（教頭）、授業参観と授業記録の取り方
 - 第3回：学級の実態と学級経営
 - 第4回：指導講話 学習指導（現職教育主任）、授業参観（学習過程、板書、発問等）
 - 第5回：指導講話 生徒指導（生徒指導主事）、授業参観（児童の反応、つぶやき等）
 - 第6回：指導講話 保健指導（養護教諭、保健主事）、師範授業の参観と研究
 - 第7回：学習指導案の立案、考え方、学級事務についての考え方と実習
 - 第8回：指導講話 褒め方、叱り方（主幹教諭等）、朝の会、帰りの会の運営
 - 第9回：児童の人間関係の把握、給食・清掃指導、授業研究（各教科等）
 - 第10回：教室環境の整備、学級事務の処理、授業研究（道徳、特別活動）
 - 第11回：日常活動、特別活動への参加、指導、授業研究（総合的な学習の時間、外国語活動）
 - 第12回：授業研究（選択した教科の学習指導案の作成）
 - 第13回：授業研究（選択した教科外の学習指導案の作成）
 - 第14回：問題のある児童の実態把握の仕方
 - 第15回：授業研究 で作成した学習指導案に基づく模擬授業の反省と指導案の修正
 - 第16回：授業研究 で作成した学習指導案に基づく模擬授業の反省と指導案の修正
 - 第17回：研究授業 選択した教科の授業実践と指導、評価
 - 第18回：研究授業 選択した教科外の授業実践と指導、評価
 - 第19回：教育実習のまとめと反省、関係者懇談、指導
 - 第20回：学級での諸活動、実習記録の整理
- 以上のような回数（日数）と内容を各学校の計画に従って実施する。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎日、実習した内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。

【成績の評価】

教育実習校からの評価(40%)、担当教員による研究授業評価(30%)、実習日誌や提出物(30%)等により評価。教育実習事前事後指導の報告会において、各自の成果、課題を明らかにして、参加者の講評をもってフィードバックを行う。

【使用テキスト】

小学校教育実習の手引き(平成29年 高松大学)

【参考文献】

小学校学習指導要領 全解説編(平成29年3月告示 文部科学省)

科目名： 特別支援教育実習（事前事後指導を含む）

担当教員： 藤井 明日香(FUJII Asuka), 高橋 伸子(TAKAHASHI Nobuko)

【授業の紹介】

本授業は、「教育実習」・「教育実習」及び「特別支援教育指導法研究」を受講しており、特別支援学校教諭免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）を取得する学生を対象としています。一定期間特別支援学校において、指導教員の指導を受けながら特別支援学校の実際について体験し学びます。

併せて、教育実習を円滑に、より効果的にその目的を達成させるために、実習の前後に講義・演習を行います。特別支援教育実習の概要や実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるようにしていきます。

【到達目標】

- 1、特別支援教育の実践者として求められる専門性を理解し、必要な知識を習得することができる。
- 2、子どもの実態把握、指導計画の作成・実践・記録・評価を通して、基本的な指導技術を習得することができる。

【授業計画】

事前指導

- ・教育実習の意義、目的、内容等について
- ・特別支援学校の実態、幼児児童生徒の理解
- ・特別支援学校の教育課程、指導の実際
- ・学習指導案の作成
- ・模擬授業の実施と反省
- ・実習の事前準備と心得及び直前指導(日誌等の書き方、挨拶、自己紹介等)

特別支援教育実習(2週間)

- ・実習校の概要
- ・幼児児童生徒の理解
- ・授業参観と授業参加
- ・実地授業の準備と実施
- ・研究授業の準備と実施
- ・研究授業の反省会

事後指導

- ・実習内容のまとめと反省
- ・実習成果の報告書作成
- ・特別支援教育実習報告会と実習評価

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

事前・事後指導における資料作成、教育実習中の学習指導案の作成、実習日誌の記入などかなりの自主学習の時間が必要となります。また、事前に特別支援学校の授業参観やボランティア活動に積極的に参加して、障害理解に努めてください。

【成績の評価】

事前・事後学習の活動状況（40%）、実習（40%）、報告会での発表（20%）を総合的に評価して、単位を認定します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

本学作成『特別支援教育実習の手引き』

【参考文献】

授業の中で、必要に応じて紹介します。

科目名： 保育実習

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi), 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi), 樋本 美恵子(HIMOTO Mieko)

【授業の紹介】

保育実習 は、保育所実習と施設実習からなり、それぞれ2週間、実際に保育所・福祉施設において保育士の仕事に助手的な形で携わります。これまでの授業で学んできた知識や技術を基盤として、直接乳幼児（児童・利用者）とかかわり、保育士の業務を体験的に学ぶことを通して、「理論」と実践の統合を図り、「実践力」を養います。

なお、施設実習は、乳児院、児童養護施設、障害者支援施設等で行います。

【到達目標】

次のことを目標に掲げ学習を進めていきます。

保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

乳幼児（児童・利用者）とのかかわりを通して、正しい理解を深めることができる。

施設の概要を把握するとともに、施設運営の実態を理解することができる。

保育士の職務や役割等の専門性について理解し、必要な知識や技術を習得することができる。

子どもの実態を把握し、保育の計画・観察・記録・評価について理解し、保育の構築力を養うこ

とが

できる。

保育士を志すものとしての自覚を高めることができる。

【授業計画】

[事前・事後指導]

「保育実習指導 - 」及び「保育実習指導 - 」で実施する。

[観察実習]

この期間に保育所や施設の概要を理解し、一日の(保育の)流れや子どもたち(利用者)の発達の特徴などを把握する。

[参加・助手的実習]

担当者にならって助手的な役割を果たしながら、保育(養護)の実践について学ぶ。

[部分実習](保育所実習のみ)

生活や遊びの場面において、保育者の指導の下に、保育案・指導案を作成し、実際に責任をもって保育・指導を行い、保育者としての態度と技術を身に付ける。

定期試験なし

【授業時間外の学習】

日誌や指導案の作成、保育教材作りなど、福祉施設・保育所外での事前・事後学習や準備が必要です。

【成績の評価】

保育所や福祉施設の実習評価60%、実習日誌30%、レポート10%により、評価します。実習日誌、レポートは、添削して保育実習指導 - 、 - の授業時に返却します。

なお、「保育実習 - 」、「保育実習指導 - 」、「保育実習指導 - 」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら3つの科目は、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、3つの科目の内、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』

・汐見稔幸・無藤隆監修『＜平成30年施行＞保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント』（ミネルヴァ書房、2018年）

【参考文献】

・駒井美智子監修『保育実習ハンドブック～実習の手引き～』（大学図書出版 2015年）

・山本淳子編著『from・to保育者books 0～5歳児年齢別・実習サポート記入に役立つ保育がわかる実習 の記録と指導案～部分実習指導案と連動した遊びつき～』（ひかりのくに 2011年）

科目名： 保育実習指導 -

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi), 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi), 樋本 美恵子(HIMOTO Mieko)

【授業の紹介】

保育実習指導 - は、保育実習 の前半に実施される施設実習のための事前事後指導です。この授業では、保育実習の意義や目的を理解し、施設実習に向けた目的意識を高め、課題をもって実習に取り組めるように学んでいきます。実習生としての心構え、観察や記録に関する実務など実習を円滑に進めるための知識や技術を習得します。また、事前、事後の学習や実習体験を振り返り、福祉施設の機能、保育士の役割や職務内容など具体的・総合的に学んでいくことを通して、「実践力」を身につけます。

【到達目標】

- ・ 保育実習の自己課題を明確にし、説明できる。
- ・ 実習施設の概要、理念などを学び、記載できる。
- ・ 実習施設における子ども・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について、理解し、説明できる。
- ・ 実習日誌の書き方を理解し、実習をイメージして記載することができる。
- ・ 事後指導・自己評価を通して、自分の評価できる点・改善すべき点に気づき、自己課題を説明できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 施設実習の目的
- 第3回 施設実習の概要
- 第4回 施設実習での学習内容と課題
- 第5回 実習施設についての事前学習
- 第6回 実習に際しての留意事項
- 第7回 実習日誌の記録方法（記録の意義、実習日誌の様式）
- 第8回 実習日誌の記録方法（実習日誌の書き方）
- 第9回 実習生の心得（子どもの人権、最善の利益の考慮）
- 第10回 実習生の心得（プライバシーの保護と守秘義務）
- 第11回 実習課題の確認
- 第12回 実習の振り返り（ワークシートをもとに振り返る）
- 第13回 実習の振り返り（グループ討議）
- 第14回 実習の振り返り（今後の課題の明確化）
- 第15回 実習の総括と今後に向けて

定期試験なし

【授業時間外の学習】

実習開始までの実習日誌の作成や保育技術に関する準備等の課題への取組が求められます。

【成績の評価】

提出物（ワークシート、レポート等）70%と授業態度（手あそびの発表、グループ活動への参加）30%により、十分な実習の準備・反省ができているか評価します。提出物は添削して授業時に返却します。

正当な理由のない欠席は認めません。また、実習への意欲や誠実な授業態度に欠ける場合には、実習の履修が許可されません。

なお、「保育実習」、「保育実習指導 -」、「保育実習指導 -」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら3つの科目は、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、3つの科目の内、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

- ・ 汐見稔幸・無藤隆監修『＜平成30年施行＞保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント』（ミネルヴァ書房 2018年）
- ・ 高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
- ・ 駒井美智子監修『保育実習ハンドブック～実習の手引き～』（大学図書出版 2015年）
- ・ 山本淳子編著『from・to保育者books 0～5歳児年齢別・実習サポート記入に役立つ保育がわかる実習の記録と指導案～部分実習指導案と連動した遊びつき～』（ひかりのくに 2011年）

【参考文献】

なし

科目名： 保育実習指導 -

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi), 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi), 樋本 美恵子(HIMOTO Mieko)

【授業の紹介】

保育実習指導 - は、保育実習 の後半に実施される保育所実習のための事前事後指導です。この授業では、保育実習の意義や目的を再確認し、保育所実習に向けた目的意識を高め、課題をもって実習に取り組めるように学んでいきます。観察や記録に関する実務、指導案の作成や教材準備、保育実技など実習を円滑に進めるための知識や技術を習得します。また、事前、事後の学習や実習体験を振り返り、保育所の機能、保育士の役割や職務内容など具体的・総合的に学んでいくことを通して、「実践力」を身につけます。

【到達目標】

- ・ 保育実習の自己課題を明確にし、説明できる。
- ・ 実習施設の概要、理念などを学び、記載できる。
- ・ 実習日誌、指導案の書き方を理解し、実習をイメージして記載することができる。
- ・ 指導案に基づいて実践し、計画と実践の相違点に気づき、反省点・改善点を記載できる。
- ・ 事後指導・自己評価を通して、自分の評価できる点・改善すべき点に気づき、自己課題を説明できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保育所実習の目的
- 第3回 保育所実習の概要
- 第4回 保育所実習での学習内容と課題
- 第5回 実習日誌の記録方法（記録の意義、実習日誌の様式）
- 第6回 実習日誌の記録方法（実習日誌の書き方）
- 第7回 指導案の作成（指導案作成の基本）
- 第8回 指導案の作成（指導案の立て方）
- 第9回 模擬保育（第1グループ）
- 第10回 模擬保育（第2グループ）
- 第11回 実習の振り返り（ワークシートをもとに振り返る）
- 第12回 実習の振り返り（グループ討議）
- 第13回 実習の振り返り（今後の課題の明確化）
- 第14回 保育所実習報告会に向けて
- 第15回 実習の総括と今後に向けて

定期試験なし

【授業時間外の学習】

実習開始までに実習日誌や指導案の作成、教材準備等の課題への取組が求められます。

【成績の評価】

提出物（ワークシート、レポート等）70%と授業態度（模擬保育、意見交換への参加）30%により、十分な実習の準備・反省ができているか評価します。提出物は添削して授業時に返却します。

正当な理由のない欠席は認めません。また、実習の意欲や誠実な授業態度に欠ける場合には、実習の履修が許可されません。

なお、「保育実習」、「保育実習指導 -」、「保育実習指導 -」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら3つの科目は、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、3つの科目の内、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

保育実習指導 - と同じ

【参考文献】

なし

科目名： 保育実習

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi), 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi), 樋本 美恵子(HIMOTO Mieko)

【授業の紹介】

保育実習 は、3年次に行われ、2年次の保育実習 の保育所実習で学んだことを発展的に深化させることを目的とします。実習の内容としては、保育実習 で行った観察・参加・助手実習および部分実習に加え、一日の指導計画を立案し保育を行う全日実習を行います。全日保育を通して乳幼児の実態をとらえ、そこからねらいや内容を導き出すこと、計画の立案、環境設定や必要な準備、計画と実践とのかかわりと相違点の実感、臨機応変な対応の必要性などを体験的に理解することをめざします。

【到達目標】

次のことを目標に掲げ学習を進めていきます。
保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができる。
保育実習 の経験を踏まえ、子どもの保育や保護者支援について総合的に学ぶことができる。
保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深めることができる。
子どもの実態を把握し、保育の計画・観察・記録・評価について実際に取り組み理解を深めることができる。
保育士としての自己課題を明確化できる。

【授業計画】

【事前・事後指導】

「保育実習指導」で実施する。

【観察実習】

2回目の実習であるので、最短の期間を充てる。

【参加・助手的実習】

保育士の助手的な役割を果たしながら、実際に保育にかかわる。

【部分実習】

保育実習 と同様、数回の部分実習を経験し、最終的な全日実習につなげる。

【全日実習】

事前に指導案を作成し、実習生自身が保育者となり、一日の保育を行うことを通して、保育の責務を自覚する。

定期試験なし

【授業時間外の学習】

毎日、実習日誌を記録することによって、一日を振り返り、課題を見出して、明日の実習に生かしましょう。

【成績の評価】

保育所の実習評価50%に、実習日誌30%や実習後のレポート20%を加えて総合的に評価します。実習日誌、レポートは添削し、保育実習指導 の授業時に返却します。

なお、「保育実習」、「保育実習指導」は、形式上それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、どちらか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』

・汐見稔幸・無藤隆監修『＜平成30年施行＞保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント』（ミネルヴァ書房 2018年）

【参考文献】

・駒井美智子監修『保育実習ハンドブック 実習の手引き』（大学図書出版 2015年）

・山本淳子編著『from・to保育者books 0～5歳児年齢別・実習サポート記入に役立つ保育がわかる実習 の記録と指導案～部分実習指導案と連動した遊びつき～』（ひかりのくに 2011年）

科目名： 保育実習指導

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi), 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi), 樋本 美恵子(HIMOTO Mieko)

【授業の紹介】

保育実習指導 は、保育実習 で行われる保育所実習のための事前事後指導です。保育実習 の保育所実習で学んだことを発展的に深化させることを目的とします。この授業では、保育実習の意義や目的を理解し、実習に向けた目的意識や教材準備、課題をもって実習に取り組めるように学んでいきます。観察や記録に関する実務、指導案の作成や教材準備、保育実技など実習を円滑に進めるための知識や技術を習得します。また、事前、事後の学習や実習体験を振り返り、保育所の機能、保育士の役割や職務内容など具体的な・総合的に学んでいくことを通して、「実践力」を身につけます。

【到達目標】

- ・保育実習の自己課題を明確にし、説明できる。
- ・実習施設の概要、理念などを学び、記載できる。
- ・実習日誌、部分指導案、全日指導案の書き方を理解し、実習をイメージして記載することができる。
- ・指導案に基づいて実践し、計画と実践の相違点に気づき、反省点・改善点を記載できる。
- ・事後指導・自己評価を通して、自分の評価できる点・改善すべき点に気づき、自己課題を説明できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保育所実習での学習内容と課題
- 第3回 保育士の専門性と求められる倫理観
- 第4回 保育士の職業倫理（情報モラル・守秘義務）
- 第5回 子どもの保育と保護者支援（子育て支援の基本）
- 第6回 子どもの保育と保護者支援（子育て支援の演習）
- 第7回 実習日誌・指導案の作成（全日実習の日誌）
- 第8回 実習日誌・指導案の作成（指導案の作成）
- 第9回 保育の実践（模擬保育指導案の作成）
- 第10回 保育の実践（第1グループ）
- 第11回 保育の実践（第2グループ）
- 第12回 実習直前の準備と心得について
- 第13回 実習の振り返り（ワークシートをもとに振り返る）
- 第14回 実習の振り返り（グループ討議）
- 第15回 自己評価と今後の課題について

定期試験なし

【授業時間外の学習】

実習開始までに実習日誌や指導案の作成、教材準備等の課題への取組が求められます。

【成績の評価】

提出物（ワークシート、レポート等）70%と授業態度（模擬保育、グループ討議への参加）30%により、十分な実習の準備・反省ができているか評価します。提出物は添削して授業時に返却します。

正当な理由のない欠席は認めません。また、実習の意欲や誠実な授業態度に欠ける場合には、実習の履修が許可されません。

なお、「保育実習」、「保育実習指導」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、どちらか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

- ・汐見稔幸・無藤隆監修『＜平成30年施行＞保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』（ミネルヴァ書房 2018年）
- ・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
- ・関口はつ江編『保育実習ハンドブック～実習の手引き～』（大学図書出版 2015年）
- ・山本淳子編著『from・to保育者books 0～5歳児年齢別・実習サポート記入に役立つ保育がわかる実習 の記録と指導案～部分実習指導案と連動した遊びつき～』（ひかりのくに 2011年）

【参考文献】

なし

科目名： 介護体験

担当教員： 藤井 明日香(FUJII Asuka)

【授業の紹介】

介護体験は、介護等体験特例法によって教員免許状取得にあたり義務付けられたものです。高齢者の方や障害のある方などの社会福祉施設等で介護等の体験をすることが求められます。介護等体験は、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の合計7日間行います。本科目では、介護等体験実習及び実習の事前学習、事後学習を行います。事前学習では、介護等体験の心得、特別支援学校や社会福祉施設の概要の理解、実習中の利用者の方と接し方についても学習します。介護等体験実習後は実習記録を整理し、レポートにまとめて報告します。この科目は、小学校教員免許状取得希望者のみ受講できます。また受講には、実習費など約1万円が必要になります。

【到達目標】

特別なニーズのある子どもや利用者の方と交流を持ち、介護等を体験することにより、特別支援学校や社会福祉施設の役割を学び、人との関わり、援助する上で大切にすべき姿勢や視点を体験的に学習する。これらの姿勢や視点を体験することで、教育を担うものに求められる受容的な態度及び豊かな人間性を育むことを目標とし、教育現場で求められる共生社会をめざす姿勢や視点の獲得を目指す。

【授業計画】

事前学習(10回程度予定)

- ・介護等体験に関するガイダンス
- ・介護等体験の心得について学ぶ
- ・特別支援学校の概要の理解や通っている児童・生徒との接し方について学ぶ
- ・社会福祉施設の概要と利用者との接し方について学ぶ

介護等体験

- ・特別支援学校(2日間)、社会福祉施設(5日間)

事後学習(2回程度予定)

- ・体験レポートの提出、報告会

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

実習の直前には、事前学習で学んだことを再度確認することが大切です。また実習後には、体験レポート作成や実習先への礼状書きなどを自宅学習で行います。

【成績の評価】

事前・事後学習の受講態度(35%)、課題の提出状況(50%)、報告会での発表(15%)などを総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

高松大学発達科学部『介護体験の手引き』

【参考文献】

必要に応じて、講義内で紹介します。

科目名： 学校支援ボランティア

担当教員： 高橋 英弉(TAKAHASHI Eiji), 植田 宗士(UETA Muneo), 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

3年生で教育実習を実施する前段階として、学校現場で教育活動への理解を深め、児童への接し方、指導・支援のあり方を体験し、学ぶことを目的としている。

香川県内の小学校や教育支援センターの要請を受けて行われており、具体的には、要請のあった小学校等に出向き、児童と共に活動したり、教師の仕事を手伝ったりして、学校教育活動の補助を行う。そうした中で、得られる様々な実感や体感を通して、大学の講義への理解を深め、より確かな児童観、自分がめざす教師像、教育観を育ていく。

【到達目標】

1. 子どもの特性や発達への理解を深め、教育活動に必要な知識技能を習得できる。
2. 学校現場での実践を通して、よりよく問題を解決する教員としての資質や能力を身に付けることができる。

【授業計画】

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 オリエンテーション
- 第3回 学校支援ボランティア配置についての説明会
- 第4回 学校支援ボランティア配置についての連絡調整
- 第5回 学校支援ボランティアの意義と目的
- 第6回 学校支援ボランティアの形態・内容・方法
- 第7回 支援者としての心得・態度
- 第8回 支援者としての留意点
- 第9回 担当学校の概要
- 第10回 担当学校の教育計画等について
- 第11回 指導・支援記録について
- 第12回 指導・支援記録のとり方の実際
- 第13回 学校生活のリズムについて
- 第14回 学校生活のリズムと週時程
- 第15回 子どもの実態把握について
- 第16回 子どもの実態把握の仕方
- 第17回～第28回 学校の要請に応じたボランティア活動
- 第29回 まとめ・学んだこと（報告会前半）
- 第30回 まとめ・学んだこと（報告会後半）

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

指導・支援結果について、提示された視点から考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。

【成績の評価】

活動開始前のオリエンテーションや反省会での参加態度と成果及び指導・支援記録(40%)、ボランティアへの参加状況及び参加態度等(60%)で評価する。学校支援ボランティア参加報告会において、各自の成果、課題を明らかにして、参加者の講評をもってフィードバックを行う。

【使用テキスト】

学校支援ボランティアQ&A（平成29年 高松大学）

【参考文献】

随時紹介、資料として配布する。

科目名： 学校支援ボランティア

担当教員： 高橋 英弐(TAKAHASHI Eiji), 植田 宗士(UETA Muneo), 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

前期に引き続いて、担当校の要請に沿った支援・援助に努めるとともに、自らの課題を見つけ主体的に取り組んでいく。そこから、教科等の学習場面や生活場面における教師の支援・援助のあり方について学ぶ。また、児童の発達についても理解を深め、児童の実態把握の方法や技術を学修する。

【到達目標】

1. 子どもの特性や発達への理解を深め、教育活動に必要な知識技能の修得できる。
2. 学校現場での実践を通して、より良く問題を解決する教師としての資質や能力を身に付けられるようにするとともに、教育実習に向けて自主的に学ぼうとする態度を養うことができる。

【授業計画】

授業計画

- 第1回 前期のボランティア活動の振り返り（具体策の作成）
- 第2回 前期のボランティア活動の振り返り（具体策の検討）
- 第3回 学校等との打ち合わせ（学校の諸計画）
- 第4回 学校等との打ち合わせ（日程調整）
- 第5～12回 要請に応じたボランティア活動
- 第13回 管理職との面談（活動報告）
- 第14回 管理職との面談（指導助言）
- 第15～24回 教科指導への参加とそのポイント
- 第26回 教科指導への参加と支援活動
- 第27回 生徒指導のポイント
- 第28回 生徒指導実践例
- 第29回 まとめ 報告会（前半）
- 第30回 まとめ 報告会（後半）

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

- ・ 自らのテーマをチェックし、自分なりに目標達成のためのポイントを用意して支援・援助に参加する。
- ・ 支援・援助結果について記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析、考察する習慣を身に付ける。
- ・ 日常的に子どもの言動に注意し、メモを取る習慣を付け、児童理解に努める。

【成績の評価】

活動への参加状況及び意欲と態度(60%)、支援・援助記録(20%)、報告会の資料作成、参加態度(20%)で評価。支援・援助記録、報告資料の添削、報告会を講評して、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

学校支援ボランティアQ&A(平成29年 高松大学)

【参考文献】

随時紹介又は資料として配布する。

専門科目：ゼミナール等科目

科目	掲載ページ
基礎演習Ⅰ	209
基礎演習Ⅱ	210
演習Ⅰ【児童教育ゼミ】	211
演習Ⅰ【専修ゼミ】	212
演習Ⅰ【健康ゼミ】	213
演習Ⅰ【人間関係ゼミ】	214
演習Ⅰ【環境ゼミ】	215
演習Ⅰ【言葉ゼミ】	216
演習Ⅰ【表現ゼミ】	217
演習Ⅰ【特別支援教育ゼミ】	218
演習Ⅱ【児童教育ゼミ】	219
演習Ⅱ【専修ゼミ】	220
演習Ⅱ【健康ゼミ】	221
演習Ⅱ【人間関係ゼミ】	222
演習Ⅱ【環境ゼミ】	223
演習Ⅱ【言葉ゼミ】	224
演習Ⅱ【表現ゼミ】	225
演習Ⅱ【特別支援教育ゼミ】	226
演習Ⅲ【授業研究ゼミ】	227
演習Ⅲ【教育ゼミ】	228
演習Ⅲ【特別支援教育支援システムゼミ】	229
演習Ⅲ【健康スポーツゼミ】	230
演習Ⅲ【教材開発ゼミ】	231
演習Ⅲ【音楽ゼミ】	232
演習Ⅲ【保育ゼミ】	233
演習Ⅲ【教育心理ゼミ】	234
演習Ⅲ【幼児教育ゼミ】	235
演習Ⅲ【保育実践ゼミ】	236
演習Ⅲ【教育課題研究ゼミ】	237
演習Ⅳ【授業研究ゼミ】	238
演習Ⅳ【教育ゼミ】	239
演習Ⅳ【特別支援教育支援システムゼミ】	240
演習Ⅳ【健康スポーツゼミ】	241
演習Ⅳ【教材開発ゼミ】	242
演習Ⅳ【音楽ゼミ】	243
演習Ⅳ【保育ゼミ】	244
演習Ⅳ【教育心理ゼミ】	245
演習Ⅳ【幼児教育ゼミ】	246
演習Ⅳ【保育実践ゼミ】	247
演習Ⅳ【教育課題研究ゼミ】	248
卒業論文	249

科目名： 基礎演習
担当教員： 発達科学部担当教員全員

【授業の紹介】

発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思いますが、

大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込める力量の形成する。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現する力量を獲得する。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字の力を獲得する。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション ゼミ単位で友だち紹介
 - 第2回 今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」
 - 第3回 図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習
 - 第4回 創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返りと次年度に向けた討議
 - 第5回 これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目指す私」
 - 第6回 文章による伝達について改めて考えてみよう：読むこと・書くことの基礎
 - 第7回 ノート・テイキングの基礎を学ぼう！
 - 第8回 Eメール・携帯メールの作法を学ぼう
 - 第9回 レポート作成の基礎を学ぼう！
 - 第10回 レポートを作ってみよう！(1) よいレポートとは
 - 第11回 レポートを作ってみよう！(2) 「ふるさと自慢！」のレポート作成
 - 第12回 レポートを作ってみよう！(3) 「ふるさと自慢！」をまとめよう
 - 第13回 「ふるさと自慢！」の発表準備
 - 第14回 作ったレポートを発表しよう！ 全体で発表会「ふるさと自慢！」
 - 第15回 前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80％）、小テストの結果（20％）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 平成30年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 平成30年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： 基礎演習
担当教員： 発達科学部担当教員全員

【授業の紹介】

前期の学びにおいては、大学で学習する基礎的な力量が獲得されているはずですが。後期においては、その力量をさらに大きく伸ばすことを目指します。

特に、後期においては、「書くこと」「表現すること」を通して、学びの深化を図ります。言いたいことがあるのに伝えられなかったことはありませんか？伝えたはずなのに伝わっていなかったことはありませんか？後期の学びを通して、このような思いとサヨナラしましょう！

【到達目標】

- ・大学生として必要な文章表現力の獲得を目指す。
- ・手紙文、小論文、提案文などを実際に作成し、その発表・検討を通して、「書く能力」「表現する能力」そして、「人に伝える能力」を獲得する。
- ・日本語力、漢字力もさらに向上させる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！
第2回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その1） はがき文
第3回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その2） 手紙文
第4回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その3） ゼミで実践
第5回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その1）大いにディスカッション
第6回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その2）まとめ
第7回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その3）発表
第8回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その1）敬語のはたらき
第9回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その2）敬語の使い方
第10回 伝える文章表現のコツを学ぼう！
第11回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その1）ディスカッション
第12回 所属するゼミを考えよう！
第13回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その2）まとめ
第14回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その3）発表
第15回 1年間の学びの成果を確認しよう！
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

個人面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックをします。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 平成30年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 平成30年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： 演習 【児童教育ゼミ】

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya), 七條 正典(SHICHIJO Masanori), 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro), 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

演習 は、「児童教育コース」に進む学生のゼミ活動となる授業です。小学校教諭を目指す学生の専門的な研究活動の入り口になります。教育現場における朝の会・学級活動などの実際を行い、教科を指導するにあたって必要な漢字力や文章力・小学校全科の学習などの基礎的な学力のトレーニングを行います。それらの活動を通して、「子どもの教育にあたるための『理論』と『実践力』を兼ね備え（「学位授与の方針の一部）」ることをねらいとしています。可能な限り教育現場に足を運んだり、授業のVTRやDVDを視聴して実際の教育活動に触れ、それをもとに教育活動を考えます。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「子どもの教育にあたるための『実践力』」と「教育課程編成・実施の方針」にある「専門的知識と技能および実践的能力」に関わる目標として、次の5つを設定します。

- 1 小学校教諭に必要な教科指導力の基礎として「漢字検定2級」「日本語検定2級」の取得をめざす。
- 2 百人一首の札取りゲームの指導ができる。
- 3 自己紹介・朝の会のお話など、子どもの興味・関心を引く話が2つ以上できる。
- 4 朝・帰りの会や学級指導の際に子どもを熱中させるゲームが2つ以上できる。
- 5 新聞記事や文献等の要約やコメント記入を通して、教育観・教師観・学校観を明確に文章にすることができる。

【授業計画】

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション（「演習」の内容と進め方） |
| 第2回 | 小学校教諭に必要な力 基礎的・基本的な学力（漢字検定・日本語検定） |
| 第3回 | 小学校教諭に必要な力 教育観を育む（新聞記事収集とコメント） |
| 第4回 | 小学校教諭に必要な力 子どもを惹きつける話 |
| 第5回 | 小学校教諭に必要な力 子どもを熱中させるゲーム（百人一首の札取り） |
| 第6回 | 小学校教諭に必要な力 子どもを熱中させるゲーム（SGE・SS） |
| 第7回 | ～ を組み合わせる学級活動を構成する1「歌」「朝の活動」「本の紹介」「最近の話題」（担当者による） |
| 第8回 | ～ を組み合わせる学級活動を構成する2「歌」「朝の活動」「本の紹介」「最近の話題」（担当者による） |
| 第9回 | ～ を組み合わせる学級活動を構成する3「歌」「朝の活動」「本の紹介」「最近の話題」（担当者による） |
| 第10回 | ～ を組み合わせる学級活動を構成する4 先生って魅力的DVD視聴1 |
| 第11回 | ～ を組み合わせる学級活動を構成する5 先生って魅力的 DVD視聴2 |
| 第12回 | ～ を組み合わせる学級活動を構成する6 先生って魅力的 DVD視聴3 |
| 第13回 | ～ を組み合わせる学級活動を構成する7 教育問題を考える1「学級崩壊」 |
| 第14回 | ～ を組み合わせる学級活動を構成する8 教育問題を考える2「保護者との関係」 |
| 第15回 | ～ を組み合わせる学級活動を構成する9 教育問題を考える3 |

【授業時間外の学習】

- ・ほぼ毎回、「新聞記事発表」「先生のお話」「ゲーム」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。
- ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。
- ・また、学内での検定試験を受検すること（漢字検定：8月、2月 日本語検定：6月、11月）
- ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道府県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。
- ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。

【成績の評価】

「朝の会」における司会進行「アイスブレーキング」「本の紹介」「最近の話題」「教育問題のレジュメ検討」などの活動状況を7段階評価（C-～A+）で点数化（50%）、「読書感想文」（25%）、「新聞記事論評」（25%）を基礎データとします。それに、ゼミ活動への取り組み意欲、出席状況などを併せて総合的に評価します。授業における活動を毎回評価コメントし、次時以降の活動に活かします。また、オープンキャンパス時、教員採用試験対策講座時において反映させます。

【使用テキスト】

- ・木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書、1981年）756円
- ・文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月）

【参考文献】

- ・授業で紹介します。

科目名： 演習 【専修ゼミ】

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi), 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。具体的には、各回でのゼミの担当者を決めてレジュメを切ってきてもらい、質疑応答を深めて問題を追及していきます。そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえるようなプレゼンテーションの方法を学習します。

学修を通じて、学部ポリシーに掲げる「教育・保育に関する研究の能力を涵養」「子どもの成長・発達を究明」する力を養います。

【到達目標】

・保育に関する文献を読みこなして正確にレジュメを作成し、まとめてきた内容を他者にわかりやすく伝える方法を獲得することができる。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 発表及び討議：子ども観と保育 |
| 第3回 | 発表及び討議：子どもの発達のとらえ方 |
| 第4回 | 発表及び討議：保育と教育の概念の比較 |
| 第5回 | 発表及び討議：保育の環境の検討 |
| 第6回 | 発表及び討議：保育者の専門性 |
| 第7回 | 発表及び討議：保育者の課題 |
| 第8回 | 発表及び討議：幼稚園の生活 |
| 第9回 | 発表及び討議：保育所の生活 |
| 第10回 | 発表及び討議：認定こども園の生活 |
| 第11回 | 発表及び討議：遊びと子どもの育ち |
| 第12回 | 発表及び討議：保育内容の構成 |
| 第13回 | 発表及び討議：保育計画 |
| 第14回 | 発表及び討議：今日の保育ニーズ |
| 第15回 | 研究内容のまとめ |
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。

【成績の評価】

レジュメの内容(50%)やゼミでの質疑応答への参画の程度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。

【使用テキスト】

基礎演習テキスト『しるべ』（ 年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： 演習 【健康ゼミ】
担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

演習 では、「保育内容 健康」の領域における文献研究を行うことで、専門的な研究活動への導入である分野を学習します。その際、言葉の意味を丁寧に調べ、理解を深めるとともに、読み取った内容について発表し、意見を交換します。

【到達目標】

1. 「保育内容 健康」の領域について研究を行った先行論文や書籍を通して、情報の収集、意見の発表、討論を行うための必要な知識と技能を養うことができる。
2. 修得した知識を活かし、「保育内容 健康」の領域における諸課題やその解決策についてレポートを作成できる。
3. レポートの内容について議論することにより、課題発見力、情報収集力、課題解決力、および表現（発表）力などの能力を高めることをめざす。
4. セミナール活動をととして、共に支え合い、豊かな心と創造力を身につける。

【授業計画】

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 課題 の設定 |
| 第3回 | 課題 における関連参考文献の検索 |
| 第4回 | 課題 に関するトピックスを読む・見る |
| 第5回 | 課題 の分析と討議 （課題解決の目的） |
| 第6回 | 課題 の分析と討議 （問題の所在） |
| 第7回 | 課題 の分析と討議 （問題の所在に対する考察） |
| 第8回 | 課題 の研究成果を発表しよう |
| 第9回 | 課題 の設定 |
| 第10回 | 課題 における関連参考文献の検索 |
| 第11回 | 課題 に関するトピックスを読む・見る |
| 第12回 | 課題 の分析と討議 （課題解決における目的、問題の所在） |
| 第13回 | 課題 の分析と討議 （課題解決に向けての考察） |
| 第14回 | 課題 の研究成果を発表しよう |
| 第15回 | 総括（研究成果のまとめ） |
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

演習の目的は、各個人が興味と関心に応じて課題を見つけ、自らの力で課題を解決すること、つまり問題解決能力を養うことです。本授業では、ゼミ生が設定した課題解決に必要な情報を分担、協力して収集してもらいそれぞれが収集した情報をもとに協働作業により課題解決に当たります。したがって、次週のゼミに向け果たさねばならない『宿題』があることを認識しておいてください。

【成績の評価】

レポート点：50%
プレゼンテーション：30%
授業態度：20%

- * 全体の60%以上の得点で合格とします。
- * 成績については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

その都度、提示する

科目名： 演習 【人間関係ゼミ】
担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

「人間関係」、すなわち、「人とのかかわり」は人間が人間として生きていく中で必要不可欠なものです。しかしながら、現代社会においては、その人間関係が希薄になりがちだといわれます。このことは人ごとではなく、実は、そのような社会の中で、あなたは育っており、そして、将来、あなたが先生になったときに直接関わる子どもたちもまた、そのような社会で成長してゆくことになるのです。幼児教育コース人間関係ゼミでは、「人とのかかわり」という視点から、心理学的知見をベースにして、子どもの発達や教育・保育を捉え直し、幼稚園教諭や保育士になるために必要になる知識や態度を身につけることを目標とします。その際に、自分自身の人間関係に関わる具体的なテーマについて、文献の精読を行い、その内容に関して討論することを通して、知識を自ら学び取ることを重視します。

【到達目標】

1. 自分自身の人間関係と幼稚園・保育所での人間関係について考察し、豊かな心の基盤となる人間関係の重要性を捉え直すことができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 関心領域に関する討論
第3回 文献の選定
第4回 文献の選定
第5回 文献の精読と討論
第6回 文献の精読と討論
第7回 文献の精読と討論
第8回 文献の要約方法の紹介
第9回 文献の要約発表と討論
第10回 文献の要約発表と討論
第11回 文献の要約発表と討論
第12回 ロールプレイの意義
第13回 ロールプレイ
第14回 これまでの発表・討論の総括
第15回 前期の反省
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

この授業では、人間関係や心理学に関する特定のテーマの書籍の購読、レジメの作成などのために時間外の学習をすることになっています。また、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すことも必要になります。

【成績の評価】

授業に対する態度（熱意、意欲など）（20％）、レポート（30％）、討論内容（20％）、プレゼンテーション（30％）など総合評価とする。発表や討論の内容に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

バーナード・ワイナー（1989）「ヒューマン・モチベーション 動機づけの心理学」（金子書房）
鹿毛雅治（2012）「モチベーションをまなぶ12の理論」（金剛出版）
鹿毛雅治（2013）「学習意欲の理論：動機づけの教育心理学」（金子書房）
J.ピアジェ（2013）「遊びと発達の心理学（精神医学選書）」（黎明書房）
田中浩司（2014）「集団遊びの発達心理学」（北大路書房）

科目名： 演習 【環境ゼミ】

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

演習「環境ゼミ」では、文献学習、実践活動、レジュメ作成などを通して研究に向けての基礎的な力を養うことを目標とします。教育や保育の場で必要な「理論」と「実践力」を養うために、学生の皆さんの興味のある分野を題材にして、事前学習、計画、実践、省察という作業をしていきます。実践的な活動やレジュメ作成、討議を主な活動とし、保育者に必要な創造力を培うことをめざします。

【到達目標】

- ・文献、資料を調べて、必要な情報を得ることができる。
- ・知り得た情報をもとに、自らのテーマを決め、計画することができる。
- ・計画を実践、省察し、今後の課題を見出すことができる。
- ・他学生と意見交換ができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 実践活動を提案するための事前学習・討議（植物にかかわる保育）
- 第3回 実践活動の計画
- 第4回 実践・調査
- 第5回 省察・討議
- 第6回 実践活動を提案するための事前学習（自然現象にかかわる保育）
- 第7回 実践活動の計画 発表・討議
- 第8回 実践・調査
- 第9回 省察・討議
- 第10回 実践活動を提案するための事前学習（身近な素材にかかわる保育）
- 第11回 実践活動の計画
- 第12回 実践・調査
- 第13回 省察・討議
- 第14回 前期の実践活動を通して振り返り、討議
- 第15回 前期のまとめと演習 に向けての計画

定期試験なし

【授業時間外の学習】

実践活動の内容について事前に学習したり活動の準備をしたりする必要があります。また授業時間に討議ができるよう、レジュメ作成が課題となります。

【成績の評価】

提出物（レジュメ、レポート等）60%、意見交換への参加20%、実践への参画20%
レジュメ、レポートについては、授業時間内に返却し、解説します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- ・田尻由美子・無藤隆編『保育内容子どもと環境 基本と実践事例』（同文書院 2010年）

科目名： 演習 【言葉ゼミ】
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

演習（言葉ゼミ）は、幼稚園教育要領の「言葉の獲得に関する領域」の内容を踏まえながら、絵本や紙芝居、童話などをテキストとして、調査・研究や発表・討議などを行います。テキストには日本で出版されているものだけでなく、外国語（英語）のものも含めます。

また、子どもが「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう」ことができるようにするために求められる、学生自身の表現力・コミュニケーション能力の向上を図るため、「読み聞かせ」や紙芝居の実践演習を行います。さらに、ゼミ活動の一環として読み聞かせボランティア活動を行います。そして、これらを通して保育に必要な専門知識と実践力を養っていきます。

【到達目標】

- (1) 子どもの言葉の獲得や言語生活についての理解を深めることができる。
- (2) 実践的な読み聞かせ活動などにより子どもを対象としたコミュニケーション能力や言葉による表現能力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 演習の内容と実施計画についての協議
 - 第3回 絵本や紙芝居を用いた研究・討議
 - 第4回 絵本や紙芝居を用いた研究・討議
 - 第5回 絵本や紙芝居を用いた研究・討議
 - 第6回 読み聞かせの実践演習
 - 第7回 読み聞かせの実践演習
 - 第8回 読み聞かせの実践演習
 - 第9回 言語教材の研究
 - 第10回 言語教材の研究
 - 第11回 言語教材の研究
 - 第12回 言語教材の研究
 - 第13回 学習成果の検討と分析
 - 第14回 学習成果の検討と分析
 - 第15回 学習成果のまとめと反省
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

子育て支援ボランティア活動として、地域の公立図書館やコミュニティセンターなどで、絵本読み聞かせ活動（絵本・紙芝居・手遊びなどによる「おはなし会」）を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。

【成績の評価】

受講態度・状況（60%）、学習シート・課題のまとめ（20%）、「おはなし会」ボランティア活動状況（20%）により評価します。課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

絵本や紙芝居などを幅広く使用しますが、各自購入する必要はありません。

【参考文献】

演習の中で、随時紹介します。

科目名： 演習 【表現ゼミ】
担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

幼児の音楽表現に関して研究を行う。将来、保育現場において子どもたちに音楽の喜びを伝えられるように演奏活動を中心にまずは自らの表現力を高め、専門的技能と実践能力を養います。また、オープン・キャンパスをはじめとした発表の場を目標に、計画・準備・本番等を通して、各自が課題に気づき、解決していく力を育みます。これら企画運営の経験を含めて総合的に音楽活動に関する知識、技法、態度を修得します。

【到達目標】

- ・グループ活動において自分のアイデアや意見を論じることができる。
- ・積極的に課題を見つけ、創造的に取り組むことができる。
- ・演奏の場で臆することなく発表することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 課題I提案
第3回 調査発表
第4回 再度発表
第5回 課題II提案
第6回 調査発表
第7回 再度発表
第8回 学外ゼミ
第9回 課題III提案
第10回 調査発表
第11回 再度発表
第12回 課題IV提案
第13回 調査発表
第14回 再度発表
第15回 まとめ、ゼミ生全員で検討、反省
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

日々の生活の中で感じたことをメモに取り、それらに関する各種情報を収集しておく。

【成績の評価】

提出物 50% 発表内容 50%
提出物にはコメントを添えて返却、発表に対しては授業内で講評を行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

北村智恵著 「風の声を聴く子どもたち」(芸術現代社)

科目名： 演習 【特別支援教育ゼミ】
担当教員： 藤井 明日香(FUJII Asuka)

【授業の紹介】

特別支援教育及び障害福祉を担う人材としての素地を高めるために、学生の興味・関心をもとに障害のある子ども・成人を取り巻く様々な課題について先行研究や文献、インターネットから情報を収集し、自らの興味・関心の探索と問題意識の形成を図ります。また調べた内容をまとめて文章にし、発表することを通して、基礎力の向上を図ります。また実際に特別支援学校や障害者福祉関連施設への見学やボランティア活動へ参加することで、障害のある方との関わりの実体験を増やし、多角的な視野や観点の獲得を目指します。

【到達目標】

特別支援教育及び障害福祉を担う人材に求められる問題意識に基づく基礎的知識の獲得及び実体験を通じた多角的な視野や観点の獲得、実際的な対人技能の基礎技術を獲得できる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 特別支援教育と共生社会の課題
第3回 障害のある方を取り巻く法律と合理的配慮
第4回 障害のある人と様々な社会課題（1）触法障害者の支援
第5回 障害のある人と様々な社会課題（2）障害者の職業自立
第6回 障害のある人と様々な社会課題（3）障害者の高等教育
第7回 障害のある人と様々な社会課題（4）生活支援
第8回 研究の進め方と文献検索の方法
第9回 研究設問の設定（テーマ探索）
第10回 研究設問の設定（文献検索）
第11回 研究構成と内容（探索）
第12回 研究構成と内容（決定）
第13回 最終発表の準備（レジュメ作成）
第14回 最終発表の準備（レジュメ作成）
第15回 最終発表会
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外にも、適宜、情報収集や集めた情報や資料を整理することが必要です。また、ゼミナール活動としてボランティア活動へ定期的に参加しています。本授業ではゼミ内の発表会を予定しているため、そのレジュメ作成等の準備が必要です。

【成績の評価】

受講態度（30%）、提出物（40%）、発表（30%）等を総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

特別支援教育総論：インクルーシブ時代の理論と実践，（編）川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳，北大路書房，2016

科目名： 演習 【児童教育ゼミ】

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya), 七條 正典(SHICHIJO Masanori), 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro), 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

「演習」に引き続き、「教育現場における朝の会・学級活動などの実践的指導力のトレーニングを行います。また、「いじめ問題」「学力低下問題」など教育的な問題を取り上げ、資料収集・まとめ・発表の活動を通して専門的な力量を身につけることを目指します。可能な限り教育現場に足を運んだり、授業のVTRやDVDを視聴したりして実際の教育活動に触れ、それをもとに教育活動を考えます。

本授業は、「子どもの教育にあたるための『理論』と『実践力』（「学位授与の方針の一部）」の、「理論」に重きを置くことをねらいとしています。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「子どもの教育にあたるための『理論』」と「教育課程編成・実施の方針」にある「専門的知識」に関わる目標として、次の4つを設定します。

- 1 教育的、社会的に問題となっている事象を取り上げ、幅広く資料を収集することができる。
- 2 収集した資料を整理しファイリングできる。
- 3 収集した資料を分析し、主張点を明確にできる。
- 4 引用、参考、自己の主張とを明確に区別したレジュメ（A4用紙2～4枚）を作成できる。

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション（「演習」の内容と進め方） |
| 第2回 | 取り上げる教育問題と研究の進め方、レジュメ分担等 |
| 第3回 | 発表および討議1 学級活動を構成する1（教師の話、ゲーム、新聞記事発表等） |
| 第4回 | 発表および討議2（「生きる力」） 学級活動を構成する2 |
| 第5回 | 発表および討議3（「生きる力」）を構成する3 |
| 第6回 | 発表および討議4（「いじめ」問題）を構成する4 |
| 第7回 | 発表および討議5（「いじめ」問題）学級活動を構成する5 |
| 第8回 | 発表および討議6（「食育」） 学級活動を構成する6 |
| 第9回 | 発表および討議7（「食育」） 学級活動を構成する7 |
| 第10回 | 発表および討議8（「学力低下」問題）学級活動を構成する8 |
| 第11回 | 発表および討議9（「学力低下」問題）学級活動を構成する9 |
| 第12回 | 「ゼミ活動報告会」プレゼンテーション準備1 |
| 第13回 | 「ゼミ活動報告会」プレゼンテーション準備2 |
| 第14回 | 「ゼミ活動報告会」プレゼンテーション準備3 |
| 第15回 | 「演習 / 」活動成果発表会 |

【授業時間外の学習】

- ・ 分担されたレジュメは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。
- ・ ほぼ毎回、「新聞記事発表」「先生のお話」「ゲーム」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。
- ・ 「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。
- ・ また、学内での検定試験を受検すること（漢字検定：2月、日本語検定11月）
- ・ 学内で開かれる教員採用対策講座、都道府県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。

【成績の評価】

「朝の会」における司会進行「アイスブレーキング」「本の紹介」「最近の話題」、「教育問題のレジュメ検討」などの活動状況を7段階評価（C-～A+）で点数化（25%）、「読書感想文」「新聞記事論評」（25%）、「教育問題」を取り上げたレジュメ作成と・発表（50%）を基礎データとします。それに加え、コース成果発表会などのゼミ活動への取り組み意欲、出席状況などを併せて総合的に評価します。毎回の授業において、活動・教育問題についてのレジュメに対しての評価コメントを行い次時に活かします。

【使用テキスト】

- ・ 文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月）
- ・ 木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書、1981年）756円（前期に購入済み）

【参考文献】

- ・ 文部科学省『学習指導要領解説（各教科等）』（平成29年3月）価格は各教科ごと
- ・ 文部科学省教育課程課・幼児教育課編「初等教育資料」（東洋館出版社、月一回発酵月刊誌）
- その他 授業で適宜紹介します。

科目名： 演習 【専修ゼミ】

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi), 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。具体的には、各回でのゼミの担当者を決めてレジュメを切ってきてもらい、質疑応答を深めて問題を追及していきます。そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえるようなプレゼンテーションの方法を学習します。

学修を通じて、学部ポリシーに掲げる「教育・保育に関する研究の能力を涵養」「子どもの成長・発達を究明」する力を養います。

【到達目標】

- ・言葉の概念や表現を緻密に検討することを重ねて、教育や保育に関する諸事象を正確に把握する力の獲得できる。
- ・研究した成果をプレゼンテーションするための基礎能力を獲得できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 発表及び討議：保育制度の課題
 - 第3回 発表及び討議：保育内容の課題
 - 第4回 発表及び討議：子育て不安
 - 第5回 発表及び討議：共同研究テーマの決定
 - 第6回 発表及び討議：共同研究テーマの分析
 - 第7回 発表及び討議：論証方法の検討
 - 第8回 発表及び討議：論証内容の検討
 - 第9回 発表及び討議：使用データの客観性の検討
 - 第10回 発表及び討議：発表レジュメ試作
 - 第11回 発表及び討議：発表レジュメの修正
 - 第12回 発表及び討議：発表用プレゼンテーションの準備
 - 第13回 発表及び討議：発表練習
 - 第14回 学習成果発表会
 - 第15回 卒業生の卒論発表会への参加
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。

【成績の評価】

レジュメの内容(50%)やゼミでの質疑応答への参画の程度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。

【使用テキスト】

基礎演習テキスト『しるべ』（1年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： 演習 【健康ゼミ】
担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

演習 では、演習 に引き続き、専門的な研究活動への導入である分野をさらに学習します。「保育内容健康」の領域における先行論文の要約、論評、討論をくり返し、「文章を読む」、「文章を書く」、「文章を理解し、考察・分析する」、「さらにはそれを人に伝える」という、文章の読み書き、問題や課題の考察・分析、プレゼンテーション能力を養うためのトレーニングを演習 からさらにステップアップして行います。

【到達目標】

1. 簡単な図やグラフを説明できる。
2. 他人に分かりやすくプレゼンテーションするためのツールを使いこなすことができる。
3. 演習 よりもさらに深く考察できるようになったり、演習 よりも、もう一段階ステップアップしたディスカッションができる。
4. 授業におけるさまざまな活動の中で、共に助け合い、豊かな心と創造力を身に付ける。

【授業計画】

- 第1回 ある事象を分析する (テーマの設定)
 - 第2回 ある事象を分析する (問題の所在を探る)
 - 第3回 ある事象を分析する (問題解決を分析する)
 - 第4回 プレゼンテーションとは何か
 - 第5回 プレゼンテーションのアウトラインを考える (順序について)
 - 第6回 プレゼンテーションのアウトラインを考える (内容について)
 - 第7回 Power Pointの基本 (テキストの入力)
 - 第8回 Power Pointの基本 (クリップアートや図の挿入)
 - 第9回 Power Pointの基本 (グラフの作成と挿入)
 - 第10回 Power Pointを使いこなす (テンプレートの作成)
 - 第11回 Power Pointを使いこなす (アニメーションの設定)
 - 第12回 Power Pointを使ってプレゼンテーションしよう(前半)
 - 第13回 Power Pointを使ってプレゼンテーションしよう(後半)
 - 第14回 総括 (自作のプレゼンテーションの反省)
 - 第15回 総括 (プレゼンテーションのまとめ)
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

演習 と同様にゼミ生が役割を分担し共同(協働)作業によって課題を解決して行く授業です。課せられた役割が確実に果たせるよう日常的に資料の収集やレポートの作成などの作業を滞ることがないように努力する責任が生じます。

【成績の評価】

期末試験：65% (この授業は、期末試験を受験しなければ単位を修得することはできません。)
レポート点：20%
授業態度：15%
* 全体の60%以上の得点で合格とします。
* 成績については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

その都度、提示する

科目名： 演習 【人間関係ゼミ】
担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

演習 に引き続き、心理学の研究によって得られた知見や心理学研究の方法論にもとづいて、「人とのかわり」という視点から、子どもの発達や教育・保育を捉え直し、幼稚園教諭や保育士になるために必要になる知識や態度を身につけることを目標とします。授業では、子どもたちの人間関係に関わる具体的なテーマについて、文献研究を行い、必要に応じて調査をし、それらの結果に関して討論することを通して、演習 と同様に、知識を自ら学び取ることを重視します。

【到達目標】

この授業では、演習 における自らの人間関係に関する学び、動機づけ、および、幼児の遊びについての学びを基礎にしながら、現代社会の人間関係について考察することで、子育て支援社会を支える豊かな心の基盤となる人間関係の重要性を改めて理解することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 文献の精読と討論
第3回 文献の精読と討論
第4回 文献の精読と討論
第5回 文献の精読と討論
第6回 文献の精読と討論
第7回 文献の精読と討論
第8回 文献の要約発表と討論
第9回 文献の要約発表と討論
第10回 ロールプレイ
第11回 ロールプレイ
第12回 ロールプレイ
第13回 これまでの発表・討論の総括
第14回 ゼミ活動報告会
第15回 ゼミ活動報告会
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

この授業では、人間関係や心理学に関する特定のテーマの書籍の購読、レジメの作成などのために時間外の学習をすることになっています。また、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すことも必要になります。

【成績の評価】

授業に対する態度（熱意、意欲など）（20％）、レポート（30％）、討論内容（20％）、プレゼンテーション（30％）など総合評価とする。発表や討論の内容に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

山田剛史・林創（2011）「大学生のためのリサーチリテラシー入門」（ミネルヴァ書房）
外山美樹（2011）「行動を起こし、持続する力 - モチベーションの心理学」（新曜社）
中谷素之（2007）「学ぶ意欲を育てる人間関係づくり：動機づけの教育心理学」（金子書房）

科目名： 演習 【環境ゼミ】

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

演習 に引き続き、文献学習、実践活動、レジュメ作成などを通して研究に向けての基礎的な力を養うことを目標とします。教育や保育の場で必要な「理論」と「実践力」を養うために、学生の皆さんの興味のある分野を題材にして、事前学習、計画、実践、省察という作業をしていきます。実践的な活動やレジュメ作成、討議を主な活動とし、保育者に必要な創造力を培うことをめざします。

【到達目標】

- ・文献、資料を調べて、必要な情報を得ることができる。
- ・知り得た情報をもとに、自らのテーマを決め、計画することができる。
- ・計画を実践、省察し、今後の課題を見出すことができる。
- ・他学生と意見交換ができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 実践活動にむけての事前学習、討議（自然物にふれる保育）
- 第3回 実践活動の計画
- 第4回 実践・調査
- 第5回 省察・討議
- 第6回 実践活動にむけての事前学習、討議（行事・記念日の保育）
- 第7回 実践活動の計画
- 第8回 実践・調査
- 第9回 省察・討議
- 第10回 実践活動の振り返り
- 第11回 実践活動の課題についての意見交換
- 第12回 課題解決にむけての討議
- 第13回 演習成果報告会の内容検討
- 第14回 演習成果報告会レジュメ作成
- 第15回 演習成果報告会発表準備

定期試験なし

【授業時間外の学習】

実践活動の内容について事前に学習したり活動の準備をしたりする必要があります。また授業時間に討議ができるよう、レジュメ作成が課題となります。

【成績の評価】

提出物（レジュメ、レポート等）60%、意見交換への参加20%、実践への参画20%
レジュメ、レポートについては、授業時間内に返却し、解説します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- ・田尻由美子・無藤隆編『保育内容子どもと環境 基本と実践事例』（同文書院 2010年）

科目名： 演習 【言葉ゼミ】
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

演習（言葉ゼミ）は、演習の学習を踏まえ、それを継続し、一層拡大・深化させる形で、絵本や紙芝居、童話などをテキストとしての調査・研究や発表・討議などを行います。テキストには日本で出版されているものだけでなく、外国語（英語）のものも含めます。

また、子どもが「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう」ことができるようにするために求められる、学生自身の表現力・コミュニケーション能力の向上を図るため、「読み聞かせ」や紙芝居の実践演習を継続・拡充して行います。さらに、ゼミ活動の一環として読み聞かせボランティア活動を行います。そして、これらを通して保育に必要な専門知識と実践力を養っていきます。

【到達目標】

- (1) 演習の学習成果を踏まえ、子どもの言葉の獲得や言語生活についての理解を深めることができる。
- (2) 実践的な読み聞かせ活動などにより、子どもを対象としたコミュニケーション能力や言葉による表現能力の一層の向上を図ることをめざす。

【授業計画】

- | | |
|------------|-------------------|
| 第1回 | 演習の内容と実施計画についての協議 |
| 第2回 | 絵本や紙芝居を用いた研究・討議 |
| 第3回 | 絵本や紙芝居を用いた研究・討議 |
| 第4回 | 絵本や紙芝居を用いた研究・討議 |
| 第5回 | 読み聞かせの実践演習 |
| 第6回 | 読み聞かせの実践演習 |
| 第7回 | 読み聞かせの実践演習 |
| 第8回 | 乳幼児とのかかわり方の研究・討議 |
| 第9回 | 乳幼児とのかかわり方の研究・討議 |
| 第10回 | 乳幼児とのかかわり方の研究・討議 |
| 第11回 | 乳幼児とのかかわり方の研究・討議 |
| 第12回 | 学習成果の検討と分析 |
| 第13回 | 学習成果の検討と分析 |
| 第14回 | 学習成果のまとめと反省 |
| 第15回 | 学習成果のまとめと反省 |
| 定期試験は実施しない | |

【授業時間外の学習】

子育て支援ボランティア活動として、地域の公立図書館やコミュニティセンターなどで、絵本読み聞かせ活動（絵本・紙芝居・手遊びなどによる「おはなし会」）を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。

【成績の評価】

受講態度・状況（60%）、学習シート課題のまとめ（20%）、「おはなし会」ボランティア活動状況（20%）により評価します。課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

絵本や紙芝居などを幅広く使用しますが、各自購入する必要はありません。

【参考文献】

演習の中で、随時紹介します。

科目名： 演習 【表現ゼミ】
担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

幼児の音楽表現に関して研究を行う。将来、保育現場において子どもたちに音楽の喜びを伝えられるように演奏活動を中心にまずは自らの表現力を高め、専門的技能と実践能力を養います。また、オープン・キャンパスをはじめとした発表の場を目標に、計画・準備・本番等を通して、各自が課題に気づき、解決していく力を育みます。これら企画運営の経験を含めて総合的に音楽活動に関する知識、技法、態度を修得します。

【到達目標】

- ・グループ活動において自分のアイデアや意見を論じることができる。
- ・積極的に課題を見つけ、創造的に取り組むことができる。
- ・演奏の場で臆することなく発表することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 課題I提案
第3回 調査発表
第4回 再度発表
第5回 課題II提案
第6回 調査発表
第7回 再度発表
第8回 学外ゼミ
第9回 課題III提案
第10回 調査発表
第11回 再度発表
第12回 課題IV提案
第13回 調査発表
第14回 再度発表
第15回 まとめ、ゼミ生全員で検討する。反省
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

日々の生活の中で感じたことをメモに取り、それらに関する各種情報を収集する。

【成績の評価】

提出物 50% 発表内容 50%
提出物にはコメントを添えて返却、発表内容については授業内で講評を行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

北村智恵著 「風の声を聴く子どもたち」(芸術現代社)

科目名： 演習 【特別支援教育ゼミ】
担当教員： 藤井 明日香(FUJII Asuka)

【授業の紹介】

特別支援教育及び障害福祉を担う人材としての素地を高めるために、学生の興味・関心をもとに障害のある子ども・成人を取り巻く様々な課題について先行研究や文献、インターネットから情報を収集し、自らの興味・関心の探索と問題意識の形成を図ります。また調べた内容をまとめて文章にし、発表することを通して、基礎力の向上を図ります。また実際に特別支援学校や障害者福祉関連施設への見学やボランティア活動へ参加することで、障害のある方との関わりの実体験を増やし、多角的な視野や観点の獲得を目指します。

【到達目標】

特別支援教育及び障害福祉を担う人材に求められる問題意識に基づく基礎的知識の獲得及び実体験を通じた多角的な視野や観点の獲得、実際的な対人技能の基礎技術を獲得できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 特別支援教育の実践と環境構成
 - 第3回 教材開発の視点と環境構成
 - 第4回 教材開発(1)
 - 第5回 教材開発(2)
 - 第6回 教材開発(3)
 - 第7回 教材紹介
 - 第8回 ボランティア活動の意義と学び(1)
 - 第9回 ボランティア活動の意義と学び(2)
 - 第10回 研究設問の設定(文献検索)
 - 第11回 研究構成と内容(探索)
 - 第12回 研究構成と内容(決定)
 - 第13回 最終発表の準備(レジュメ作成)
 - 第14回 最終発表の準備(レジュメ作成)
 - 第15回 最終発表会
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外にも、適宜、情報収集や集めた情報や資料を整理することが必要です。また、ゼミナール活動としてボランティア活動へ定期的に参加しています。本授業ではゼミ内の発表会を予定しているため、そのレジュメ作成等の準備が必要です。

【成績の評価】

受講態度(30%)、提出物(40%)、発表(30%)等を総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

特別支援教育総論：インクルーシブ時代の理論と実践，(編)川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳，北大路書房，2016

科目名： 演習

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

戦後教育における著名な教育実践家の教育実践を取り上げ検討します。具体的には斎藤喜博、向山洋一、大村はま、遠山啓、大西忠治、無着成恭らの教育実践家です。彼らの教育実践から、現代の教育においても大切にしたい教育観、指導方法等を取り出すことで、「学位授与の方針」にある「子どもの教育にあたるための『実践力』」の基礎を培います。

実践をふまえて、学生それぞれの興味・関心からなる個別の研究テーマを設定し、後期実施の「演習」へとつないでいきます。また、実践的指導力の向上を目指した模擬授業や場面指導の在り方など教員採用試験に向けた内容を扱います。

【到達目標】

- 1 取り上げる教育実践に関わる情報を収集・整理・分析し、A4 3～4枚のレジュメにまとめることができる。
- 2 レジュメを検討する際のグループ討議を通して、論点に沿った質問や意見の発表することができる。
- 3 目標、指導言を明確にした10分弱程度の授業計画を立て、オープンキャンパス等の場において模擬授業を実施できる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	
第2回	教育実践	「斎藤喜博」に関わる発表と討議1
第3回	教育実践	「斎藤喜博」に関わる発表と討議2
第4回	教育実践	「向山洋一」に関わる発表と討議1
第5回	教育実践	「向山洋一」に関わる発表と討議2
第6回	教育実践	「大西忠治」に関わる発表と討議1
第7回	教育実践	「大西忠治」に関わる発表と討議2
第8回	教育実践	「大村はま」に関わる発表と討議1
第9回	教育実践	「大村はま」に関わる発表と討議2
第10回	教育実践	「遠山啓・数教協」に関わる発表と討議1
第11回	教育実践	「遠山啓・数教協」に関わる発表と討議2
第12回	教育実践	「無着成恭・やまびこ学校」に関わる発表と討議1
第13回	教育実践	「無着成恭・やまびこ学校」に関わる発表と討議2
第14回	教育実践	「有田和正」に関わる発表と討議1
第15回	教育実践	「有田和正」に関わる発表と討議2

【授業時間外の学習】

- ・研究テーマの選定・設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。
- ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。
- ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。

【成績の評価】

レジュメの内容(90%)、質疑応答など(10%)を基本にして総合的に評価します。
毎回の教育実践の検討において、実践分析の在り方、レジュメ制作の在り方についての評価コメントを行い、次時へ活かすようにします。

【使用テキスト】

- ・木下是雄『理科系の作文技術』(中公新書、1981年)756円
- ・田中耕治編著『時代を拓いた教師たち 戦後教育実践からのメッセージ』(日本標準、2005年)1800円

【参考文献】

- ・無着成恭『やまびこ学校』(岩波文庫、1995年)
- ・大村はま『教えるということ』(共文社、1973年)
- ・斎藤喜博『授業』国土社
- ・遠山啓『競争原理を超えて』(太郎次郎社、1976年)
- ・大西忠治『教育的集団の発見・定本「核のいる学級」』(大西忠治教育技術著作集)(明治図書、1991年)
- ・向山洋一『跳び箱は誰でも跳ばせられる』(明治図書、1999年)
- その他、適宜紹介します。

科目名： 演習

担当教員： 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

まず各自で研究課題を設定するための関係資料を収集し分析する活動を通して、教育・保育に係る諸問題を自ら発見し、それを解決する力を養い、演習へ発展させる。また、ゼミの共通テーマとして「二十四の瞳」を取り上げて実地研究を進める。さらに、社会人としての教養をつけ、就職試験に向けて準備をする。

【到達目標】

研究については、自らの課題に関する文献・諸資料の調査、その吟味、課題に関する諸情報のまとめ方、討論や発表の方法、等に取り組める。共通テーマについては、それを通して内容の解釈や関心を広めることができる。日本語力・漢字力や新聞を読む力をつけ、社会人としての素養を磨き、就職試験対策につなげることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 課題について討議
- 第3回 課題についての討議の続き
- 第4回 文献・資料調査
- 第5回 文献・資料調査の続き
- 第6回 調査法（見学、観察）
- 第7回 調査法（アンケート、インタビュー）
- 第8回 資料の整理方法
- 第9回 資料のまとめ方
- 第10回 発表・討議
- 第11回 発表・討議の続き
- 第12回 再調査等
- 第13回 修正
- 第14回 ゼミ内で発表会・まとめ
- 第15回 次期の計画

・上記の他、適宜、共通テーマに取り組むほか、一般教養の小テストを行い、就職試験に向けて基礎的な勉強をする。

【授業時間外の学習】

上記計画にあるように、討議や調査、そしてその発表、あるいは共通テーマへの取り組み等があるので、時間外の準備が必要である。

【成績の評価】

演習活動への取り組み状況（30％）、個々の活動の出来具合（50％）、期末までの向上度（20％）、などにより総合的に評価する。
期末に全体の講評を行う。

【使用テキスト】

なし。

【参考文献】

関口靖広著『教育研究のための質的研究法講座』北大路書房、2013年など、教育研究法に関する文献

科目名： 演習

担当教員： 藤井 明日香(FUJII Asuka)

【授業の紹介】

卒業論文の研究課題を設定するために、興味・関心をもとに先行研究や文献から情報を収集し、自らの問題意識を明確にします。また調べた内容をまとめて文章することを通して、卒業論文作成に求められる基礎力の向上を図ります。

【到達目標】

研究の基礎である、情報収集、文章のまとめ方、発表の仕方など、卒業論文作成に求められる基礎的知識と技能を習得できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 研究の進め方（研究手法とは）
 - 第3回 研究の進め方（研究手法の選定）
 - 第4回 研究課題の探索（テーマ探索）
 - 第5回 研究課題の探索（文献探索）
 - 第6回 研究課題の探索（文献探索）
 - 第7回 中間発表の準備
 - 第8回 中間発表会
 - 第9回 研究設問の設定（RQの探索）
 - 第10回 研究設問の設定（RQの決定）
 - 第11回 研究構成と内容
 - 第12回 研究構成の確認
 - 第13回 最終発表の準備（レジュメ作成）
 - 第14回 最終発表の準備（レジュメ作成）
 - 第15回 最終発表会
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外にも、適宜、情報収集や集めた情報や資料を整理することが必要です。また、本講義では2回ゼミ内の発表会を予定しているため、そのレジュメ作成等の準備が必要です。

【成績の評価】

受講態度（30%）、提出物（40%）、発表（30%）等を総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： 演習

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

演習 は、卒業論文を作成するための準備をする第一段階の授業として位置づけます。卒業論文のテーマの領域を選択するために、先行研究の探し方を学び、実際に先行研究の文献を読みます。さまざまな文献を読みすすめていくうちに、論文とはどのような文章なのか、論文の構成など、実際に学びます。

【到達目標】

1. 過去の文献を読み進めていき、作成する卒業論文のテーマの領域をしばることができる。
2. 卒業論文を作成するために必要な基本的な作業の過程をを学ぶことをめざす。
3. セミナール活動をとおして、共に支え合い、豊かな心と創造力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 卒業論文を作成するための手順とは (論文構成を考える)
 - 第3回 卒業論文を作成するための手順とは (論文構成を作成する)
 - 第4回 卒業論文を作成するための手順とは (論文構成を検討してみる)
 - 第5回 先行研究の探し方を学ぼう (図書館にて)
 - 第6回 先行研究の探し方を学ぼう (Webでの探し方)
 - 第7回 実際に先行研究の文献を探そう (図書館にて自分のテーマに関する先行文献を探す)
 - 第8回 実際に先行研究の文献を探そう (Web上にて自分のテーマに関する先行文献を探す)
 - 第9回 実際に先行研究の文献を探そう (文献検索のまとめ)
 - 第10回 さまざまな文献を読もう (収集した文献を読む)
 - 第11回 さまざまな文献を読もう (収集した文献の整理)
 - 第12回 さまざまな文献を読もう (収集した文献をまとめる)
 - 第13回 収集した文献のまとめを発表する (前半)
 - 第14回 収集した文献のまとめを発表する (後半)
 - 第15回 総括(今後の卒業論文の進め方)
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し、ノートにまとめておいてください。詳細は、その都度指示します。

【成績の評価】

プレゼンテーション：60%

レポート点：30%

討議における授業態度：10%

* 全体の60%以上の得点で合格とします。

* 成績については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

その都度、提示する

科目名： 演習

担当教員： 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro)

【授業の紹介】

教育環境を構成する最大の要素は教師です。本演習は、教師として必要とされる、幅広い視点に立ったキャリア形成をめざして行います。

まず、教師として、児童を指導することを自覚して、現代の教育課題の研究を進めます。そのために、学校現場や地域との連携を図りながら、各種教育活動に関する情報収集、実情把握に取り組みます。

その中で、教科指導の「理論」と「実践力」を養うとともに、生徒指導、日常生活に関わる指導技術・技能を磨き、子育て支援社会を支える豊かな心と想像力を身につけます。

【到達目標】

- (1)学習指導案づくりや模擬授業等の実践を通して、学校現場で役立つ指導技術・技能を身に付けることをめざします。
- (2)また、学校における現代的教育課題から、自らの研究課題を設定し、研究のための情報・資料収集するとともに、各種教育活動の実際を取り上げ、その意味・意義、問題点についての理解を深めます。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 課題の分類・整理(1)
- 第3回 課題の分類・整理(2)
- 第4回 研究課題の設定
- 第5回 課題について発表と討議(1)
- 第6回 課題について発表と討議(2)
- 第7回 課題について発表と討議(3)
- 第8回 課題について発表と討議(4)
- 第9回 課題について発表と討議(5)
- 第10回 課題について発表と討議(6)
- 第11回 課題について発表と討議(7)
- 第12回 課題について発表と討議(8)
- 第13回 研究のまとめ(1)
- 第14回 研究のまとめ(2)
- 第15回 研究冊子作成

【授業時間外の学習】

授業に臨むに当たって、情報・資料収集をはじめ、整理・自己分析が必要です。前日までに資料を作成し、発表に備えます。

【成績の評価】

ゼミへの取り組み状況50%、レポート30%、討議内容等20%で評価します。
レポートについては、評価と解説を行い、授業の中で返却します。

【使用テキスト】

適宜、紹介します。

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： 演習

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

演習Ⅰ,Ⅱに引き続き、幼児の音楽表現に関する研究を深める。将来、保育現場において子どもたちに音楽の喜びを伝えられるように演奏活動を中心に自らの表現力をさらに高め、専門的技能と実践能力を養います。また次年度の卒業論文のテーマについて、ゼミ内での意見交換をもとに各自構想を練っていく。

【到達目標】

- ・グループ活動において自分のアイデアや意見を的確に論じることができる。
- ・演奏の場で自らが楽しみながら発表することができる。
- ・各自が卒業論文のテーマとなり得る案を用意できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 第2回オープンキャンパスでの発表準備 1
 - 第3回 課題Ⅰ提案
 - 第4回 第2回オープンキャンパスでの発表準備 2
 - 第5回 第2回オープンキャンパスでの発表準備 3
 - 第6回 第2回オープンキャンパスでの発表準備 4
 - 第7回 第2回オープンキャンパスに関わる活動の反省、第6回オープンキャンパスでの発表準備 1
 - 第8回 課題Ⅰ発表および討論、第6回オープンキャンパスでの発表準備 2
 - 第9回 課題Ⅰ再発表および討論、第6回オープンキャンパスでの発表準備 3
 - 第10回 課題Ⅱ提案、第6回オープンキャンパスでの発表準備 4
 - 第11回 第6回オープンキャンパスでの発表準備 5
 - 第12回 課題Ⅱ発表および討論、第6回オープンキャンパスでの発表準備 6
 - 第13回 課題Ⅱ再発表および討論、第6回オープンキャンパスでの発表準備 7
 - 第14回 第6回オープンキャンパスでの発表準備 8
 - 第15回 まとめ、前期の反省
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

提案課題について適切な資料を収集する。また演奏のための地道な練習を行う。

【成績の評価】

提出物 50% 発表内容 50%

提出物にはコメントを添えて返却、発表内容には個々に説明を行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

「子どもの眼の高さで歌おう」北村智恵著（芸術現代社）
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
保育所保育指針（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： 演習

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。具体的には、各回でのゼミの担当者を決めてレジュメを切ってきてもらい、質疑応答を深めて問題を追及していきます。そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえるようなプレゼンテーションの方法を学習します。

学修を通じて、学部ポリシーに掲げる「教育・保育に関する研究の能力を涵養」「子どもの成長・発達を究明」する力を養います。

【到達目標】

・卒業論文のテーマ決定に向けて、教育や保育に関わる現代的な問題についてレジュメを作成し、問題の本質を追究する力量を獲得できる。

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 発表及び討議：保育の目的と目標 |
| 第3回 | 発表及び討議：保育内容の課題 |
| 第4回 | 発表及び討議：保育方法の課題 |
| 第5回 | 発表及び討議：保育制度の課題 |
| 第6回 | 発表及び討議：子育てニーズの多様性 |
| 第7回 | 発表及び討議：育児不安の現状 |
| 第8回 | 発表及び討議：育児不安の原因 |
| 第9回 | 発表及び討議：子育て支援の現状 |
| 第10回 | 発表及び討議：子育て支援の課題 |
| 第11回 | 発表及び討議：新たな保育ニーズ |
| 第12回 | 発表及び討議：研究内容の整理と分析 |
| 第13回 | 発表及び討議：個々の研究テーマの報告 |
| 第14回 | 発表及び討議：研究内容のまとめ |
| 第15回 | 発表及び討議：後期の研究の方向性の検討 |
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。

【成績の評価】

レジュメの内容(50%)や質疑応答への参画の程度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。
毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。

【使用テキスト】

基礎演習テキスト『しるべ』（1年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： 演習
担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

教育心理学や発達心理学の知見を中心に、発達・思考・言語・学習などについての研究論文の講読、短いレポートの作成、発表、およびディベートなどを行い、発達心理学や教育心理学の研究分野に関するより一層深い理解を目標とします。その際に、購読した論文の問題点や改善点、その他の文献から新しく得られた知見にもとづいた発展研究の案などを積極的に議論できる態度の育成をめざします。

【到達目標】

1. 様々な論文や文献に記載される子どもの教育・保育に関わる理論を適切に理解できる。
2. 様々な論文や文献から発展的な知見に得るための思考方法、またその態度を養うことができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 関心領域に関する討論
第3回 関心領域に関する書籍の検索
第4回 資料の要約方法
第5回 書籍の要約
第6回 各人の要約の発表とディベート
第7回 各人の要約の発表とディベート
第8回 各人の要約の発表とディベート
第9回 各人の要約の発表とディベート
第10回 各人の要約の発表とディベート
第11回 卒業論文の構成と今後の日程
第12回 論文の検索方法と文献の示し方
第13回 論文の要約方法
第14回 文献の検索
第15回 文献の検索
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

この授業では、専門書、研究論文の探索と購読、レジュメの作成などのために時間外の学習をすることになっています。また、授業中に指摘された問題点について、改めて調べ直すことも必要になります。

【成績の評価】

授業に対する態度（熱意、意欲など）（20%）、レポート（30%）、討論内容（20%）、プレゼンテーション（30%）など総合評価とします。発表内容と資料に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

松井豊（2010）「心理学論文の書き方 - 卒業論文や修士論文を書くために」（河出書房）
あとは、各人の研究テーマに合わせて探索してください。

【参考文献】

速水敏彦（2012）「感情的動機づけ理論の展開 やる気の素顔」（ナカニシヤ出版）
上淵寿（2004）「動機づけ研究の最前線」（北大路書房）
J.ピアジェ（2013）「遊びと発達の心理学（精神医学選書）」（黎明書房）
田中浩司（2014）「集団遊びの発達心理学」（北大路書房）

科目名： 演習

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

演習 は、2年次の言葉ゼミ演習 ・ で行った絵本、紙芝居、物語などの調査、研究、検討協議並びに読み聞かせの実技演習などを踏まえて、学生がそれぞれの興味・関心等により、個別の研究テーマを設定し、それにかかわる絵本、紙芝居等の紹介や研究協議を行うと共に、ゼミ活動の一環として、子育て支援ボランティア活動「おはなし会」公演等を行います。そして、これらを通して保育に必要な専門知識と実践力を養っていきます。

【到達目標】

- (1)絵本、紙芝居等を活用して、子どもと本との関わりについての理解を深めることができる。
- (2)表現力、コミュニケーション能力を高め、将来、保育所や幼稚園等における人間教育、情操教育を担当することのできる資質や能力、態度等を身に付けることができる。

【授業計画】

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 演習の全体計画、学生各自のテーマ設定に関する検討協議 |
| 第3回 | テーマ別の研究、発表、研究討議 |
| 第4回 | テーマ別の研究、発表、研究討議 |
| 第5回 | テーマ別の研究、発表、研究討議 |
| 第6回 | ブックトーク研修・討議 |
| 第7回 | ブックトーク研修・討議 |
| 第8回 | ブックトーク研修・討議 |
| 第9回 | テーマ別の研究、発表、研究討議 |
| 第10回 | テーマ別の研究、発表、研究討議 |
| 第11回 | テーマ別の研究、発表、研究討議 |
| 第12回 | 学習成果の検討と分析 |
| 第13回 | 学習成果の検討と分析 |
| 第14回 | 演習成果の発表とまとめ |
| 第15回 | 演習成果の発表とまとめ |
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

子育て支援地域ボランティア活動として、公立図書館やコミュニティーセンター、保育所などで、絵本読み聞かせや手遊びなどの「おはなし会」公演を、月1回程度行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。

【成績の評価】

受講態度・状況（60％）、学習シート・課題のまとめ（20％）、「おはなし会」ボランティア活動状況（20％）により評価します。課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

学生自身が用意した、市販の絵本、紙芝居や、パネルシアターなどを随時教材として使用します。

【参考文献】

随時紹介します。

科目名： 演習

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

演習 では、卒業論文のテーマ・研究内容を決めるために、関心のある分野について文献、先行研究をもとに学習します。適宜学習状況について、レジュメにまとめます。レジュメに基づいて発表、意見交換をするなかで、理解を深めていきます。保育、子育て支援社会を支えるために必要な視点を持ち、保育者に必要な『理論』と『実践力』を身につけます。

【到達目標】

- ・ 関心のあるテーマに関連する文献や先行研究を見つけることができる。
- ・ 調べた内容、学習状況をレジュメにまとめることができる。
- ・ レジュメをもとに、発表ができる。
- ・ 自分の考えを述べたり他学生の考えを聞いたり意見交換ができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文とは
- 第3回 研究方法について
- 第4回 文献・資料の探し方
- 第5回 文献・資料の情報整理
- 第6回 レジュメの書き方
- 第7回 文献・資料をもとにしたレジュメの作成
- 第8回 グループ1の発表・討議
- 第9回 グループ2の発表・討議
- 第10回 研究テーマの設定
- 第11回 研究テーマと研究の方法
- 第12回 グループ1の発表・討議
- 第13回 グループ2の発表・討議
- 第14回 発表・討議の総括
- 第15回 前期の授業のまとめと意見交換

定期試験なし

【授業時間外の学習】

文献や先行研究を探したりレジュメを作成したりする必要があります。また授業時の解説や学生との意見交換をもとに、レジュメをより良いものへと修正することを求めます。

【成績の評価】

レジュメ70%、討議への参画30%により、評価します。
レジュメは、添削して授業時に返却します。またレジュメ発表の際に解説します。

【使用テキスト】

・ 汐見稔幸・無藤隆監修『＜平成30年施行＞保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント』（ミネルヴァ書房 2018年）

【参考文献】

なし

科目名： 演習

担当教員： 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

学校における教育環境を構成する最大の要素は、教師です。その教師の資質、能力が問われている昨今、本演習では、教師として必要とされる幅広いキャリアを積んでいきます。教師として、児童を指導する立場に立つことを自覚して、現代的教育課題の研究を進めます。そのためには、学校現場や地域との連携を図りながら、各種教育活動に関する情報収集、実情把握に取り組む必要があります。また、教科指導や生徒指導、日常生活に関わる指導技術・技能を身に付けるため、学習指導案づくり、模擬授業にも取り組みます。

【到達目標】

- ・学習指導案づくりや模擬授業の実践を通して、学校現場で役立つ指導技術・技能を身に付けることができる。
- ・学校における現代的教育課題から、自らの研究課題を設定し、研究のための乗法・収集することに加えて、各種教育活動の実際を取り上げ、その意味・意義、問題点についての理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：卒業論文を作成する手順（論文構成思考）
- 第3回：卒業論文を作成する手順（論文構成作成）
- 第4回：卒業論文を作成する手順（論文構成検討）
- 第5回：先行研究の探し方（図書館での）
- 第6回：先行研究の探し方（Webでの）
- 第7回：先行研究の文献探し（図書館での）
- 第8回：先行研究の文献探し（Webでの）
- 第9回：先行研究の文献探し（文献検索のまとめ）
- 第10回：文献読解（収集文献を読む）
- 第11回：文献読解（収集文献の整理）
- 第12回：文献読解（収集文献のまとめ）
- 第13回：収集文献のまとめ発表（前半）
- 第14回：収集文献のまとめ発表（後半）
- 第15回：研究サッシの作成

【授業時間外の学習】

授業に臨むに当たて、情報・資料収集をはじめ、整理・自己分析が必要です。前日までに資料を作成し、発表に備えます。

【成績の評価】

授業態度（討議の態度、プレゼンテーション）：70% レポート：30%

【使用テキスト】

適宜、紹介します。

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： 演習

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

「演習」で行った著名な戦後教育の実践家の検討をもとに、個別に設定した研究テーマについての発表・検討を踏まえ、それをさらに深化・拡充します。それは、「学位授与の方針」の一部にある、子どもの教育にあたるための『理論』と『実践力』の結びつきを具体的な実践をもとに考察することであり、4年次の卒業論文へ直接つながります。

また、4年次に受験する教員採用試験の願書等の書き方、試験問題の傾向と分析を行います。

【到達目標】

- ・教育に関わる論点についての情報を収集・整理・分析する力、レジュメを作成する力、論点についての本質を見極める力の獲得を目指すします。
- ・「演習」の研究成果をもとに、卒業論文のテーマを決定することができる。
- ・研究の目的、論文構成、結論の予測を明確にした「卒業論文構想」をA4用紙1枚にまとめることができる。
- ・「卒業論文構想発表会」において研究の概要を発表し、質疑に対して的確に応答できる。
- ・自身の教育観、児童観を明確にし、その内容をエントリーシートに表すことができる。また、学生や教員を面接官役に見立てた場で効果的にアピールできる。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 発表と討議1 研究のねらいの明確化 |
| 第3回 | 発表と討議2 研究のねらいの明確化 |
| 第4回 | 発表と討議3 仮の「研究主題」の設定 |
| 第5回 | 発表と討議4 仮の「研究主題」の設定 |
| 第6回 | 発表と討議5 予想される「結論」の設定 |
| 第7回 | 発表と討議6 予想される「結論」の設定 |
| 第8回 | 発表と討議7 「主題」を論証する手だて(KJ法) |
| 第9回 | 発表と討議8 「主題」を論証する手だて(KJ法) |
| 第10回 | 発表と討議9 「主題」を論証する手だて(KJ法) |
| 第11回 | 発表と討議10 「論文構成」 |
| 第12回 | 発表と討議11 「論文構成」 |
| 第13回 | 研究のまとめ1 「卒業論文構想会」のレジュメ作り |
| 第14回 | 研究のまとめ2 「卒業論文構想会」のレジュメ作り |
| 第15回 | 卒業論文構想発表 |

【授業時間外の学習】

- ・研究テーマが個別になるので、テーマの選定・設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。
- ・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。

【成績の評価】

- 論証可能な適切な研究題目を設定できたか(25%)
 - 研究題目に関わる予備調査(資料収集)が十分であるか(25%)
 - を踏まえ、「卒業論文構想発表会」で検討される発表レジュメを作成できたか(50%)
- を基本として、出席状況、教員採用試験への取り組み意欲などを合わせて総合的に評価します。評価したことは、次年の「卒業論文」作成の指導に反映します。

【使用テキスト】

- ・木下 是雄 『理科系の作文技術』中公新書(前期に購入済み)
- ・文部科学省『小学校学習指導要領』(平成29年3月)

【参考文献】

- ・『香川県教員試験「過去問」シリーズ 香川県の論作文・面接 2019年度版』 協同教育研究会編など受験する教員採用試験の地域の過去問題集等。
 - ・野口芳宏『教員採用試験 シリーズ2019年度版「模擬授業・場面指導」』一ツ橋書店
 - ・常盤会学園大学教職教育研究会編『論作文と面接・模擬授業 教員採用試験のために』大阪教育図書
 - ・現代教職研究会編『教員採用試験 シリーズ2019年度版「30秒アピール面接」』一ツ橋書店
- その他、適宜紹介します。

科目名： 演習

担当教員： 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

演習 を発展させることとし、各自の課題を明確にしてレジメを作成し、検討を行うなど、卒業研究としての見通しがつくように研究をさらに進めます。また、共通テーマにも取り組み、加えて一般教養を身につけ、そして就職試験等に向けて対策も講じます。

【到達目標】

1. 研究については、課題についての文献・諸資料の調査・分析・活用、そして見学・調査・インタビューの実施や諸情報のまとめ、討論や発表ができる。
2. それを通して問題発見、問題解決の力を付ける。共通テーマについても適宜資料収集力・読解力・活用力を付ける。
3. 日本語力・漢字力、新聞を読む力など社会人としての力を付け、就職試験対策ができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 課題について討議
- 第3回 課題について討議の続き
- 第4回 文献・資料調査
- 第5回 文献・資料調査の続き
- 第6回 見学・観察・アンケート・インタビューの計画
- 第7回 資料のまとめ方
- 第8回 調査報告
- 第9回 調査報告の続き
- 第10回 発表と討議
- 第11回 発表と討議の続き
- 第12回 発表会の準備
- 第13回 発表会の準備の続き
- 第14回 学科全体の発表会・まとめ
- 第15回 今期の振り返り

・上記の他、適宜、共通テーマに取り組むほか、一般教養の小テストを行い、就職試験に向けて具体的な対策を進める。
定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

上記計画にあるように、討議や調査、そしてその発表、あるいは共通テーマへの取り組み等があるので、また、一般教養を定着させるには、時間外の準備が必要である。

【成績の評価】

演習活動への取り組み状況（30%）、個々の活動の出来具合（50%）、期末までの向上度（20%）、などにより総合的に評価する。比率は状況を見て変更することがある。
最後の時間に全体の講評を行う。

【使用テキスト】

なし。

【参考文献】

関口靖広著『教育研究のための質的研究法講座』北大路書房、2013年など、教育研究法に関する文献

科目名： 演習

担当教員： 藤井 明日香(FUJII Asuka)

【授業の紹介】

演習 の内容を引き継ぎ、卒業論文の構成と内容を具体的に絞り込み、卒業論文を作成するための研究の方法と計画を立てます。研究（１）から研究（５）では、各自の研究テーマに沿って、実地研究、調査研究、文献研究等に着手し、卒業論文の主となるデータの収集を行います。またこれら进行分析しまとめ、わかりやすく伝える工夫の仕方を学びます。

【到達目標】

自らの課題設定に対して、情報収集し、文章としてまとめ、わかりやすく発表するプレゼンテーションの仕方など、卒業論文作成に求められる知識と技能を向上を目指す。

【授業計画】

- 第１回 オリエンテーション
 - 第２回 研究の方法と計画（研究法の確認）
 - 第３回 研究の方法と計画（研究計画の作成）
 - 第４回 研究開始の準備（調査及び実践）
 - 第５回 研究開始の準備（調査及び実践）
 - 第６回 中間発表の準備（レジュメ作成）
 - 第７回 中間発表
 - 第８回 研究（文献収集及びデータ収集）
 - 第９回 研究（文献収集及びデータ収集）
 - 第10回 研究（文献収集及びデータ収集）
 - 第11回 研究（文献収集及びデータ収集）
 - 第12回 発表の準備（レジュメ作成）
 - 第13回 発表の準備（レジュメ作成）
 - 第14回 発表の準備（レジュメ作成）
 - 第15回 卒業論文構想発表会準備と発表
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外にも、適宜、集めた情報や資料を整理することが必要です。また、本講義では、各回で各自の進捗状況の報告を行います。またゼミ内の中間発表会を行いますので、レジュメ作成等の準備が必要です。

【成績の評価】

受講態度（30％）、提出物（40％）、発表（30％）等を総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： 演習

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

演習 は、演習 の内容を引き継ぎ、卒業論文のテーマの領域を絞り込んでいきます。文献を読み、レジюмеを作成していく中で、卒業論文という長文を完成させるための文章表現のマナーを修得していきます。

【到達目標】

1. 先行文献を読み、その内容を正確に把握し理解できる。
2. 文献の内容を要約することで、表現したい筋書きや内容を明確にすることができる。
3. レジюмеを作成する際に、その都度、文章表現のマナーを修得することができる。
4. 授業におけるさまざまな活動の中で、共に助け合い、豊かな心と創造力を身に付ける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 興味のある領域の文献を読もう (図書館にて)
 - 第3回 興味のある領域の文献を読もう (Web上にて)
 - 第4回 興味のある領域の文献を読もう (収集した文献のまとめ)
 - 第5回 レジюмеを作成しよう (レジюмеとは何か)
 - 第6回 レジюмеを作成しよう (読み易さのための工夫)
 - 第7回 レジюмеを作成しよう (レジюмеの構成を考える)
 - 第8回 レジюмеを作成しよう (主張部分の明示)
 - 第9回 レジюмеを作成しよう (論理構造の明示)
 - 第10回 文章表現のマナー (引用文献の書き方)
 - 第11回 文章表現のマナー (タイプ別レジюмеの書き方)
 - 第12回 文章表現のマナー (レジюмеの書き方のまとめ)
 - 第13回 卒業論文のテーマの領域についてのレジюмеの構成を考える
 - 第14回 卒業論文のテーマの領域についてのレジюмеを書いてみる
 - 第15回 作成したレジюмеを発表する
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

卒業論文のテーマを決定するために、興味をもっている研究分野の文献のレジюмеを作成し、授業で発表するための準備をしておいてください。詳細は、その都度指示します。

【成績の評価】

レジюмеおよびレポート点：80%

授業態度（討議の態度、プレゼンテーション）：20%

* 全体の60%以上の得点で合格とします。

* 成績については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

その都度、提示する

科目名： 演習

担当教員： 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro)

【授業の紹介】

教育環境を構成する最大の要素は教師です。本演習は、教師として必要とされる、幅広い視点に立ったキャリア形成をめざして行います。

まず、教師として、児童を指導することを自覚して、現代の教育課題の研究を進めます。そのために、学校現場や地域との連携を図りながら、各種教育活動に関する情報収集、実情把握に取り組みます。

その中で、教科指導の「理論」と「実践力」を養うとともに、生徒指導、日常生活に関わる指導技術・技能を磨き、子育て支援社会を支える豊かな心と想像力を身につけます。

【到達目標】

- (1)学習指導案づくりや模擬授業等の実践を通して、学校現場で役立つ指導技術・技能を身に付けることをめざします。
- (2)また、学校における現代的教育課題から、自らの卒業論文のテーマを設定し、調査研究と研究のための情報・資料の収集を行います。
- (3)各種教育活動について、その意味・意義、問題点を分析して具体的対策を考えることができるようになります。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 学校訪問、教育活動参観 |
| 第3回 | 各自の研究課題設定 |
| 第4回 | 研究発表と討議(1) |
| 第5回 | 研究発表と討議(2) |
| 第6回 | 研究発表と討議(3) |
| 第7回 | 研究発表と討議(4) |
| 第8回 | 研究発表と討議(5) |
| 第9回 | 研究発表と討議(6) |
| 第10回 | 研究発表と討議(7) |
| 第11回 | 研究発表と討議(8) |
| 第12回 | 研究発表と討議(9) |
| 第13回 | 卒業論文テーマの設定 |
| 第14回 | 研究のまとめと次時の準備 |
| 第15回 | 卒業論文構想発表会 |

【授業時間外の学習】

授業に臨むに当たって、情報・資料収集をはじめ、整理・自己分析が必要です。そのためには、前日までに資料を作成し、発表に備えます。

【成績の評価】

ゼミへの取り組み状況50%、レポート30%、討議内容等20%で評価します。
レポートについては、評価と解説を行い、授業の中で返却します。

【使用テキスト】

適宜、紹介します。

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： 演習

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

演習IIIに引き続き、幼児の音楽表現に関する研究を深める。将来、保育現場において子どもたちに音楽の喜びを伝えられるように音楽表現に関わる自らの専門的技能と実践能力に更なる磨きをかけます。また卒業論文構想発表に向けて各自検討を重ね、ゼミ内での発表と討論を繰り返し、準備を整えていく。

【到達目標】

- ・意義深く、各自が意欲的に取り組める卒業論文のテーマを決定し、その構想を分かりやすく表現することができる。
- ・グループ活動において自分のアイデアや意見を説得力豊かに論じることができる。

【授業計画】

- 第1回 オータムコンサートのための準備1、卒論テーマに関わる意見交換1
 - 第2回 オータムコンサートのための準備2、卒論テーマに関わる意見交換2
 - 第3回 オータムコンサートのための準備3、文献の調査1
 - 第4回 オータムコンサートのための準備4、文献の調査2
 - 第5回 ふれあいコンサートのための準備1、研究目的の検討1
 - 第6回 ふれあいコンサートのための準備2、研究目的の検討2
 - 第7回 れれあいコンサートのための準備3、論文構成の検討1
 - 第8回 ふれあいコンサートのための準備4、論文構成の検討2
 - 第9回 レジュメの準備1
 - 第10回 レジュメの準備2
 - 第11回 中間発表と討論1
 - 第12回 中間発表と討論2
 - 第13回 中間発表と討論3
 - 第14回 プレゼンテーション1
 - 第15回 プレゼンテーション2
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

卒業論文のテーマを決定する為に多くの資料を収集し比較検討する。
演奏技術を維持するための練習を行う。

【成績の評価】

提出物50% 発表内容50%
提出物にはコメント添えて返却、発表内容については個々に講評を与える。

【使用テキスト】

適宜紹介

【参考文献】

「子どもの眼の高さで歌おう」北村智恵著（芸術現代社）
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
保育所保育指針（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： 演習

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。具体的には、各回でのゼミの担当者を決めてレジュメを切ってきてもらい、質疑応答を深めて問題を追及していきます。そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえるようなプレゼンテーションの方法を学習します。

学修を通じて、学部ポリシーに掲げる「教育・保育に関する研究の能力を涵養」「子どもの成長・発達を究明」する力を養います。

【到達目標】

・卒業論文のテーマ決定に向けて、教育や保育に関わる現代的な問題についてレジュメを作成し、問題の本質を追究する力量を獲得できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 発表及び討議：個々の夏休み中の研究成果の発表
 - 第3回 発表及び討議：後期の研究課題の発表
 - 第4回 発表及び討議：研究目的の検討
 - 第5回 発表及び討議：研究の方向性と結論の予測
 - 第6回 発表及び討議：論証の方法の検討
 - 第7回 発表及び討議：論証に用いる資料の検討
 - 第8回 発表及び討議：研究内容の発表（ゼミ生5名の内3名）
 - 第9回 発表及び討議：研究内容の発表（ゼミ生5名の内2名）
 - 第10回 発表及び討議：卒業論文構想発表会のレジュメの試作
 - 第11回 発表及び討議：卒業論文構想発表会のレジュメの修正
 - 第12回 発表及び討議：卒業論文構想発表会のレジュメの完成
 - 第13回 発表及び討議：発表用プレゼンテーション資料の作成
 - 第14回 発表及び討議：卒業論文構想発表会での発表
 - 第15回 発表及び討議：後期の研究のまとめ
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。

【成績の評価】

レジュメの内容(50%)や質疑応答への参画の程度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。
毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。

【使用テキスト】

基礎演習テキスト『しるべ』（ 年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： 演習

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

心理学関係の講義やこれまでの演習で得られた知識や子どもの教育・保育に関わる理論をもとに、関心を持った事柄について、簡単な心理学の研究をゼミ生で協力しながら実際に行ってもらいます。まず、興味のある内容に関連した論文の講読、レジュメの作成、発表、およびディベートなどを行い、独自性豊かな研究テーマを開拓します。次に、研究の方法について詳細に議論し、エレガントな研究計画を立て、そして、その計画にもとづいて実際に調査や実験を行ってもらいます。また、卒業論文構想発表会に向けて、自らの卒業論文のための研究計画を立ててもらいます。

【到達目標】

- 1．卒業論文のための基礎として、文献の熟読、まとめ、発表、ディベートを通し、様々な論文や文献を基盤にし、発展的な研究を考えられる態度を確立し、実際の研究プロセスを体験することで、研究の楽しさや難しさが理解できる。
- 2．卒業論文のテーマを絞り込み、それに向けて関連文献をまとめることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 各人の論文の要約発表とディベート
 - 第3回 各人の論文の要約発表とディベート
 - 第4回 各人の論文の要約発表とディベート
 - 第5回 各人の論文の要約発表とディベート
 - 第6回 各人の論文の要約発表とディベート
 - 第7回 卒業論文のテーマに関するディベート
 - 第8回 卒業論文のテーマとなる文献の調査と報告
 - 第9回 卒業論文のテーマとなる文献の調査と報告
 - 第10回 卒業論文構想発表会の資料作成
 - 第11回 卒業論文構想発表会の資料作成
 - 第12回 卒業論文構想発表会の発表練習
 - 第13回 卒業論文構想発表会の発表練習
 - 第14回 卒業論文構想発表会
 - 第15回 卒業論文構想発表会
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

この授業では、専門書、研究論文の探索・購読、レジュメの作成、実験の実施などのために時間外の学習をすることになっています。また、授業中に指摘された問題点について、改めて調べ直すことも必要になります。

【成績の評価】

授業に対する態度（熱意、意欲など）（10％）、レポート（30％）、討論内容（10％）、実験計画内容（15％）、実験の実施（15％）、卒業論文構想発表会におけるプレゼンテーション（20％）など総合評価とする。発表や資料に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

その都度指示する。

【参考文献】

- 宮本聡介・宇井美代子（2014）「質問紙調査と心理測定尺度 計画から実施・解析まで」（サイエンス社）
- 小杉考司・清水裕士（2014）「M-plusとRによる構造方程式モデリング入門」（北大路書房）
- 樋口耕一（2014）「社会調査のための計量テキスト分析」（ナカニシヤ出版）
- 小塩真司（2007）「実践形式で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析」（東京図書）

科目名： 演習

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

演習 は、3年次の演習 で行った、学生がそれぞれの興味・関心等により設定したテーマに関わる絵本、紙芝居等の紹介や研究協議を踏まえて、それをさらに深化、発展させるとともに、ゼミ活動の一環として、絵本の読み聞かせや手遊びなどによる子育て支援ボランティア活動「おはなし会」公演等を行います。そして、これらを通して保育に必要な専門知識と実践力を養っていきます。

また、これらの諸活動を通じて獲得した課題意識に基づき、卒業論文の構想に結び付けていきます。

【到達目標】

- (1) 絵本、紙芝居等を活用して、子どもと本との関わりについて研究し、理解を深めることができる。
- (2) 表現力、コミュニケーション能力を高め、将来、保育所や幼稚園等における人間教育、情操教育を担当することのできる資質や能力、態度等を身に付けることができる。

【授業計画】

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | 演習の全体計画 |
| 第2回 | 学生各自のテーマ設定に関する確認と検討協議 |
| 第3回 | 参考資料、文献の整理と発表、研究討議 |
| 第4回 | 参考資料、文献の整理と発表、研究討議 |
| 第5回 | 参考資料、文献の整理と発表、研究討議 |
| 第6回 | テーマ別の研究、発表、研究討議 |
| 第7回 | テーマ別の研究、発表、研究討議 |
| 第8回 | テーマ別の研究、発表、研究討議 |
| 第9回 | 研究構想案の検討 |
| 第10回 | 研究構想案の検討 |
| 第11回 | 研究構想案の検討 |
| 第12回 | 学習成果の検討と分析 |
| 第13回 | 学習成果の検討と分析 |
| 第14回 | 演習成果の発表とまとめ |
| 第15回 | 演習成果の発表とまとめ |
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

演習 に同じく、子育て支援地域ボランティア活動として、公立図書館やコミュニティーセンター、保育所などで、絵本読み聞かせや手遊びなどの「おはなし会」公演を、月1回程度行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。

【成績の評価】

受講態度・状況（60％）、学習シート・課題のまとめ（20％）、「おはなし会」ボランティア活動状況（20％）により評価します。課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

学生自身が用意した、市販の絵本、紙芝居や、パネルシアターなどを随時教材として使用します。

【参考文献】

随時紹介します。

科目名： 演習

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

演習 では、演習 において文献、先行研究をもとに学習したことをふまえ、卒業論文のテーマ・研究内容を決めます。そして、そのテーマ・研究内容についてレジュメにまとめ、発表・討議を重ねます。それぞれのテーマに関する発表・討議を通して、保育、子育て支援社会を支えるために必要な視点を持ち、保育者に必要な『理論』と『実践力』を身につけます。

【到達目標】

- ・文献や先行研究から学び、レジュメを作成できる。
- ・自分の考えを述べたり他学生の考えを聞いたり意見交換ができる。
- ・卒業論文の構想レジュメを作成できる。
- ・自分の卒業論文構想について、発表し、説明できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマと研究方法
- 第3回 グループ1の発表・討議
- 第4回 グループ2の発表・討議
- 第5回 研究計画
- 第6回 グループ1の発表・討議
- 第7回 グループ2の発表・討議
- 第8回 卒業論文構想発表会にむけて
- 第9回 卒業論文構想発表会レジュメ作成
- 第10回 卒業論文構想発表会レジュメ修正
- 第11回 卒業論文構想発表会レジュメ完成
- 第12回 卒業論文構想発表会発表準備
- 第13回 卒業論文構想発表会発表練習
- 第14回 卒業論文構想発表会反省
- 第15回 1年間の振り返りと課題の明確化

定期試験なし

【授業時間外の学習】

文献や先行研究を探したりレジュメを作成したりする必要があります。また授業時の解説や学生との意見交換をもとに、レジュメをより良いものへと修正することを求めます。

【成績の評価】

レジュメ70%、討議への参画30%により、評価します。
レジュメは、添削して授業時に返却します。またレジュメ発表の際に解説します。

【使用テキスト】

・汐見稔幸・無藤隆監修『＜平成30年施行＞保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント』（ミネルヴァ書房 2018年）

【参考文献】

なし

科目名： 演習

担当教員： 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

「演習」で行った、個別に設定した研究テーマについての発表・検討を踏まえ、それをさらに深化・拡充します。この授業は4年次の卒業論文へ直接つながる内容の授業です。また、教員採用試験の願書等の書き方、試験問題の傾向と分析を行います。

【到達目標】

- ・学習指導案づくりや模擬授業の実践を通して、学校現場で役立つ指導技術・技能を身に付けることができる。
- ・学校における現代的教育課題から、自らの研究課題を設定し、研究のための乗法・収集することに加えて、各種教育活動の実際を取り上げ、その意味・意義、問題点についての理解を深めることができる。
- ・「演習」の研究成果をもとに、卒業論文のテーマを決定し、「卒業論文構想発表会」において、研究の概要を発表することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：研究領域の文献を読む（図書館にて）
- 第3回：研究領域の文献を読む（Web上にて）
- 第4回：研究領域の文献を読む（収集文献まとめ）
- 第5回：レジュメ作成（レジュメとは何か）
- 第6回：レジュメ作成（読みやすさの工夫）
- 第7回：レジュメ作成（レジュメの構成）
- 第8回：レジュメ作成（主張部分の明示）
- 第9回：レジュメ作成（論理構造の明示）
- 第10回：文書表現のマナー（引用文献の書き方）
- 第11回：文書表現のマナー（タイプ別レジュメの書き方）
- 第12回：文書表現のマナー（レジュメの書き方のまとめ）
- 第13回：卒業論文構想発表会準備（前半）
- 第14回：卒業論文構想発表会準備（後半）
- 第15回：卒業論文構想発表会のまとめ

【授業時間外の学習】

授業に臨むに当たて、情報・資料収集をはじめ、整理・自己分析が必要です。前日までに資料を作成し、発表に備えます。

【成績の評価】

授業態度（討議の態度、プレゼンテーション）：70% レポート：30%

【使用テキスト】

適宜、紹介します。

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： 卒業論文

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

前年度までの演習（ ～ ）における研究を踏まえ、教養教育・専門教育・演習活動で習得した知識と技能、観察・参加と教育実習で得られた成果を総動員して研究に取り組みます。卒業論文発表会において研究成果を明らかにします。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「子どもの教育にあたるための『実践力』と『理論』」と「教育課程編成・実施の方針」にある「専門的知識と技能および実践的能力」に関わる目標として、次の3つを設定します。

- 1 先行研究に可能な限りあたり、文献や資料を収集しファイリングできる。
- 2 自己の研究の位置づけをはっきりさせ、明確な研究テーマを設定することができる。
- 3 教育・保育に関わる論点についての情報を収集・整理・分析し、論文としてまとめることができる。

【授業計画】

- | | | |
|------|---------------|----------------------|
| 第1回 | 前期オリエンテーション | 卒業論文完成までのタイムテーブルづくり |
| 第2回 | 発表と討議 | 「先行研究」の収集と絞り込み（～5回） |
| 第3回 | 発表と討議 | 2 |
| 第4回 | 発表と討議 | 3 |
| 第5回 | 発表と討議 | 4 |
| 第6回 | 発表と討議 | 5 |
| 第7回 | 発表と討議 | 6 「先行研究」の分析と検討（～12回） |
| 第8回 | 発表と討議 | 7 |
| 第9回 | 発表と討議 | 8 |
| 第10回 | 発表と討議 | 9 |
| 第11回 | 発表と討議 | 10 |
| 第12回 | 発表と討議 | 11 |
| 第13回 | 発表と討議 | 12 |
| 第14回 | 研究のまとめ | 1（研究内容の整理と分析） |
| 第15回 | 研究のまとめ | 2（研究内容の整理と分析） |
| 第16回 | 後期オリエンテーション | 卒業論文完成までのタイムテーブルづくり |
| 第17回 | 発表と討議 | 13 「研究主題」の明確化 |
| 第18回 | 発表と討議 | 14 「研究主題」の明確化 |
| 第19回 | 発表と討議 | 15 「研究主題」の論証 |
| 第20回 | 発表と討議 | 16 「研究主題」の論証 |
| 第21回 | 発表と討議 | 17 「用語統一」と「脚注」 |
| 第22回 | 発表と討議 | 18 「書式」 |
| 第23回 | 発表と討議 | 19 各章ごとの校正（～23回） |
| 第24回 | 発表と討議 | 20 |
| 第25回 | 発表と討議 | 21 |
| 第26回 | 発表と討議 | 22 |
| 第27回 | 発表と討議 | 23 |
| 第28回 | 卒業論文発表会発表資料作成 | 1 |
| 第29回 | 卒業論文発表会発表資料作成 | 2 |
| 第30回 | 卒業論文発表会 | |

【授業時間外の学習】

研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。

【成績の評価】

100%、卒業論文の内容で評価します。

【使用テキスト】

- ・木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書、1981年）756円
- ・文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月）

【参考文献】

- ・フライ著・酒井一夫訳 『アメリカ式論文の書き方』（東京図書、1994年）
- その他、適宜紹介します。

科目名： 卒業論文

担当教員： 藤井 明日香(FUJII Asuka)

【授業の紹介】

演習 ・ で取組んだ研究課題を卒業論文として構成し直し、修正しながら、卒業論文を完成させる。また卒業論文発表会へ向けて備える。卒業論文の研究テーマは、特別支援教育及び障害者福祉領域に関するテーマを中心に研究に取り組むことを望みます。卒業論文作成を通して、これまで習得した知識や技能、自己の興味・関心を学問的に発展させます。

【到達目標】

自らの課題設定に対して、情報収集し、文章としてまとめ、他者へわかりやすく発表するプレゼンテーション能力を獲得する。自身の興味・関心を学問的にまとめ、他者へ発信する力を向上させることを目指す。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 ～ 第6回 研究課題と方法の設定
・リサーチクエスション(RQ)とは
・RQの設定と研究デザイン
・研究デザインと方法
第7回 ～ 第9回 研究開始の準備
・文献探索及び資料収集
・先行研究のまとめ
・研究設計
第10回 ～ 第18回 データ収集及び分析
・データ収集の方法と工夫
・データ分析の方法と工夫
第19回 ～ 第24回 論文執筆
・目次構成
・執筆指導
第25回 ～ 第28回 論文修正及び発表会レジュメ作成
・レジュメ作成及び指導
・本文校閲
第29回 ～ 第30回 卒業論文発表会準備
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外にも、適宜、集めた情報や資料を整理することが必要です。また、本講義では、各回で各自の進捗状況の報告を行います。またゼミ内の中間発表会を行いますので、レジュメ作成等の準備が必要です。相当な時間外学習が必要になります。

【成績の評価】

受講態度(30%)、提出物(40%)、発表(30%)等を総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： 卒業論文

担当教員： 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

演習， で取り組んだ研究課題を卒業論文として構成し直し、修正を加え、さらに展開させ、まとめ、完成させます。卒論発表会にも備えます。
また、教師・教職に関する共通テーマを設定するが、その一環で「二十四の瞳」実地調査を行います。教員採用試験等に向けて基礎的な準備も行います。

【到達目標】

- 1．個々の研究課題に対応して、先行研究の吟味、情報収集、論文構成、調査等の展開、論文作成、まとめ、発表、等ができる。
- 2．その際、教育・保育の知識体系や実践と関連づけてまとめることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション、今後の計画		
第2回	論文構成の基本	第3回	論文構成の検討
第4回	先行研究の検討	第5回	資料の収集
第7回	調査活動	第8回	経過報告と今後の計画調整
第9回	先行研究の再検討	第10回	論文構成の再検討
第11回	資料の再検討	第12回	再調査の準備
第13回	中間まとめの文章化	第14回	中間報告発表会
第15回	反省と今後の計画	第16回	論文構成の再検討
第17回	論文前半のまとめ	第18回	まとめの点検
第20回	論文後半のまとめ	第21回	まとめの点検
第23回	中間報告と今後の計画調整	第22回	再まとめ
第24回	全体のまとめ	第25回	全体まとめの点検
第27回	修正	第26回	再まとめ
第30回	論文発表会	第28回	再修正
		第29回	発表会準備

- ・上記の他、必要に応じて適宜指導する。また、共通テーマに取り組むほか、就職試験等に向けて対策を進める。
- ・定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

上記計画にあるように、卒業論文作成に向けての資料収集ほかの様々な作業、そして論文作成そのもの、発表準備、あるいは共通テーマへの取り組み等があるので、時間外の準備が必要である。

【成績の評価】

卒業論文への取り組み状況（20％）、各作業の出来具合（10％）、論文の完成度（60％）、共通テーマへの取り組み（10％）などにより総合的に評価する。
期末に講評する。

【使用テキスト】

なし。

【参考文献】

関口靖広著『教育研究のための質的研究法講座』北大路書房、2013年ほか、教育研究法に関する文献

科目名： 卒業論文

担当教員： 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro)

【授業の紹介】

教養科目、専門科目、演習、実習等、大学での学びの集大成として、卒業論文を作成します。

自分の問題意識に沿って調査研究の内容と方法を整理し、実行すること、その成果を記録し分析すること、論に沿って記述し、推敲することなど、論文を書く過程で、探求的な姿勢と能力、技能を身につけていきます。その中で、教育職としての「理論」と「実践力」を養うとともに、子育て支援社会を支える豊かな心と想像力を身につけます。

自分の興味関心に基づいた、実証的な研究を進めてほしいと考えます。

【到達目標】

各自の設定した研究テーマに沿って、必要な情報収集、分析と考察を繰り返し、学校教育に生かせる卒業論文の完成を目指します

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究計画の発表
- 第3回 発表と内容検討(1) A G
- 第4回 発表と内容検討(2) B G
- 第5回 発表と内容検討(3) C G
- 第6回 発表と内容検討(4) D G
- 第7回 資料の整理
- 第8回 資料の加工
- 第9回 発表と内容検討(5) A G
- 第10回 発表と内容検討(6) B G
- 第11回 発表と内容検討(7) C G
- 第12回 発表と内容検討(8) D G
- 第13回 研究内容の整理と分析
- 第14回 研究内容の整理と分析
- 第15回 中間まとめ、発表会
- 第16回 後期オリエンテーション
- 第17回 原稿の検討(1) A G
- 第18回 原稿の検討(2) B G
- 第19回 原稿の検討(3) C G
- 第20回 原稿の検討(4) D G
- 第21回 中間報告
- 第22回 原稿の検討(5) A G
- 第23回 原稿の検討(6) B G
- 第23回 原稿の検討(7) C G
- 第24回 原稿の検討(8) D G
- 第25回 最終検討会(1)
- 第26回 最終検討会(2)
- 第27回 最終検討会(3)
- 第28回 発表資料の作成
- 第29回 発表資料の作成
- 第30回 卒業論文発表会

【授業時間外の学習】

情報、資料収集及び分析・考察は、日常的に各自で進めていくことが基本です。授業の事前準備、事後整理に傾注する必要があります。

【成績の評価】

研究姿勢 50%，論文の内容 50%で評価します。

【使用テキスト】

適宜、紹介します。

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： 卒業論文

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

卒業論文は、“子どものからだ”“子どもの運動”あるいは“スポーツ”という幅広い分野から自己の研究テーマを確定し、教養教育および専門教育での習得した「理論」と「実践力」を総動員することにより、卒業論文を執筆します。

【到達目標】

1. テーマの選択から始まり、研究目的から論文を展開させることができる。
2. 収集した様々なデータなどから考察、分析を重ね、私見を検討してまとめることができる。
3. 論文を完成させる過程において、実際の問題点を把握、分析することができる。
4. 自分の考えを構築しまとめるだけでなく、実際に論文を様式どおりに作成できる。
5. 論文を発表するというプレゼンテーション能力、他の学生との討議における態度など、総合的な力を養うことをめざす。
6. 卒業論文の作成をととして、共に支え合い、豊かな心と創造力を身につける。

【授業計画】

- | | | |
|------|--------------------|------------------|
| 第1回 | オリエンテーション | |
| 第2回 | 卒業論文のテーマを絞り込む | (収集した先行研究のまとめ) |
| 第3回 | 卒業論文のテーマを絞り込む | (卒論のテーマの領域を決定する) |
| 第4回 | 卒業論文のテーマを絞り込む | (卒論のテーマを決定する) |
| 第5回 | 卒業論文の概要を作成する | |
| 第6回 | 論文全体の筋書きを作成する | (章立てを考える) |
| 第7回 | 論文全体の筋書きを作成する | (章立てと対応ページ) |
| 第8回 | 自分の論文の筋書きを発表する | |
| 第9回 | 各論文の筋書きを検討する | |
| 第10回 | 研究の背景を考える | |
| 第11回 | 収集した文献と研究の背景を対応させる | |
| 第12回 | 研究の目的を考える | |
| 第13回 | 収集した文献と研究の目的を対応させる | |
| 第14回 | 研究の目的を発表する | |
| 第15回 | 中間総括(研究の目的の展開) | |
| 第16回 | 文章表現のマナーを確認する | |
| 第17回 | 論文の様式を確認する | |
| 第18回 | 基本概念や専門用語の定義について | |
| 第19回 | 問題の所在を探る | |
| 第20回 | 問題の所在と研究の目的を対応させる | |
| 第21回 | 問題を解決する手法を考える | |
| 第22回 | 問題解決のために客観的な評価を行う | |
| 第23回 | 問題可決のために客観的な考察を行う | |
| 第24回 | 各研究成果を討議しよう | |
| 第25回 | 論文発表の準備をしよう | |
| 第26回 | 論文を発表する | (リハーサル) |
| 第27回 | 論文を発表する | (前半) |
| 第28回 | 論文を発表する | (後半) |
| 第29回 | 総括(作成した論文の最終校正) | |
| 第30回 | 卒業論文発表会 | |
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

各自が収集した卒業論文のテーマに関連する文献や資料を授業終了後、その都度まとめておいてください。中間発表や卒業論文発表会のためのリハーサルなど、その都度指示された内容で準備しておいてください。卒業論文の作成に関しては、日常的に取り組んでください。

【成績の評価】

授業態度(討議の態度、発表会におけるプレゼンテーション能力): 20%

卒業論文(卒業論文発表会を含む): 80%

* 全体の60%以上の得点で合格とします。

* 成績については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

その都度、提示する

科目名： 卒業論文

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

演習、で得た学びを各自の研究課題を基に構成し、質の高い卒業論文の作成を目指します。絵本や紙芝居、童話、言葉による表現媒体等を主な研究対象としますが、保育・教育からの視点で研究を進めていきます。個別研究活動を中心にしながら、適宜、個別指導やゼミ所属学生によるグループ討議を取り入れていきます。また、研究活動や就職活動を支える学生生活の在り方に関わる適時適切な学習活動や指導も行います。

本授業を通して、保育者に必要な専門性と共に、豊かな心、創造性等を養い、保育実践力を身に付けていきます。

【到達目標】

教育や保育に活かせる研究活動に取り組み、論文作成を通して今後の保育・幼児教育活動に資するに足る専門性を総合的に身に付けることをめざす。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	学生各自の卒業論文のテーマ設定とその検討
第3回	学生各自の卒業論文のテーマ設定とその検討
第4回	学生各自の卒業論文の研究計画の策定
第5回	学生各自の卒業論文の研究計画の策定
第6回	学生各自の卒業論文の資料収集と作成
第7回	学生各自の卒業論文の資料収集と作成
第8回	学生各自の卒業論文の資料収集と作成
第9回	学生各自の卒業論文の資料収集と作成
第10回	学生各自の卒業論文の資料収集と作成
第11回	学生各自の卒業論文の資料収集と作成
第12回	学生各自の卒業論文の資料収集と作成
第13回	学生各自の卒業論文の資料収集と作成
第14回	学生各自の卒業論文の資料収集と作成
第15回	研究の中間報告と協議
第16回	研究の中間報告と協議
第17回	研究の中間報告と検討
第18回	研究の中間報告と検討
第19回	研究の中間報告と検討
第20回	学生各自の卒業論文の作成と討議
第21回	学生各自の卒業論文の作成と討議
第22回	学生各自の卒業論文の作成と討議
第23回	卒業論文草稿の修正
第24回	卒業論文の作成と修正
第25回	卒業論文の作成と修正
第26回	卒業論文の作成と修正
第27回	卒業論文要旨の作成
第28回	卒業論文要旨の作成
第29回	卒業論文の発表準備
第30回	卒業論文発表会

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。

【成績の評価】

課題（レジュメ）の取組姿勢と内容（20%）、卒業論文及び発表会におけるプレゼンテーション（80%）により評価します。提出された課題（レジュメ）は、その都度授業時に講評する。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

使用しません。

【参考文献】

演習の中で個々の研究テーマに応じて適宜紹介します。

科目名： 卒業論文

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。具体的には、自ら選択した卒業論文のテーマに従って、研究発表を繰り返し、質疑応答を深めて問題を追及していきます。そして、卒業論文をまとめるとともに、研究の成果を発表する技法を身に付けます。

学修を通じて、学部ポリシーに掲げる「教育・保育に関する研究の能力を涵養」「子どもの成長・発達を究明」する力を養います。

【到達目標】

- ・卒業論文の作成に向けて、個々にテーマを追求する上で必要な情報の収集や分析ができる。
- ・各自のテーマに関して、概論的な知識の獲得と学習の成果を他者にわかりやすく伝える方法を獲得する。
- ・質の高い論文を完成し、発表会に向けてのプレゼンテーションの技法を身に付ける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 発表及び討議：春期休業中の研究成果の発表
 - 第3回 発表及び討議：前期の研究計画と方向性
 - 第4回 発表及び討議：研究目的の検討
 - 第5回 発表及び討議：研究の方向性の検討
 - 第6回 発表及び討議：研究結果及び結論の予測
 - 第7回 発表及び討議：研究成果の発表
 - 第8回 発表及び討議：研究課題の追究
 - 第9回 発表及び討議：論証方法の検討
 - 第10回 発表及び討議：分析資料の検討
 - 第11回 発表及び討議：研究課題の再検討
 - 第12回 発表及び討議：中間発表レジュメ作成
 - 第13回 発表及び討議：中間発表レジュメの修正
 - 第14回 卒業論文中間発表会
 - 第15回 発表及び討議：今後の研究課題と研究計画
 - 第16回 後期オリエンテーション
 - 第17回 発表及び討議：夏期休業中の研究成果の発表
 - 第18回 発表及び討議：研究目的の確定
 - 第19回 発表及び討議：論文構成の確定
 - 第20回 発表及び討議：第1章の研究内容
 - 第21回 発表及び討議：第2章の研究内容
 - 第22回 発表及び討議：第3章の研究内容(17)
 - 第23回 発表及び討議：結論の検討
 - 第24回 発表及び討議：卒業論文全体の見直し
 - 第25回 発表及び討議：卒業論文全体の修正
 - 第26回 発表及び討議：卒業論文要旨の試作
 - 第27回 発表及び討議：卒業論文要旨の完成
 - 第28回 発表及び討議：プレゼンテーション資料の作成
 - 第29回 卒業論文発表会
 - 第30回 発表及び討議：研究成果と課題の振り返り
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業後に必要となります。

【成績の評価】

レジュメの内容(30%)やゼミでの質疑応答への参画の程度(20%)および論文や発表の完成度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。

前期・後期それぞれ3回以上を欠席した場合には、単位不認定を含め、厳しく対応します。

【使用テキスト】

基礎演習テキスト『しるべ』（ 年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： 卒業論文

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae), 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

演習 で決定した卒業論文のテーマに従って各自研究を進めていきます。ゼミでは毎回論文の進捗状況を発表し他の学生とともに検討し意見交換を行います。

【到達目標】

充実した内容の論文を完成することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 発表等(1)
第3回 発表等(2)
第4回 発表等(3)
第5回 発表等(4)
第6回 発表等(5)
第7回 発表等(6)
第8回 中間発表
第9回 発表等(7)
第10回 発表等(8)
第11回 発表等(9)
第12回 発表等(10)
第13回 発表等(11)
第14回 発表等(12)
第15回 中間発表
第16回 発表等(13)
第17回 発表等(14)
第18回 発表等(15)
第19回 発表等(16)
第20回 中間発表
第21回 発表等(17)
第22回 発表等(18)
第23回 発表等(19)
第24回 発表等(20)
第25回 中間発表
第26回 発表等(21)
第27回 発表等(22)
第28回 発表等(23)
第29回 発表等(24)
第30回 最終発表
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

充実した内容の論文を完成する為に資料を収集、分析検討、論文をしあげる。

【成績の評価】

発表内容、論文の完成度を検討して単位を認定する。

研究内容 90% 発表能力 10%

ゼミ生全員で論文を発表し、感想を述べあう。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： 卒業論文
担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

学生の興味に基づいて、大きく分けて、記憶・思考・言語・学習などの認知心理学の分野、および、児童・生徒の心身の発達と、教室での学習活動、評価の問題、指導法などに関連した教育心理学の分野の二分野について、広く受け入れていきたいと考えています。その際に、これまでの授業や演習で学んできた、様々な分野の心理学の知識、また、心理学研究の方法論を最大限に生かし、オリジナリティのある研究にできるようなサポートをします。

【到達目標】

1. これまで様々な授業で学んできたすべての知識、また論文作成上必要となった新しい知識を実際に用いて、卒業論文という自分だけの「作品」を創り出すことができる。
2. 卒業論文の作成過程で、個々人が自らの将来に必要な知識や技術を学び取ることができる。

【授業計画】

- | | |
|-----------|------------------|
| 第1回～第3回 | 卒業論文の進め方 |
| 第4回～第7回 | 研究テーマの決定 |
| 第8回～第12回 | 先行研究の調査とまとめ |
| 第13回 | 先行研究および研究方法の中間発表 |
| 第14回 | 目的・仮説の設定 |
| 第15回 | 調査及び実験の準備 |
| 第16回～第20回 | データの収集 |
| 第21回～第23回 | データの解析 |
| 第24回～第29回 | 研究のまとめ |
| 第30回 | 卒業論文発表会 |

計画はあくまでも目安で、基本的には各人のペースに合わせます。
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

卒業論文は研究活動ですので、授業時間のみでは到底完成できません。授業時間外に、各自の研究テーマに関連した文献を探し、それを読み、まとめる活動を重ねて、論文を完成させてください。

【成績の評価】

論文内容70%（研究の質50%、データ収集10%、文章の質10%）、発表30%（各回の発表20%、卒論発表会10%）の割合で総合評価する。作成した資料と発表に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

松井豊（2010）「心理学論文の書き方 - 卒業論文や修士論文を書くために」（河出書房）
あとは、各人の研究テーマに合わせて探索してください。

【参考文献】

ロスノウ, R.L.・ロスノウ, M.（2008）「心理学論文・書き方マニュアル」（新曜社）
都築学（2006）「心理学論文の書き方 - おいしい論文のレシピ」（有斐閣アルマ）
杉本敏夫（2005）「心理学のためのレポート・卒業論文の書き方」（サイエンス社）
浦上昌則 他（2008）「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方」（東京図書）
兵藤宗吉・須藤智（2012）「認知心理学基礎実験入門」（八千代出版）

科目名： 卒業論文

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

卒業論文では、演習・で見出した卒業論文のテーマに沿って、研究内容を深めていきます。保育・子育てに関する情報を収集し、それらをレジュメとしてまとめたり発表したりすることにより、論理的な思考を身につけます。学生同士でそれぞれの研究内容を発表・討議し合うなかで、子育て支援社会を支えるために必要な知識や多角的な視点を養い、豊かな心と創造力を身につけることをめざします。

【到達目標】

- ・文献や先行研究等、研究に必要な情報を集めることができる。
- ・自分の研究内容を説明したり他学生の研究内容を聞いたり質問したりする等積極的な意見交換ができる。
- ・卒業論文として、情報を理解し、論理的にまとめることができる。
- ・自分の卒業研究について、発表し、その内容を説明することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 春季休業中の成果発表・討議（グループ1）
- 第3回 春季休業中の成果発表・討議（グループ2）
- 第4回 春季休業中の成果発表・討議（グループ2）
- 第6回 情報収集について
- 第7回 情報収集成果発表・討議（グループ1）
- 第8回 情報収集成果発表・討議（グループ2）
- 第9回 情報収集成果発表・討議（グループ3）
- 第10回 中間発表にむけて
- 第11回 研究テーマの再検討
- 第12回 研究内容の再検討
- 第13回 中間発表・討議1
- 第14回 中間発表・討議2
- 第15回 夏季休暇中の研究計画
- 第16回 後期オリエンテーション
- 第17回 夏季休業中の成果発表・討議（グループ1）
- 第18回 夏季休業中の成果発表・討議（グループ2）
- 第19回 夏季休業中の成果発表・討議（グループ2）
- 第20回 研究目的の最終検討
- 第21回 論証の方法についての最終検討
- 第22回 論文構成の最終検討
- 第23回 結論の最終検討
- 第24回 卒業論文全体の修正
- 第25回 卒業論文要旨作成・検討
- 第26回 卒業論文要旨完成
- 第27回 卒業論文最終確認
- 第28回 卒業論文発表方法の検討
- 第29回 卒業論文発表リハーサル
- 第30回 研究の振り返りと今後の課題

定期試験なし

【授業時間外の学習】

文献や先行研究等の情報収集をしたりレジュメを作成したりする必要があります。また授業時の解説や学生との意見交換をもとに、レジュメ・卒業論文・卒業論文要旨等について修正を重ねる必要があります。

【成績の評価】

授業時のレジュメ30%、討議への参画20%、卒業論文の完成度40%、卒業論文発表10%により、評価します。
授業時のレジュメは、授業時に解説し、返却します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

個々の研究テーマに沿って、指示します。